

2018年度
ILAC科目／
市ヶ谷基礎科目・総合科目
講義概要（シラバス）

法政大学

Web シラバスを活用しよう

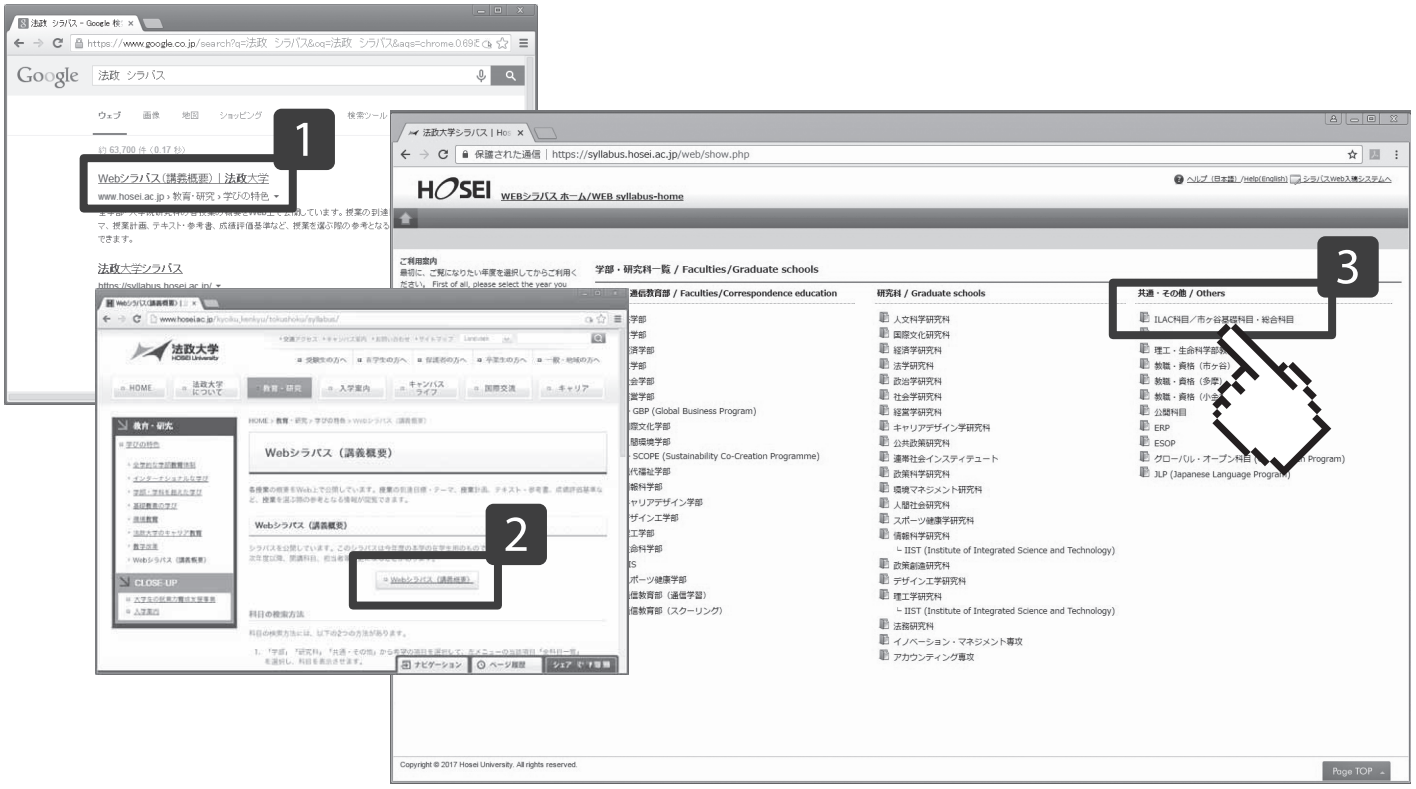
本冊子は、市ヶ谷地区で行われる ILAC（アイラック）科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目の講義概要（シラバス）簡易版です。
より詳しい内容や、授業に関する重要な内容は WEB シラバスに掲載されています。

履修予定の科目については、授業開始前までに必ず WEB シラバスを確認してください。

法政 シラバス　検索

https://syllabus.hosei.ac.jp

1 検索結果から **Web シラバス（講義概要）| 法政大学** をクリック
2 法政大学オフィシャルページの **【Web シラバス（講義概要）】** ボタンをクリック
3 **ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目** をクリック



! シラバスの掲載内容に訂正等が生じた場合は

WEB シラバス上で訂正し、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板でお知らせします。
重要なお知らせはホームページにも掲載しますので、合わせて確認してください。

法政 リベラル お知らせ　検索

http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/oshirase/liberal/

リベラルアーツの価値

市ヶ谷リベラルアーツセンター長
梶　裕史

この冊子の表紙には、「2018 年度　ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目　講義概要（シラバス)」と記されています。今まで「市ヶ谷基礎科目」と称していた科目群を、昨年度から「ILAC（＝市ヶ谷リベラルアーツセンター）科目」と名乗ることになりました。(2016 年度までに入学した方向けに旧名称も併記していますが、これからは実質、新入学生・在学生を問わず、ILAC 科目で通していきます。) この改称の意図──「基礎科目」という名前をやめた理由について、まず触れたいと思います。

ILAC 科目に、各学部の専門教育課程の科目を学ぶうえでの基礎的なスキルや知識を習得する、という役割があることは確かです。しかしそれは一面に過ぎません。各学部の専門科目が上位で、ILAC 科目はその「下請け」をする部分、という関係だと思うとしたら、大きな誤解です。卒業所要単位の約 3 分の 1 も占める ILAC 科目は、**専門科目と両輪で 4 年間で学ぶべきものであり、対等**なのです。そして近年、その本来的な使命が、世の中でますます重要視されてきています。

皆さんは、専門科目を通して身につける「専門性」が、社会で実際に「役に立つ」ものであると思っていることでしょう。ところが近年は、一つの分野に精通しているという長所よりも、それしか知らず、他の分野、周囲のことが分からない（見ようとしない)「蛸壺型」の視野の狭さ、融通の効かなさという、欠点の面が問題視されるようになってきました。タコツボに入ったような専門性しか持たない若者は、グローバル社会、多様性を尊重する世界で通用しない、伸びしろに乏しい人間性の持ち主として、将来性を高く買ってもらえません。

とはいえ、もちろん専門教育はこれからも必要です。そこで、身につける専門性がタコツボの中にとどまらないために有効なのが、「リベラルアーツ」の教養とあわせて「専門性」を広い海のなかに解き放ち、世界のどこへ行っても生き生きと「役に立つ、生きる力」にするという、バランスのよい学び方なのです。

ところで、リベラルアーツって何？　liberal＝自由。アーツは arts。「自由なアート」？ ──素朴な疑問が、よい出発点になります。西洋

において、人間らしい幸せな生き方の希求と不可分の、二千年以上の歴史をもつ言葉です。「自由」には、奴隷的に拘束されない自立した「市民」をめざす願いがこめられています。アートは、今日イメージされる芸術にとどまらず、広く「技術」を指すのが語源です。**「自由な市民」になる（他者に隷従した人生を送らない）ために**身につけるべき技能、というのがリベラルアーツの原義であると思ってよいでしょう。

ここで「技術」というと、実用的な専門性（の基礎）のように思うかもしれません。まさにILAC科目に表面的に抱かれる、基礎的なスキル、技能の習得ような……。しかし、今日の大学の源流となる西洋の学びの場の「リベラルアーツ」は、一つの専門分野の修得のために、一見それとは縁遠く思われるような幅広い分野を学ぶカリキュラムをやがて具えるようになります。文法学・修辞学・論理学、算術・幾何学・天文学（≒地理学）・音楽。これらが、中世以降のヨーロッパの大学制度で、人間が持つ必要がある技芸（実践的な知識・学問）の基本である「自由七科」のスタンダードとされるようになりました。

たとえば国際法を専門的に学びたい、経営学で戦略論を学びたい、それなのになぜ、天文学が必要なの？　音楽？？　……ここで、私なりの答えを示すことはあえて控えることにします。みなさん自身で、考えてみてください。特に「音楽」は、今日的なアートのイメージにも近いので、よい一例となるでしょう。

実用的な技能、知識習得のために、なぜ、一見趣味的に思えるような分野まで学ぶのか。遠回りで時間のむだではないのか……。「自由」を獲得する真の「実用」とは何かということを、皆さんは専門学校に通うのではないという意味とともに、考えてみてほしいと思います。

結びに、法政大学は昨年、（手前味噌ですが）素晴らしい大学憲章を創りました。タイトルは「**自由を生き抜く実践知**」です。この表現は、大学が未来を見据えて、自らの生い立ち・歩みをふりかえって自分探しをした結果定められた、実に無理のない、法政らしい理念です。意味を述べる余裕がないので、各自ぜひ教室で先生方に聴いてみてください。そしてILAC科目がもつリベラルアーツ本来のポテンシャルが、この「自由を生き抜く実践知」を身につけるうえで「切り札」といってもよい不可欠な素材になるのだということに気付けたら、皆さんはその時点で、優れて「自由」な「市民」に育つことを約束されたも同然でしょう。専門教育で得たものを、生きた「実践知」として活用するうえで大事な栄養素になるのが「ILAC科目」群なのです。

教養科目によって目指すべきもの

以下、本学の教養科目のそれぞれ分野ごとに、どういった教養が身につくことを目指しているかについて説明します。

○**人文科学分野**では、文学系・思想系・歴史系の各学問分野における知見を身につけ、現在を考察し、未来を展望しうる認識力・判断力・思考力・想像力を養うことができます。

○**社会科学分野**では、(1) 社会科学領域の学の基本にある、思想、方法、理論を多面的に学び、(2) 人間とかかわる歴史、文化、社会、生活の課題に接近する方法、スキルを習得、(3) 専門領域へ展開する基礎力である、ものの見方・考え方、探求の方法、表現力を養うことができます。

○**自然科学分野**では、自然科学系の基礎科目・総合科目を通じて、数学・科学リテラシーを修得し、現代科学が社会に及ぼす影響までを理解することができます。

○**情報学分野**では、情報を取捨選択して受け取り、自分なりに加工して発信する方法を学び、未来の新しい情報機器やソフトウェアに柔軟に対応していく姿勢を身につけることができます。

○**外国語の英語系の科目群**では、英語系科目（基礎科目・総合科目）の学習を通じて、以下の知識や能力を涵養することができます。

(1) 世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈のなかで相対化する能力
(2) 多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析する能力
(3) 専門課程での研究言語および国際語としての英語の運用能力向上のための知識・技能・継続的学習態度

○**その他の諸外国語の科目群**では、英語以外の外国語を学び、その基礎を習得します。それにより、日本語や英語を相対化するとともに、そのことばが使われている言語圏の社会、文化に関する理解を深めることができます。

○**保健体育分野**では、以下の力を身につけることができます。

(1) 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持・増進や自己管理に資する基礎的な知識や態度
(2) 卒業後の実社会において活躍する上で極めて重要であると考えられる、他者とのコミュニケーション、リーダーシップの発揮、問題解決などを可能とするための協調性、社会性など、就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキル
(3) スポーツ活動を実践することで、他者との親睦を深め、豊かで健康的な学生生活や社会生活を送る能力

本冊子の使い方（法・文・経営・国際文化学部対象）

１．各学部で配布される「ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目時間割表」とあわせて参照し、各科目の履修対象（学部・学科・学年・クラス等）を確認してください。本冊子に掲載されていても、履修対象以外の方はその授業を履修することができません。履修に関する詳細は各学部の履修の手引きを確認してください。

２．外国語科目や保健体育科目、学部専門科目等の時間割を考慮した上で、本冊子および**WEB シラバスで各授業の内容を確認**してください。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーを作成しています。以下から確認することができますので、履修の際には、本冊子、WEB シラバス、履修の手引きとあわせて、ぜひ参考にしてください。

カリキュラム・マップ

－ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目と学習到達目標の相関関係を表で示したもの

カリキュラム・ツリー

－学習目標を達成するために、ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目がどの分野、年次に配当されているかなどを図で示したもの

http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/oshirase/liberal/NEWS/20170403_curriculum_map_tree.html

３．外国語のクラス授業のシラバスは本冊子に掲載していません。**WEB シラバスを確認**してください。

４．シラバスの掲載内容に訂正等が生じた場合は、**WEB シラバス上で訂正**します。また、ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目掲示板でお知らせしますので、登校時には必ず確認するようにしてください。
重要なお知らせはウェブサイトにも掲載しますので、あわせて確認してください。
http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/oshirase/liberal/index.html

（例）法政大学ウェブサイトから確認する場合
在学生の方へ ＞ 学部・大学院からのお知らせ ＞ 市ケ谷リベラルアーツセンターからのお知らせ

※各学部のページからもリンクしています。
※ウェブサイトへの掲載は、学内掲示よりも半日～１日程度遅れる場合があります。

目　次

1．　０群　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２．　１群　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

３．　２群　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

４．　３群　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107

５．　４群　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135

６．　５群　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・221

７．　総合科目　・・・・・・・・・・・・・・・・・・225

1.ILAC(アイラック)科目一覧　★2017年度以降入学生用★

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

群	科目配置	科目名	単位	年次	備考	ページ
0群	基盤	基礎ゼミⅠ／Ⅱ	各2	1	定員30名	2
		情報処理演習Ⅰ	2	1〜2	定員50名	7
		キャリアデザイン入門	2	1		12
		キャリアデザイン応用	2	1〜4		14
		法政学への招待	2	1〜4		15
	リベラル	法政学の探究LA	2	1〜4		15
		法政学の探究LB	2	1〜4		15
		情報処理演習Ⅱ	2	1〜2	定員50名	15
1群	基盤	日本古典文学A／B	各2	1〜4		22
		日本近・現代文学A／B	各2	1〜4		24
		日本文学A／B	各2	1〜4		25
		外国文学A／B	各2	1〜4		26
		文章論	2	1〜4	定員制	28
		言語学A／B	各2	1〜4		30
		哲学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		31
		倫理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		36
		論理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		39
		東洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		43
		西洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		46
		日本史Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		47
		宗教論Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		51
		芸術A／B	各2	1〜4		52
	リベラル	日本文学と文化LA／LB	各2	1〜4		53
		日本文学と文化LC／LD	各2	1〜4		53
		日本文学と文化LE／LF	各2	1〜4		54
		日本文学と文化LG／LH	各2	1〜4		54
		外国文学と文化LA／LB	各2	1〜4		55
		外国文学と文化LC／LD	各2	1〜4		56
		外国文学と文化LE／LF	各2	1〜4		56
		文学と社会LA／LB	各2	1〜4		57
		文学と社会LC／LD	各2	1〜4		57
		文学と社会LE／LF	各2	1〜4		58
		音声学L	2	1〜4		58
		哲学LⅠ／LⅡ	各2	1〜4		58
		倫理学LⅠ／LⅡ	各2	1〜4		59
		論理学LⅠ／LⅡ	各2	1〜4		62
		東洋史LⅠ／LⅡ	各2	1〜4		62
		西洋史LA／LB	各2	1〜4		63
		日本史LⅠ／LⅡ	各2	1〜4		65
		宗教論LⅠ／LⅡ	各2	1〜4		67
2群	基盤	法学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		70
		法学(日本国憲法)	2	1〜4		74
		経済学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4	経営学部生は除く	75
		マクロ経済学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4	経営学部生のみ履修可	77
		心理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		79
		地理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		82
		政治学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		84
		社会学Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		87
		文化人類学	2	1〜4		91
		社会思想Ⅰ／Ⅱ	各2	1〜4		93

群	科目配置		科目名	単位	年次	備考	ページ
2群	リベラル		経済学LA／LB	各2	1〜4		96
			心理学LA／LB	各2	1〜4		97
			地理学LA／LB	各2	1〜4		98
			地理学LC／LD	各2	1〜4		99
			政治学LA／LB	各2	1〜4		100
			社会学LA／LB	各2	1〜4		100
			社会学LC／LD	各2	1〜4		101
			文化人類学L	2	1〜4		102
			社会思想LA／LB	各2	1〜4		104
3群	基盤		教養数学A／B	各2	1〜4	経営学部生は2年次から履修可	108
			基礎数学Ⅰ／Ⅱ	各2	2〜4	経営学部生は1年次から履修可	113
			入門物理学A／B	各2	1〜4		115
			入門生物学A／B	各2	1〜4		119
			入門化学A／B	各2	1〜4		123
			サイエンス・ラボA／B	各2	1〜4	定員25名	127
			天文学A／B	各2	1〜4		127
			科学史A／B	各2	1〜4		128
	リベラル		数学特講LA／LB	各2	2〜4		129
			発展数学LⅠ／LⅡ	各2	2〜4		130
			教養物理学LA	2	2〜4		131
			教養生物学LA／LB／LC	各2	1〜4		131
			教養化学LA／LB	各2	1〜4		133
4群	リベラル		ドイツの文化と社会LA／LB	各2	2〜4	定員30名	137
			ドイツ語の世界LA／LB	各2	1〜4	定員60名	137
			フランスの文化と社会LA／LB	各2	2〜4	定員30名	137
			フランス語の世界LA／LB	各2	1〜4	定員40名	138
			フランス生活文化論LA／LB	各2	2〜4	定員40名	138
			ロシアの文化と社会LA／LB	各2	2〜4	定員30名	139
			中国の文化と社会LA／LB	各2	2〜4	定員60名	139
			中国の文化と社会LC／LD	各2	2〜4	定員60名	140
			中国語の世界LA／LB	各2	1〜4	定員60名	140
			スペイン語の世界LA／LB	各2	1〜4	定員60名	140
			朝鮮の文化と社会LA／LB	各2	2〜4	定員30名	141
			日本の文化と社会LA／LB	各2	2〜4	定員30名	141
			日本語の世界LA／LB	各2	2〜4	定員30名	142
	選択必修外国語	英語	English3Ⅰ／Ⅱ	各1	2	冊子シラバスには掲載していません。指定クラスのWEBシラバスを参照してください。	
		独	ドイツ語4Ⅰ／Ⅱ	各1	2		172
			ドイツ語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	2〜4	定員20名	173
		仏	フランス語4Ⅰ／Ⅱ	各1	2		182
			フランス語5Ⅰ／Ⅱ	各1	2		182
			フランス語視聴覚（入門）Ⅰ／Ⅱ	各1	2〜4	定員30名	183
			フランス語視聴覚（初・中級）Ⅰ／Ⅱ	各1	2〜4	定員30名	183
		露	ロシア語4Ⅰ／Ⅱ	各1	2		190
		中	中国語4Ⅰ／Ⅱ	各1	2		198
			中国語視聴覚初級Ⅰ／Ⅱ	各1	2〜4	定員35名	200
			中国語作文初級Ⅰ／Ⅱ	各1	2〜4	定員15名	200
		西	スペイン語4Ⅰ／Ⅱ	各1	2		208
			時事スペイン語Ⅰ／Ⅱ	各1	2〜4	定員30名	209
		朝	朝鮮語4AⅠ／Ⅱ	各1	2		216
			朝鮮語4B（視聴覚）Ⅰ／Ⅱ	各1	2	定員30名	217

群	科目配置		科目名	単位	年次	備考	ページ
4群	選択外国語	英語	入門英語(SSI)Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	定員48名　SSI生のみ履修可	153
			英語オーラル・コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	1～4	定員24名	154
			ビジネス・イングリッシュⅠ／Ⅱ	各1	1～4	定員24名	155
			English Reading and Vocabulary Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4		155
			English Academic Writing Ⅰ ／Ⅱ	各1	1～4	定員20名	156
			英語で学ぶ社会と文化Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	定員36名	158
			English Presentation Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4		162
			英語アカデミック・リーディングⅠ／Ⅱ	各1	1～4	定員36名	164
			英語検定試験対策Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	定員36名	165
		独	入門ドイツ語(SSI)Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	定員30名　SSI生のみ履修可	173
			ドイツ語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	2～4	定員20名	174
			ドイツ語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員30名	174
			時事ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員30名	175
			検定ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員30名	175
			ドイツ語補講1Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「ドイツ語1Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	176
			ドイツ語補講2Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「ドイツ語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	176
		仏	フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員30名	183
			時事フランス語Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員30名	184
			検定フランス語(初級)Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員30名	184
			フランス語補講1Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「フランス語1Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	184
			フランス語補講2Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「フランス語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	185
		露	ロシア語5Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4		190
			ロシア語補講1Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「ロシア語1Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	191
			ロシア語補講2Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「ロシア語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	191
		中	中国語コミュニケーション基礎Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	定員20名	201
			中国語コミュニケーション初級Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員20名	201
			資格中国語初級Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	定員40名	202
			中国語補講1Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「中国語1Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	202
			中国語補講2Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「中国語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	203
		西	スペイン語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	2～4	定員30名	209
			スペイン語補講1Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「スペイン語1Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	210
			スペイン語補講2Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3	定員制 「スペイン語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	211
5群	基盤		スポーツ総合演習	2	1		224
			スポーツ総合演習S(選択科目)	2	1～4		224
	リベラル		健康の科学LA／LB	各2	1～4		224

2. 総合科目一覧（人文科学、社会科学、自然科学系） ★2017年度以降入学生用★

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

	科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
人文科学系	漢字・漢文学A／B	各2	2～4	30		229
	文芸創作講座A／B	各2	2～4	20		229
	日本芸能論A／B	各2	2～4	40		229
	身体表現論A／B	各2	2～4	30		230
	美術論A／B	各2	2～4	30		230
	芸術と人間A／B	各2	2～4	50		231
	行為の理論A／B	各2	2～4	—		231
	クィア・スタディーズA／B	各2	2～4	—		233
	仏教思想論A／B	各2	2～4	—		231
	中国の民族と文化A／B	各2	2～4	30		232
	ギリシヤの文化と社会A／B	各2	2～4	30		232
	古代日本・中国の法と社会A／B	各2	2～4	30		232
	アジア・太平洋島嶼国際関係史A／B	各2	2～4	30		233
	異文化コミュニケーション論A／B	各2	2～4	30		234
	キリスト教思想史A／B	各2	2～4	30		234
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（アフロアジア入門）	各2	2～4	30		236
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（アラブの言語と文化）	各2	2～4	30		236
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（在日朝鮮人の歴史A／B）	各2	2～4	30		235
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（現代思想A／B）	各2	2～4	30		235
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（文芸創作の実践A／B）	各2	2～4	30		234
社会科学系	法哲学A／B	各2	2～4	25		236
	福祉社会論B	各2	2～4	30		237
	人文地理学セミナーA／B	各2	2～4	30		237
	文化人類学方法論A／B	各2	2～4	30		237
	政治思想A／B	各2	2～4	30		238
	人間行動学A／B	各2	2～4	30		238
	沖縄を考えるA／B	各2	2～4	－		239
	グローバル社会の地域研究	各2	2～4	定員制		239
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（心理的ウェルビーイングを考えるA／B）	各2	2～4	30		240
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（グローバル経済の課題と展望A／B）	各2	2～4	20		240
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（囲碁で培う戦略的思考）	各2	2～4	25		239
自然科学系	自然環境のしくみとその変貌A／B	各2	2～4	40		240
	計算と言語のしくみ	2	2～4	30		241
	コンピュータと数理の活用	2	2～4	30		241
	確率の世界A／B	各2	2～4	40		241
	集合論A／B	各2	2～4	30		242
	現代の錬金術A／B	各2	2～4	－		242
	イオンの科学A／B	各2	2～4	30		243
	光と色の科学A／B	各2	2～4	30		243
	ITリテラシー	2	2～4	35		244
	コンピュータ科学	2	2～4	35		244
	人間と地球環境	2	2～4	30		244
	Human impact on the global environment	2	2～4	30		244
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（バイオイメージング）	各2	2～4	30		245
	教養ゼミⅠ／Ⅱ（自然史）	各2	2～4	20		244

3. 総合科目一覧（英語、諸外国語、健康・スポーツ科学系）★2017年度以降入学生用★

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

英語

科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
教養ゼミ Ⅰ / Ⅱ（Issues in Modern Japanese Society）	各2	2～4	20		234

諸外国語

科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
第三外国語としてのドイツ語A／B	各2	2～4	40	4群ドイツ語履修者は履修不可	243
ドイツ語コミュニケーション中級A／B	各2	2～4	20		244
ドイツ語圏の文学A／B	各2	2～4	30		244
ドイツ語圏の芸術A／B	各2	2～4	30		245
留学ドイツ語A／B	各2	2～4	30		245
教養ゼミⅠ／Ⅱ（ドイツ語講読）	各2	2～4	30		247
第三外国語としてのフランス語A／B	各2	2～4	40	4群フランス語履修者は履修不可	247
上級フランス語A／B	各2	2～4	40		247
フランス語コミュニケーション（中・上級）A／B	各2	2～4	20		248
フランス語表現法A／B	各2	2～4	30		248
フランス語講読A／B	各2	2～4	30		249
検定フランス語（中・上級）A／B	各2	2～4	30		249
教養ゼミⅠ/Ⅱ（フランス語圏文化への招待①）	各2	2～4	15		249
教養ゼミⅠ/Ⅱ（フランス語圏文化への招待②）	各2	2～4	15		250
第三外国語としてのロシア語A／B	各2	2～4	30	4群ロシア語履修者は履修不可	250
第三外国語としてのロシア語中級A／B	各2	2～4	30		251
第三外国語としての中国語A／B	各2	2～4	40	4群中国語履修者は履修不可	252
中国語視聴覚中級A／B	各2	2～4	25		253
中国語コミュニケーション中級A／B	各2	2～4	30		253
中国語翻訳・通訳A／B	各2	2～4	30		253
中国語翻訳・通訳C／D	各2	2～4	30		254
中国語講読A／B	各2	2～4	30		254
資格中国語中級A／B	各2	2～4	30		254
資格中国語上級A／B	各2	2～4	30		255
教養ゼミⅠ／Ⅱ（中国の生活文化）	各2	2～4	30		255
第三外国語としてのスペイン語A／B	各2	2～4	40	4群スペイン語履修者は履修不可	256
教養ゼミⅠ／Ⅱ（スペイン語圏の文化と社会を読み解く）	各2	2～4	20		257
第三外国語としての朝鮮語A／B	各2	2～4	30	4群朝鮮語履修者は履修不可	257
第三外国語としての朝鮮語中級	2	2～4	30	4群朝鮮語履修者は履修不可	257
日本語コミュニケーションA／B	各2	2～4	30		259

健康・スポーツ科学系

科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
スポーツ科学A／B	各2	2～4	20～30		258
教養ゼミⅠ／Ⅱ（コンディショニングの理論と実践）	2	2～4	20		263

1. 基礎科目一覧（0群～3群）　　☆2016年度以前入学生用☆

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

	科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
0群	基礎ゼミⅠ／Ⅱ	各2	1	30		2
	情報処理演習Ⅰ／Ⅱ	各2	1～2	50		7
	ドイツ語の世界Ⅰ／Ⅱ	各2	1～3	60		137
	フランス語の世界Ⅰ／Ⅱ	各2	1～3	40		138
	中国語の世界Ⅰ／Ⅱ	各2	1～3	60		140
	スペイン語の世界Ⅰ／Ⅱ	各2	1～3	60		140
	日本語の世界Ⅰ／Ⅱ	各2	1～3	30	留学生のみ履修可	142
	健康の科学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～3	定員制		224
	キャリアデザイン入門	2	1			12
	キャリアデザイン応用	2	1～4			14
	法政学への招待	2	1～4			15
	法政学の探究A	2	1～4			15
	法政学の探究B	2	1～4			15
1群	文学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			22・53
	文章論Ⅰ	各2	1～4	定員制		28
	言語学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4	定員制		30・58
	哲学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			31・58
	倫理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			36・59
	論理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			39・62
	東洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			43・62
	西洋史Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			46・63
	日本史Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			47・65
2群	法学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			70
	法学（日本国憲法）	2	1～4			74
	経済学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4		法・文学部生のみ履修可	75・96
	マクロ経済学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4		経営学部生のみ履修可	77
	心理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			79・97
	地理学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			82・98
	政治学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			84・100
	社会学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			87・101
	文化人類学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			91・102
	社会思想Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			93・104
3群	教養数学A／B	各2	1～4		経営学部生は2年次から履修可	108・130
	基礎数学Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4		経営学部生は1年次から履修可	113
	発展数学Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4			129
	原子から宇宙までⅠ／Ⅱ	各2	1～4			131
	生命科学Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			119・131
	物質と環境Ⅰ／Ⅱ	各2	1～4			123・133
	サイエンス・ラボA／B	各2	1～4	25		127

2. 基礎科目一覧(4群)

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

	科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
英語	入門英語(SSI) Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	48	SSI所属学生のみ履修可	153
	英語オーラル・コミュニケーション Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	24		154
	英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	24		155
	英文ライティング Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	24		156
	英語アカデミック・ライティング Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	20		157
	マスメディアの英語 Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	36		158
	映画で学ぶ英語 Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	36		162
	英語リーディング・ワークショップ Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	36		164
	英語検定試験対策 Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	36		164
ドイツ語	ドイツ語4　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン②③のみ履修	172
	ドイツ語コミュニケーション Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	20		174
	ドイツ語表現法 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	20		173
	ドイツ語視聴覚 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		174
	時事ドイツ語 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		175
	検定ドイツ語 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		175
	スポーツ・ドイツ語 Ⅰ／Ⅱ	各1	1～3	30	SSI所属学生のみ履修可	173
	ドイツ語補講1 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～3	定員制	「ドイツ語1:表現 Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	176
	ドイツ語補講2 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～3	定員制	「ドイツ語2:読解 Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	176
フランス語	フランス語4　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン②③のみ履修	182
	フランス語5　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン③のみ履修	182
	フランス語コミュニケーション Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		183
	フランス語視聴覚 Ⅰ／Ⅱ	各1	1～4	30		183
	フランス語視聴覚Ⅲ／Ⅳ	各1	2～4	30		183
	時事フランス語 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		184
	検定フランス語 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		184
	フランス語補講1 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～3	定員制	「フランス語1 Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	184
	フランス語補講2 Ⅰ／Ⅱ	各1	2～3	定員制	「フランス語2 Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	185

2. 基礎科目一覧（4群）

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

	科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
ロシア語	ロシア語4　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン②③のみ履修	190
	ロシア語5　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン③のみ履修	190
	ロシア語補講1Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3		「ロシア語1Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	191
	ロシア語補講2Ⅰ/Ⅱ	各1	2～3		「ロシア語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	191
中国語	中国語4　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン②③のみ履修	198
	中国語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	2～4	20		201
	中国語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	15		201
	中国語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	35		200
	検定中国語Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	40		202
	中国語補講Ⅰ／Ⅱ	各1	2～3	定員制	「中国語1Ⅰ/Ⅱ」「中国語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	202
スペイン語	スペイン語4　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン②③のみ履修	208
	スペイン語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各1	2～4	30		209
	スペイン語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30	2018年度をもって閉講	210
	時事スペイン語Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		209
	スペイン語補講1･2Ⅰ／Ⅱ	各1	2～3	定員制	「スペイン語1Ⅰ/Ⅱ」「スペイン語2Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	210
	スペイン語補講3Ⅰ／Ⅱ	各1	3	定員制	「スペイン語3Ⅰ/Ⅱ」再履修者のみ履修可	211
朝鮮語	朝鮮語4　Ⅰ／Ⅱ重点	各1	2		パターン②③のみ履修	216
	朝鮮語講読Ⅰ／Ⅱ	各1	3～4	30	「朝鮮語1Ⅰ/Ⅱ」「朝鮮語2Ⅰ/Ⅱ」全て修得済みであること。	217
	朝鮮語表現法Ⅰ／Ⅱ	各1	3～4	30	「朝鮮語1Ⅰ/Ⅱ」「朝鮮語2Ⅰ/Ⅱ」全て修得済みであること。	218
	朝鮮語視聴覚Ⅰ／Ⅱ	各1	2～4	30		217

3. 基礎科目一覧（5群）

	科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
5群	スポーツ総合演習	2	1年		2008年度以降入学生対象	224

4. 総合科目一覧（人文科学系、社会科学、自然科学系） ☆2016年度以前入学生用☆

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

	科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
人文科学系	漢字・漢文学	4	2～4	30		229
	文章論－文章表現の実践	4	2～4	30		234
	文芸創作講座	4	2～4	20		229
	日本芸能史論	4	2～4	40		229
	身体表現論（バレエの世界）	4	2～4	30		230
	美術論	4	2～4	30		230
	芸術と人間	4	2～4	50		231
	行為の理論	4	2～4	—		231
	クィア・スタディーズA/B	各2	2～4	—		233
	人間存在論	4	2～4	30		235
	中国の民族と文化	4	2～4	30		232
	ギリシヤの文化と社会	4	2～4	30		232
	古代日本・中国の法と社会	4	2～4	30		232
	アジア・太平洋国際関係史	4	2～4	30		233
	在日朝鮮人の歴史	4	2～4	30		235
	キリスト教思想史	4	2～4	30		234
	アフロアジア入門	4	2～4	30		236
	アラブの言語と文化	4	2～4	30		236
	異文化コミュニケーション論	4	2～4	30		234
社会科学系	法哲学	4	2～4	25		236
	グローバル経済論	4	2～4	20		240
	人文地理学セミナー	4	2～4	30		237
	現代政治学の基礎	4	2～4	25		239
	文化人類学方法論	4	2～4	30		237
	政治思想	4	2～4	30		238
	人間行動学	4	2～4	30		238
	人間発達学	4	2～4	30		240
	総合講座−沖縄を考える−	4	2～4	−		239
	グローバル社会の地域研究	4	2～4	定員制		239
自然科学系	自然環境のしくみとその変貌	4	2～4	40		240
	コンピュータの裏側	4	2～4	30		241
	確率・統計	4	2～4	40		241
	現代の錬金術	4	2～4	−		242
	集合論	4	2～4	30		242
	自然史	4	2～4	20		244
	バイオイメージングの世界	4	2～4	30		245
	イオンの科学	4	2～4	30		243
	光と色の科学	4	2～4	30		243
	ITリテラシー	4	2～4	35		244
	人間と地球環境	2	2～4	30		244
	Human impact on the global environment	2	2～4	30		244

5. 総合科目一覧（諸外国語、健康・スポーツ科学系） ☆2016年度以前入学生用☆

※定員のある科目は必ず春学期第1回目の授業に出席して受講許可を得てください。

諸外国語＝言語教育系

科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
ドイツ語初級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	40	4群ドイツ語履修者は履修不可	243
ドイツ語コミュニケーションⅢ／Ⅳ	各2	3～4	20		244
ドイツ語講読Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		247
留学ドイツ語Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30		245
フランス語初級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	40	4群フランス語履修者は履修不可	247
フランス語中級Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	40		247
フランス語コミュニケーションⅢ／Ⅳ	各2	3～4	20		248
フランス語表現法Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		248
フランス語講読Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		248
ロシア語初級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30	4群ロシア語履修者は履修不可	250
ロシア語中級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30		251
ロシア語コミュニケーションⅠ／Ⅱ	各2	3～4	20		251
ロシア語講読Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		251
時事ロシア語Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		252
中国語初級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	40	4群中国語履修者は履修不可	252
中国語コミュニケーションⅢ／Ⅳ	各2	3～4	30		253
中国語表現法Ⅲ／Ⅳ	各2	3～4	30		254
中国語講読Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		254
検定中国語Ⅲ／Ⅳ	各2	3～4	30		254
スペイン語初級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	40	4群スペイン語履修者は履修不可	256
スペイン語中級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	40		
スペイン語コミュニケーションⅢ／Ⅳ	各2	3～4	30		256
スペイン語上級Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	40		256
朝鮮語初級Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30	4群朝鮮語履修者は履修不可	257
朝鮮語中級Ⅰ	2	2～4	30	4群朝鮮語履修者は履修不可	257

諸外国語＝言語文化・地域文化系

科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
ドイツの思想Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		246
ドイツの文学Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		244
ドイツの芸術Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		245
比較文化Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		246
ドイツの文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30		137
フランスの文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	3～4	30		137
ロシアの文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30		139
中国の文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	60		139
朝鮮の文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30		141
日本の文化と社会Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	30		141

健康・スポーツ科学系

科目名	単位	年次	定員	備考	ページ
スポーツ科学Ⅰ／Ⅱ	各2	2～4	20～30		258

ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目

0 群

ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目0群を開設する目的は、ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を指導し、基本的な知識を備えさせることです。

- 「法政学への招待・*法政学の探究 LA・LB（*2016 年度以前入学生は、法政学の探究 A・B）」は法政大学の歴史と現状を知ることで、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- 「基礎ゼミ」は、「読み」・「書き」・「話す」能力を高め、幅広い文献や資料に接したり、研究方法のマナーを修得することを目指しています。
- 「情報処理演習」は、計算機の仕組みや IT 時事問題を学び、1人1台パソコンを利用して操作の基礎から電子メール・文書編集・表計算・プレゼンテーションなどのソフトの使い方を演習するものです。
- 「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン応用」は、「大学生が『就業力』を身につけるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・哲） 2017年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・哲） 2016年度以前入学者

安孫子　信

授業コード：Q0001 2017年度以降入学者
授業コード：P0003 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・哲

授業の概要と目的（何を学ぶか） 〈アランの『幸福論』と出会う〉
「読む，調べる，理解する，その上で考える」という，哲学の一連の作業の練習をすることが，この授業の目的です．その練習台となるのは，「この世でもっとも美しい本の一つ」（アンドレ・モロワ）とも言われるアランの『幸福論』です．

到達目標 a. 読めない漢字もなく，文を声に出して読むことができる．
b. 不可解な語もなく，文一つ一つの意味を理解できる．
c. 文と文のつながりを論理的にたどることができる．
d. 文章全体の主旨を把握し，それに対して自分の考えを持つことができる．

成績評価の方法と基準 毎回の授業への積極的参加（30 %）とリアクションペーパーの提出（30 %），および学期末レポート（40 %）で 評価します．なおそれぞれの方法において， 4 つの到達目標への到達度は，　語の読みと意味調べ 30 %， 論理的理解 30 %，哲学的理解 40 %の割合で勘案します．

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲） 2017年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲） 2016年度以前入学者

星野　勉

授業コード：Q0002 2017年度以降入学者
授業コード：P0004 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

文・哲

授業の概要と目的（何を学ぶか） 『君たちはどう生きるか』をテキストに、ものの見方、真実の経験、人間の結びつき、貧乏ということ、人間の悲惨と偉大などについて議論することを通じて、一人ひとりが「どう生きるか」を真剣に考える。また、それを通じて、一方で大学での「学び」の意義を理解し、他方で大学での「学び」の基本技能を修得する。

到達目標 1）「読む」、「書く」、「発表する」、「議論する」、そして「考える」という大学での「学び」の基本技能を身につける。
2）大学での「学び」の意味を理解することができ、「学び」への明確な動機づけをもつことができる。

成績評価の方法と基準 「読む」、「書く」、「発表する」、「議論する」、そして、「考える」という基本技能を身につけることができたかどうかを、授業時の発表内容・議論・リアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）によりながら、総合的に評価する。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・哲） 2017年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・哲） 2016年度以前入学者

星野　勉

授業コード：Q0003 2017年度以降入学者
授業コード：P0005 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・哲

授業の概要と目的（何を学ぶか） 『君たちはどう生きるか』をテキストに、ものの見方、真実の経験、人間の結びつき、貧乏ということ、人間の悲惨と偉大などについて議論することを通じて、一人ひとりが「どう生きるか」を真剣に考える。また、それを通じて、一方で大学での「学び」の意義を理解し、他方で大学での「学び」の基本技能を修得する。

到達目標 1）「読む」、「書く」、「発表する」、「議論する」、そして「考える」という大学での「学び」の基本技能を身につける。
2）大学での「学び」の意味を理解することができ、「学び」への明確な動機づけをもつことができる。

成績評価の方法と基準 「読む」、「書く」、「発表する」、「議論する」、そして、「考える」という基本技能を身につけることができたかどうかを、授業時の発表内容・議論・リアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）によりながら、総合的に評価する。

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲） 2017年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲） 2016年度以前入学者

菅沢　龍文

授業コード：Q0004 2017年度以降入学者
授業コード：P0006 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

文・哲

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学で哲学を学ぶにあたって基礎となる、哲学的な問いかけ ― そもそも、なんだろう？　なぜだろう？ ― を実践する。

到達目標 《知識》哲学の基本的な問題を知る。
《態度》問題を発見し、積極的に探究する態度を身につける。
《技能》物事をそもそも「なぜだろう？」と問うて追究する力をつける。

成績評価の方法と基準 評価の観点は次のとおり。
（1）毎回のゼミへの参加態度と課題プリントの評価
（2）セメスター末のレポートの評価
（1）を7割、（2）を3割で総合的に評価する。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・英文） 2017年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・英文） 2016年度以前入学者

小島　尚人

授業コード：Q0005 2017年度以降入学者
授業コード：P0007 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・英文

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「基礎ゼミ」は、大学における1年

次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

到達目標　大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とします。

成績評価の方法と基準　平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します［授業参加状況 30%，授業内提出物・発表 70%］。

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・英文）　2017 年度以降入学者

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・英文）　2016 年度以前入学者

結城　英雄

授業コード：Q0007　2017 年度以降入学者
授業コード：P0009　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・英文

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「基礎ゼミ」は、大学における１年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

到達目標　大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とします。

成績評価の方法と基準　平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します［授業参加状況 30%，授業内提出物・発表 70%］。

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・英文）　2017 年度以降入学者

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・英文）　2016 年度以前入学者

山下　敦

授業コード：Q0009　2017 年度以降入学者
授業コード：P0011　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・英文

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「基礎ゼミ」は、大学における１年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

到達目標　大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とします。

成績評価の方法と基準　平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します［授業参加状況 30%，授業内提出物・発表 70%］。

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・英文）　2017 年度以降入学者

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・英文）　2016 年度以前入学者

山下　敦

授業コード：Q0011　2017 年度以降入学者
授業コード：P0013　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・英文

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「基礎ゼミ」は、大学における１年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

到達目標　大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とします。

成績評価の方法と基準　平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します［授業参加状況 30%，授業内提出物・発表 70%］。

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・史）　2017 年度以降入学者

BSP100LA
基礎ゼミⅠ（文・史）　2016 年度以前入学者

小倉　淳一

授業コード：Q0013　2017 年度以降入学者
授業コード：P0015　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・史

授業の概要と目的（何を学ぶか）　高校までの受け身の学習を脱し、大学生として必要な学習上の心構えと技術を身につける。大学での学習においてはレポート・論述試験・ゼミ発表など、自主的に学び、かつ自分の言葉で表現することが求められる。これらに主体的に向きあい、大学生としてふさわしい学習方法について検討・実践していく。

到達目標　大学生としての授業への参加方法を理解する。
論説文の読み方と要約方法が身につく。
資料の集め方、レポートの書式と執筆方法、発表資料の作成方法を習得する。
ゼミ発表の方法を実践する。

成績評価の方法と基準　平常点（授業への参加度）：30 %　授業内課題への取り組み：30 %　期末レポート：40 %
ただし、３回以上の連続欠席者および出席率 70 %未満のものは自動的に単位を失う。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史） 2016 年度以前入学者

北川　香子

授業コード：Q0015 2017 年度以降入学者
授業コード：P0017 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・史

授業の概要と目的（何を学ぶか） 歴史学を学ぶための基礎を身につけることを目的とします。

到達目標 「面白いこと」を見つけ出し、なぜ「面白い」のか、どう「面白い」のかを考え、人に説明するための方法を身につけていきます。

成績評価の方法と基準 平常点（100 %）

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史） 2016 年度以前入学者

後藤　篤子

授業コード：Q0017 2017 年度以降入学者
授業コード：P0019 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・史

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの大学での学びに必要となる「聞く・読む・書く・口頭発表する」という基本的スキルを習得します。これらのスキルは、社会に出てどのような道に進もうとも最低限求められる、社会人基礎力でもあります。

到達目標 ①人の話（講義）を聞きながら必要なメモ（ノート）を取ることができる。②論説文を批判的に読むことができる。③未知の事柄、十分に知らない事柄について、自分で調べることができる。④自分が調べた成果や自分の考えを、口頭で発表したり、明快な文章で表すことができる。

成績評価の方法と基準 平常点（授業内作業への取り組み態度や出席状況）30 %、提出物や口頭発表の準備度 30 %、期末レポート 40 %で、評価します。
期末レポートについては、文章や形式等、授業で注意したことが習得できているかどうかに力点を置いて評価します。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史） 2016 年度以前入学者

長井　純市

授業コード：Q0019 2017 年度以降入学者
授業コード：P0021 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・史

授業の概要と目的（何を学ぶか） 小学校から高等学校までの「生徒」としての「学習」・「生活」から、大学の「学生」としての「学び」・「キャリア形成」へと円滑に転換するための基本的な、且つ自分に合ったスキルを身につけることが目的です。

到達目標 第一、大学教員のさまざまな授業方法に対応した受講スキルを獲得すること。第二、大学の施設を利用して自ら学ぶためのスキルを獲得すること。第三、卒業後のキャリア（人生設計）を展望しながら身につけるべきスキルを獲得すること。

成績評価の方法と基準 授業への参加度（出席、質疑応答）40 %、授業課題（発表、小リポート提出）への取り組み 30 %、期末試験（リポート形式）30 %。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2016 年度以前入学者

羽佐田　紘大

授業コード：Q0021 2017 年度以降入学者
授業コード：P0023 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・地理

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、大学での能動的な学習に必要となる基礎的なスキルの修得を目指す。

到達目標 文献や資料を自ら調べ、内容を理解した上で、プレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）、発表（30 %）、レポート（30 %）により評価する。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2016 年度以前入学者

伊藤　達也

授業コード：Q0023 2017 年度以降入学者
授業コード：P0025 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・地理

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目のテーマは、いわゆる「読み、書き、ソロバン」といった、これから大学で学ぶための基礎的な事柄を習得する点にあります。現代に即して言えば「読んで、書いて、話す」+「コンピュータ（本講義では扱いません）」でしょうか。従いまして本授業では、大学教育において必要な「読んで、書いて、話す」知識、テクニックについてを学び、修得を目指します。

到達目標 「文献や資料が適切に読めるようになること」「プレゼンテーションが適切にできるようになること」「文章が適切に書けること」が具体的な到達目標となります。

成績評価の方法と基準 各発表による評価 50 %、講義への参加度 50 %で行います。ゼミ形式の科目なので通常の試験は実施しません。毎回、ゼミに参加し、内容の理解に努め、討論に参加してください。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2016 年度以前入学者

山口　隆子

授業コード：Q0025 2017 年度以降入学者
授業コード：P0027 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・地理

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは、大学生として必要な学習スキルの修得です。

到達目標 大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集や読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

成績評価の方法と基準 レポート・課題： 40 %、発表： 40 %、授業への取組： 20 %

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理） 2016 年度以前入学者

小原　丈明

授業コード：Q0027 2017 年度以降入学者
授業コード：P0029 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・地理

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は初めて大学で学ぶ者のための入門・基礎科目に位置づけられ，大学における学問とはどのようなものであるのかを理解するための授業です。高校までの学問とこれから大学で学ぶ学問との大きな違いは，より能動的に取り組む姿勢が求められる点と，自分の考えを論理的な思考の下で表明することが必要となってくる点にあります。そこで，本授業ではそれらの点に留意して，「問題意識を持つ」，「調べる」，「発表する・意見を述べる」，「文章を書く」ことに主眼を置いた演習を行います。

到達目標 本授業を通じて，大学で学ぶ上での意識・姿勢を理解し，基礎的な知識・技術を身に付けられるようになります。また，物事の見方・論理的な考え方についても修得することを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点： 60 %，課題： 40 %で評価します。具体的には，平常点については発表やディスカッション等における授業への取り組む態度を基に総合的に評価を行います。また，課題については提出状況や内容によって評価を行います。授業の性質上，必ず出席することを前提とします。大学生として求められる能動的・積極的な姿勢を期待します。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・心理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・心理） 2016 年度以前入学者

藤田　哲也

授業コード：Q0029 2017 年度以降入学者
授業コード：P0031 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・心理

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の基礎ゼミⅠでは，受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な，様々な学習スキル（技能）の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し，将来，社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では，大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに，社会に出てからも必要とされる，情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や，他者とのコミュニケーション能力などのスキルと，積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

到達目標 半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として，「自分自身で必要な情報を判断した上で，時間が経過してからでも役立つノートを取れるようになること」。
2. 情報の内容理解として，「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。
3. 情報発信能力として，「第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書けること」。
4. コミュニケーション能力として，「相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べること」。
5. 積極的に活動する態度として，「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で，授業に継続的に参加すること」。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや，授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業一回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2 点です。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて，「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し，提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ，自分なりの視点の獲得等）に応じた 0〜10 点までの評価とします。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので，あまり詳しいことはここには書きませんが，「適切な情報を検索し，内容を吟味して，指定字数で要約し，引用できること」，「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」，「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」，「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に，計 40 点分の評価とする予定です。

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・心理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・心理） 2016 年度以前入学者

藤田　哲也

授業コード：Q0030 2017 年度以降入学者
授業コード：P0032 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

文・心理

授業の概要と目的（何を学ぶか） 秋学期の基礎ゼミ II では，班活動を主体として，情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが，この授業の目的です。

到達目標 半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて，積極的・効果的に班活動を行うことができる。

2. 情報を伝える相手の視点に立って，必要な情報を集め，それらの情報を適切に取捨選択できる。

3. 資料性が高く，かつ，読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ，実際に作成することができる。

4. 聞き手が聴く気を保ち，理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき，それを実践することができる。

5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し，適切に評価することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）…授業へ出席し積極的に班活動に参加することを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業一回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して，「発表の内容」，「レジュメ」，「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し，貢献できたかについて評価します。具体的には，班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に，授業内における班活動への参加率を乗じたものを，各個人の班活動の評価とする予定です。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・心理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・心理） 2016 年度以前入学者

藤田　哲也

授業コード：Q0031 2017 年度以降入学者
授業コード：P0033 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・心理

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の基礎ゼミ I では，受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な，様々な学習スキル（技能）の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し，将来，社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では，大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに，社会に出てからも必要とされる，情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や，他者とのコミュニケーション能力などのスキルと，積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

到達目標 半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として，「自分自身で必要な情報を判断した上で，時間が経過してからでも役立つノートを取れるようになること」。

2. 情報の内容理解として，「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。

3. 情報発信能力として，「第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書けること」。

4. コミュニケーション能力として，「相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べること」。

5. 積極的に活動する態度として，「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で，授業に継続的に参加すること」。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや，授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業一回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2 点です。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて，「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し，提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ，自分なりの視点の獲得等）に応じた 0〜10 点までの評価とします。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので，あまり詳しいことはここには書きませんが，「適切な情報を検索し，内容を吟味して，指定字数で要約し，引用できること」，「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」，「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」，「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に，計 40 点分の評価とする予定です。

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・心理） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・心理） 2016 年度以前入学者

藤田　哲也

授業コード：Q0032 2017 年度以降入学者
授業コード：P0034 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

文・心理

授業の概要と目的（何を学ぶか） 秋学期の基礎ゼミ II では，班活動を主体として，情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが，この授業の目的です。

到達目標 半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて，積極的・効果的に班活動を行うことができる。

2. 情報を伝える相手の視点に立って，必要な情報を集め，それらの情報を適切に取捨選択できる。

3. 資料性が高く，かつ，読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ，実際に作成することができる。

4. 聞き手が聴く気を保ち，理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき，それを実践することができる。

5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し，適切に評価することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）…授業へ出席し積極的に班活動に参加することを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業一回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して，「発表の内容」，「レジュメ」，「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し，貢献できたかについて評価します。具体的には，班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に，授業内における班活動への参加率を乗じたものを，各個人の班活動の評価とする予定です。

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（法文営） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（法文営） 2016 年度以前入学者

近江屋　志穂

授業コード：Q0033 2017 年度以降入学者
授業コード：P0037 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

法文営

授業の概要と目的（何を学ぶか） レポートや論文の書き方を学びます。「基礎ゼミⅠ」では基本を、「基礎ゼミⅡ」では応用を学びます。

到達目標 レポートや論文を書く上で知っておくべき基礎的な事柄を身につけること。論述文とは何かを理解し、論理的な文章が書けるようになること。正しく読みやすい文章が書けるようになること。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（法文営） 2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（法文営） 2016 年度以前入学者

近江屋　志穂

授業コード：Q0034 2017 年度以降入学者
授業コード：P0038 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

法文営

授業の概要と目的（何を学ぶか） レポートや論文の書き方を学びます。「基礎ゼミⅠ」では基本を、「基礎ゼミⅡ」では応用を学びます。

到達目標 レポートや論文を書く上で知っておくべき基礎的な事柄を身につけること。論述文とは何かを理解し、論理的な文章が書けるようになること。正しく読みやすい文章が書けるようになること。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2016 年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0101 2017 年度以降入学者
授業コード：P0101 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

到達目標 本科目では，主に Word2010（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3～4 回ほどを予定．

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2016 年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0103 2017 年度以降入学者
授業コード：P0103 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

到達目標 本科目では，主に Word2010（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3～4 回ほどを予定．

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2016 年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0105 2017 年度以降入学者
授業コード：P0105 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

到達目標 本科目では，主に Word2010（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

PRI100LA
情報処理演習 I 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習 I 2016 年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0107 2017 年度以降入学者
授業コード：P0107 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

到達目標 本科目では，主に Word2010（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

PRI100LA
情報処理演習 I 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習 I 2016 年度以前入学者

小林　良穂

授業コード：Q0109 2017 年度以降入学者
授業コード：P0109 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、コンピュータを活用する上での基礎的な知識と技術を身につけることを目標とします。高校での「情報」の知識および実践の不足分を補い、学内／学外での活動で必要となるコンピュータの活用方法と、それに伴う種々の技術と情報倫理を含めた基礎的な知識を紹介します。コンピュータの日常生活での使用や大学生活での活用に不安を感じている人を対象とします。

到達目標 学内のコンピュータの基本的な使い方を身につける。
Web を使った情報の収集やメールによるコミュニケーションが適切にできる。
Word を活用してレポートやビジネス文書を含んだ様々な文書が作成できる。
PowerPoint を用いた効果的なプレゼンテーションができる。

成績評価の方法と基準 授業テーマに関する小課題： 50%
授業内演習： 35%
平常点： 15%

PRI100LA
情報処理演習 I 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習 I 2016 年度以前入学者

小林　良穂

授業コード：Q0111 2017 年度以降入学者
授業コード：P0111 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、コンピュータを活用する上での基礎的な知識と技術を身につけることを目標とします。高校での「情報」の知識および実践の不足分を補い、学内／学外での活動で必要となるコンピュータの活用方法と、それに伴う種々の技術と情報倫理を含めた基礎的な知識を紹介します。コンピュータの日常生活での使用や大学生活での活用に不安を感じている人を対象とします。

到達目標 学内のコンピュータの基本的な使い方を身につける。
Web を使った情報の収集やメールによるコミュニケーションが適切にできる。
Word を活用してレポートやビジネス文書を含んだ様々な文書が作成できる。
PowerPoint を用いた効果的なプレゼンテーションができる。

成績評価の方法と基準 授業テーマに関する小課題： 50%
授業内演習： 35%
平常点： 15%

PRI100LA
情報処理演習 I 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習 I 2016 年度以前入学者

河内谷　幸子

授業コード：Q0113 2017 年度以降入学者
授業コード：P0113 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

到達目標 web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

成績評価の方法と基準 授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

岡嶋　裕史

授業コード：Q0115 2017年度以降入学者
授業コード：P0115 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1〜2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

到達目標 大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Wordをマスターし、Excelの基礎レベルを修了します。

成績評価の方法と基準 平常点30%、期末試験70%をあわせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

岡嶋　裕史

授業コード：Q0117 2017年度以降入学者
授業コード：P0117 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1〜2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

到達目標 大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Wordをマスターし、Excelの基礎レベルを修了します。

成績評価の方法と基準 平常点30%、期末試験70%をあわせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

重定　如彦

授業コード：Q0119 2017年度以降入学者
授業コード：P0119 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1〜2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習Ⅰでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

到達目標 コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」
平常点10％、レポート70％、タッチタイピングのテスト20％
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

重定　如彦

授業コード：Q0121 2017年度以降入学者
授業コード：P0121 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1〜2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習Ⅰでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

到達目標 コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」
平常点10％、レポート70％、タッチタイピングのテスト20％
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

松田　裕幸

授業コード：Q0123 2017年度以降入学者
授業コード：P0123 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【生活の中の情報】
身の回りには様々な情報機器が溢れている。「使えればいい」から「どういう仕組みに」なっているんだろうへ興味を持つ君たちに本授業は開かれている。

到達目標 情報社会では多彩で多様な知識が次から次へと生み出され消費されている。知識に振り回されることなく、まして知識を暗記することでもなく、今の、そして未来の情報機器とどう付き合っていけばいいのか。そんなことを考える機会になればいい。

成績評価の方法と基準 基本的に毎回課題を課す。課題の総計を50%、期末試験の成績を50%とします。成績は成績評価の規準に準じます。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

松田　裕幸

授業コード：Q0125 2017年度以降入学者
授業コード：P0125 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【生活の中の情報】
身の回りには様々な情報機器が溢れている。「使えればいい」から「どういう仕組みに」なっているんだろうへ興味を持つ君たちに本授業は開かれている。

到達目標 情報社会では多彩で多様な知識が次から次へと生み出され消費されている。知識に振り回されることなく、まして知識を暗記することでもなく、今の、そして未来の情報機器とどう付き合っていけばいいのか。そんなことを考える機会になればいい。

成績評価の方法と基準 基本的に毎回課題を課す。課題の総計を50%、期末試験の成績を50%とします。成績は成績評価の規準に準じます。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

河内谷　幸子

授業コード：Q0127 2017年度以降入学者
授業コード：P0127 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

到達目標 webブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフトWordの、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフトExcelの、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

成績評価の方法と基準 授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

河内谷　幸子

授業コード：Q0129 2017年度以降入学者
授業コード：P0129 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

到達目標 webブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフトWordの、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフトExcelの、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

成績評価の方法と基準 授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

久東　義典

授業コード：Q0131 2017年度以降入学者
授業コード：P0131 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） コンピュータの初心者を対象に，実習室のPCを実際に操作して，コンピュータやインターネットの仕組みなどを理解しながら情報を活用するとはどういうことなのかを学習します．

到達目標 コンピュータだけにとどまらず，インターネットをはじめとした情報技術の現状とトレンド，正しい知識を得ると共に，ビジネスや日常生活において大切な情報技術に関する一般常識を身につけることを目標とします．

成績評価の方法と基準 平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）
５０％
レポート課題３０％
小テスト２０％

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

久東　義典

授業コード：Q0133 2017年度以降入学者
授業コード：P0133 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） コンピュータの初心者を対象に，実習室のPCを実際に操作して，コンピュータやインターネットの仕組みなどを理解しながら情報を活用するとはどういうことなのかを学習します．

到達目標 コンピュータだけにとどまらず，インターネットをはじめとした情報技術の現状とトレンド，正しい知識を得ると共に，ビジネスや日常生活において大切な情報技術に関する一般常識を身につけることを目標とします．

成績評価の方法と基準 平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）５０％
レポート課題３０％
小テスト２０％

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0135 2017年度以降入学者
授業コード：P0135 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的なITの知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

到達目標 文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となるIT関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0137 2017年度以降入学者
授業コード：P0137 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的なITの知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

到達目標 文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となるIT関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0139 2017年度以降入学者
授業コード：P0139 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的なITの知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

到達目標 文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となるIT関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅰ 2016年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0141 2017年度以降入学者
授業コード：P0141 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的なITの知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

到達目標 文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となるIT関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2016 年度以前入学者

星　善光

授業コード：Q0143 2017 年度以降入学者
授業コード：P0143 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び。仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

到達目標 一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20%）、課題点（80%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2016 年度以前入学者

星　善光

授業コード：Q0145 2017 年度以降入学者
授業コード：P0145 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び。仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

到達目標 一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20%）、課題点（80%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

CAR100LA

キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者

CAR100LA

キャリアデザイン入門 2016 年度以前入学者

平林　正樹

授業コード：Q0431 2017 年度以降入学者
授業コード：Q0431 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA

キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者

CAR100LA

キャリアデザイン入門 2016 年度以前入学者

平林　正樹

授業コード：Q0432 2017 年度以降入学者
授業コード：Q0432 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA

キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者

CAR100LA

キャリアデザイン入門 2016 年度以前入学者

斉藤　貴久

授業コード：Q0433 2017 年度以降入学者
授業コード：Q0433 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA
キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者
CAR100LA
キャリアデザイン入門 2016 年度以前入学者

斉藤　貴久

授業コード：Q0434 2017 年度以降入学者
授業コード：Q0434 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での４年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA
キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者
CAR100LA
キャリアデザイン入門 2016 年度以前入学者

徳山　誠

授業コード：Q0435 2017 年度以降入学者
授業コード：Q0435 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での４年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA
キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者
CAR100LA
キャリアデザイン入門 2016 年度以前入学者

徳山　誠

授業コード：Q0436 2017 年度以降入学者
授業コード：Q0436 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での４年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA
キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者
CAR100LA
キャリアデザイン入門 2016 年度以前入学者

齋藤　典子

授業コード：Q0437 2017 年度以降入学者
授業コード：Q0437 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での４年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2017 年度以降入学者

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2016 年度以前入学者

平林　正樹

授業コード：Q0451　2017 年度以降入学者
授業コード：Q0451　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2017 年度以降入学者

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2016 年度以前入学者

徳山　誠

授業コード：Q0453　2017 年度以降入学者
授業コード：Q0453　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2016 年度以前入学者

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2017 年度以降入学者

徳山　誠

授業コード：Q0452　2016 年度以前入学者
授業コード：Q0452　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2017 年度以降入学者

CAR100LA

キャリアデザイン応用　2016 年度以前入学者

平林　正樹

授業コード：Q0454　2017 年度以降入学者
授業コード：Q0454　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

IDN100LA

法政学への招待 2017年度以降入学者

IDN100LA

法政学への招待 2016年度以前入学者

髙柳　俊男、小林　ふみ子

授業コード：Q0501 2017年度以降入学者
授業コード：P0701 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） ようこそ法政大学へ！ 法政が好きという人も、よくわからない…という人も、まずは今の法政大学がどのようにしてできあがったのかについて知ってみませんか？ 自分の学ぶ大学や学部がいつ、どのように作られたのか、そこにどんな想いや物語があったのか、聞いてみたくはないでしょうか？

1880（明治13）年に設立された東京法学社から発展した法政大学は、実は記録のうえで法律学校を起源として現存する日本の私立大学のなかで、もっとも早く作られたことが知られています。

この授業では、創立以来140年弱の歴史をふりかえるとともに、普段の授業では触れることない、校歌のなりたち、古くからの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積や図書館の個人文庫、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、さまざまな角度から法政大学に迫ります。最後には学生たち自身で未来の法政大学を考え、総長に提言する機会も用意しています。

科目責任者2名のコーディネートのもと、毎回異なるゲスト講師の講義を聞き、クイズ形式でその内容をふりかえります。ときおり動画を交えたり、学部・学年を超えてディスカッションしたりなど、変化に富んだ授業です。法政で学ぶ友人も増やし、受講生の皆さんがここで学ぶ未来にますます希望がもてるようになることをめざしています。それはみなさん自身が将来の目標やキャリアを考えることにもつながるかもしれません。

到達目標 ・法政大学の歴史と現在を、日本近現代史の流れのなかで理解する。
・歴史のなかで培われてきた法政大学らしさ（法政大学憲章に表されています）を考え、それを自分の将来を構想する糧とする。
・上位科目「法政学の探究LA・LB」を受講する場合、その前提となる知識を得る。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40％、テキストおよび授業中の振り返りクイズ等をもとに出題する期末試験60％を基準にして、総合的に評価します。

期末試験のうち選択問題については、5割以上の正答が単位取得の最低ラインです。

IDN200LA

法政学の探究ＬＢ 2017年度以降入学者

IDN100LA

法政学の探究Ｂ 2016年度以前入学者

古俣　達郎

授業コード：Q0503 2017年度以降入学者
授業コード：P0703 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では法政大学の歴史に関するテキストをゼミナール形式で講読していきます。

今期は、「学生」に焦点をあて、卒業生の回想や法大生に関する記事などを読解することによって、法政大学の歴史を「学生」の観点から「読み直し」ます。

明治期の法律学校時代の学生とはどのような存在だったのか、大正末から昭和初期に体育会・文化系団体などの学生活動が一斉にはじまったのはなぜか、戦時下において学生たちは戦争についてどのように考えていたのか、戦前の留学生の学生生活はどのようなものだったのか、法政大学に女子学生が誕生したのはいつだったのか、バブル期の学生生活はどのようなものであったのか、戦前・戦中・戦後の法大生像にはどのような変遷があるのか、そして、法大生の特質・独自性とは何か。これらのテーマを資料（映画・アニメなどの映像資料も含む）に基づいて、科目担当者とともに検証していきます。

各学部の専門ゼミの履修が始まる前に、法政大学をテーマとして発表や議論などゼミナール形式の授業に慣れる機会にもなるでしょう

到達目標 法政大学はその創立者たちが若き法学徒であり、その後の歴史においても学生たちの主体的な活動によって発展していった大学です。かつての法大生の先進的な取り組みに学ぶことによって、法大生としての主体性、批判的な視野や独立性、そして、多様性と「他者」に開かれた精神を涵養することを目的とします。

成績評価の方法と基準 平常点とテキスト報告（各50％）にて判断します。

IDN200LA

法政学の探究ＬＡ 2017年度以降入学者

IDN100LA

法政学の探究Ａ 2016年度以前入学者

髙柳　俊男、古俣　達郎

授業コード：Q0504 2017年度以降入学者
授業コード：P0704 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、「法政学への招待」をすでに受講し、法政大学が経てきた140年近い歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象に、本学ゆかりの特定の人物を媒介に、法政大学についてより深く考える場を提供する発展科目として設定しました（今年度から内容を大幅変更）。

「法政学への招待」における学習で、本学が1880年の創立以来、どのような歩みを経てきたのか、その中で時代の要請にも応えつつどのような変化があったのかに関しては、一応の理解が得られていると思います。その前提の上に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に取り上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどういう教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに貢献したか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたかなどについて、探求することになるでしょう。

法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロントランナー養成を掲げる法政大学の歴史と現在が、より具体性を帯びて理解できることになるはずです。

到達目標 本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなど、時代の雰囲気を受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40％、学期末のレポート60％を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場でお知らせします。

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0102 2017年度以降入学者
授業コード：P0102 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします．この授業のねらいは，自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです．また，将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします．

到達目標 本科目では，主にExcel2010（表計算ソフト）とPowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます．基本

的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので，特に本授業では，表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます．授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です．なお，前者では，数学的な思考はあまり必要ありません．数式を解くのではなく，数式を立てるほうを重要視しますので，論理的な思考が身に付きます．後者では，プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0104 2017 年度以降入学者
授業コード：P0104 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします．この授業のねらいは，自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです．また，将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします．

到達目標 本科目では，主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます．基本的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので，特に本授業では，表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます．授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です．なお，前者では，数学的な思考はあまり必要ありません．数式を解くのではなく，数式を立てるほうを重要視しますので，論理的な思考が身に付きます．後者では，プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0106 2017 年度以降入学者
授業コード：P0106 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします．この授業のねらいは，自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです．また，将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします．

到達目標 本科目では，主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます．基本的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので，特に本授業では，表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます．授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です．なお，前者では，数学的な思考はあまり必要ありません．数式を解くのではなく，数式を立てるほうを重要視しますので，論理的な思考が身に付きます．後者では，プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

吉岡　卓

授業コード：Q0108 2017 年度以降入学者
授業コード：P0108 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします．この授業のねらいは，自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです．また，将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします．

到達目標 本科目では，主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます．基本的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので，特に本授業では，表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます．授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です．なお，前者では，数学的な思考はあまり必要ありません．数式を解くのではなく，数式を立てるほうを重要視しますので，論理的な思考が身に付きます．後者では，プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます．

成績評価の方法と基準 平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者

PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

小林　良穂

授業コード：Q0110 2017 年度以降入学者
授業コード：P0110 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ学生を対象とし、発展的な内容を含んだコンピュータの知識と技術を紹介します。「情報処理演習 I」から引き続き、生活の中で必要となるコンピュータの活用方法を身につけるとともに、さらに深い情報やコンピュータの理解に必要な考え方の獲得を目標とします。

到達目標 Excel の基本的な使い方を理解し、表の効率的な作成、グラフによる表現、表計算によるデータの処理が適切に行える。

インターネットや Web の仕組みを理解し、HTML を用いた Web ページの作成ができる。

成績評価の方法と基準 各テーマに関する課題： 65%
授業内演習： 20%
平常点： 15%

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

小林　良穂

授業コード：Q0112 2017 年度以降入学者
授業コード：P0112 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ学生を対象とし、発展的な内容を含んだコンピュータの知識と技術を紹介します。「情報処理演習 I」から引き続き、生活の中で必要となるコンピュータの活用方法を身につけるとともに、さらに深い情報やコンピュータの理解に必要な考え方の獲得を目標とします。

到達目標 Excel の基本的な使い方を理解し、表の効率的な作成、グラフによる表現、表計算によるデータの処理が適切に行える。
インターネットや Web の仕組みを理解し、HTML を用いた Web ページの作成ができる。

成績評価の方法と基準 各テーマに関する課題： 65%
授業内演習： 20%
平常点： 15%

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

河内谷　幸子

授業コード：Q0114 2017 年度以降入学者
授業コード：P0114 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

到達目標 文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。
表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。
データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。
プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

成績評価の方法と基準 授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

岡嶋　裕史

授業コード：Q0116 2017 年度以降入学者
授業コード：P0116 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

到達目標 大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、PowerPoint のプレゼンテーションを作れる水準に到達します。

成績評価の方法と基準 平常点 30%、期末試験 70%をあわせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

岡嶋　裕史

授業コード：Q0118 2017 年度以降入学者
授業コード：P0118 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1〜2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

到達目標 大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、PowerPoint のプレゼンテーションを作れる水準に到達します。

成績評価の方法と基準 平常点 30%、期末試験 70%をあわせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

重定　如彦

授業コード：Q0120 2017年度以降入学者
授業コード：P0120 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
秋学期の情報処理演習IIでは、情報処理演習Iで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

到達目標 情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」平常点10％、レポート90%
「評価基準」平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

重定　如彦

授業コード：Q0122 2017年度以降入学者
授業コード：P0122 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
秋学期の情報処理演習IIでは、情報処理演習Iで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

到達目標 情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」
平常点10％、レポート90%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

松田　裕幸

授業コード：Q0124 2017年度以降入学者
授業コード：P0124 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） コンピュータ、デジカメ、スマフォ、ゲーム機等すべての情報機器がその機能・性能を如何なく発揮するには、内部に組み込まれた膨大な規模のプログラムに多くを負っている。そのプログラムの働き、仕組みについて学ぶ。

到達目標 プログラムを書いてゲームを作ってみよう！ 限られた時間で出来ることは多くないが、ゲーム作りを通して、プログラムの仕掛けについて理解を深めてもらう。同時に、プログラミングの楽しさも味わって欲しい。

成績評価の方法と基準 基本的に毎回課題を課す。課題の総計を40%、最終課題レポートの評価分を60%とします。成績は成績評価の規準に準じます。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

松田　裕幸

授業コード：Q0126 2017年度以降入学者
授業コード：P0126 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） コンピュータ、デジカメ、スマフォ、ゲーム機等すべての情報機器がその機能・性能を如何なく発揮するには、内部に組み込まれた膨大な規模のプログラムに多くを負っている。そのプログラムの働き、仕組みについて学ぶ。

到達目標 プログラムを書いてゲームを作ってみよう！ 限られた時間で出来ることは多くないが、ゲーム作りを通して、プログラムの仕掛けについて理解を深めてもらう。同時に、プログラミングの楽しさも味わって欲しい。

成績評価の方法と基準 基本的に毎回課題を課す。課題の総計を40%、最終課題レポートの評価分を60%とします。成績は成績評価の規準に準じます。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

河内谷　幸子

授業コード：Q0128 2017年度以降入学者
授業コード：P0128 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情

報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

到達目標 文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。
表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。
データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。
プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

成績評価の方法と基準 授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

河内谷　幸子

授業コード：Q0130 2017 年度以降入学者
授業コード：P0130 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1 ～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

到達目標 文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。
表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。
データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。
プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

成績評価の方法と基準 授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

久東　義典

授業コード：Q0132 2017 年度以降入学者
授業コード：P0132 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1 ～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報処理実習Ｉを履修した学生または同等の基礎力を持つ学生を対象に，実習室の PC を利用して，情報を処理することや表現することをさらに高める方法を学習します．情報通信技術（ICT(:Information and Communication Technology）により現代社会の変貌を理解することを目的とします．

到達目標 ワードプロソフト，表計算ソフト，データベースソフト，プレゼンテーションソフトを使って，魅力あるデジタル資料の作成ができることを目標とします．

成績評価の方法と基準 平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）５０％レポート課題３０％小テスト２０％

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

久東　義典

授業コード：Q0134 2017 年度以降入学者
授業コード：P0134 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1 ～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報処理実習Ｉを履修した学生または同等の基礎力を持つ学生を対象に，実習室の PC を利用して，情報を処理することや表現することをさらに高める方法を学習します．情報通信技術（ICT(:Information and Communication Technology）により現代社会の変貌を理解することを目的とします．

到達目標 ワードプロソフト，表計算ソフト，データベースソフト，プレゼンテーションソフトを使って，魅力あるデジタル資料の作成ができることを目標とします．

成績評価の方法と基準 平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）５０％レポート課題３０％小テスト２０％

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0136 2017 年度以降入学者
授業コード：P0136 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1 ～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーの知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを広く習得することを目標とします。

到達目標 事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017 年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016 年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0138 2017 年度以降入学者
授業コード：P0138 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web 抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営 1 ～2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーの知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを広く習得することを目標とします。

到達目標 事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得

を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0140 2017年度以降入学者
授業コード：P0140 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーの知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを広く習得することを目標とします。

到達目標 事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

名児耶　厚

授業コード：Q0142 2017年度以降入学者
授業コード：P0142 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーの知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを広く習得することを目標とします。

到達目標 事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

成績評価の方法と基準 配分：課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）
授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

星　善光

授業コード：Q0144 2017年度以降入学者
授業コード：P0144 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

到達目標 一般的な表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelを使うことができる。HTML、PHP、HTML5を用いたWebページを作成することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20%）、課題点（80%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

PRI200LA
情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者
PRI100LA
情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

星　善光

授業コード：Q0146 2017年度以降入学者
授業コード：P0146 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（Web抽選にエントリーすること）履修可能年次：法文営1～2年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

到達目標 一般的な表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelを使うことができる。HTML、PHP、HTML5を用いたWebページを作成することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20%）、課題点（80%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目

1 群（人文科学分野）

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

LIT100LA

日本古典文学Ａ 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**中世文学を読み解く**

表　きよし

授業コード：Q1001 2017 年度以降入学者
授業コード：P1001 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

到達目標 『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

成績評価の方法と基準 様々な人物の描から方が理解できたか、合戦の様子を把握することができたか、『平家物語』の持つ特色が十分に理解できたかどうかを論述式の試験で問う。試験の点数（80 %）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（20 %）を総合して成績評価を行う。

LIT100LA

日本古典文学Ｂ 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**中世文学を読み解く**

表　きよし

授業コード：Q1002 2017 年度以降入学者
授業コード：P1002 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

到達目標 義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

成績評価の方法と基準 古典文学作品に描かれる義経・弁慶伝説の内容が理解できたか、こうした伝説が生まれた背景を考えることができたか、古典文学作品の面白さを人に伝えられるかを論述式の試験で問う。試験の点数（80 %）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（20 %）を総合して成績評価を行う。

LIT100LA

日本古典文学Ａ 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**かぐや姫の「実像」**

園　明美

授業コード：Q1003 2017 年度以降入学者
授業コード：P1005 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。
この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多いであろう。また、２０１３年末にはアニメ映画化されて話題になった。
しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。
実は、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫とはかけ離れた、驚くべき言動をするかぐや姫の姿や、他の登場人物たちの滑稽な言動、あるいはいわゆる「おやじギャグ」のような表現が随所に見られるのである。
本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

到達目標 『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。
なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行い、答案内容によって評価する。（９０％）
ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。
平常点は最終評価の参考とする。（１０％）ただし、特別な理由もなく出席率が 60 %以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

LIT100LA

日本古典文学Ｂ 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**平安貴族の「優雅な（?）」生活**

園　明美

授業コード：Q1004 2017 年度以降入学者
授業コード：P1006 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「平安時代のイメージは？」と聞かれたら、多くの人が「優雅」と答えるのではないだろうか。
確かに、日常的に華やかな衣装を身に纏い、和歌を詠み合う優雅な姿も、平安貴族の一面であろう。しかし、平安時代の文学作品にも、人を妬んだり陥れたり、笑い者にしたり、口汚く罵ったり・・・という、生々しい人間の姿が描かれているものもある。
本授業では、そんな「優雅な」平安時代の文学作品の表現を通して、「優雅」の一言では収まりきれない平安時代の一面を浮き彫りにしてみたい。

到達目標 平安時代の物語や随筆・日記等の文学作品の中から興味深いエピソードを含む記事を抜粋・紹介し、当時の貴族たちの「生の姿」を探ってゆく。
なお、授業は講義形式で進める。また、受験勉強の古文ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行い、答案内容によって評

価する。（９０％）
ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。
平常点は最終評価の参考とする。（１０％）ただし、特別な理由もなく出席率が 60 %以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

LIT100LA
日本古典文学Ａ 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**伊勢物語を読む**

成島　知子

授業コード：Q1005 2017 年度以降入学者
授業コード：P1007 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察するとともにも 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

到達目標 和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきらない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受し、現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト (持ち込み可) を行う。このテストが評価のほぼ 100%。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

LIT100LA
日本古典文学Ｂ 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**伊勢物語をその享受から派生した作品とともに読む**

成島　知子

授業コード：Q1006 2017 年度以降入学者
授業コード：P1008 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化していくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

到達目標 古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

成績評価の方法と基準 学期末のレポート。テーマは伊勢物語、そのものについて、もしくはその享受について 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

LIT100LA
日本古典文学Ａ 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**伊勢物語を読む**

成島　知子

授業コード：Q1007 2017 年度以降入学者
授業コード：P1009 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察するとともにも 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

到達目標 和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきらない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受し、現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト (持ち込み可) を行う。このテストが評価のほぼ 100%。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

LIT100LA
日本古典文学Ｂ 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**伊勢物語をその享受から派生した作品とともに読む**

成島　知子

授業コード：Q1008 2017 年度以降入学者
授業コード：P1010 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化していくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

到達目標 古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

成績評価の方法と基準 学期末のレポート。テーマは伊勢物語、そのものについて、もしくはその享受について 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

LIT100LA

日本近・現代文学A　2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**日本近・現代文学の問題作を読む**

川鍋　義一

授業コード：Q1009　2017年度以降入学者
授業コード：P1011　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき３回程度の授業で進行します。

到達目標　教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準　持ち込み不可の期末試験（筆記）８０％、平常点２０％で評価します。

LIT100LA

日本近・現代文学A　2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**日本近・現代文学の問題作を読む**

川鍋　義一

授業コード：Q1011　2017年度以降入学者
授業コード：P1013　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき３回程度の授業で進行します。

到達目標　教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準　持ち込み不可の期末試験（筆記）８０％、平常点２０％で評価します。

LIT100LA

日本近・現代文学B　2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**日本近・現代文学の問題作を読む**

川鍋　義一

授業コード：Q1010　2017年度以降入学者
授業コード：P1012　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき３回程度の授業で進行します。

到達目標　教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準　持ち込み不可の期末試験（筆記）８０％、平常点２０％で評価します。

LIT100LA

日本近・現代文学B　2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**日本近・現代文学の問題作を読む**

川鍋　義一

授業コード：Q1012　2017年度以降入学者
授業コード：P1014　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき３回程度の授業で進行します。

到達目標　教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準　持ち込み不可の期末試験（筆記）８０％、平常点２０％で評価します。

LIT100LA

日本文学A 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

島田　雅彦

授業コード：Q1013 2017年度以降入学者
授業コード：P1015 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君が主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こすことを手伝う。受験までの「現代国語」を越え、多様な作品解釈に向けて、知性を解放することを目指す。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標 日本近代文学必読のテクストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準 筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は筆記試験80％、平常点20％とする。

LIT100LA

日本文学B 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

島田　雅彦

授業コード：Q1014 2017年度以降入学者
授業コード：P1016 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。漠然と、あるいは確固たる意思を持って、文章を書きたいと考える人、また人文系教養に飢えている人々の履修、聴講を歓迎する。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標 世界文学必読のテクストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準 筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験80％、平常点20％とする。

LIT100LA

日本文学A 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**〈コトバ〉と文学**

授業コード：Q1015 2017年度以降入学者
授業コード：P1017 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学テクストは人の手によって編まれた〈コトバ〉の集積体である。日本語という〈コトバ〉を用いて何が語られているのか、さらになぜその〈コトバ〉が用いられているのか、私たちが当たり前のこととして見過ごしているところに実は大きな意味が隠されていることもある。話者の態度や社会通念などさまざまなものが〈コトバ〉の意味を操作し、構築し、連関を紡いでるのだ。本講義ではこうした問題意識をもとに、日本近代文学の分析を通じて〈コトバ〉というものの働きを学んでいく。

到達目標 本講義では明治以後の日本近代文学のテクストを用いて、社会と人間と文学の関わりを問うことを目的としている。講義を通じて文学テクストが娯楽であると同時に高度な学問的対象でもあることを考えていく。これによって多角的に物ごとをとらえ、思考する力を養う。

成績評価の方法と基準 ・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（出席等）：30％
・授業内試験：70％
以上を考慮し、総合的に判断する。

LIT100LA

日本文学B 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**日本近代文学**

授業コード：Q1016 2017年度以降入学者
授業コード：P1018 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学問は人文科学分野と自然科学分野とに大別され、それぞれで極めて精緻な研究が行われてきた。日本近代文学も「〈日本〉の〈近代〉の文学」という枠組みがあり、そのなかでさらに細分化されて研究が進められている。しかし、現在、狭い枠組みにとらわれず、いくつもの他領域を横断することによって新しい知見が生み出されるようになっている。そこで本講義では文学テクストを通じて様々な問題系へと認識を拡げることを目的とする。

到達目標 本講義を通じて、具体的なテクストを精読することで多様な問題を考える柔軟な思考を養っていきたい。文学テクストが「文学愛好者」のためだけのものではなく、限りなく広く開かれたものであることを学んで欲しい。

成績評価の方法と基準 ・授業中に貸すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（平常点）：30％
・授業内試験70％
以上を考慮し、総合的に判断する。

LIT100LA

外国文学A 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**ヨーロッパ文学と旅**

D．ハイデンライヒ

授業コード：Q1017 2017年度以降入学者
授業コード：P1019 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、モンテーニュ『エセー』、アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。
春学期の授業では様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エセー、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考えます。

到達目標 ◦ 文学の題材と形式の関係を知ること。
◦ 「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
◦ 異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）：60%
学期末試験：40%
受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

LIT100LA

外国文学A 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

近江屋　志穂

授業コード：Q1019 2017年度以降入学者
授業コード：P1021 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。
フランスのバカロレアの国語筆記／口述試験をテーマとし、関連する文学作品を読んでいきます。一年間で筆記試験の4種類の課題、および口述試験の内容と解き方を理解するとともに、そこで取り上げられる作家／作品について学びます。春学期は「テクスト解釈」およびエミール・ゾラを中心に扱います。

到達目標 ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ
・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する
・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 平常点、期末試験

LIT100LA

外国文学B 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**ヨーロッパ文学と「変身」**

D．ハイデンライヒ

授業コード：Q1018 2017年度以降入学者
授業コード：P1020 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とスティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。この授業はヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

到達目標 ◦ 今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
◦ 「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
◦ 異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）：60%
学期末試験：40%
受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

LIT100LA

外国文学B 2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

近江屋　志穂

授業コード：Q1020 2017年度以降入学者
授業コード：P1022 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。
フランスのバカロレアの国語筆記／口述試験をテーマとし、関連する文学作品を読んでいきます。一年間で筆記試験の4種類の課題および口述試験の内容と解き方を理解するとともに、そこで取り上げられる作家／作品について学びます。秋学期は「総括」「小論文」「創作作文」およびモーパッサン、バルザック、ヴィクトル・ユゴーを中心に扱います。

到達目標 ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ
・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する
・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 平常点、期末試験

LIT100LA
外国文学A 2017年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**中国古典に親しむ**

吉井　涼子

授業コード：Q1021 2017年度以降入学者
授業コード：P1023 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代のものから中国文学の粋とも言われる唐詩までを主な対象とし、詩人のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

到達目標 これから先中国古典詩に興味を持った際に、使うべき字書や辞書がわかるようになる。漢詩を鑑賞するために必要な知識とスキルを習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、実はコツを掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を３０％、期末試験の点数を７０％として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA
外国文学B 2017年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**中国古典に親しむ**

吉井　涼子

授業コード：Q1022 2017年度以降入学者
授業コード：P1024 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に漢代のものから、物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、多くの話に触れ人物のエピソードを知り、その当時の時代背景や文化などと一緒に読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。

到達目標 物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識にとスキルにより、更に中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を３０％、期末試験の点数を７０％として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA
外国文学A 2017年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**日中比較**

吉井　涼子

授業コード：Q1023 2017年度以降入学者
授業コード：P1027 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日中の文学作品及び日中の交流史に関連する文献などを比較・鑑賞することで、他国の文章・文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになるための講義である。

到達目標 日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。
自国の文化への理解もより深めることができる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を３０％、期末試験の点数を７０％として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA
外国文学B 2017年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**日中比較**

吉井　涼子

授業コード：Q1024 2017年度以降入学者
授業コード：P1028 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日中の文学を比較・鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点で読めるようになる。日本と中国それぞれの古典を学ぶことで、他の文学作品を読むに際しても、より楽しめるような知識と教養を得る。

到達目標 精読を通して日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。これから先日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読解するスキルを学ぶことができる。自国の文化への理解もより深めることができる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を３０％、期末試験の点数を７０％として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA
外国文学A 2017年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**日韓文化交流と理解**

梁　禮先

授業コード：Q1025 2017年度以降入学者
授業コード：P1029 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国のより理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や将来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的参加も歓迎します。

到達目標 日韓の文化や習慣・歴史の差などを比較しながら総合理解していくことを目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点・レポートなど50%、期末レポート50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします)
合計100%

LIT100LA

外国文学Ｂ 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**日韓文化交流と理解**

梁　禮先

授業コード：Q1026 2017 年度以降入学者
授業コード：P1030 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。現在の日韓の若者のトレンドも多く取り上げていきます。

到達目標 常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくることが授業の目指す目標です。

成績評価の方法と基準 平常点・レポートなど 50%、期末レポート 50%
(積極的授業内の意見なども参考にします)
合計 100%

BSP100LA

文章論 2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**簡潔な文章を書く**

浅沼　博

授業コード：Q1061 2017 年度以降入学者
授業コード：P1227 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡潔な文章は、簡潔な文によって構成されている。ここでは実用文という観点から、「わかりやすく書くこと」を学ぶ。

到達目標 平易な短文によって段落をつくる。さらに段落をうまく連結させることで、わかりやすい実用文を構成することができる。文章とは「わかりやすく書くもの」という認識を深める。

成績評価の方法と基準 各単元にそって進めていくため平常授業の演習を重視する。したがって平常点を６０%、期末レポートを４０%とする。演習やレポートについては、テキストにそった「わかりやすさ」を評価基準とする。

BSP100LA

文章論 2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

西元　康雅

授業コード：Q1062 2017 年度以降入学者
授業コード：P1228 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きを修得する。とりわけ本授業では、映像やインタビューを基に書き言葉（エッセーや小論文）に置き換える。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末課題 40 点

BSP100LA

文章論 2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**留学生を主な対象とするクラス**

川鍋　義一

授業コード：Q1063 2017 年度以降入学者
授業コード：P1229 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

留学生対象クラス

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
（留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。）

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）５０%、提出物の点数・漢字テストの点数５０%で評価します。
１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA

文章論 2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**留学生を主な対象とするクラス**

川鍋　義一

授業コード：Q1064 2017 年度以降入学者
授業コード：P1230 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

留学生対象クラス

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
（留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。）

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）５０%、提出物の点数・漢字テストの点数５０%で評価します。

１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA
文章論 2017 年度以降入学者
BSP100LA
文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**通常クラス**

川鍋　義一

授業コード：Q1065 2017 年度以降入学者
授業コード：P1221 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法・環・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）５０％、提出物の点数・漢字テストの点数５０％で評価します。
１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA
文章論 2017 年度以降入学者
BSP100LA
文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**通常クラス**

川鍋　義一

授業コード：Q1066 2017 年度以降入学者
授業コード：P1222 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法・環・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）５０％、提出物の点数・漢字テストの点数５０％で評価します。
１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA
文章論 2017 年度以降入学者
BSP100LA
文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**通常クラス**

川鍋　義一

授業コード：Q1067 2017 年度以降入学者
授業コード：P1223 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文・営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）５０％、提出物の点数・漢字テストの点数５０％で評価します。
１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA
文章論 2017 年度以降入学者
BSP100LA
文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**通常クラス**

川鍋　義一

授業コード：Q1068 2017 年度以降入学者
授業コード：P1224 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文・営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（５回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）５０％、提出物の点数・漢字テストの点数５０％で評価します。
１回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA

文章論 2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

西元　康雅

授業コード：Q1069 2017 年度以降入学者
授業コード：P1225 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きの基礎を身につける。とりわけ本授業では実践的な「書く力」を修得する。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末レポート 40 点

BSP100LA

文章論 2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

西元　康雅

授業コード：Q1070 2017 年度以降入学者
授業コード：P1226 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きを修得する。とりわけ本授業では、映像やインタビューを基に書き言葉（エッセーや小論文）に置き換える。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末課題 40 点

LNG100LA

言語学A 2017 年度以降入学者

LNG100LA

言語学Ⅰ 2016 年度以前入学者

板井　美佐

授業コード：Q1081 2017 年度以降入学者
授業コード：P1203 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞法・国 1-4 年生、文・営 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA

言語学B 2017 年度以降入学者

LNG100LA

言語学Ⅱ 2016 年度以前入学者

板井　美佐

授業コード：Q1082 2017 年度以降入学者
授業コード：P1204 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞法・国 1-4 年生、文・営 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前半は日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。後半は異文化理解という視点から、言語と文化、社会、心理、教育の関係を理解する。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA

言語学A 2017 年度以降入学者

LNG100LA

言語学Ⅰ 2016 年度以前入学者

板井　美佐

授業コード：Q1083 2017 年度以降入学者
授業コード：P1205 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞文 1 年生、法・営・国 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA

言語学B 2017 年度以降入学者

LNG100LA

言語学Ⅱ 2016 年度以前入学者

江村　裕文

授業コード：Q1084 2017 年度以降入学者
授業コード：P1206 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞文 1 年生、法・営・国 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。
次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。
最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられる

かを考えます。

到達目標 1　「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
2　「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
3　「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
4　結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

成績評価の方法と基準 試験の得点１００点満点で評価します。

LNG100LA
言語学Ａ 2017 年度以降入学者
LNG100LA
言語学Ⅰ 2016 年度以前入学者

板井　美佐

授業コード：Q1085 2017 年度以降入学者
授業コード：P1207 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞営 1 年生、法・文・国 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA
言語学Ｂ 2017 年度以降入学者
LNG100LA
言語学Ⅱ 2016 年度以前入学者

板井　美佐

授業コード：Q1086 2017 年度以降入学者
授業コード：P1208 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞営 1 年生、法・文・国 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前半は日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。後半は異文化理解という視点から、言語と文化、社会、心理、教育の関係を理解する。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

PHL100LA
哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

滝口　清栄

授業コード：Q1091 2017 年度以降入学者
授業コード：P1051 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。本講義では、このテーマを踏まえながら、環境と共生という現代的視点から、哲学的テーマをとりあげます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
本講義では、環境と共生をめぐる哲学史的アプローチ、そして現代の理論的問題を明らかにすることを通して、これからの世界を生きる人間と社会のあり方を考える手がかりが得られることをめざします。

成績評価の方法と基準 セメスター末のレポートないし試験を基準として、平常点も参考とします。

PHL100LA
哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

滝口　清栄

授業コード：Q1092 2017 年度以降入学者
授業コード：P1052 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
本講義では、近代ドイツの哲学者ヘーゲルを通して、このような問題にアプローチします。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
本講義では、ヘーゲル哲学をメインにすえて、認識、存在、人間、社会などの根本にある問題を扱います。これらを通して、常識をつねに問い返す哲学的思考に触れることができるでしょう。こうして得られた思考様式が、現代の問題を考える大切なツールになることをめざします。

成績評価の方法と基準 セメスター末のレポートないし試験を基準として、平常点も参考とします。

PHL100LA

哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1093 2017 年度以降入学者
授業コード：P1053 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年Ⅰ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・イデア説の哲学史上の意味と問題点
・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（８０％）と平常点（２０％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA

哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1095 2017 年度以降入学者
授業コード：P1055 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・イデア説の哲学史上の意味と問題点
・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（８０％）と平常点（２０％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA

哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1094 2017 年度以降入学者
授業コード：P1054 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年Ⅰ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。また、比較思想的考察により、原理・真理等に関する東西両哲学思想の考え方の違いについても触れる予定です。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・「神」・「真理」・「ニヒリズム対応法」等についての東西両哲学思想それぞれの特徴と差異。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（８０％）と平常点（２０％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA

哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1096 2017 年度以降入学者
授業コード：P1056 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。また、比較思想的考察により、原理・真理等に関する東西両哲学思想の考え方の違いについても触れる予定です。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・「神」・「真理」・「ニヒリズム対応法」等についての東西両哲学思想それぞれの特徴と差異。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（８０％）と平常点（２０％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA
哲学Ⅰ 2017年度以降入学者

PHL100LA
哲学Ⅰ 2016年度以前入学者

山口　誠一

授業コード：Q1097 2017年度以降入学者
授業コード：P1057 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文1年A～I組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の授業内試験(70%)を基準として、平常評価(30%)も参考とします。

PHL100LA
哲学Ⅱ 2017年度以降入学者

PHL100LA
哲学Ⅱ 2016年度以前入学者

山口　誠一

授業コード：Q1098 2017年度以降入学者
授業コード：P1058 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文1年A～I組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、現代哲学の基本問題を、哲学的映像とスクリーン投射テキストでできるだけ平明に解説します。

到達目標 今期は、学生が常識批判の方法としての懐疑を、ヘーゲル哲学の学習を通して深めることができます。

成績評価の方法と基準 セメスター末の授業内試験を基準(70%)として、平常評価(30%)も参考とします。

PHL100LA
哲学Ⅰ 2017年度以降入学者

PHL100LA
哲学Ⅰ 2016年度以前入学者

伊藤　功

授業コード：Q1099 2017年度以降入学者
授業コード：P1059 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文1年P～X組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験70％、平常点30％です。

PHL100LA
哲学Ⅱ 2017年度以降入学者

PHL100LA
哲学Ⅱ 2016年度以前入学者

伊藤　功

授業コード：Q1100 2017年度以降入学者
授業コード：P1060 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文1年P～X組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験70％、平常点30％です。

PHL100LA
哲学Ⅰ 2017年度以降入学者

PHL100LA
哲学Ⅰ 2016年度以前入学者

谷口　力

授業コード：Q1101 2017年度以降入学者
授業コード：P1061 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営1年A～H組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「世界」、および、「世界」に関する論理的な問題（存在論や認識論）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
・古代ギリシャ哲学における世界の原理について理解する。
・大陸合理論における世界の構造について理解する。
・イギリス経験論にける世界の認識について理解する。
・近代ドイツ哲学における世界の説明について理解する。
・19～20世紀哲学における世界の解釈について理解する。
・現代分析哲学における世界の分析について理解する。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、平常点50%、期末試験50%で評価します。

PHL100LA

哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

谷口　力

授業コード：Q1102 2017 年度以降入学者
授業コード：P1062 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「心」、および、「心」に関する倫理的な問題（価値や生き方）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
・古代ギリシャ哲学における心の原理について理解する。
・大陸合理論における心の構造について理解する。
・イギリス経験論にける心の認識について理解する。
・近代ドイツ哲学における心の説明について理解する。
・19～20 世紀哲学における心の解釈について理解する。
・現代分析哲学における心の分析について理解する。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

PHL100LA

哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

大西　正人

授業コード：Q1103 2017 年度以降入学者
授業コード：P1063 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 J ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL100LA

哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

大西　正人

授業コード：Q1104 2017 年度以降入学者
授業コード：P1064 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 J ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものと見る自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子をみます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL100LA

哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

近堂　秀

授業コード：Q1105 2017 年度以降入学者
授業コード：P1065 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：国際文化学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

到達目標 哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

成績評価の方法と基準 授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

PHL100LA

哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

近堂　秀

授業コード：Q1106 2017 年度以降入学者
授業コード：P1066 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：国際文化学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。カントの世界市民主義の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

PHL100LA
哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

越部　良一

授業コード：Q1107 2017 年度以降入学者
授業コード：P1067 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 L ～ N 組、人間環境学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義は哲学の歴史上の基本的性格と基本問題を概観する。この概観によって、哲学的な教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広く新しい視野から考え、探求すること目的とする。特にこの講義では、主として近現代の西洋及び日本の哲学思想家の基本問題を学んでゆく。

到達目標 哲学の基本的性格と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解し説明できること。特に、人間存在（自己）の哲学的なあり方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できること。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（６０％くらい）と平常点（４０％くらい）の２つにより総合的に評価する予定である。

PHL100LA
哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

越部　良一

授業コード：Q1108 2017 年度以降入学者
授業コード：P1068 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文 1 年 L ～ N 組、人間環境学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながら解明してゆく。哲学が存在意識を変革して、自己と世界の新しい見方、気づきを得てゆくものであることを踏まえて、主として近現代の西洋及び日本の哲学思想家の思考を見てゆく。

到達目標 主要な哲学思想家の根本問題を学習することを通して、存在意識の変革としての哲学を理解し、説明できること。特に、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な問題、状況をも意識しつつ、理解し、説明できること。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（６０％くらい）と平常点（４０％くらい）の２つにより総合的に評価する予定である。

PHL100LA
哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

白根　裕里枝

授業コード：Q1109 2017 年度以降入学者
授業コード：P1069 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：キャリアデザイン学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学というと難しいという印象があるかもしれないが，何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

到達目標 学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。試験は、手書きのノートの持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

PHL100LA
哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

白根　裕里枝

授業コード：Q1110 2017 年度以降入学者
授業コード：P1070 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：キャリアデザイン学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学 Ⅱ では、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。

宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴しい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

到達目標 西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というもの

について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」ことと「知る」ことの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知るということがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

PHL100LA
倫理学Ⅰ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

越部　良一

授業コード：Q1121 2017 年度以降入学者
授業コード：P1101 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理学上の根本思考を取り上げて、各学生がそれぞれの立場で倫理学的な問題を考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを倫理的なさまざまな観点に基づいて考察できることを目的とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋の代表的な倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し、説明できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（６０％くらい）と平常点（４０％くらい）の２つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA
倫理学Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

越部　良一

授業コード：Q1122 2017 年度以降入学者
授業コード：P1102 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、実践的に応用していくための倫理学である。この授業は、特にその中から生命倫理学と環境倫理学を主に取り上げて、多様な価値観が交錯する中で生ずる倫理学的な問題を見ながら、そうした価値観の相違の中で、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的状況を考慮しながら考察し、理解することを目的とする。特に、この授業は「生命倫理学」及び「環境倫理学」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用し、もしくは新しくしてゆくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（６０％くらい）と平常点（４０％くらい）の２つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA
倫理学Ⅰ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

佐藤　英明

授業コード：Q1123 2017 年度以降入学者
授業コード：P1103 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 I ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう（試験 60%・小テスト 40%）。

PHL100LA
倫理学Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

佐藤　英明

授業コード：Q1124 2017 年度以降入学者
授業コード：P1104 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 I ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう（試験 60%・小テスト 40%）。

PHL100LA
倫理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PHL100LA
倫理学Ⅰ 2016年度以前入学者

伊藤　直樹

授業コード：Q1125 2017年度以降入学者
授業コード：P1105 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営１年Ａ～Ｊ組・法１年Ｙ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 学期末にテストを行なう。
成績評価の基準は次のようにする。
授業への貢献度３０％；小テスト２０％；テスト５０％

PHL100LA
倫理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PHL100LA
倫理学Ⅱ 2016年度以前入学者

伊藤　直樹

授業コード：Q1126 2017年度以降入学者
授業コード：P1106 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営１年Ａ～Ｊ組・法１年Ｙ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末にテストを行なう。
成績評価の基準は次のようにする。
授業への貢献度３０％；小テスト２０％；テスト５０％

PHL100LA
倫理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PHL100LA
倫理学Ⅰ 2016年度以前入学者

田島　樹里奈

授業コード：Q1127 2017年度以降入学者
授業コード：P1107 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文１年Ａ～Ｎ組・環１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で学問的な知識を得て、試験に合格することで完結するものではない。倫理学の知は、個々人が主体的に考え、私たちが生きる日常生活の様々な場面で思考し、活用することによってこそ自分自身の糧となる。そのため、この授業では身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるようにしたい。単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることも視野に入れている。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、社会の中で一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。そのさいに、現実社会や日常生活で起きている様々な出来事が、いかに倫理的問題と密接に結びついているかを自らの頭で考えながら取り組むことで、実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

PHL100LA
倫理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PHL100LA
倫理学Ⅱ 2016年度以前入学者

田島　樹里奈

授業コード：Q1128 2017年度以降入学者
授業コード：P1108 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文１年Ａ～Ｎ組・環１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題を取り上げながら、異なる文化で生きる他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるようにしたい。単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることも視野に入れている。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。そのさいに、現実社会や日常生活で起きている様々な出来事が、いかに倫理的問題と密接に結びついているかを自らの頭で考えながら取り組むことで、実践的な知を獲得することを目指す。特にこの授業は、いわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえる。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

PHL100LA

倫理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅰ 2016年度以前入学者

杉本　隆久

授業コード：Q1129 2017年度以降入学者
授業コード：P1109 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文1年P～X組・キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点20%、小論文20%、期末試験60%。授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識について的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

PHL100LA

倫理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ 2016年度以前入学者

杉本　隆久

授業コード：Q1130 2017年度以降入学者
授業コード：P1110 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文1年P～X組・キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 平常点20%、小論文20%、期末試験60%。授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識について的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

PHL100LA

倫理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅰ 2016年度以前入学者

森村　修

授業コード：Q1131 2017年度以降入学者
授業コード：P1111 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法1年S～W組・国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 ・定期試験（80％）に加え、小テスト（20％）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

PHL100LA

倫理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ 2016年度以前入学者

森村　修

授業コード：Q1132 2017年度以降入学者
授業コード：P1112 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法1年S～W組・国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 定期試験（80％）に加え、小テスト（20％）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

PHL100LA

倫理学Ⅰ　2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅰ　2016年度以前入学者

越部　良一

授業コード：Q1133　2017年度以降入学者
授業コード：P1113　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営１年Ｋ～Ｕ組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理学上の根本思考を取り上げて、各学生がそれぞれの立場で倫理学的な問題を考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを倫理的なさまざまな観点に基づいて考察できることを目的とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋の代表的な倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し、説明できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（６０％くらい）と平常点（４０％くらい）の２つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA

倫理学Ⅱ　2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ　2016年度以前入学者

越部　良一

授業コード：Q1134　2017年度以降入学者
授業コード：P1114　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営１年Ｋ～Ｕ組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、実践的に応用していくための倫理学である。この授業は、特にその中から生命倫理学と環境倫理学を主に取り上げて、多様な価値観が交錯する中で生ずる倫理学的な問題を見ながら、そうした価値観の相違の中で、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的状況を考慮しながら考察し、理解することを目的とする。特に、この授業は「生命倫理学」及び「環境倫理学」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用し、もしくは新しくしてゆくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（６０％くらい）と平常点（４０％くらい）の２つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA

論理学Ⅰ　2017年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅰ　2016年度以前入学者

大西　正人

授業コード：Q1141　2017年度以降入学者
授業コード：P1081　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法１年Ａ～Ｎ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。

到達目標 本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

成績評価の方法と基準 授業中に解いた問題を中心とした期末テストを行う。

PHL100LA

論理学Ⅱ　2017年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ　2016年度以前入学者

大西　正人

授業コード：Q1142　2017年度以降入学者
授業コード：P1082　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法１年Ａ～Ｎ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。

到達目標 本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

成績評価の方法と基準 授業中に解いた問題を中心とした期末テストを行う。

PHL100LA

論理学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

白根　裕里枝

授業コード：Q1143 2017 年度以降入学者
授業コード：P1083 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。

到達目標 概念、命題、推理について、その基礎を学びます。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。レポートなどを書く上でも言葉や論理に気をつけるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。

PHL100LA

論理学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

白根　裕里枝

授業コード：Q1144 2017 年度以降入学者
授業コード：P1084 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆきます。

到達目標 実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか・・・。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートを書く際にも役立つ。帰納法や誤謬論など、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。

PHL100LA

論理学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1145 2017 年度以降入学者
授業コード：P1085 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年 A～X 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。
論理学Ⅰでは、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：
1．伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（８０％）、平常点（２０％）に基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

PHL100LA

論理学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1146 2017 年度以降入学者
授業コード：P1086 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 A～X 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：
1．現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
2．命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
3．自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積

極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準　２回の小テスト（筆記試験）の成績（８０％）と平常点（２０％）に基づき評価。
２回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

PHL100LA
論理学Ⅰ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
論理学Ⅰ　2016 年度以前入学者

鵜澤　和彦

授業コード：Q1147　2017 年度以降入学者
授業コード：P1087　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

到達目標　①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

成績評価の方法と基準　①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 %の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。
A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A ：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。
B ：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。
C ：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。
D ：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

PHL100LA
論理学Ⅱ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
論理学Ⅱ　2016 年度以前入学者

鵜澤　和彦

授業コード：Q1148　2017 年度以降入学者
授業コード：P1088　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 II の授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

到達目標　①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
②真理表や帰謬法を用いて推論の妥当性を判定することができる。
③命題内部の論理構造を的確に把握することができる。
④仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

成績評価の方法と基準　①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 %の割合で総合評価します。
課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。
A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A ：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。
B ：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。
C ：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。
D ：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

PHL100LA
論理学Ⅰ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
論理学Ⅰ　2016 年度以前入学者

大貫　義久

授業コード：Q1149　2017 年度以降入学者
授業コード：P1089　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、そのは推理は誤っています。この講義は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなるこ

となのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んでゆきます。

到達目標　説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

成績評価の方法と基準　授業の取り組み（20 %）と学期末試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

PHL100LA
論理学Ⅱ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
論理学Ⅱ　2016 年度以前入学者

大貫　義久

授業コード：Q1150　2017 年度以降入学者
授業コード：P1090　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 K〜U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　この講義は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明してゆきます。例えば、いま私が「毎回出席したら単位は取れます」と言ったとします。この言い方は一見して正しいもののように思われますが、しかしこの言い方自体に曖昧さが含まれているのです。つまり「毎回出席しなくても単位が取れる」可能性を実は含んでしまっているのです。それでは、この言い方をどのように言い換えれば、正しい表現になるのでしょうか。そういった言語表現の正しい仕方を、この授業では学び、実際に身につくようにしてゆきます。本格的な推理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

到達目標　説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

成績評価の方法と基準　授業への取り組み（20 %）と学期末の授業内試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

PHL100LA
論理学Ⅰ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
論理学Ⅰ　2016 年度以前入学者

滝口　清栄

授業コード：Q1151　2017 年度以降入学者
授業コード：P1091　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　伝統的論理学が扱う内容を、概念に始まり、命題、命題間の関係、そして命題の変形、虚偽論というかたちで検討していきます。日本では、論理的思考力をメインにあつかう科目は、ようやく大学でとりあげられます。この機会を利用して、しっかりした論理的思考の訓練をしてください。

到達目標　人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていません。しかし、文法をよく知るようになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。
論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。
本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

成績評価の方法と基準　各学期のなかで、2 回の小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します（第一回小テスト、第二回小テスト、計９０点）、授業への参加度　１０点。

PHL100LA
論理学Ⅱ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
論理学Ⅱ　2016 年度以前入学者

滝口　清栄

授業コード：Q1152　2017 年度以降入学者
授業コード：P1092　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　伝統的論理学の、三段論法、両刀論法（ジレンマ）、科学的発見の論理としての帰納法、そして現代の記号論理学として命題論理学の初歩を扱う。

到達目標　人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていません。しかし、文法をよく知るようになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。
論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。
本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

成績評価の方法と基準　各学期のなかで、２回の小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します。第一回小テスト、第二回小テストの計９０点、授業への参加度１０点とします。

PHL100LA
論理学Ⅰ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
論理学Ⅰ　2016 年度以前入学者

菅沢　龍文

授業コード：Q1153　2017 年度以降入学者
授業コード：P1093　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　【主題】西洋の伝統的論理学の基礎
―「思考の３原則」から「ジレンマ」まで ―

到達目標　《知識》正しい推理のための基礎的な知識を得る。
《態度》論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につける。
《技能》論理的に正しく推理する能力をつける。
（１）図形で即座に論理的に正しい判断や推理ができる。
（２）論理的に筋道の通った考え方ができる。
（３）論理的に相手を理解し、相手を説得できる。

成績評価の方法と基準　（１）平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）
（２）全体についての春学期試験の点数
（１）を 70 %、（２）を 30 %の割合で総合評価する。

PHL100LA

論理学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

菅沢　龍文

授業コード：Q1154 2017 年度以降入学者
授業コード：P1094 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） ［テーマ］科学の論理、文の論理。
［到達目標］科学的な知識について考え、現代論理学の基礎を習得する。

到達目標 《知識》現代論理学の初歩的な知識を得る。
《態度》科学的な考え方を身につける。
《技能》論理的な推理力をつける。

成績評価の方法と基準 （1）平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）、（2）全体についての秋学期試験の点数、これら（1）を 70 %（2）を 30 %の割合で総合して評価する。

PHL100LA

論理学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1155 2017 年度以降入学者
授業コード：P1095 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。
論理学Ⅰでは、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：
1．伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（８０%）、平常点（２０%）に基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

PHL100LA

論理学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

計良　隆世

授業コード：Q1156 2017 年度以降入学者
授業コード：P1096 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：
1．現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
2．命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
3．自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 ２回の小テスト（筆記試験）の成績（８０%）と平常点（２０%）に基づき評価。
２回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

HIS100LA

東洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

齋藤　勝

授業コード：Q1161 2017 年度以降入学者
授業コード：P1131 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年A～N組・国 1 年・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2017 年度以降入学者

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

齋藤　勝

授業コード：Q1162 2017 年度以降入学者
授業コード：P1132 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年A～N組・国 1 年・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA
東洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者

HIS100LA
東洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

齋藤　勝

授業コード：Q1163 2017 年度以降入学者
授業コード：P1133 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年S～Y組、文 1 年A～N組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2017 年度以降入学者

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

齋藤　勝

授業コード：Q1164 2017 年度以降入学者
授業コード：P1134 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年S～Y組、文 1 年A～N組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA
東洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者

HIS100LA
東洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

芦沢　知絵

授業コード：Q1165 2017 年度以降入学者
授業コード：P1135 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

到達目標 前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験　100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2017 年度以降入学者

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

芦沢　知絵

授業コード：Q1166 2017 年度以降入学者
授業コード：P1136 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

到達目標 近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史を

もとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験　100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA
東洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
東洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

齋藤　勝

授業コード：Q1167 2017 年度以降入学者
授業コード：P1137 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
東洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

齋藤　勝

授業コード：Q1168 2017 年度以降入学者
授業コード：P1138 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA
東洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
東洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

芦沢　知絵

授業コード：Q1169 2017 年度以降入学者
授業コード：P1139 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

到達目標 前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験　100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA
東洋史Ⅱ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
東洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

芦沢　知絵

授業コード：Q1170 2017 年度以降入学者
授業コード：P1140 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

到達目標 近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験　100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1181 2017 年度以降入学者
授業コード：P1151 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1182 2017 年度以降入学者
授業コード：P1152 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー；古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1183 2017 年度以降入学者
授業コード：P1153 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年 A ～ N・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1184 2017 年度以降入学者
授業コード：P1154 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 A ～ N・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー；古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1185 2017 年度以降入学者
授業コード：P1155 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 A ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2017年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2016年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1186 2017年度以降入学者
授業コード：P1156 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法1年A～Y組・環1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2017年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2016年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1187 2017年度以降入学者
授業コード：P1157 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営1年A～U組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の2大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2017年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2016年度以前入学者

中村　純

授業コード：Q1188 2017年度以降入学者
授業コード：P1158 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営1年A～U組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA

日本史Ⅰ 2017年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅰ 2016年度以前入学者

永田　一

授業コード：Q1201 2017年度以降入学者
授業コード：P1171 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法1年S～Y組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、期末試験（80％）により評価する。

HIS100LA

日本史Ⅱ 2017年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ 2016年度以前入学者

根崎　光男

授業コード：Q1202 2017年度以降入学者
授業コード：P1172 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法1年S～Y組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要

史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標　暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準　期末試験（論述問題）によって行います（90 %予定）。
平常点を考慮することもあります（10 %予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA
日本史Ⅰ　2017 年度以降入学者

HIS100LA
日本史Ⅰ　2016 年度以前入学者

小口　雅史

授業コード：Q1203　2017 年度以降入学者
授業コード：P1173　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 A〜J 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標　暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準　期末試験（論述問題）によって行います（90%予定）。平常点を考慮することもあります（10%予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA
日本史Ⅱ　2017 年度以降入学者

HIS100LA
日本史Ⅱ　2016 年度以前入学者

小口　雅史

授業コード：Q1204　2017 年度以降入学者
授業コード：P1174　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 A〜J 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標　暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準　期末試験（論述問題）によって行います（90 %予定）。
平常点を考慮することもあります（10 %予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA
日本史Ⅰ　2017 年度以降入学者

HIS100LA
日本史Ⅰ　2016 年度以前入学者

小口　雅史

授業コード：Q1205　2017 年度以降入学者
授業コード：P1175　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標　暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠

史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90%予定）。平常点を考慮することもあります（10%予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA
日本史Ⅱ 2017年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅱ 2016年度以前入学者

小口　雅史

授業コード：Q1206 2017年度以降入学者
授業コード：P1176 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。
授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。
史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。
平常点を考慮することもあります（10％予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA
日本史Ⅰ 2017年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅰ 2016年度以前入学者

真辺　美佐

授業コード：Q1207 2017年度以降入学者
授業コード：P1177 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法1年A～N組・キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。
授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。
史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 宿題（50％）期末試験（50％）

HIS100LA
日本史Ⅱ 2017年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅱ 2016年度以前入学者

真辺　美佐

授業コード：Q1208 2017年度以降入学者
授業コード：P1178 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法1年A～N組・キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。
授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。
史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 宿題（50％）期末試験（50％）

HIS100LA
日本史Ⅰ 2017年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅰ 2016年度以前入学者

小口　雅史

授業コード：Q1209 2017年度以降入学者
授業コード：P1179 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年K～U組・環1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面

から検討します。
授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。
史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90%予定）。平常点を考慮することもあります（10%予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA
日本史Ⅱ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅱ 2016 年度以前入学者

小口　雅史

授業コード：Q1210 2017 年度以降入学者
授業コード：P1180 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 K〜U 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。
授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。
史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90 %予定）。
平常点を考慮することもあります（10 %予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA
日本史Ⅰ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅰ 2016 年度以前入学者

永田　一

授業コード：Q1211 2017 年度以降入学者
授業コード：P1181 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。
授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。
史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、期末試験（80 %）により評価する。

HIS100LA
日本史Ⅱ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅱ 2016 年度以前入学者

根崎　光男

授業コード：Q1212 2017 年度以降入学者
授業コード：P1182 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。
授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。
史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。
最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観

に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。
平常点を考慮することもあります（10％予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

PHL100LA
宗教論Ⅰ 2017年度以降入学者
PHL100LA
宗教論Ⅰ 2016年度以前入学者

若林　明彦

授業コード：Q1221 2017年度以降入学者
授業コード：P1211 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞営・国1年生/法文営国環キ2-4年生、＜2016年度以前入学生＞環・キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「宗教」を「人間とは何か」という人間学的地平に置くことによって、人間の本性から生み出される一つの文化現象として宗教を理解することを学ぶ。

到達目標 人類史における宗教の発生とその形態について基本的な知識を学び、その延長線上にあるユダヤ教、キリスト教、仏教、イスラームといった主要な宗教への理解を深めていく。さらに、神道の形成史を辿ることによって、日本人の宗教観の根底にあるものを学ぶ。

成績評価の方法と基準 授業内試験90%、平常点10%

PHL100LA
宗教論Ⅱ 2017年度以降入学者
PHL100LA
宗教論Ⅱ 2016年度以前入学者

若林　明彦

授業コード：Q1222 2017年度以降入学者
授業コード：P1212 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞営・国1年生/法文営国環キ2-4年生、＜2016年度以前入学生＞環・キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①既成宗教、民間信仰を問わず、私たちが「宗教」あるいは「宗教的なるもの」と見なしている様々な行為・活動、観念、制度、規範などから普遍的なものを取り上げ、その意味と構造について知る。
②人間の知性において、非合理的、非理性的と見なされがちな宗教的思考が合理的、理性的思考の典型である科学的思考とどのように関係しているかを知る。

到達目標 ①宗教現象の中から「祈り」、「神話」、「世界観・他界観」、「儀礼」、「祝祭」を取り上げその意味と構造について知る。
②近代科学がなぜ西欧においてのみ誕生したのか、そこには古代ギリシャの合理主義思想だけでなく、オリエント文明地発祥の呪術的知の体系とキリスト教の唯一神教的世界観の影響があったことを知る。

成績評価の方法と基準 試験90%、平常点90%

PHL100LA
宗教論Ⅰ 2017年度以降入学者
PHL100LA
宗教論Ⅰ 2016年度以前入学者

酒井　健

授業コード：Q1223 2017年度以降入学者
授業コード：P1213 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞文・環1年生/法文営国環キ2-4年生、＜2016年度以前入学生＞環1-4年生・キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代エジプトの多神教に始まって、キリスト教、仏教、イスラム教などの宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、宗教の本質への理解を深めていく。

到達目標 宗教の基本を客観的に学んで、「生きるとは何か」「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

成績評価の方法と基準 「生きるとは何か」「人間とは何か」という基本的な問題をどの程度考察しているかによって成績評価をくだす。毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的目安になる。

PHL100LA
宗教論Ⅱ 2017年度以降入学者
PHL100LA
宗教論Ⅱ 2016年度以前入学者

酒井　健

授業コード：Q1224 2017年度以降入学者
授業コード：P1214 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞文・環1年生/法文営国環キ2-4年生、＜2016年度以前入学生＞環1-4年生・キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

到達目標 宗教に対する基本的な見方（例えば「聖なるもの」と「俗なるもの」、「ハレ」と「ケ」）を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

成績評価の方法と基準 宗教の基本的な見方をどれだけ習得できたかに応じて成績評価を行う。
毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的目安になる。

PHL100LA
宗教論Ⅰ 2017年度以降入学者
PHL100LA
宗教論Ⅰ 2016年度以前入学者

若林　明彦

授業コード：Q1225 2017年度以降入学者
授業コード：P1215 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法・キ1年生/法文営国環キ2-4年生、＜2016年度以前入学生＞環2-4年生・キ1-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「宗教」を「人間とは何か」という人間学的地平に置くことによって、人間の本性から生み出される一つの文化現象として宗教を理解することを学ぶ。

到達目標 人類史における宗教の発生とその形態について基本的な知識を学び、その延長線上にあるユダヤ教、キリスト教、仏教、イスラーム

といった主要な宗教への理解を深めていく。さらに、神道の形成史を辿ることによって、日本人の宗教観の根底にあるものを学ぶ。

成績評価の方法と基準 授業内試験 90%、平常点 10%

PHL100LA
宗教論Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
宗教論Ⅱ 2016 年度以前入学者

若林　明彦

授業コード：Q1226 2017 年度以降入学者
授業コード：P1216 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 2-4 年生・キ 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①既成宗教、民間信仰を問わず、私たちが「宗教」あるいは「宗教的なるもの」と見なしている様々な行為・活動、観念、制度、規範などから普遍的なものを取り上げ、その意味と構造について知る。
②人間の知性において、非合理的、非理性的と見なされがちな宗教的思考が合理的、理性的思考の典型である科学的思考とどのように関係しているかを知る。

到達目標 ①宗教現象の中から「祈り」、「神話」、「世界観・他界観」、「儀礼」、「祝祭」を取り上げその意味と構造について知る。
②近代科学がなぜ西欧においてのみ誕生したのか、そこには古代ギリシャの合理主義思想だけでなく、オリエント文明地発祥の呪術的知の体系とキリスト教の唯一神教的世界観の影響があったことを知る。

成績評価の方法と基準 試験 90%、平常点 10%

ART100LA
芸術Ａ 2017 年度以降入学者
ART100LA
芸術Ⅰ 2016 年度以前入学者

武田　昭彦

授業コード：Q1231 2017 年度以降入学者
授業コード：P1231 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「イメージとかたち」がテーマだが，具体的にはキュビスムの芸術作品を通して，その構造を学ぶ．

到達目標 アブストラクト（抽象芸術）は，20 世紀初頭のキュビスム（立体主義）の運動から始まる．以後，ダダ・シュルレアリスムの運動へと展開していくこの流れを，主要な芸術家や批評家の証言や作品のスライドを通して学生諸君が理解できるようになることが目標である．

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）と記述試験（70 %）で評価する．

ART100LA
芸術Ｂ 2017 年度以降入学者
ART100LA
芸術Ⅱ 2016 年度以前入学者

武田　昭彦

授業コード：Q1232 2017 年度以降入学者
授業コード：P1232 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「イメージとかたち」がテーマである．秋学期はシュルレアリスムを学ぶが，具体的にその詩・絵画・彫刻・オブジェをみてゆく．

到達目標 春学期のキュビスムからの流れをつかむことも必要だが，シュルレアリスムそれ自体を学び，よく使われる「シュール (sur)」という言葉の真の意味を理解できるようになることが目標である．

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）と試験（70 %）で評価の予定．

ART100LA
芸術Ａ 2017 年度以降入学者
ART100LA
芸術Ⅰ 2016 年度以前入学者

小澤　慶介

授業コード：Q1233 2017 年度以降入学者
授業コード：P1233 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 歴史だけではなく、哲学思想や社会学、文化人類学など他の学問領域からも捉えることで、同時代を映し出すものとしての芸術について考える。それは、複雑で多様な現代の社会を見通す力を養うことでもある。

到達目標 近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、芸術や近代社会、またそれらの関係を考察する力を養う。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART100LA
芸術Ｂ 2017 年度以降入学者
ART100LA
芸術Ⅱ 2016 年度以前入学者

小澤　慶介

授業コード：Q1234 2017 年度以降入学者
授業コード：P1234 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1990 年代以降加速したグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。政治や経済、福祉などと密接に関係する芸術と場づくりをとおして、芸術のみならず現代の社会の構えについて理解を深める。

到達目標 政治や経済と密接な関係をもつ現代美術のあり方と、時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代美術のあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界とともに芸術の可能性を探る思考力と洞察力を養う。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART100LA

芸術A　2017年度以降入学者

ART100LA

芸術Ⅰ　2016年度以前入学者

福島　由美

授業コード：Q1235　2017年度以降入学者
授業コード：P1235　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞営・キ1年生/法文営国環キ2-4年生、＜2016年度以前入学生＞環2-4年生・キ1-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「音楽は何故人の心を魅了するのか」

到達目標 本講座の目標は、音楽の素晴らしさを感じ取ること。真の音楽体験とは、作曲家にまつわる内的・外的な出来事の結晶である作品を、それぞれの人のファンタジーと想像力とにより自ら体験してみることです。音楽の記念碑への感動と尊敬の念を紹介し、さらに美学的に問いかけたいと思います。

成績評価の方法と基準 レポート課題50％、平常点50％（コンサートへの参加[演奏、スタッフ、プログラム作成、指揮、司会等]・感想文の提出を含む）により、総合的に評価します。

ART100LA

芸術B　2017年度以降入学者

ART100LA

芸術Ⅱ　2016年度以前入学者

福島　由美

授業コード：Q1236　2017年度以降入学者
授業コード：P1236　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞営・キ1年生/法文営国環キ2-4年生、＜2016年度以前入学生＞環2-4年生・キ1-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「音楽は何故人の心を魅了するのか」

到達目標 「音楽は何故人の心を魅了するのか」という問いを根本モティーフとして、作曲家（作品）、演奏家（再現者）、聴衆（追体験者）それぞれの立場を考慮に入れて、「美学的音楽体験」について考察します。担当教員のフルート奏者としての実体験をふまえて、授業を進めていきます。
　本講座の目標は、音楽の素晴らしさを感じ取ること。

成績評価の方法と基準 レポート課題50％、平常点50％（コンサートへの参加[演奏、スタッフ、プログラム作成、指揮、司会等]・感想文の提出を含む）により、総合的に評価します。

LIT200LA

日本文学と文化LA　2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**絵画化された『源氏物語』**

阿部　真弓

授業コード：Q1301　2017年度以降入学者
授業コード：P1031　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 絵巻の鑑賞方法等について解説した後、院政期に作られたとされる国宝『源氏物語絵巻』について講義します。種々の源氏絵、また現代のマンガ等とも比較しながら、『源氏物語』がどのように解釈され、絵画化されてきたか考察します。『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

到達目標 ①絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
②『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。
③平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。
④現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

成績評価の方法と基準 学期末に行う試験（70％）、平常点（30％）によって評価します。試験は【到達目標】①～④に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

LIT200LA

日本文学と文化LB　2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**説話のメディア展開**

阿部　真弓

授業コード：Q1302　2017年度以降入学者
授業コード：P1032　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話について講義します。絵巻や能・歌舞伎の題材として有名なこの説話が、これまで人々にどのように享受されてきたのかについて学び、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めます。

到達目標 ①説話文学の特質について理解する。
②絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
③能、歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

成績評価の方法と基準 学期末に行う試験（70％）、平常点（30％）によって評価します。試験は【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

LIT200LA

日本文学と文化LC　2017年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**日本仏教と能楽**

今泉　隆裕

授業コード：Q1303　2017年度以降入学者
授業コード：P1033　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。
俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促がされたのか。
本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。
とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。
そののち勧進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれる

もの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺的な事柄を紹介する。
※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化ＬＣ」（旧「文学Ⅰ」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化ＬＤ」（旧「文学Ⅱ」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

到達目標 能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

成績評価の方法と基準 出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとします。
講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

LIT200LA
日本文学と文化ＬＤ 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**日本仏教と能楽**

今泉　隆裕

授業コード：Q1304 2017 年度以降入学者
授業コード：P1034 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。
俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促がされたのか。
本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。
とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。
そののち勧進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺的な事柄を紹介する。
※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化ＬＣ」（旧「文学Ⅰ」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化ＬＤ」（旧「文学Ⅱ」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

到達目標 能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

成績評価の方法と基準 出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとします。
講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

LIT200LA
日本文学と文化ＬＥ 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

伊海　孝充

授業コード：Q1305 2017 年度以降入学者
授業コード：P1035 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の幽霊に纏わる伝承・物語について学ぶ。「幽霊の物語」と一口で言っても、その話が生まれた時代や伝播した環境によって、その姿には大きな隔たりがある。この授業では、物語が生まれた土壌について学ぶのと同時に、幽霊が何を表現しているのかを考えていく。

到達目標 授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の物語がどのような土壌で生まれ、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。単に「昔話」の一言では括れない、豊潤な世界を体感してほしい。

成績評価の方法と基準 コメントカードの評価　70 %
学期末レポート　３０%

LIT200LA
日本文学と文化ＬＦ 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

伊海　孝充

授業コード：Q1306 2017 年度以降入学者
授業コード：P1036 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の天狗に纏わる伝承・物語について学ぶ。天狗は人間に危害を加える〈悪〉として描かれる物語がある一方で、人間に幸いをもたらす〈善〉なる存在としても描かれることがある。それはなぜか。本講義では、その天狗の両義性を学ぶと同時に、人間は天狗に何を投影したのかを考えていく。

到達目標 授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の鬼がどのような形成され、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。昔話の本質を知り、それを後代へ伝えてほしい。

成績評価の方法と基準 コメントカードの評価　70 %
学期末レポート　３０%

LIT200LA
日本文学と文化 LG 2017 年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**現代日本文学と映像表現**

榎本　正樹

授業コード：Q1307 2017 年度以降入学者
授業コード：P1037 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「現代日本文学」を原作として映画化された作品（場合によってはその一部）を観賞した上で、原作の小説を

講読します。2017年に劇場公開された以下の10作品のうち、6作品をとりあげる予定です（作品の配列は劇場公開日順）。
同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し検討することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考え、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点で小説を読む力の獲得を目指します。
伊藤計劃『虐殺器官』（村瀬修功監督）
初野晴「ハルチカ」シリーズ（市井昌秀監督）
森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』（湯浅政明監督）
最果タヒ『夜空はいつでも最高密度の青色だ』（石井裕也監督）
和田竜『忍びの国』（中村義洋監督）
住野よる『君の膵臓をたべたい』（月川翔監督）
東野圭吾『ナミヤ雑貨店の奇蹟』（廣木隆一監督）
島本理生『ナラタージュ』（行定勲監督）
米澤穂信『氷菓』（安里麻里監督）
又吉直樹『火花』（板尾創路監督）
＊劇場公開順。本リストの中からセレクトします。

到達目標 現代日本文学の幅広いジャンルの小説を深く読むことを通して、作品の中に描かれたテーマやモチーフを抽出し、整理し、分析することができるようになります。多種多様な作家の言葉の世界と向き合うことで日本語の奥深さを知るとともに、作中で展開される作家の思考のプロセスを解読し、論述することができるようになります。
さらに、個人の生き方や家族関係や社会システム、性、生、死、ジェンダー、歴史などの問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現や異なるメディア間の相互接続性について理解します。

成績評価の方法と基準 レポートで評価します（100％）。
試験や小テストはありません。
レポートは最終授業時に提出となります。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。
分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

LIT200LA
日本文学と文化 LH　2017年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**新海誠の文学世界**

榎本　正樹

授業コード：Q1308　2017年度以降入学者
授業コード：P1038　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』は、アニメーション界や映画界を超えた2016年最大のヒット作品として多くの観客の共感を得ました。国内観客動員数1,900万人を突破、興行収入250億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代2位を記録、アジア圏では7冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えることになりました。昨年から、デビュー15周年を記念した「新海誠展 『ほしのこえ』から『君の名は。』まで」が、日本各地を巡回中です。アニメーションの枠を越えた表現者として新海誠という存在をとらえる必要があります。
新海誠というクリエーターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人がいるかもしれませんが、新海監督のキャリアは2000年代初頭に遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人の間の繊細なコミュニケーションを丁寧に描くその筆致は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。
新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作をノベライゼーション（小説化）していますが、それらは単に映像作品のストーリーを言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者によるアニメ版と小説版を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。
本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。同時代の先端的な表現者である新海誠の主要作品を「網羅的」に観賞し、かつ「分析的」に解読する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

到達目標 アニメーション作品を分析的に解読し、表現や仕掛けや物語構造などについて、自分の言葉で論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、さまざまな他者のコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、各作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について深く学び、対象を客観的に論じる力を得ます。

成績評価の方法と基準 レポートで評価します（100％）。
試験や小テストはありません。
レポートは最終授業時に提出です。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。
分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

LIT200LA
外国文学と文化ＬＡ　2017年度以降入学者
LIT100LA
文学Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**西洋の芸術家小説（絵画篇）**

篠原　学

授業コード：Q1309　2017年度以降入学者
授業コード：P1039　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、芸術家の人生を描いた西洋の文学作品、とくに小説を扱います。西洋文学の一ジャンルとしての小説のなかで、芸術家の生き様はさまざまな表象を与えられてきました。その多様性は、それ自体芸術であろうとする小説が、みずからの美的な存在意義を模索し、確立するうえで必要とした多様な思索のあとを反映している、と言えるでしょう。
春学期では、とくに画家の人生を主題的に描いた小説のなかから、バルザックの『知られざる傑作』とゾラの『制作』、そしてモームの『月と六ペンス』を翻訳で読み、その芸術論を吟味すると同時に、小説としての構造やテーマを分析します。また、それぞれの作品の背後に、どのような芸術哲学の流れが存在しているのかも踏まえて、思弁的な議論の糸口を見出していきます。余裕があれば、（比較によって理解を深めるために）日本の芸術家小説にも触れる予定です。

到達目標 小説のなかで展開される芸術論に触れつつ、その問題意識を引き受け、みずからのことばで芸術について論じる力を涵養します。とくに、春学期に開講されるこの科目では、論述における立論のしかたを学びます。この授業を履修することによって、ある程度抽象度の高いテーマをもった論述をおこなう、基礎的な力をつけることができます。また、さまざまな批評的アプローチを知ることで、メディアに対する感性を磨くことにもなるでしょう。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（４０％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（６０％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

LIT200LA

外国文学と文化ＬＢ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**西洋の芸術家小説（文学篇）**

篠原　学

授業コード：Q1310　2017 年度以降入学者
授業コード：P1040　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、芸術家の人生を描いた西洋の文学作品、とくに小説を扱います。西洋文学の一ジャンルとしての小説のなかで、芸術家の生き様はさまざまな表象を与えられてきました。その多様性は、それ自体芸術であろうとする小説が、みずからの美的な存在意義を模索し、確立するうえで必要とした多様な思索のあとを反映している、と言えるでしょう。
秋学期では、とくに小説家の人生を主題的に描いた小説のなかから、ジッドの『贋金つくり』をとりあげ、それとの関連づけにおいて、堀辰雄の『風立ちぬ』、およびカルヴィーノの『冬の夜ひとりの旅人が』を読みます。これらの作品に共通する「ためらいながら書く」というモチーフが、文学をめぐるどのような言説の蓄積を背景にもつのか、それを探りつつ、具体的な作品分析をおこないます。作品のなかで展開される小説論が、その作品自体の生成にかかわっていく創作のダイナミズムにも着目していきます。

到達目標 小説を読むことの楽しみを損なうことなく、それについて批評的に語れるようになることを目指します。批評の言語を洗練させることによって、「よかった」「感動した」以外のことばで文学を語ることができるようになります。また、抽象度の高いテーマで、思弁的な論述を展開する力がつきます。授業のなかで得られる知識は、広告などを含む言語的なメディアに対するリテラシーを育むうえでも、役に立ちます。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（４０％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（６０％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

LIT200LA

外国文学と文化ＬＣ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**漢詩を作る**

日原　傳

授業コード：Q1311　2017 年度以降入学者
授業コード：P1041　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。この春学期の授業では主に春から夏にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

到達目標 ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）７０％　最終レポート ３０％

LIT200LA

外国文学と文化ＬＤ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**漢詩を作る**

日原　傳

授業コード：Q1312　2017 年度以降入学者
授業コード：P1042　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。この秋学期の授業では主に秋から冬にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

到達目標 ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）７０％
最終レポート　３０％

LIT200LA

外国文学と文化ＬＥ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：

大﨑　さやの

授業コード：Q1313　2017 年度以降入学者
授業コード：P1043　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） イタリア・オペラに親しむ（1）

到達目標 イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）50 %、期末試験 50 %

LIT200LA

外国文学と文化ＬＦ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：

大﨑　さやの

授業コード：Q1314　2017 年度以降入学者
授業コード：P1044　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） イタリア・オペラに親しむ（2）

到達目標 イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）50 %、期末試験 50 %

LIT200LA

文学と社会ＬＡ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**日本文学と民俗**

梶　裕史

授業コード：Q1315　2017 年度以降入学者
授業コード：P1045　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「民俗」（民間伝承）とは、ある地域社会、特定のコミュニティーのごくふつうの人々の暮らしの中で集団的に形づくられ、時代を超えて伝えられてきた暮らしぶりや心の持ち方を指します。「地域（ローカル）」の範囲は、小さくは一つの集落、大きくは世界（グローバル）の中の日本という「地域」といったように、さまざま設定できます。この授業では世界の中の日本、という視野のもと、こうした「民間伝承」を研究対象とする「民俗学」を採り入れた日本文学研究の世界を、『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』『古今和歌集』『源氏物語』等、主として上代・中古の文学の中から事例を選んで紹介します。民俗学的な日本文学研究とは、個々の作者・作品の個性や創意、時代性を超えて、現代の私たちの心の底にまで伝わっていると考えられるような集団的心性を、残された言語表現を通じて探ろうとするものである、といえるでしょう。このような性格のため、「個」（一作者や作品）の芸術性の追究といったことを期待する人には、不向きと思われます。

到達目標　・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

成績評価の方法と基準　期末試験 85 %。授業態度（基本的なマナー）15 %。

LIT200LA

文学と社会ＬＢ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**日本文学と民俗**

梶　裕史

授業コード：Q1316　2017 年度以降入学者
授業コード：P1046　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　梶「文学と社会 LA」と同じです。ただし具体的な内容は「授業計画」に記す通り、異なります。A よりも「民俗」（＝民間伝承）の部分に重点を置いた内容になります。「文学」発生の母胎としての性格を未だによく保持しており、日本文学の「古代性」を考える上で重要なヒントになるとされる沖縄離島の祭事・信仰をクローズアップして紹介する回が多くなり、時間があればそれを材料に、伝統文化を活かしたエコな地域形成に祭事や言語伝承が果たす役割なども考察したいと思っています。

到達目標　・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

成績評価の方法と基準　期末試験 85 %。授業態度（基本的なマナー）15 %

LIT200LA

文学と社会ＬＣ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**江戸の文学と出版**

白戸　満喜子

授業コード：Q1319　2017 年度以降入学者
授業コード：P1241　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

到達目標　江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。
くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

成績評価の方法と基準　レポート 40 %　筆記試験（最後の授業時に一回）40 %　平常点（授業への参加・発言）20 %　として評価します。詳細は開講時にお知らせします。

LIT200LA

文学と社会ＬＤ　2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**江戸の見立絵本を読む**

白戸　満喜子

授業コード：Q1320　2017 年度以降入学者
授業コード：P1242　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　くずし字で書かれた【見立絵本】『滑稽絵姿合』のオリジナル（原典）を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。見立とは、江戸時代の演劇・俳諧・絵画などに共通する趣向で、一見関連性のない二つのものを組み合わせ、そのギャップを楽しむ手法です。江戸の文学作品における連想力を読み説き、歴史的背景を探ることが目的です。

到達目標　くずし字で書かれた文章（ひらかなの部分）を判読し、どのような見立が扱われているか解釈することが各受講生の目標です。
各自の担当部分について、漢字以外を翻字すること、①何が共通点か②何が対比になっているかについて考察し、総合的にテキスト全体を理解することが目標になります。

成績評価の方法と基準　発表時の内容 30 %　レポート 40 %　平常点（授業への参加・発言）30 %　として評価します

LIT200LA

文学と社会ＬＥ 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**日本近代現代文学ー小説を読む技術**

中澤　忠之

授業コード：Q1321 2017 年度以降入学者
授業コード：P1243 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずです。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

到達目標 創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

成績評価の方法と基準 最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 %とします。

LIT200LA

文学と社会ＬＦ 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**文学表現の政治性・社会性**

中澤　忠之

授業コード：Q1322 2017 年度以降入学者
授業コード：P1244 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということを考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。
メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

到達目標 これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

成績評価の方法と基準 最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 %とします。

LNG200LA

音声学Ｌ 2017 年度以降入学者

LNG100LA

言語学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**一般音声学入門**

江村　裕文

授業コード：Q1362 2017 年度以降入学者
授業コード：P1202 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営国 1〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野のことを「言語学」と称します。
この「言語」の表現面の「音声」を扱う分野を「音韻論」と称します。「音韻論」は言語の音声の形式面を対象とします。これのに対して、言語の音声の実質面を扱うのが「音声学」です。つまり「音声学」は、この言語の表現面である音声の実質を対象とする経験科学です。
この授業では、言語音（「単音」）の記述方法および記述された記号の実現化（再現つまり実際に発音できるようになること）を授業内容とします。

到達目標 この授業では、「音声学」の記述方法であるＩＰＡの方法論的な考え方を身につけ、ＩＰＡを音声化したり、実際の音声をＩＰＡによって記述するための基礎的な技能を訓練することを目的とします。
補足として、音声の形式面である「音韻論」（「音素論」）にも触れます。

成績評価の方法と基準 平常点４０点、（理論）試験の得点３０点、（実施）試験の得点３０点、合計１００点で評価します。
ただし、必要に応じてレポートを課すことがあります。その場合はそのレポートも評価に反映します。

PHL200LA

哲学ＬⅠ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

大西　正人

授業コード：Q1381 2017 年度以降入学者
授業コード：P1071 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。特にこのＩの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL200LA

哲学ＬⅡ 2017年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

大西　正人

授業コード：Q1382 2017年度以降入学者
授業コード：P1072 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものと見る自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子をみます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL200LA

哲学ＬⅠ 2017年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**哲学の源流を辿って**

白根　裕里枝

授業コード：Q1383 2017年度以降入学者
授業コード：P1073 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学というと難しいという印象があるかもしれないが，何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

到達目標 学生は、まずは哲学のオーソドックスな基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での、基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は、手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

PHL200LA

哲学ＬⅡ 2017年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**哲学から考える宗教と人間の幸福**

白根　裕里枝

授業コード：Q1384 2017年度以降入学者
授業コード：P1074 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。

宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴しい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

到達目標 西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というものについて、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」ことと「知る」ことの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知るということがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

PHL200LA

倫理学ＬⅠ 2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**正義とケアのグローバル倫理――障碍者・動物という境界を越えて**

森村　修

授業コード：Q1391 2017年度以降入学者
授業コード：P1119 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本科目「倫理学ＬⅠ」は、「倫理学Ⅰ」で学んだことを、さらに高度に専門的に学ぶために設けられている。ちなみに「倫理学ＬⅠ」では、「倫理学ＬⅡ」へと継続するテーマとして、「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「ケアとは何か」という問いから、「誰が誰をケアするのか」、さらに「グローバル・エシックスにおけるケア倫理学とは何か」という問いへとシフトしながら、様々な「ケアの倫理」の考察を概観する。

まずは、「ケアの倫理」の重要概念として、倫理学における「ケア」概念を検討する。その際に、自己と他者、自己へのケア・他者へのケアという観点から、「ケアの倫理」の基礎を学んでいく。その流れのなかで、「倫理学ＬⅡ」における「グローバル正義とケアの倫理」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比、さらには「法と感情」の問題や「グローバ

ル正義とケアの倫理」への進展を検討することにしたい。
　結果的に、新しい「ケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的な目標である。
《授業の目的》
　「ケアと正義のグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性の問題を哲学的・倫理学的に分析する力を得ることができる。

到達目標　(1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

成績評価の方法と基準　基本的に、期末試験で評価する（80 %）が、小テスト（20 %）を課すことも考えている。

PHL200LA
倫理学ＬⅡ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**法と感情の倫理――ケアのグローバル倫理**

森村　修

授業コード：Q1392　2017 年度以降入学者
授業コード：P1120　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　《授業の概要》
　本科目「倫理学ＬⅡ」は、「倫理学Ⅱ」で学んだことを、さらに高度に専門的に学ぶために設けられている。ちなみに「倫理学ＬⅡ」では、「倫理学ＬⅠ」と継続し、関連するテーマとして「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「正義とは何か」という問いから、「誰の何のための正義なのか」、さらに「法はいかなる正義観に基づくか」という問いを考えていく。その際に、ケアにとって重要な「感情／情動の倫理」と法との関係の問題へとシフトしながら、様々な「ケアと正義の倫理」の考察を行なう。
《授業の目的》
　「ケアのグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性の問題を哲学的・倫理学的に分析する力を得ることができる。

到達目標　(1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。
(5) 感情／情動と法との結びつきについて、「ケアの倫理」の観点から考察することができる。

成績評価の方法と基準　基本的には、期末試験で評価する（80 %）が、小テスト（80 %）を課すことも考えている。

PHL200LA
倫理学ＬⅠ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**生命誕生に関する倫理学**

佐藤　英明

授業コード：Q1393　2017 年度以降入学者
授業コード：P1121　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

到達目標　いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指します。

成績評価の方法と基準　原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます（試験 60%・小テスト 40%）。

PHL200LA
倫理学ＬⅡ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**人の死の倫理学**

佐藤　英明

授業コード：Q1394　2017 年度以降入学者
授業コード：P1122　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

到達目標　いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指します。

成績評価の方法と基準　原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます（試験 60%・小テスト 40%）。

PHL200LA
倫理学ＬⅠ　2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**「他者」の倫理学**

杉本　隆久

授業コード：Q1395　2017 年度以降入学者
授業コード：P1123　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　倫理学とは人間の行動の規範についての、あるいは人間の行動を評価する規準についての探求であるといえるが、そもそも倫理学においては他者を問題にすることなくして、人間の行動やその規範について考えることなどできない。本講義では、他者とは何かに注目することで、従来の倫理学を批判的に捉え直し、差異、暴

力、責任、正義などの倫理学的な問題についての理解を深める。
特に、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダの倫理学的な議論について学ぶことで倫理学の応用的な知識を習得し、倫理学的な問題について自らの力で考えることができるようになることを目的とする。

到達目標 ・倫理学における発展的・応用的な知識を習得する。
・倫理学的問題に対する思考力・判断力を養う。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識について的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

PHL200LA
倫理学Ｌ Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学 Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**「他者」の倫理学**

杉本　隆久

授業コード：Q1396 2017 年度以降入学者
授業コード：P1124 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学とは人間の行動の規範についての、あるいは人間の行動を評価する規準についての探求であるといえるが、そもそも倫理学においては他者を問題にすることなくして、人間の行動やその規範について考えることなどできない。本講義では、他者とは何かに注目することで、従来の倫理学を批判的に捉え直し、差異、暴力、責任、正義などの倫理学的な問題についての理解を深める。
特に、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダの倫理学的な議論について学ぶことで倫理学の応用的な知識を習得し、倫理学的な問題について自らの力で考えることができるようになることを目的とする。

到達目標 ・倫理学における発展的・応用的な知識を習得する。
・倫理学的問題に対する思考力・判断力を養う。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識について的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

PHL200LA
倫理学Ｌ Ⅰ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学 Ⅰ 2016 年度以前入学者

伊藤　直樹

授業コード：Q1397 2017 年度以降入学者
授業コード：P1115 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。
私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

到達目標 講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

成績評価の方法と基準 学期末にレポートを提出してもらう。
成績評価の基準は次のようにする。
平常点３５％；レポート６５％

PHL200LA
倫理学Ｌ Ⅱ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学 Ⅱ 2016 年度以前入学者

伊藤　直樹

授業コード：Q1398 2017 年度以降入学者
授業コード：P1116 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者、なかでも「あなた」とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。
私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

到達目標 講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

成績評価の方法と基準 学期末にレポートを提出してもらう。
成績評価の基準は次のようにする。
平常点３５％；レポート６５％

PHL200LA
倫理学Ｌ Ⅰ 2017 年度以降入学者
PHL100LA
倫理学 Ⅰ 2016 年度以前入学者

田島　樹里奈

授業コード：Q1399 2017 年度以降入学者
授業コード：P1117 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）（life）とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。そして、生／死を通して、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理学的な視点から考え直していきたい。
かつて人間の生命は、「神のみが知る」ものであった。ただ、現代においては、自然界に生まれた生命に人間の科学技術が介入することは当たり前になってきた。もちろん、科学技術による人工的な生命操作は、明らかに反自然的な行為である。しかし今や私たちの日常生活において、医療技術は欠かすことができない。医療技術の進歩によって、多くの命が救われてもいる。
毎日のニュースでは、様々な事件や事故が報道され、被害者や犠牲者が尊い命を失っている。私たちの命は、いつどこでどのように失われるか、私たちには予測できない。そして、いくら周到に予防していても、予期せぬ時に、私たちの命が突如失われる可能性はさけられない。だからこそ、本授業を通じて、身近な家族や恋人、親しい友人や、大切な人たちの命がいかに尊いものであるか、今一度考え直すきっかけにしてもらいたい。
なお本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

到達目標 ① 生命、死、存在、医療、看護、QOL などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 医療現場、患者および患者家族側、生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

PHL200LA

倫理学ＬⅡ　2017年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ　2016年度以前入学者

田島　樹里奈

授業コード：Q1400　2017年度以降入学者
授業コード：P1118　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）（life）とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方で「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ、本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていきながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的な問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点を持って、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理学的な視点から考え直していくきっかけを提供していきたい。それゆえ本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

到達目標　① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

成績評価の方法と基準　毎授業ごとのリアクションペーパー（20％）、期末試験またはレポート（80％）

PHL200LA

論理学ＬⅠ　2017年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**論理的読解のトレーニング**

佐々木　護

授業コード：Q1411　2017年度以降入学者
授業コード：P1097　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」だと言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

到達目標　本授業の到達目標は以下の２点です。
（1）新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、的確な要約を行うことができる。
（2）上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

成績評価の方法と基準　原則として期末試験の成績で評価します。これは最終的な学習到達状況を成績評価に反映するためです。評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

PHL200LA

論理学ＬⅡ　2017年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**批判的思考のトレーニング**

佐々木　護

授業コード：Q1412　2017年度以降入学者
授業コード：P1098　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　クリティカル・シンキング（批判的思考）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出すトレーニングを行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上でも大いに役立つはずです。

到達目標　本授業の到達目標は以下の２点です。
（1）統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
（2）与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

成績評価の方法と基準　原則として期末試験の成績で評価します。これは最終的な学習到達状況を成績評価に反映するためです。評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

HIS200LA

東洋史ＬⅠ　2017年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：

岡安　勇

授業コード：Q1421　2017年度以降入学者
授業コード：P1141　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか）　中国古代の国家構造については皇帝を頂点とする一元的支配（＝個別人身的支配）という概念で理解されている。しかし皇帝権力の絶対性の側面を強調すると、その絶対的権力を打倒して新王朝が出現する王朝交替のメカニズムを解明する糸口が見失われてしまう。
また「例外において本質が顕現する」（C. シュミット）と言われるように、皇帝支配における例外的措置としてこれまであまり顧みられることのなかった王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して新たに中国古代の国家構造を明らかにしてみたい。
つまり、本授業では中国古代の国家構造を「二王の後（旧王朝の子孫）」の視点から解明する。
漢文講読の経験の有無にかかわらず、中国に興味関心のある学生が本授業を受講することによって、これまでにない中国古代の国家構造を理解することができる。

到達目標　中国古代（おもに堯・舜・禹の伝説時代から殷・周～秦・漢・三国時代）の社会・思想のうち興味深い事柄が理解できる。また、そのような社会や思想を理解した上で、一般に知られていない中国古代の「二王の後」の存在も明らかになる。「二王の後」の視点から中国古代の王朝交替のメカニズムが明快に理解できるようになる。
なお、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。
試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

成績評価の方法と基準　期末試験：70％
平常点：30％（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）

合計： 100 %
成績は平常点と期末試験で評価するが、試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

HIS200LA
東洋史ＬⅡ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
東洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

岡安　勇

授業コード：Q1422 2017 年度以降入学者
授業コード：P1142 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期では、王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して中国古代の国家構造の解明を行ったが、秋学期ではこれとは反対に禅譲されて新王朝を樹立した者の、旧王朝末期における君臣関係というこれまであまり扱われることのなかった例外的措置について取り上げ、中国古代の新旧両王朝一体となった国家構造を明らかにしてみたい。
そこで本授業では中国古代の国家構造を席次という序列関係を手掛かりにして解明を試みる。
なお、この解明には君臣間、賓主間という性質の異なる席次の序列関係も重要な手掛かりとなるが、人口に膾炙した『史記』の有名な「鴻門の会」はその代表例として取り上げることになるので、親しみやすいと思われる。対象学生は春学期と同じ。

到達目標 中国古代に行われていた席次（席に座る順序）を用いるというこれまで考えられなかった視点から王朝交替のメカニズムを解明する糸口を見いだすことが出来る。
一般にもよく知られている鴻門の会での項羽と劉邦の席がどのようにして決まったのか興味のある問題であるが、この点についてはビデオを用いることによって、視覚的に理解ができる。
中国古代の席次が理解できれば、皇帝が西面することがいかに異例のことだったのかが分かり、するとこれまで考えても見なかった王朝交替のメカニズムが判明することにもつながる。
なお、秋学期でも春学期と同じように、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。
試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験： 70 %
平常点： 30 %（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）
合計： 100 %
成績は平常点と期末試験で評価するが、試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

HIS200LA
東洋史ＬⅠ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
東洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**植民地時代の東南アジア**

授業コード：Q1423 2017 年度以降入学者
授業コード：P1143 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在のタイを除く東南アジア地域の大部分が、19 世紀には欧米列強の植民地支配下にはいりました。このことはよく知られていますが、この時期に具体的にどのようなことが起こっていたのかは、あまり知られていないのではないでしょうか。この授業では、さまざまな角度から植民地時代の東南アジア社会を見ていくことにより、現在の状況がいかに形作られていったかを学びます。

到達目標 この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、植民地期の東南アジアに関する知識を身につけることを目的とします。
現在のアジア地域に関わる様々な問題を筋道立てて理解し、議論するための基礎的な知識や思考法を身につけることができるようにしていきます。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）、試験（70 %）

HIS200LA
東洋史ＬⅡ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
東洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**民話と歴史：カンボジア王朝年代記と口承伝承**

授業コード：Q1424 2017 年度以降入学者
授業コード：P1144 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「歴史は暗記科目だから難しい」という言葉をよく聞きます。なぜ自分の先祖に直接関係したわけでもない出来事を「私たちの歴史」として学び、覚えなければならないのか、不思議に思ったことはありませんか？ そもそも「歴史」とは何なのでしょう？ 偉人の功績や国家的大事件だけが「歴史」で、私たちの生活を取り巻く様々な変化・・・例えば「キツネにだまされた」という話を聞かなくなることは、「歴史」ではないのでしょうか？ 私たち自身の生活に対する関心が高まる今、これを考えてみることは大切だと思います。この授業ではカンボジアを題材に、人々の生活空間と深く関連して語られている物語と「歴史」の関係を考えていきたいと思います。

到達目標 「歴史」をより身近なものとし、私たちの周辺にある様々な問題を筋道立てて理解し、議論するための知識を身につけることができるようにしていきます。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）、試験（70 %）

HIS200LA
西洋史ＬA 2017 年度以降入学者
HIS100LA
西洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

宮﨑　亮

授業コード：Q1431 2017 年度以降入学者
授業コード：P1159 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前８世紀から前５世紀末にいたる古代ギリシア史。
　この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは古代ギリシア史（の一部）である。構成は次のように大きく 3 つに分かれる： 1) イントロダクション（第１回～第２回）、2) 前古典期から前５世紀末のギリシア世界（第３回～第９回）、3) 古典期アテーナイ社会の諸相（第 10 回～第 13 回）。
　学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」や「ＥＵ」について考え、向き合う場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

到達目標 学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で第三者に説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA
西洋史ＬＢ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
西洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

宮﨑　亮

授業コード：Q1432 2017 年度以降入学者
授業コード：P1160 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は古代ギリシア史、それも当時ギリシアで行なわれていた運動競技会の歴史に焦点を当てる。
2020 年に東京で開催されるオリンピック大会が、今から２千年以上前のギリシアで行なわれていたオリュンピア競技祭（いわゆる「古代オリンピック」）をモデルにして始まったことは、比較的よく知られた事実に属するのではないだろうか。本講義では古代ギリシアの競技祭および体育とポリスとの関わりについて、史料に即しつつ、考察していく。全体の構成は：１）序論（第１～３回））、２）競技祭について（第４～９回）、３）体育とポリス社会（第 10 回以降）

到達目標 学生が古代ギリシアの運動競技についてを具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA
西洋史ＬＡ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
西洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

宮﨑　亮

授業コード：Q1433 2017 年度以降入学者
授業コード：P1161 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前８世紀から前５世紀末にいたる古代ギリシア史。
この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは古代ギリシア史（の一部）である。構成は次のように大きく 3 つに分かれる： 1) イントロダクション（第１回～第２回）、2) 前古典期から前５世紀末のギリシア世界（第３回～第９回）、3) 古典期アテーナイ社会の諸相（第 10 回～第 13 回）。
学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」や「ＥＵ」について考え、向き合う場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

到達目標 学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で第三者に説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA
西洋史ＬＢ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
西洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

宮﨑　亮

授業コード：Q1434 2017 年度以降入学者
授業コード：P1162 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は古代ギリシア史、それも当時ギリシアで行なわれていた運動競技会の歴史に焦点を当てる。
2020 年に東京で開催されるオリンピック大会が、今から２千年以上前のギリシアで行なわれていたオリュンピア競技祭（いわゆる「古代オリンピック」）をモデルにして始まったことは、比較的よく知られた事実に属するのではないだろうか。本講義では古代ギリシアの競技祭および体育とポリスとの関わりについて、史料に即しつつ、考察していく。全体の構成は：１）序論（第１～３回））、２）競技祭について（第４～９回）、３）体育とポリス社会（第 10 回以降）

到達目標 学生が古代ギリシアの運動競技についてを具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA
西洋史ＬＡ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
西洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺　知

授業コード：Q1435 2017 年度以降入学者
授業コード：P1163 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

HIS200LA

西洋史ＬＢ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺　知

授業コード：Q1436 2017 年度以降入学者
授業コード：P1164 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19 世紀～ 20 世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

HIS200LA

西洋史ＬＡ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺　知

授業コード：Q1437 2017 年度以降入学者
授業コード：P1165 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

HIS200LA

西洋史ＬＢ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺　知

授業コード：Q1438 2017 年度以降入学者
授業コード：P1166 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19 世紀～ 20 世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

HIS200LA

日本史ＬⅠ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**（近世社会の成立と確立）**

横濵　文孝

授業コード：Q1441 2017 年度以降入学者
授業コード：P1187 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：近世社会の成立と確立
近世社会は、江戸幕府とその支配下にあった藩が統治した政治体制下の社会であり、封建支配体制が長期に持続した時代でもありました。本講座では、この近世という社会の特徴を様々な視点から掘り起こすことで、豊かな歴史像を提示したいと考えています。

到達目標 教科書を通して学んだ歴史は、年号や用語を丸ごと覚えるなど、苦手だ、面白くないといったイメージがあります。しかし、本来、歴史は様々な事象を、資料を通して読み解いていく創造ずる学問です。本講座は、特に豊富な資料を有する近世という時代を取り上げ、具体的な事例をあげながら、楽しく歴史を学び、考える力を養います。

成績評価の方法と基準 期末試験（80 %）と平常点等（20 %）をもとに評価します。

HIS200LA

日本史ＬⅡ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**（近世の庶民文化）**

横濵　文孝

授業コード：Q1442 2017 年度以降入学者
授業コード：P1188 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：近世の庶民文化
近世は、士農工商とする封建的な身分制社会でした。しかし、その一方

で文化は成熟し、時代とともに俳諧などの文芸を中心に大衆化するようになり、次第に身分の平準化をもたらしていきました。本講座は、その過程を探りつつ、庶民や下級武士層の文化にも触れながら、近世の文化の実像を考えてみたいと思います。

到達目標 従来、近世は封建的な身分制社会のもとに四民が厳格に編成されていました。しかし、庶民の文化や文芸に触れることで、これまで教科書で学んできた時代とは別に、そこには豊かな歴史イメージを膨らますことができます。本講座では、当時の人々の生活を様々な資料を読み解きながら、歴史を学ぶ視点や研究の方法論などを培います。

成績評価の方法と基準 期末試験（80 %）と平常点等（20 %）をもとに評価します。

HIS200LA
日本史ＬⅠ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

浜田　久美子

授業コード：Q1443 2017 年度以降入学者
授業コード：P1189 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 7～9 世紀を中心に古代日本と朝鮮半島諸国との対外交流史を、日本・中国・朝鮮半島の史料をもとに考える。

到達目標 古代東アジア外交の変遷を理解する。
史料を読み解き、先行研究を踏まえて論理的に実証するという歴史学の研究法を学ぶ。
参考図書の使い方や文献探索の方法を学び、レポートの作成方法を取得する。

成績評価の方法と基準 平常点に加え、学期末のレポートで評価。

HIS200LA
日本史ＬⅡ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

浜田　久美子

授業コード：Q1444 2017 年度以降入学者
授業コード：P1190 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 東大寺の大仏建立に関する史料を読み、奈良時代の政治や社会を学ぶ。

到達目標 東大寺の大仏建立についての知識を得る。
史料を読み解き、先行研究を踏まえて論理的に実証するという歴史学の研究法を学ぶ。
参考図書の使い方や文献探索の方法を学び、レポートの作成方法を取得する。

成績評価の方法と基準 平常点に加え、学期末のレポートで評価。

HIS200LA
日本史ＬⅠ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**史料で読み解く日本の中世Ⅰ**

貫井　裕恵

授業コード：Q1445 2017 年度以降入学者
授業コード：P1183 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ＬⅡもあわせて受講することを推奨します。

到達目標 ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

成績評価の方法と基準 レポートおよびレビューシートの内容、出席状況総合的に評価する。
出席（特別な理由のない限り、欠席は４回以下）・レポート提出が、単位取得に必須の要件となる。

HIS200LA
日本史ＬⅡ 2017 年度以降入学者
HIS100LA
日本史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**史料で読み解く日本の中世Ⅱ**

貫井　裕恵

授業コード：Q1446 2017 年度以降入学者
授業コード：P1184 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ＬⅠもあわせて受講することを推奨します。同授業の発展的内容になります。

到達目標 ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

成績評価の方法と基準 レポートおよびレビューシートの内容、出席状況総合的に評価する。
出席（特別な理由のない限り、欠席は４回以下）・レポート提出が、単位取得に必須の要件となる。

HIS200LA

日本史ＬⅠ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**近代日本の政治と社会**

池田　真歩

授業コード：Q1447 2017 年度以降入学者
授業コード：P1185 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、幕末から戦時期に至るまでの日本の歴史について、国内政治と対外関係の連関に注意を払いつつ理解を深めることを目指す。

到達目標 ①幕末以降の日本の歴史について、基礎的な知識を習得し、その概要を説明できる。
②幕末以降の日本の歴史について、主要な歴史事象の背景と帰結を、国内外の情勢に目配りしつつ説明できる。
③戦後日本の政治と社会が、戦前日本の政治と社会にいかに規定されたのかを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %、リアクションペーパー 20 %

HIS200LA

日本史ＬⅡ 2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**現代日本の政治と社会**

池田　真歩

授業コード：Q1448 2017 年度以降入学者
授業コード：P1186 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、太平洋戦争の敗戦から現在に至るまでの日本の歴史について、国内政治と対外関係の連関に注意を払いつつ理解を深めることを目指す。

到達目標 ①戦後日本の歴史について、基礎的な知識を習得し、その概要を説明できる。
②戦後日本の歴史について、主要な歴史事象の背景と帰結を、国内外の情勢に目配りしつつ説明できる。
③冷戦の開始・展開・終結が、日本の政治と社会をいかに規定したかを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %、リアクションペーパー 20 %

PHL200LA

宗教論ＬⅠ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

宗教論Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**宗教学と世俗化論**

須藤　孝也

授業コード：Q1451 2017 年度以降入学者
授業コード：P1217 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 概要：様々な宗教の特徴を学ぶとともに、「宗教」という概念を用いることの難しさについても学ぶ。さらに宗教の趨勢を論じる「世俗化論」についても学ぶ。
目的：一口に「宗教」といっても、実際には多様な諸宗教があることを学ぶ。また宗教のあり方が歴史的に変容してきたことと、宗教をめぐる現代の状況についても学ぶ。
意義：宗教は政治や哲学、文化など、宗教以外の様々な事柄と深く関連しています。そのため何を学ぶにしても、宗教についての知見は不可欠なものです。しかしながら、特に現代において、宗教の働きを見極めることは必ずしも容易ではないため、それを洞察するためにはある程度のトレーニングが必要となります。宗教を学ぶことは、自分とはなじみのうすい宗教を信仰する他者についての理解はもちろん、自己に対する理解を深めるためにも大いに役立ちます。

到達目標 ①各々の宗教の特徴を述べることができる。
②「宗教」という概念がはらむ諸問題について説明することができる。
③世俗化論について説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点４０％：するどい指摘は求めません。積極的な取り組み、授業参加を求めます。
期末レポート６０％：①授業で学んだこと、②文献から学んだこと、③自ら考察したこと、の３点を満たしたものを高く評価します。

PHL200LA

宗教論ＬⅡ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

宗教論Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**宗教の哲学の歴史**

須藤　孝也

授業コード：Q1452 2017 年度以降入学者
授業コード：P1218 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 概要：主に宗教哲学の見地に立って、宗教論の歴史を学ぶ。
目的：宗教は単に「非合理なもの」ではないこと、様々な宗教理解、宗教批判、宗教擁護の理論が提示されてきたことを学び、現代の宗教理解に役立てる。
意義：宗教について哲学してきた西洋の歴史は、西洋人の思考を、今なお多かれ少なかれ規定している。異文化を理解しようとする試みのうち、宗教や哲学に関する理解は決して容易なものではないが、しかしやはり非常に重要なものである。また、西洋近代に大きな影響を受けた現代の日本人にとっても、それは同様に非常に重要なものである。

到達目標 ①各思想家がどのようなものとして宗教を捉えていたのかを説明することができる。
②彼らが、どこに宗教の限界と可能性を見出したのかを説明することができる。
③様々な宗教論を自らの理論構築に役立てることができる。

成績評価の方法と基準 平常点４０％：するどい指摘は求めません。積極的な取り組み、授業参加を求めます。
期末レポート６０％：①授業で学んだこと、②文献から学んだこと、③自ら考察したこと、の３点を満たしたものを高く評価します。

M E M O

ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目

2 群（社会科学分野）

≪2017 年度以降入学生≫

２群の開講科目は、「法学」・「政治学」・「経済学」（経営学部は「マクロ経済学」）・「社会学」・「心理学」・「地理学」・「文化人類学」・「社会思想」の８分野です。

これらはいずれも、人間と社会のさまざまな側面を、それぞれ独自の視角や方法によって考察するものです。各分野の基本的な知識や視点を学ぶことで、人間社会を理解するための基礎的な教養と知見を身につけます。それと同時に、特にリベラルアーツ科目を通じてそれぞれの分野に特徴的な理論や議論を学ぶことで、専門的・発展的な問いを考えていくための思考力・洞察力を養います。

学生のみなさんには、それぞれの科目を通じて、自分がその中にいる「社会」についての視野を広げ、理解を深めて、自らの「社会観」「世界観」を築いてほしいと思います。

≪2016 年度以前入学生≫

2群の開講科目は、「法学」・「政治学」・「経済学」（経営学部は「マクロ経済学」）・「社会学」・「心理学」・「地理学」・「文化人類学」・「社会思想」の8分野です。

これらはいずれも、人間と社会のさまざまな側面を、それぞれ独自の視角や方法によって考察するものです。各分野の基本的な知識や視点を学ぶことで、人間社会を理解するための基礎的な教養と知見を身につけます。それと同時に、それぞれの分野に特徴的な理論や議論を学ぶことで、専門的・発展的な問いを考えていくための思考力・洞察力を養います。

学生のみなさんには、それぞれの科目を通じて、自分がその中にいる「社会」についての視野を広げ、理解を深めて、自らの「社会観」「世界観」を築いてほしいと思います。

LAW100LA

法学Ⅰ 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅰ 2016 年度以前入学者

山本　圭子

授業コード：Q2001 2017 年度以降入学者
授業コード：P2221 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 法学全体に関わる一般的・包括的な知識を身につけ、日本国憲法の構造と基本原理を理解することを到達目標とする。期末試験（80%）、リアクションペーパーとミニテスト（20 %）で評価を行い、60 点以上に単位を付与する。

LAW100LA

法学Ⅱ 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ 2016 年度以前入学者

山本　圭子

授業コード：Q2002 2017 年度以降入学者
授業コード：P2222 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法律を学んだことのない学生が、法学のエッセンスに触れ、大学の一般教養程度の法学の最も初歩的な部分を習得して、六法のエッセンスの部分に関する最もベーシックな理解を得ることをテーマとする。民法、刑法、商法、労働法、知的財産法の基礎を学ぶ。

到達目標 学生が大学生として最低限必要な法に関する知識を身につけ、法律的思考力（リーガルマインド）をつけていることを到達目標とする。民法、刑法、労働法、知的財産法，税法に関する課題を発見し、学説や判例を引いて、課題に関する自分の意見を論理的に述べることができることを目標とする。

成績評価の方法と基準 論述式の期末試験の得点（80 %）と、授業期間中のリアクションペーパー、宿題の評価（20 %）とを総合して評価する。

LAW100LA

法学Ⅰ 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅰ 2016 年度以前入学者

内藤　淳

授業コード：Q2003 2017 年度以降入学者
授業コード：P2223 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA

法学Ⅱ 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ 2016 年度以前入学者

内藤　淳

授業コード：Q2004 2017 年度以降入学者
授業コード：P2224 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA
法学Ⅰ 2017 年度以降入学者

LAW100LA
法学Ⅰ 2016 年度以前入学者

前川　佳夫

授業コード：Q2005 2017 年度以降入学者
授業コード：P2225 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） １８世紀後半から１９世紀にかけて、イギリス産業革命の展開と同時期に形成される「近代市民法」は、やがて１９世紀後半には遠く東アジアにまで波及した。本講義では、工業化が進展しつつあった当時の欧米諸国に形成されてくる「近代市民法」の基本的特徴をまずおさえ、現行の日本国憲法の基礎構造、その特徴、その考え方を学ぶ。その上で、現代の市民生活を支える法システム、権利保障のしくみ、裁判制度の果たす役割等について検討する。

到達目標 1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）２０%、期末試験　８０%。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA
法学Ⅱ 2017 年度以降入学者

LAW100LA
法学Ⅱ 2016 年度以前入学者

前川　佳夫

授業コード：Q2006 2017 年度以降入学者
授業コード：P2226 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の多面的な法改革（昨年６月に公布された民法・債権法改正法，議論を呼ぶ憲法改正問題その他）の動きのなかで、現行の日本国憲法をはじめ、民法、刑法など数多くの実定法は、どのように変わろうとしているのだろうか。本講義では、現代の日本社会のなかで法はどのような役割を果たしているか、また、果たすべきかについて、日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

到達目標 1. 日本国憲法の現代的意義、現代の日本社会においていかなる役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や改正債権法などをとおして、近時の法改革の動向を理解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめする国際人権法の発展について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）２０%、期末試験　８０%。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA
法学Ⅰ 2017 年度以降入学者

LAW100LA
法学Ⅰ 2016 年度以前入学者

権　敬殷

授業コード：Q2007 2017 年度以降入学者
授業コード：P2227 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 P～X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

到達目標 ① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

成績評価の方法と基準 満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

LAW100LA
法学Ⅱ 2017 年度以降入学者

LAW100LA
法学Ⅱ 2016 年度以前入学者

権　敬殷

授業コード：Q2008 2017 年度以降入学者
授業コード：P2228 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文 1 年 P～X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容を到達目標とする。
① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
④ 国際関係についてのルールを理解する。

成績評価の方法と基準 満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

LAW100LA
法学Ⅰ 2017年度以降入学者
LAW100LA
法学Ⅰ 2016年度以前入学者

石川　澄雄

授業コード：Q2009 2017年度以降入学者
授業コード：P2229 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年E～J組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我々は「法的な社会」に生きている。このようなものとして我々に関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題に目を向け、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というものについての基本的な理解を得る。

到達目標 「法」は国家と密接不可分の関係にあるが、同時に、人々も「法」と密接に関わりながら日々を送っている。本講義では、とくに「法・国家・人間」のそれぞれの関係についての基本的な理解を得ることを目標とする。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が40％未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学HPの「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA
法学Ⅱ 2017年度以降入学者
LAW100LA
法学Ⅱ 2016年度以前入学者

石川　澄雄

授業コード：Q2010 2017年度以降入学者
授業コード：P2230 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営1年E～J組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我われは「法的な社会」に生きている。このようなものとして我われに関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題を多く取り上げ、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というものについての基本的な理解を得る。さらにそれを踏まえて憲法の基本および「国際社会と法」についても言及する。

到達目標 「法的社会」の基本を眺めることを通じて、最小限ないし適度の法感覚や法意識、また法的思考（リーガルマインド・バランス感覚）等を養い、さらに我々がそのような社会で生活していることの意味をも知ることで、総じて受講生の「法を見る目を養う」ことを目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が40％未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学HPの「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA
法学Ⅰ 2017年度以降入学者
LAW100LA
法学Ⅰ 2016年度以前入学者

水野　圭子

授業コード：Q2011 2017年度以降入学者
授業コード：P2231 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今まで法律を学んだことがない学生を対象として、身近な法律問題について基本的な知識を習得する。アメリカ・イギリスなど英米法体系の国では、契約から法律を学び始めることが多いが、本講義においても、契約、すなわち、物を買う場合、お金を借りる場合、あるいは消費者としてのトラブル、クーリングオフなど個人と個人の間の契約における法律を中心に検討する。また、その時に応じた時事的な法律問題（前年度は冤罪、裁判員制度）も取り扱う。これらの問題に関連する憲法問題も取り扱う。

到達目標 具体的な事例を通じて、個人と個人と法律の関係について、理解し、社会の中で法律の役割を理解すること、法律によって、どのように個人の利益や権利が守られているのか理解することを授業の目的とする。また、簡単な法学検定の問題を解くことができるようにする。

成績評価の方法と基準 テストによる評価（９０％）に加え、講義でみた映像資料に対するレポート課題（１０％）によって評価を行います。

LAW100LA
法学Ⅱ 2017年度以降入学者
LAW100LA
法学Ⅱ 2016年度以前入学者

水野　圭子

授業コード：Q2012 2017年度以降入学者
授業コード：P2232 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 卒業後、あるいは、学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会はとても少ない。本講義では、働くこととかかわる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くこととと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっているEUの仕組みなどを通じて、国際的な法律関係についても知識を深めることとしたい。

到達目標 発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得ることによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。
EUなどの国際法的な関係についても、労働という視点からEU指令、EU裁判所制度、EUの社会保障制度などについても法的な理解を深める。上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

成績評価の方法と基準 選択式・一部記述式のテスト（100点満点）で評価する。これに加えて、視聴覚教材を使用した際に提出するコメントを加点として加える。

LAW100LA

法学Ⅰ 2017年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅰ 2016年度以前入学者

金子　匡良

授業コード：Q2013 2017年度以降入学者
授業コード：P2233 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文1年A～N組・キ1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する（100％）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を10％程度加味することがある。

LAW100LA

法学Ⅱ 2017年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ 2016年度以前入学者

金子　匡良

授業コード：Q2014 2017年度以降入学者
授業コード：P2234 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文1年A～N組・キ1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する（100％）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を10％程度加味することがある。

LAW100LA

法学Ⅰ 2017年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅰ 2016年度以前入学者

内藤　淳

授業コード：Q2015 2017年度以降入学者
授業コード：P2235 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営1年A～D組/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて0～30％程度の範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA

法学Ⅱ 2017年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ 2016年度以前入学者

内藤　淳

授業コード：Q2016 2017年度以降入学者
授業コード：P2236 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営1年A～D組/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA
法学Ⅰ 2017 年度以降入学者
LAW100LA
法学Ⅰ 2016 年度以前入学者

前川　佳夫

授業コード：Q2017 2017 年度以降入学者
授業コード：P2237 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：国・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） １８世紀後半から１９世紀にかけて、イギリス産業革命の展開と同時期に形成される「近代市民法」は、やがて１９世紀後半には遠く東アジアにまで波及した。本講義では、工業化が進展しつつあった当時の欧米諸国に形成されてくる「近代市民法」の基本的特徴をまずおさえ、現行の日本国憲法の基礎構造、その特徴、その考え方を学ぶ。その上で、現代の市民生活を支える法システム、権利保障のしくみ、裁判制度の果たす役割等について検討する。

到達目標 1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）２０%、期末試験　８０%。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA
法学Ⅱ 2017 年度以降入学者
LAW100LA
法学Ⅱ 2016 年度以前入学者

前川　佳夫

授業コード：Q2018 2017 年度以降入学者
授業コード：P2238 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：国・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の多面的な法改革（昨年６月に公布された民法・債権法改正法，議論を呼ぶ憲法改正問題その他）の動きのなかで、現行の日本国憲法をはじめ、民法、刑法など数多くの実定法は、どのように変わろうとしているのだろうか。本講義では、現代の日本社会のなかで法はどのような役割を果たしているか、また、果たすべきかについて、日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

到達目標 1. 日本国憲法の現代的意義、現代の日本社会においていかなる役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や改正債権法などをとおして、近時の法改革の動向を理解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめする国際人権法の発展について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）２０%、期末試験　８０%。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA
法学（日本国憲法） 2017 年度以降入学者
LAW100LA
法学（日本国憲法） 2016 年度以前入学者

金子　匡良

授業コード：Q2031 2017 年度以降入学者
授業コード：P2251 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの３つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

到達目標 おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの〝正しい理解〟を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA
法学（日本国憲法） 2017 年度以降入学者
LAW100LA
法学（日本国憲法） 2016 年度以前入学者

金子　匡良

授業コード：Q2032 2017 年度以降入学者
授業コード：P2252 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの３つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

到達目標 おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの〝正しい理解〟を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内

容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA
法学（日本国憲法） 2017 年度以降入学者
LAW100LA
法学（日本国憲法） 2016 年度以前入学者

石川　澄雄

授業コード：Q2033 2017 年度以降入学者
授業コード：P2253 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすらなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA
法学（日本国憲法） 2017 年度以降入学者
LAW100LA
法学（日本国憲法） 2016 年度以前入学者

石川　澄雄

授業コード：Q2034 2017 年度以降入学者
授業コード：P2254 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすらなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

ECN100LA
経済学Ⅰ 2017 年度以降入学者
ECN100LA
経済学Ⅰ 2016 年度以前入学者

玉之内　直

授業コード：Q2041 2017 年度以降入学者
授業コード：P2031 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 A ～ I 組/法文国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

到達目標 本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%＋期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA
経済学Ⅱ 2017 年度以降入学者
ECN100LA
経済学Ⅱ 2016 年度以前入学者

玉之内　直

授業コード：Q2042 2017 年度以降入学者
授業コード：P2032 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 A ～ I 組/法文国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解する。

到達目標 本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%＋期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA
経済学Ⅰ 2017 年度以降入学者
ECN100LA
経済学Ⅰ 2016 年度以前入学者

西崎　文平

授業コード：Q2043 2017 年度以降入学者
授業コード：P2033 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 J ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 株価や為替レート、GDP の数字など、テレビやネットなどで経済のニュースが取り上げられない日はありませ

ん。デフレ脱却や財政再建、成長力の強化は重要な政策課題になっています。これらは一見すると難しく感じられますが、実は、就職のしやすさや賃金の動向、将来の年金など、私たちの生活に密接に関連した問題でもあります。経済学は、こうしたさまざまな経済問題を体系的に理解するために役立ちます。この授業では、基礎的な理論と統計データの見方を学び、現実の経済について自分なりに考える力を身につけることを目指します。

経済学Ⅰ（春学期）はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を中心に学び、経済学Ⅱ（秋学期）では現実の経済問題と理論の関わりを中心に学びます。

到達目標 ①簡単な図や数式を使って初歩の経済理論が理解できる、②統計データが何を意味するのか理解できる、③経済指標の解説などのニュースが理解できる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー（40%）＋期末試験（60%）

ECN100LA
経済学Ⅱ 2017 年度以降入学者

ECN100LA
経済学Ⅱ 2016 年度以前入学者

西崎　文平

授業コード：Q2044 2017 年度以降入学者
授業コード：P2034 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 J ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 株価や為替レート、GDP の数字など、テレビやネットなどで経済のニュースが取り上げられない日はありません。デフレ脱却や財政再建、成長力の強化は重要な政策課題になっています。これらは一見すると難しく感じられますが、実は、就職のしやすさや賃金の動向、将来の年金など、私たちの生活に密接に関連した問題でもあります。経済学は、こうしたさまざまな経済問題を体系的に理解するために役立ちます。この授業では、基礎的な理論と統計データの見方を学び、現実の経済について自分なりに考える力を身につけることを目指します。

経済学Ⅰ（春学期）はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を中心に学び、経済学Ⅱ（秋学期）では現実の経済問題と理論の関わりを中心に学びます。

到達目標 ①簡単な図や数式を使って初歩の経済理論が理解できる、②統計データが何を意味するのか理解できる、③経済指標の解説などのニュースが理解できる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー（40%）＋期末試験（60%）

ECN100LA
経済学Ⅰ 2017 年度以降入学者

ECN100LA
経済学Ⅰ 2016 年度以前入学者

梅溪　健児

授業コード：Q2045 2017 年度以降入学者
授業コード：P2035 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして骨太な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立って、経済社会の出来事を理解できるようになることが目的である。

到達目標 目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけではなく深層にあるメカニズムに納得できることの３点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できることを目指す。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー 40%、期末試験 60%（期末試験の実施日は後日決定）

ECN100LA
経済学Ⅱ 2017 年度以降入学者

ECN100LA
経済学Ⅱ 2016 年度以前入学者

梅溪　健児

授業コード：Q2046 2017 年度以降入学者
授業コード：P2036 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業はマクロ経済学を取り上げる。ＧＤＰ（国内総生産）による経済全体の把握、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

到達目標 目標は、①経済が持続的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの３点である。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー 40%、期末試験 60%（期末試験の実施日は後日決定）

ECN100LA
経済学Ⅰ 2017 年度以降入学者

ECN100LA
経済学Ⅰ 2016 年度以前入学者

水野　和夫

授業コード：Q2047 2017 年度以降入学者
授業コード：P2037 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は第三の危機を迎えている。危機において参考になるのは、危機の時代の精神力を与えてくれる古典である。経済学と古典（シェイクスピアなど）を参照しながら、21 世紀の経済的課題の原因を探る。さらに現実の統計データを読み取りる力を身につけ、その背後に隠れている問題点を経済の理論を使ってどのように説明できるかを学ぶことができる。

経済学Ⅰ（春学期）はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎編を学び、経済学Ⅱ（秋学期）は現実の課題を経済理論でどう説明することできるかを学ぶ。

到達目標 この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ることで、理論と実践を同時に身に着けられるようにする」ことにある。

その上で、従来の常識にとらわれることなく、自ら日本経済の問題や課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ECN100LA

経済学Ⅱ 2017年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅱ 2016年度以前入学者

水野　和夫

授業コード：Q2048 2017年度以降入学者
授業コード：P2038 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文１年Ａ～Ｎ組・環１年・キ１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は第三の危機を迎えている。危機において参考になるのは、危機の時代の精神力を与えてくれる古典である。経済学と古典（シェイクスピアなど）を参照しながら、21世紀の経済的課題の原因を探る。さらに、現実の統計データを読み取る力を身につけ、その背後に隠れている問題点を経済の理論を使ってどのように説明できるかを学ぶ。

経済学Ⅰ（春学期）はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎編を学び、経済学Ⅱ（秋学期）は現実の課題を経済理論でどう説明することできるかを学ぶ。

到達目標 この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ることで、理論と実践を同時に身に着けられるようにする」ことにある。

その上で、従来の常識にとらわれることなく、自ら日本経済の問題や課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出したリアクションペーパー（質問票）で評価

ECN100LA

経済学Ⅰ 2017年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅰ 2016年度以前入学者

玉之内　直

授業コード：Q2049 2017年度以降入学者
授業コード：P2039 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文１年Ｐ～Ｘ組・国１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

到達目標 本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%＋期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA

経済学Ⅱ 2017年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅱ 2016年度以前入学者

玉之内　直

授業コード：Q2050 2017年度以降入学者
授業コード：P2040 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文１年Ｐ～Ｘ組・国１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解する。

到達目標 本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%＋期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA

マクロ経済学Ⅰ 2017年度以降入学者

ECN100LA

マクロ経済学Ⅰ 2016年度以前入学者

平田　英明

授業コード：Q2061 2017年度以降入学者
授業コード：P2051 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：経営学部１年 A-J 組/経営学部２年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか） 芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

到達目標 大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期 (マクロ経済学 I) は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期 (マクロ経済学 II) は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

成績評価の方法と基準 １．単位の評価は２つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。

【1】期末試験（１００％）と授業への参加（Ｘ％）の２つの要素で成績評価を行います。取得可能な成績はＡ＋～Ｄです。

【2】よい成績を求めず、単位さえ手に入ればよい人向けです。問題

数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。取得可能な成績はＣ～Ｄです。
２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしませんので、あしからず。なお、例年、単位を取れる学生は９割以上です。普通に授業に出ていれば、問題ないと言うことです。

ECN100LA
マクロ経済学Ⅱ 2017 年度以降入学者

ECN100LA
マクロ経済学Ⅱ 2016 年度以前入学者

平田　英明

授業コード：Q2062 2017 年度以降入学者
授業コード：P2052 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：経営学部 1 年 A-J 組/経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか） 芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。
この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

到達目標 大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。
春学期 (マクロ経済学 I) は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期 (マクロ経済学 II) は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

成績評価の方法と基準 １．単位の評価は２つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。
【1】期末試験（１００％）と授業への参加（Ｘ％）の２つの要素で成績評価を行います。取得可能な成績はＡ＋～Ｄです。
【2】よい成績を求めず、単位さえ手に入ればよい人向けです。問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。取得可能な成績はＣ～Ｄです。
２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしませんので、あしからず。なお、例年、単位を取れる学生は９割以上です。普通に授業に出ていれば、問題ないと言うことです。

ECN100LA
マクロ経済学Ⅰ 2017 年度以降入学者

ECN100LA
マクロ経済学Ⅰ 2016 年度以前入学者

福田　慎

授業コード：Q2063 2017 年度以降入学者
授業コード：P2053 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：経営学部 1 年 K-U 組/経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか） 私たちの生活は一国の経済と密接に関連しています。たとえば、日本で生活する場合、日本経済と世界経済が我々の生活状況に影響することは言うまでもありません。一国の経済の動向や政策の評価を理論的に学ぶものがマクロ経済学です。本講義では、ＧＤＰを構成する要素を学び、その変動がどのように発生し、それを理論的にどのように捉えることができるかを学んでいきます。そのうえで、政策の有効性について考えていくことをします。

到達目標 ＧＤＰの構成要素がどのように定義され、それぞれを理論的にどのように捉えることができるかを知ることができます。それを統合して考えるマクロ経済学において、政策がどの構成要素に影響を及ぼし、ＧＤＰの動きにどのような効果を有しているかを理解することができます。そのほか、政策が有効となるケースと無効になるケースをそれぞれ理解していきます。

成績評価の方法と基準 期末試験： 100%

ECN100LA
マクロ経済学Ⅱ 2017 年度以降入学者

ECN100LA
マクロ経済学Ⅱ 2016 年度以前入学者

福田　慎

授業コード：Q2064 2017 年度以降入学者
授業コード：P2054 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：経営学部 1 年 K-U 組/経営学部 2 年生以上

授業の概要と目的（何を学ぶか） 私たちの生活は一国の経済と密接に関連しています。たとえば、日本で生活する場合、日本経済と世界経済が我々の生活状況に影響することは言うまでもありません。一国の経済の動向や政策の評価を理論的に学ぶものがマクロ経済学です。本講義では、ＧＤＰを構成する要素を学び、その変動がどのように発生し、それを理論的にどのように捉えることができるかを学んでいきます。そのうえで、政策の有効性について考えていくことをします。

到達目標 ＧＤＰの構成要素がどのように定義され、それぞれを理論的にどのように捉えることができるかを知ることができます。それを統合して考えるマクロ経済学において、政策がどの構成要素に影響を及ぼし、ＧＤＰの動きにどのような効果を有しているかを理解することができます。そのほか、政策が有効となるケースと無効になるケースをそれぞれ理解していきます。

成績評価の方法と基準 期末試験： 100%

PSY100LA
心理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PSY100LA
心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

浅川　希洋志

授業コード：Q2071 2017年度以降入学者
授業コード：P2061 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法1年A～H組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学Ⅰ」「心理学II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。

PSY100LA
心理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PSY100LA
心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

浅川　希洋志

授業コード：Q2072 2017年度以降入学者
授業コード：P2062 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法1年A～H組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、「心理学Ⅰ」で取りあげたこころの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学をとりあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。

PSY100LA
心理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PSY100LA
心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

櫻井　登世子

授業コード：Q2073 2017年度以降入学者
授業コード：P2063 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法1年I～N組・国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） はじめて心理学を学ぶ人を対象として、日本の児童（子ども）に焦点をあてながら、心の発達について解説していく。子どもとはどんな存在なのかについて考え、ことば・知性・思考・動機づけなどの子どもの具体的な心理を説明する。乳幼児や中学生と比べて、児童期の子どもがイメージできるようにする。

到達目標 1．現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2．ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3．動機づけのメカニズムを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験70%、リアクションペーパー30%

PSY100LA
心理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PSY100LA
心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

櫻井　登世子

授業コード：Q2074 2017年度以降入学者
授業コード：P2064 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法1年I～N組・国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の児童（子ども）の健全育成につながるために、子どものとらえ方、子ども時代の特徴、いまどきの子どもの特徴を概観し、子どもの具体的な心理について学ぶ。子どもの人間関係、社会性の発達を説明し、子どもの心理治療とこころの問題に言及する。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

到達目標 ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

成績評価の方法と基準 期末試験70%、リアクションペーパー30%

PSY100LA
心理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PSY100LA
心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

小島　弥生

授業コード：Q2075 2017年度以降入学者
授業コード：P2065 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法1年S～Y組・環1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学 II を連続履修することを期待します。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA
心理学Ⅱ 2017 年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

小島　弥生

授業コード：Q2076 2017 年度以降入学者
授業コード：P2066 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA
心理学Ⅰ 2017 年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

海部　紀行

授業コード：Q2077 2017 年度以降入学者
授業コード：P2067 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも，アカデミックな領域を概観します。
知覚心理学，学習心理学，進化心理学，神経心理学，認知心理学，感情心理学，発達心理学，といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅱでは，パーソナリティ心理学，社会心理学，臨床心理学，といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。
ヒト（心）について，さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。
心理学的な視点で，自分のこと，周りのことを考えられるようになることをめざします。
「心」とは何か，といったことに関して，幾つかのキーワードを用いつつ，批判的に検討・検証し，記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100 %）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テキストを持参すれば十分に回答できるものです。
理解度および各回の取り組む姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA
心理学Ⅱ 2017 年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

海部　紀行

授業コード：Q2078 2017 年度以降入学者
授業コード：P2068 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも，アカデミックな領域を概観します。
パーソナリティ心理学，社会心理学，臨床心理学，といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅰでは，知覚心理学，学習心理学，進化心理学，神経心理学，認知心理学，感情心理学，発達心理学，といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。
ヒト（心）について，さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。
心理学的な視点で，自分のこと，周りのことを考えられるようになることをめざします。
「心」とは何か，といったことに関して，幾つかのキーワードを用いつつ，批判的に検討・検証し，記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100 %）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テキストを持参すれば十分に回答できるものです。
理解度および各回の取り組む姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA
心理学Ⅰ 2017 年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

浅川　希洋志

授業コード：Q2079 2017 年度以降入学者
授業コード：P2069 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。

PSY100LA
心理学Ⅱ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

浅川　希洋志

授業コード：Q2080 2017年度以降入学者
授業コード：P2070 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文1年P～X組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、「心理学Ⅰ」で取りあげたこころの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学をとりあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。

PSY100LA
心理学Ⅰ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

小島　弥生

授業コード：Q2081 2017年度以降入学者
授業コード：P2071 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年A～J組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学IIを連続履修することを期待します。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が30%、期末試験の配分が70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA
心理学Ⅱ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

小島　弥生

授業コード：Q2082 2017年度以降入学者
授業コード：P2072 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営1年A～J組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が30%、期末試験の配分が70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA
心理学Ⅰ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

海部　紀行

授業コード：Q2083 2017年度以降入学者
授業コード：P2073 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも，アカデミックな領域を概観します。
知覚心理学，学習心理学，進化心理学，神経心理学，認知心理学，感情心理学，発達心理学，といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅱでは，パーソナリティ心理学，社会心理学，臨床心理学，といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。
ヒト（心）について，さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。
心理学的な視点で，自分のこと，周りのことを考えられるようになることをめざします。
「心」とは何か，といったことに関して，幾つかのキーワードを用いつつ，批判的に検討・検証し，記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100%）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テキストを持参すれば十分に回答できるものです。
理解度および各回の取り組む姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA

心理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

海部　紀行

授業コード：Q2084 2017年度以降入学者
授業コード：P2074 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも，アカデミックな領域を概観します。
パーソナリティ心理学，社会心理学，臨床心理学，といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅰでは，知覚心理学，学習心理学，進化心理学，神経心理学，認知心理学，感情心理学，発達心理学，といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。
ヒト（心）について，さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。
心理学的な視点で，自分のこと，周りのことを考えられるようになることをめざします。
「心」とは何か，といったことに関して，幾つかのキーワードを用いつつ，批判的に検討・検証し，記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100％）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テキストを持参すれば十分に回答できるものです。
理解度および各回の取り組む姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA

心理学Ⅰ 2017年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

櫻井　登世子

授業コード：Q2085 2017年度以降入学者
授業コード：P2075 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：国環キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） はじめて心理学を学ぶ人を対象として、日本の児童（子ども）に焦点をあてながら、心の発達について解説していく。子どもとはどんな存在なのかについて考え、ことば・知性・思考・動機づけなどの子どもの具体的な心理を説明する。乳幼児や中学生と比べて、児童期の子どもがイメージできるようにする。

到達目標 1．現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2．ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3．動機づけのメカニズムを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験70%、リアクションペーパー30%

PSY100LA

心理学Ⅱ 2017年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

櫻井　登世子

授業コード：Q2086 2017年度以降入学者
授業コード：P2076 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：国環キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の児童（子ども）の健全育成につながるために、子どものとらえ方、子ども時代の特徴、いまどきの子どもの特徴を概観し、子どもの具体的な心理について学ぶ。子どもの人間関係、社会性の発達を説明し、子どもの心理治療とこころの問題に言及する。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

到達目標 ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

成績評価の方法と基準 期末試験70％、リアクションペーパー30％

GEO100LA

地理学Ⅰ 2017年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅰ 2016年度以前入学者

高木　正

授業コード：Q2111 2017年度以降入学者
授業コード：P2091 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法・キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

GEO100LA

地理学Ⅱ 2017年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ 2016年度以前入学者

高木　正

授業コード：Q2112 2017年度以降入学者
授業コード：P2092 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法・キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

GEO100LA
地理学Ⅰ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

前川　明彦

授業コード：Q2113 2017 年度以降入学者
授業コード：P2093 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験（60 %）、レポート・平常点（40 %）で評価いたします。詳細については最初の授業時などで説明します。

GEO100LA
地理学Ⅱ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

前川　明彦

授業コード：Q2114 2017 年度以降入学者
授業コード：P2094 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験（60 %） レポートおよびリアクションシートなど（40 %）で評価。これらについては、最初の授業時などで説明します。

GEO100LA
地理学Ⅰ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

米家　志乃布

授業コード：Q2115 2017 年度以降入学者
授業コード：P2095 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価いたします。

GEO100LA
地理学Ⅱ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

米家　志乃布

授業コード：Q2116 2017 年度以降入学者
授業コード：P2096 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO100LA
地理学Ⅰ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

長沢　利明

授業コード：Q2117 2017 年度以降入学者
授業コード：P2097 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末におこなわれる試験によって成績評価をおこないます。

GEO100LA
地理学Ⅱ 2017年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅱ 2016年度以前入学者

長沢　利明

授業コード：Q2118 2017年度以降入学者
授業コード：P2098 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営1年A～J組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験とレポートによって成績評価をおこないます

GEO100LA
地理学Ⅰ 2017年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅰ 2016年度以前入学者

前畑　明美

授業コード：Q2119 2017年度以降入学者
授業コード：P2099 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに海に関わる事象を取り上げます。

到達目標 現代世界の様々な事象、とくに海に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（50％）・期末試験（50％）
積極的な姿勢を評価する。

GEO100LA
地理学Ⅱ 2017年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅱ 2016年度以前入学者

前畑　明美

授業コード：Q2120 2017年度以降入学者
授業コード：P2100 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「島」を取り上げて学びます。

到達目標 現代世界の諸地域、とくに「島」について、地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（50％）・期末試験（50％）
積極的な姿勢を評価する。

POL100LA
政治学Ⅰ 2017年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅰ 2016年度以前入学者

平良　好利

授業コード：Q2161 2017年度以降入学者
授業コード：P2121 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文1年A～N組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

到達目標 政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、レポート（40％）、期末試験（40％）

POL100LA
政治学Ⅱ 2017年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅱ 2016年度以前入学者

平良　好利

授業コード：Q2162 2017年度以降入学者
授業コード：P2122 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文1年A～N組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、権力闘争、国益と国力、ナショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

到達目標 政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、レポート（40％）、期末試験（40％）

POL100LA
政治学Ⅰ 2017年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅰ 2016年度以前入学者

崔　先鎬

授業コード：Q2163 2017年度以降入学者
授業コード：P2123 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法1年A～H組・キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げ

たいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度 (＝レポートなどの提出物、30%) ＋試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)

POL100LA
政治学Ⅱ 2017 年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅱ 2016 年度以前入学者

崔　先鎬

授業コード：Q2164 2017 年度以降入学者
授業コード：P2124 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 A〜H 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後各自の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度 (＝レポートなどの提出物、30%) ＋試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)

POL100LA
政治学Ⅰ 2017 年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅰ 2016 年度以前入学者

平良　好利

授業コード：Q2165 2017 年度以降入学者
授業コード：P2125 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 S 〜 Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

到達目標 政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、レポート（40 %）、期末試験（40 %）

POL100LA
政治学Ⅱ 2017 年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅱ 2016 年度以前入学者

平良　好利

授業コード：Q2166 2017 年度以降入学者
授業コード：P2126 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 S 〜 Y 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、権力闘争、国益と国力、ナショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

到達目標 政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、レポート（40 %）、期末試験（40 %）

POL100LA
政治学Ⅰ 2017 年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅰ 2016 年度以前入学者

高橋　和則

授業コード：Q2167 2017 年度以降入学者
授業コード：P2127 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 I〜N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心にして政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

成績評価の方法と基準 ・期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA
政治学Ⅱ 2017 年度以降入学者
POL100LA
政治学Ⅱ 2016 年度以前入学者

高橋　和則

授業コード：Q2168 2017 年度以降入学者
授業コード：P2128 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 I〜N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に社会とその中にいる市民を中心にして政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
②世論と民主主義についてを理解する。

成績評価の方法と基準 期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA

政治学Ⅰ 2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ 2016 年度以前入学者

崔　先鎬

授業コード：Q2169 2017 年度以降入学者
授業コード：P2129 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度 (＝レポートなどの提出物、30%) ＋試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)

POL100LA

政治学Ⅱ 2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ 2016 年度以前入学者

崔　先鎬

授業コード：Q2170 2017 年度以降入学者
授業コード：P2130 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度 (＝レポートなどの提出物、30%) ＋試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)

POL100LA

政治学Ⅰ 2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ 2016 年度以前入学者

面　一也

授業コード：Q2171 2017 年度以降入学者
授業コード：P2131 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国内体制を中心に取り上げる。

到達目標 1　現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
2　アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
3　現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

成績評価の方法と基準 期末筆記試験（80 %）
リアクション・ペーパー（20%）

POL100LA

政治学Ⅱ 2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ 2016 年度以前入学者

面　一也

授業コード：Q2172 2017 年度以降入学者
授業コード：P2132 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国際体制を中心に取り上げる。

到達目標 1　現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
2　アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
3　現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

成績評価の方法と基準 期末筆記試験（80 %）。
リアクション・ペーパー（20%）。

POL100LA

政治学Ⅰ 2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ 2016 年度以前入学者

岡﨑　加奈子

授業コード：Q2173 2017 年度以降入学者
授業コード：P2133 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 K ～ O 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 私たちの暮らす現代社会と政治との関係性とはいかなるものであり、私たちの生活にとって政治や政策はどのような意味や役割をもつのだろうか。
本講義では、政治学の基礎的概念を身につけ、現代社会における政治的な事象についての基本的な理解を深めることを目的とする。

到達目標 本講義では以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会の政治をめぐる制度や理論、歴史について、基本的な理解を得られること。
学生が政治的な事象について自ら思考する力を身につけること。
さらに、こうした理解や思考を文章としてまとめ、表現する力を養うこと。

成績評価の方法と基準 期末試験 (65%) と平常点 (35%) により総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みにより構成される。

POL100LA

政治学Ⅱ 2017年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ 2016年度以前入学者

岡﨑　加奈子

授業コード：Q2174 2017年度以降入学者
授業コード：P2134 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営1年K～O組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会にはいかなる政治的な問題や課題があるのか。
本講義では、戦後の政党政治や自治体の政策について学ぶ中で、より具体的かつ身近な問題として政治を捉え、理解するとともに、社会におけるさまざまな問題を政治学的視点に基づき、制度・運用の両面から考察することを目指す。

到達目標 本講義では、以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会における政治制度や歴史的変遷について、より深い知識と理解を得ること。
学生が今日の社会が直面している政治課題とは何か、自ら考察する力を養うこと。
自らの考察を表現し、文章化する能力を高めること。

成績評価の方法と基準 期末試験(65%)および平常点(35%)により、総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みによる。

POL100LA

政治学Ⅰ 2017年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ 2016年度以前入学者

高橋　和則

授業コード：Q2175 2017年度以降入学者
授業コード：P2135 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営1年Q～U組・国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心にして政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

成績評価の方法と基準 ・期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA

政治学Ⅱ 2017年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ 2016年度以前入学者

高橋　和則

授業コード：Q2176 2017年度以降入学者
授業コード：P2136 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営1年Q～U組・国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に社会とその中にいる市民を中心にして政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
②世論と民主主義についてを理解する。

成績評価の方法と基準 期末に実施する選択肢型試験（100%）

SOC100LA

社会学Ⅰ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ 2016年度以前入学者

菅野　摂子

授業コード：Q2131 2017年度以降入学者
授業コード：P2141 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法1年A～N組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験70%、平常点30%

SOC100LA

社会学Ⅱ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ 2016年度以前入学者

菅野　摂子

授業コード：Q2132 2017年度以降入学者
授業コード：P2142 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法1年A～N組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末テスト70%、平常点30%

SOC100LA

社会学Ⅰ　2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ　2016年度以前入学者

高橋　徹

授業コード：Q2133　2017年度以降入学者
授業コード：P2143　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法1年S～Y組・国1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の興味のあるものを題材として、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業（50％）と、期末試験または期末レポート（50％）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末試験または期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA

社会学Ⅰ　2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ　2016年度以前入学者

高橋　徹

授業コード：Q2135　2017年度以降入学者
授業コード：P2145　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文1年A～N組/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の興味のあるものを題材として、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業（50％）と、期末試験または期末レポート（50％）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末試験または期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA

社会学Ⅱ　2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ　2016年度以前入学者

高橋　徹

授業コード：Q2134　2017年度以降入学者
授業コード：P2144　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法1年S～Y組・国1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の興味のあるものを題材として、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業の内容評価（50％）と、中間レポート（20％）、及び期末試験または期末レポート（30％）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。中間レポートと期末試験または期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA

社会学Ⅱ　2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ　2016年度以前入学者

高橋　徹

授業コード：Q2136　2017年度以降入学者
授業コード：P2146　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文1年A～N組/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の興味のあるものを題材として、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業の内容評価（50％）と、中間レポート（20％）、及び期末試験または期末レポート（30％）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。中間レポートと期末試験または期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA

社会学Ⅰ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ 2016年度以前入学者

塚田　修一

授業コード：Q2137 2017年度以降入学者
授業コード：P2147 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文1年P～X組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 平常点（出席およびコメントペーパー）を30%、中間および期末の2回のレポートを70%として評価する。

SOC100LA

社会学Ⅱ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ 2016年度以前入学者

塚田　修一

授業コード：Q2138 2017年度以降入学者
授業コード：P2148 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文1年P～X組/法文営国環キ2-4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 平常点（出席およびコメントペーパー）を30%、中間および期末の2回のレポートを70%として評価する。

SOC100LA

社会学Ⅰ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ 2016年度以前入学者

徐　玄九

授業コード：Q2139 2017年度以降入学者
授業コード：P2149 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営1年A～J組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。（2）人々の行為に込められた意味を把握することができる。（3）社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA

社会学Ⅱ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ 2016年度以前入学者

徐　玄九

授業コード：Q2140 2017年度以降入学者
授業コード：P2150 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営1年A～J組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。（2）社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。（3）最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA

社会学Ⅰ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ 2016年度以前入学者

橋本　みゆき

授業コード：Q2141 2017年度以降入学者
授業コード：P2151 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営1年K～U組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書および授業時に配布するレジュメや文献、映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個

人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験 80%、平常点 20%

SOC100LA
社会学Ⅱ 2017 年度以降入学者
SOC100LA
社会学Ⅱ 2016 年度以前入学者

橋本　みゆき

授業コード：Q2142 2017 年度以降入学者
授業コード：P2152 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書および授業時に配布するレジュメや文献、映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験 80%、平常点 20%

SOC100LA
社会学Ⅰ 2017 年度以降入学者
SOC100LA
社会学Ⅰ 2016 年度以前入学者

徐　玄九

授業コード：Q2143 2017 年度以降入学者
授業コード：P2153 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。（2）人々の行為に込められた意味を把握することができる。（3）社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA
社会学Ⅱ 2017 年度以降入学者
SOC100LA
社会学Ⅱ 2016 年度以前入学者

徐　玄九

授業コード：Q2144 2017 年度以降入学者
授業コード：P2154 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。（2）社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。（3）最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA
社会学Ⅰ 2017 年度以降入学者
SOC100LA
社会学Ⅰ 2016 年度以前入学者

徐　玄九

授業コード：Q2145 2017 年度以降入学者
授業コード：P2155 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。（2）人々の行為に込められた意味を把握することができる。（3）社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA

社会学Ⅱ 2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ 2016 年度以前入学者

徐　玄九

授業コード：Q2146 2017 年度以降入学者
授業コード：P2156 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。（2）社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。（3）最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

CUA100LA

文化人類学 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

ベル　裕紀

授業コード：Q2191 2017 年度以降入学者
授業コード：P2171 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年Ａ～Ｈ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

到達目標 学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 %で評価する。

CUA100LA

文化人類学 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

梅村　絢美

授業コード：Q2193 2017 年度以降入学者
授業コード：P2173 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年Ⅰ～Ｎ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、文化人類学に関する複数のトピックをとりあげ、民族誌で描かれる事例や講師の調査経験とともに紹介します。これをふまえ、受講生自身が前提とする「ものの見方」を相対化し、他者との具体的交渉を通じて自己を理解するという文化相対主義・関係論的アプローチを習得することを目指します。この過程から、支配的な価値・言説にとらわれることのない、他者との対称的かつ具体的な関係構築に根差したコミュニケーションとはいかなるものか、ともに考えていきましょう。

到達目標 本授業は、以下の３つの到達目標のもと進めていきます。
（1）人類学の思考の枠組み・対象への接近方法についてさらなる理解を深める。
（2）受講者自身の思考の枠組みを相対化する視点を養い、グローバル規模に展開する様々な社会事象を広い視野でとらえる技法を身につける。
（3）人類学の思考の枠組みをもちいて、受講者自身の経験や身の回りの出来事をとらえ、発信する技法を身につける。

成績評価の方法と基準 授業の各回のリアクションペーパー（４０%）と学期末レポート（６０%）をもとに総合的に評価します。

CUA100LA

文化人類学 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

岩原　紘伊

授業コード：Q2195 2017 年度以降入学者
授業コード：P2175 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年Ｓ～Ｙ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の多様性や共通点を知る。

到達目標 ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者との間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという考え方を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と期末試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

CUA100LA
文化人類学 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

長沢　利明

授業コード：Q2197 2017 年度以降入学者
授業コード：P2177 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、生殖や家族、グローバリゼーションといったトピックを通して理解する。

到達目標 ①文化が持つ多様性と普遍性について知る。
②複眼的、相対的な視点から異文化と自文化を理解する力を身に付ける。

成績評価の方法と基準 試験の結果によって成績評価をおこなう。

CUA100LA
文化人類学 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

ベル　裕紀

授業コード：Q2199 2017 年度以降入学者
授業コード：P2179 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

到達目標 学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 %で評価する。

CUA100LA
文化人類学 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

梅村　絢美

授業コード：Q2201 2017 年度以降入学者
授業コード：P2181 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、文化人類学に関する複数のトピックをとりあげ、民族誌で描かれる事例や講師の調査経験とともに紹介します。これをふまえ、受講生自身が前提とする「ものの見方」を相対化し、他者との具体的交渉を通じて自己を理解するという文化相対主義・関係論的アプローチを習得することを目指します。この過程から、支配的な価値・言説にとらわれることのない、他者との対称的かつ具体的な関係構築に根差したコミュニケーションとはいかなるものか、ともに考えていきましょう。

到達目標 本授業は、以下の３つの到達目標のもと進めていきます。
（1）人類学の思考の枠組み・対象への接近方法についてさらなる理解を深める。
（2）受講者自身の思考の枠組みを相対化する視点を養い、グローバル規模に展開する様々な社会事象を広い視野でとらえる技法を身につける。
（3）人類学の思考の枠組みをもちいて、受講者自身の経験や身の回りの出来事をとらえ、発信する技法を身につける。

成績評価の方法と基準 授業の各回のリアクションペーパー（４０％）と学期末レポート（６０％）をもとに総合的に評価します。

CUA100LA
文化人類学 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

阿部　朋恒

授業コード：Q2203 2017 年度以降入学者
授業コード：P2183 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 K ～ O 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

CUA100LA
文化人類学 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

岩原　紘伊

授業コード：Q2205 2017 年度以降入学者
授業コード：P2185 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 Q ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の多様性や共通点を知る。

到達目標 ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者の間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという視点を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

CUA100LA

文化人類学 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

中島　成久

授業コード：Q2207 2017 年度以降入学者
授業コード：P2187 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、米欧編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。春学期は主に米欧における人種・民族問題を考える。

到達目標 グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本にいては日常あまり意識のすることのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業内試験（７０％）＋平常点（３０％）

CUA100LA

文化人類学 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅰ 2016 年度以前入学者

阿部　朋恒

授業コード：Q2209 2017 年度以降入学者
授業コード：P2189 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：環・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

犬塚　元

授業コード：Q2211 2017 年度以降入学者
授業コード：P2201 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会思想」は、社会や共存をめぐるさまざまな考え（社会思想）や、その歴史（社会思想史）を学ぶ科目です。過去や他人の思想を学ぶことで、わたしたちの社会思想を豊かにすることをめざす科目です（特定の社会思想を押しつけるわけではありません）。「社会思想Ⅰ」のこのクラスでは、かならずしも理解が容易ではない一般的な社会思想史の通史でなく、理想社会論（ユートピア論）を主題にして、過去から現代までの社会思想をたどります。

到達目標 （1）古代から現代までの代表的なユートピア論について理解を深めて、人類がこれまでにどのように、どのような理想社会を論じてきたかを理解する。（2）社会や共存にかかわる論点・争点や、さまざまな論じ方を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50 点）、期末試験（50 点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

犬塚　元

授業コード：Q2212 2017 年度以降入学者
授業コード：P2202 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会思想」は、社会や共存をめぐるさまざまな考え（社会思想）や、その歴史（社会思想史）を学ぶ科目です。過去や他人の思想を学ぶことで、わたしたちの社会思想を豊かにすることをめざす科目です（特定の社会思想を押しつけるわけではありません）。「社会思想 II」のこのクラスでは、かならずしも理解が容易ではない一般的な社会思想史の通史でなく、「社会思想史における女性／男性」をテーマにして、過去から現代までの社会思想史において女性／男性や性がどのように論じられてきたか、をたどります。

到達目標 （1）「社会思想史における女性／男性」について理解を深め、人類がこれまでにどのように女性／男性や性を論じてきたかを理解する。（2）ジェンダーやセクシャリティにかかわる論点・争点を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50 点）、期末試験（50 点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

福田　名津子

授業コード：Q2213 2017 年度以降入学者
授業コード：P2203 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 I ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、古代ギリシアから 18 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、宗教と世俗の秩序に同時に束縛され、自立性を持たなかった古代および中世の人間像が、ルネサンスと宗教改革・市民革命を経てこれを回復していく過程、それに呼応して近代的な政治理論の組み立てられていく過程を重視する。

過去の思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 古代ギリシアの政治思想を理解できる。
宗教と世俗の秩序対立が理解できる。
近代の国家観・社会観が理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

福田　名津子

授業コード：Q2214 2017 年度以降入学者
授業コード：P2204 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年 I ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、フランス革命後から 20 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、18 世紀啓蒙を経て文明が成熟期を迎えた次の展開、その多様性を重視する。

過去の思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 現代民主主義の展開を理解できる。
文明の到達点を積極面・消極面の双方から理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

洪　貴義

授業コード：Q2215 2017 年度以降入学者
授業コード：P2205 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年 A ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではハンナ・アーレントの思想を学びます。20 世紀初頭のヨーロッパにおける世界戦争と革命という困難な時代を、ユダヤ系ドイツ人として生きたアーレントは政治的思考について斬新で鮮烈な思考の足跡を残しています。
この授業では 19 世紀から 20 世紀にかけての政治経験を背景にして、アーレントの生涯を外観しながら、彼女の政治的思考を学ぶことを目的とします。

到達目標 世界戦争と革命の歴史的背景について理解すること、
アーレントの思考スタイルに親しむこと、そして
現代の政治状況についてアーレントとともに考える訓練をすることがこの授業の到達目標です。

成績評価の方法と基準 各授業の出席とコメントメールによる平常点（40 %）、学期末レポート（60 %）

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

洪　貴義

授業コード：Q2216 2017 年度以降入学者
授業コード：P2206 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 A ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではエドワード・W・サイードの思想を学びます。1935 年にエルサレムに生まれ、2003 年にアメリカに没したサイードは生涯をかけて「西洋」と「東洋」に分断された二項対立を突き崩そうと奮闘しました。ジャンバチスタ・ヴィーコとその文献学に学びながら、人文学と批評の使命に殉じたサイードの著作と思想を学ぶことがこの授業の目的です。

到達目標 サイードの生涯と彼が生きた歴史的世界について理解すること、
サイードの主要著作について理解を深めること、
サイードから見た、わたしたちの生きる東アジア世界について理解を持つことを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとに提出するコメントメールによる出席とコメント内容（40 %）と、期末レポート（60 %）によって評価します。

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

網谷　壮介

授業コード：Q2217 2017 年度以降入学者
授業コード：P2207 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考察してきたのかを研究する学問です。春学期は社会契約論という考え方を学びます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

到達目標 本講義は社会契約論という考え方をテーマに、主に 17 世紀から現代の思想家までを取り上げます。社会契約論とは「私たちの社会は契約によって成り立っている」という発想です。これは、ちょっとぎょっとする考え方かもしれませんが、どうして国家に服従しなければならないのか、政治はどのように行われるべきか、どんな社会が正しい社会なのかといった問題を考える際に、非常に重要なツールとなります。代表的な思想家の考え方を理解し、それらの違いや特徴を説明できるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 平常点（30 パーセント）＋期末試験（70 パーセント）平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

網谷　壮介

授業コード：Q2218 2017 年度以降入学者
授業コード：P2208 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考察してきたのかを研究する学問です。秋学期は公共性に関する思想史を学びます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について、批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

到達目標 本講義では公共性という概念を歴史の中で検討することで、「公」と「私」の関係の望ましいあり方を考えます。到達目標は、（1）古代と近代、現代で公共性概念にどのような違いが見られるか、（2）カント、アーレント、ハーバーマスの公共性概念とはどのようなものか、（3）現代の公共性の問題は何かを理解し、自分の言葉で説明できるようになることです。

成績評価の方法と基準 平常点（30 パーセント）＋期末試験（70 パーセント）平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

熊沢　敏之

授業コード：Q2219 2017 年度以降入学者
授業コード：P2209 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会思想の形成・流通・普及の過程を、日本における人文書の興亡とジャーナリズムの展開のなかで考える。敗戦後の 1945 年から 1980 年代まで、もっとも精彩を放ちながら戦後日本をリードした思想家と人文書、および出版社に焦点を合わせ、その思想が社会に与えたインパクトと意味を析出する。現役の出版人による戦後出版通史、人文学史。

到達目標 いまや古典となりつつある基本的な参考文献を読み、社会と思想とメディアの機能について「批判的」「批評的」な思考を培うこと。戦後人文学の興亡を見極めながら、自主的な読書と研究を実践できるようになること。

成績評価の方法と基準 成績評価は期末試験のみ（100 %）。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

熊沢　敏之

授業コード：Q2220 2017 年度以降入学者
授業コード：P2210 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ――十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想史的に読み解いていく。

到達目標 20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髄に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

成績評価の方法と基準 成績評価は期末試験のみ（100 %）講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

福田　名津子

授業コード：Q2221 2017 年度以降入学者
授業コード：P2211 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、古代ギリシアから 18 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、宗教と世俗の秩序に同時に束縛され、自立性を持たなかった古代および中世の人間像が、ルネサンスと宗教改革・市民革命を経てこれを回復していく過程、それに呼応して近代的な政治理論の組み立てられていく過程を重視する。

過去の思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 古代ギリシアの政治思想を理解できる。
宗教と世俗の秩序対立が理解できる。
近代の国家観・社会観が理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

福田　名津子

授業コード：Q2222 2017 年度以降入学者
授業コード：P2212 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、フランス革命後から 20 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、18 世紀啓蒙を経て文明が成熟期を迎えた次の展開、その多様性を重視する。

過去の思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 現代民主主義の展開を理解できる。
文明の到達点を積極面・消極面の双方から理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

ECN200LA

経済学ＬＡ 2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎**

中平　千彦

授業コード：Q2321 2017 年度以降入学者
授業コード：P2043 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義は、春学期開講『経済学 LA』(担当:中平) です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』(担当:中平) に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？

経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学 LA』では、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

到達目標 ・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学のに関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ・[試験 (90 %) ＋平常点 (10 %) ＝総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱いとすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講義担当者に相談してください。
・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

ECN200LA

経済学ＬＢ 2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**観光経済学**

中平　千彦

授業コード：Q2322 2017 年度以降入学者
授業コード：P2044 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。

観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

到達目標 ・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ (マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ・[試験 (90 %) ＋平常点 (10 %) ＝総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱いとすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講義担当者に相談してください。
・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

ECN200LA

経済学ＬＡ 2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**経済学の考え方の根底にあるもの**

水野　和夫

授業コード：Q2323 2017 年度以降入学者
授業コード：P2045 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学とは、どのような考え方に基づいて理論を構築しているかを身に着けることができる。近代経済学は、21 世紀の経済が抱える課題、たとえば、デフレ、ゼロ金利、長期停滞、そして格差・貧困問題などの原因をどうとらえ、どう対処しようとしているのかを学ぶことができる。

現実には、近代経済学はこれらの問題に対して有効な処方箋を提示できないでいる。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようになる。

到達目標 18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、日本の「失われた 20 年」の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたるデフレが続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、トランプ大統領誕生によりグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身に着けることができる。

秋学期の「経済学 LB」を合わせて受講することで、春学期の到達目標がさらに高まる。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ECN200LA
経済学ＬＢ 2017年度以降入学者
ECN100LA
経済学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**経済学の根底にある倫理**

水野　和夫

授業コード：Q2324 2017年度以降入学者
授業コード：P2046 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は、元来倫理学、道徳学、法学と一体化することで、人間とは何かを考えようとする学問であった。19世紀以降、そうした考え方が希薄化し、専門化の方向を選んだ。

21世紀にはいって、正統派経済学は様々な問題に有効な処方箋を提示できなくなりつつあり、再度、倫理学、道徳学、法学の関連性を問うことで、経済学の再構築を考察することができる。

到達目標 「近代経済学の再検討」を通じて、21世紀の世界経済が抱える問題の背景、原因を考えることができる。さらに、「近代とはいかなる時代か」を考えることができるようになる。そして、近代が「発見」した社会とはいかなる概念であるかを考えることで、21世紀の抱える課題を理解することができる。

春学期の「経済学LA」で到達目標としたことをさらに高めることができる。

成績評価の方法と基準 受講態度40％+期末試験60％
受講態度は4回程度提出した質問票で評価

ECN200LA
経済学ＬＡ 2017年度以降入学者
ECN100LA
経済学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**東アジア経済発展論**

陳　文挙

授業コード：Q2325 2017年度以降入学者
授業コード：P2041 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 21世紀はアジアの時代だと言われており、中国やアジア新興国の台頭によってアジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図も変りつつある。本講義では経済発展の基礎理論に基づき、東アジア経済発展の歴史、過程、経験と教訓などについて学ぶ。また、中国経済発展の諸要因および諸問題について考察する。さらに、日中経済の相互依存および東アジア地域経済統合の動きについて展望する。

到達目標 現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

成績評価の方法と基準 授業に対する理解、平時課題レポートおよび期末レポートの完成状況（70％）
授業態度、演習・リアクションペーパー完成状況および平常点（30％）

ECN200LA
経済学ＬＢ 2017年度以降入学者
ECN100LA
経済学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**中国経済発展論**

陳　文挙

授業コード：Q2326 2017年度以降入学者
授業コード：P2042 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 21世紀はアジアの時代だと言われており、中国やアジア新興国の台頭によってアジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図も変りつつある。本講義では経済発展の基礎理論に基づき、中国が計画経済から市場経済への移行の背景、過程、経済高度成長の諸要因について分析する。また、中国経済の急成長は日中関係、東アジア地域に与える影響などについても議論する。

到達目標 現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

成績評価の方法と基準 授業に対する理解、平時課題レポートおよび期末レポートの完成状況（70％）
授業態度、演習・リアクションペーパー完成状況および平常点（30％）

PSY200LA
心理学ＬＡ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**行動や出来事の原因を探る**

海部　紀行

授業コード：Q2341 2017年度以降入学者
授業コード：P2077 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学，認知心理学，発達心理学，パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて，より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない？」，「見つかりたくないけれど，存在は認められたい？」，時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら，それはなぜなのか…，どうしたらよいのだろうか…，といったことを思い考えます。

到達目標 行動や出来事の原因の探り方，そのとき起きる錯誤などを考えることが目標です。
知識を身につけるとともに，潜在的な可能性を生かす技能を鍛え，一面的な決めつけや思い込みにとらわれず，いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し，批判的な検討・検証のうえで，的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」
試験点（80％）：自由記述の小論文
講義に参加して気づいたこと，感じ思い考えたことなどをもとに，各自で問題（テーマ）を設定し，論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テーマは適切か，記述に飛躍や矛盾がないか，批判的・主体的な意見を述べているか，といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い，姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

PSY200LA
心理学ＬＢ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**他者と自己による対人関係**

海部　紀行

授業コード：Q2342 2017年度以降入学者
授業コード：P2078 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学，認知心理学，発達心理学，パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて，より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない？」，「見つかりたくないけれど，存在は認められたい？」，時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら，それはなぜなのか…，どうしたらよいのだろうか…，といったことを思い考えます。

到達目標 他者と自己とが織りなす対人関係，そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。
知識を身につけるとともに，潜在的な可能性を生かす技能を鍛え，一面的な決めつけや思い込みにとらわれず，いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し，批判的な検討・検証のうえで，的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」
試験点（80％）：自由記述の小論文
講義に参加して気づいたこと，感じ思い考えたことなどをもとに，各自で問題（テーマ）を設定し，論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テーマは適切か，記述に飛躍や矛盾がないか，批判的・主体的な意見を述べているか，といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い，姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

PSY200LA
心理学ＬＡ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**行動や出来事の原因を探る**

海部　紀行

授業コード：Q2343 2017年度以降入学者
授業コード：P2079 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学，認知心理学，発達心理学，パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて，より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない？」，「見つかりたくないけれど，存在は認められたい？」，時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら，それはなぜなのか…，どうしたらよいのだろうか…，といったことを思い考えます。

到達目標 行動や出来事の原因の探り方，そのとき起きる錯誤などを考えることが目標です。
知識を身につけるとともに，潜在的な可能性を生かす技能を鍛え，一面的な決めつけや思い込みにとらわれず，いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し，批判的な検討・検証のうえで，的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」
試験点（80％）：自由記述の小論文
講義に参加して気づいたこと，感じ思い考えたことなどをもとに，各自で問題（テーマ）を設定し，論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テーマは適切か，記述に飛躍や矛盾がないか，批判的・主体的な意見を述べているか，といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い，姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

PSY200LA
心理学ＬＢ 2017年度以降入学者
PSY100LA
心理学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**他者と自己による対人関係**

海部　紀行

授業コード：Q2344 2017年度以降入学者
授業コード：P2080 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学，認知心理学，発達心理学，パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて，より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。
「弱くて頑張れない？」，「見つかりたくないけれど，存在は認められたい？」，時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら，それはなぜなのか…，どうしたらよいのだろうか…，といったことを思い考えます。

到達目標 他者と自己とが織りなす対人関係，そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。
知識を身につけるとともに，潜在的な可能性を生かす技能を鍛え，一面的な決めつけや思い込みにとらわれず，いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し，批判的な検討・検証のうえで，的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」
試験点（80％）：自由記述の小論文
講義に参加して気づいたこと，感じ思い考えたことなどをもとに，各自で問題（テーマ）を設定し，論じてください。
電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし，剽窃はアウト！）です。
テーマは適切か，記述に飛躍や矛盾がないか，批判的・主体的な意見を述べているか，といった観点で評価します。
平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い，姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

GEO200LA
地理学ＬＡ 2017年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**世界の風景と地域**

米家　志乃布

授業コード：Q2351 2017年度以降入学者
授業コード：P2107 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業の概要：世界の風景を地図やデータから読む
授業の目的：世界の様々な都市を素材として、現代社会と地域の関係を人文地理学的に考えることを目的とします。

到達目標 本授業では、世界の都市図に注目し、古地図と現在の地図を比較することから、都市の立地環境や都市形成の歴史を考察します。各都市における各地域の文化や遺産の在り方、現代社会と都市の関係について、その国や自治体の政策や都市に生活する人々の視点からもみてい

きます。本授業を通して、様々な地域の歴史・文化・経済・社会を総合的に捉え、単なる知識の吸収ではなく、地図をもとに地理学的に考える力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO200LA
地理学ＬＢ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**日本の風景と地域**

米家　志乃布

授業コード：Q2352 2017 年度以降入学者
授業コード：P2108 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業の概要：日本の風景を地図やデータから読む
授業の目的：日本の様々な都市を素材として、現代社会と地域の関係を人文地理学的に考えることを目的とします。

到達目標 本授業では、日本各地の都市図に注目し、古地図と現在の地図を比較することから、都市の立地環境や都市形成の歴史を考察します。都市における各地域の文化や遺産の在り方、現代社会と都市の関係について、自治体の政策や都市に生活する人々の視点からもみていきます。本授業を通して、様々な地域の歴史・文化・経済・社会を総合的に捉え、単なる知識の吸収ではなく、地図をもとに地理学的に考える力を養うことを目標とします。また、日本らしい風景とは何か、を考えるために、日本の遺産全般について、今後の保存に関する課題についても考えます。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO200LA
地理学ＬＣ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

片岡　義晴

授業コード：Q2353 2017 年度以降入学者
授業コード：P2109 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。

到達目標 食料、人口、貧困問題などを手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。それら問題が相互に関連し、問題を如何に複雑化させているのか、その構造を学んでいきます。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

GEO200LA
地理学ＬＤ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

片岡　義晴

授業コード：Q2354 2017 年度以降入学者
授業コード：P2110 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の地域問題・社会問題について学んでいきます。

到達目標 日本の地域性、地域格差、地域開発、公害問題を手がかりにして、日本の地域問題・社会問題を学んでいきます。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

GEO200LA
地理学ＬＣ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

高木　正

授業コード：Q2355 2017 年度以降入学者
授業コード：P2101 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 地理学そのものを学ぶというよりも、地理学を通じて現代世界の理解を深めるといったスタイルで勉強していきます。高校時代に地理科目を履修した経験がなくても構いません。ここでは世界情勢を大きく把握することを目的とします。

到達目標 現在、学生の皆さんが持っている歴史観・地域観・世界観をより確かなものにしていきます。

成績評価の方法と基準 試験で評価します。試験の方法は最初の授業で説明します。

GEO200LA
地理学ＬＤ 2017 年度以降入学者
GEO100LA
地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

高木　正

授業コード：Q2356 2017 年度以降入学者
授業コード：P2102 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 地理学 LD では、できるだけ多くの地域を取り上げて、その社会経済的な実態を地理的な視点からみていきます。

到達目標 アフリカと西アジアの現状を理解することで世界の多様性を認識します。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

GEO200LA

地理学ＬＡ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

長沢　利明

授業コード：Q2357 2017 年度以降入学者
授業コード：P2103 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） さまざまなテーマを毎回ひとつずつ取り上げ、解説していく。全体を通して地理学的な物の見方や考え方を学ぶ。

到達目標 授業を通し、地理学的な物の見方と考え方をつかんでいくことがのぞましい。

成績評価の方法と基準 試験の成績によって評価をおこなう。

GEO200LA

地理学ＬＢ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

長沢　利明

授業コード：Q2358 2017 年度以降入学者
授業コード：P2104 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業では毎回ひとつずつ異なったテーマを取り上げて解説する。

到達目標 全体を通して地理学的な物の見方と考え方を学んでいく。

成績評価の方法と基準 試験およびレポートによって成績評価をおこなう。

GEO200LA

地理学ＬＣ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**グローバリゼーション社会の地理学**

前川　明彦

授業コード：Q2359 2017 年度以降入学者
授業コード：P2105 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業ではグローバリゼーション、人、地域社会等をキーワードに、世界や日本の少子高齢化や格差、雇用などの地域課題を地理学として、一緒に考えます。そして、学生自身が課題や問題意識を考え、多様なものの考え方ができるることを目的としています。

到達目標 グローバリゼーションの中で、人や地域社会が格差・分断、また不寛容な社会になりつつあります。学生が、論理的に課題をみつけ、多様性を意識しながら自ら考え、解決の方向性に応用することを目標にしています。このため、身近な課題などから地理学的に考察することを目指していきたい。そして、1 つの答えだけでなく柔軟に多様性を意識して考えることを最初の到達目標の 1 つにしたい。

成績評価の方法と基準 原則的には、期末試験（持ち込み可： 60 %）
レポート （30 %）
授業中のコメントシートあるいはリアクションペーパー（10 %）最初の授業時等に詳細は説明します。

GEO200LA

地理学ＬＤ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**地域社会の課題をどのように解決すべきか**

前川　明彦

授業コード：Q2360 2017 年度以降入学者
授業コード：P2106 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、地域社会の課題を、人やコミュニティ中心の街づくりという視点をとおして、外国人やインバウンド観光等、さらには人との共生などに関連がある解決策モデル等を紹介しながら、解決方法の糸口や方法論を地理学ロジックで学びます。そこから学生自身が多様性のある社会という方向性で解決方法を模索、検討できることを目的としています。

到達目標 秋学期には春学期の問題意識や地域的課題を解決方向へと踏み出したい。このため、街づくり、地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。そして、自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会を解決する一員になってほしい。

成績評価の方法と基準 期末試験もしくは授業内試験（持ち込み可：60 %）、レポート（30 %）授業中のコメントシート・平常点など（10 %）で評価する。詳細に関しては最初の授業時等で話します。

POL200LA

政治学ＬＡ 2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**「黄金の時代」の政治とボブ・ディラン**

木村　正俊

授業コード：Q2371 2017 年度以降入学者
授業コード：P2137 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：「黄金の時代」における政治とボブ・ディラン
ボブ・ディランというプリズムを通して「黄金の時代」の US にける政治と、時代がボブ・ディランに与えた影響について考察を行い、、政治に関する見方を養うことを目指します。

到達目標 20 世紀後半の US の社会と政治について知識を得ること。
時代・社会・政治の変遷とボブ・ディランの変容について理解すること。
US のフォークの政治との関係、およびビート・ジェネレーションの次世代に対する影響について理解すること。
ジョン・レノンの音楽と政治との関係について理解すること。
ボブ・ディランを中心にしながら 20 世紀のポピュラー・ミュージックに関する基礎知識を得ること。
以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

成績評価の方法と基準 授業前に調べたペーパー　40 %
授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験　60 %

POL200LA

政治学ＬＢ 2017年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

木村　正俊

授業コード：Q2372 2017年度以降入学者
授業コード：P2138 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：「黄金の時代」の終焉後の時代の政治と音楽
USにおける福音派の影響力の拡大とボブ・ディランの改宗の意味と、マンチェスターを基盤とするロック・ミュージシャンの活動を通して、「黄金の時代」の終焉時代の政治について考える。
イスラエルの国際的孤立について考える。

到達目標 現在、USの政治に大きな影響力を持つ福音派についての理解すること。
ボブ・ディランにとっての信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識と、宗教と政治の関係について理解すること。
新自由主義についての知識を得ること。
第二次世界大戦後からEU離脱国民投票にいたる時期のUK政治に関する知識を得ること。
以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

成績評価の方法と基準 授業前に調べたペーパー　40％
授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験　60％

SOC200LA

社会学ＬＡ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**「平成」の社会を考える**

片上　平二郎

授業コード：Q2361 2017年度以降入学者
授業コード：P2159 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では，日本の各時代の社会意識と対応したかたちでその時代におけるポピュラー文化の意味を読み解いていくことを考えています。現在の文化から時代を遡りつつ，さまざまなジャンルを横断しながら，ポピュラー文化を概観していきます。過去の文化を扱いながら，現在の文化とつながる部分，つながらない部分を意識しながら，社会と文化の関係を考察していきたいと思います。
前期科目であるこの授業では「平成」という時代意識に注目して授業を行っていきます。

到達目標 時代意識の反映物としてさまざまな現代文化を解読することで，社会を理解するための１つの方法を学んでいきます。
また，文化研究の方法論的議論や時代比較などを通じて，自明なものと受け取られやすい「文化」を学問的に扱う方法を習得できます。

成績評価の方法と基準 レポート　60％
リアクションペーパーなどの平常点　40％

SOC200LA

社会学ＬＢ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

片上　平二郎

授業コード：Q2362 2017年度以降入学者
授業コード：P2160 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では，日本の各時代の社会意識と対応したかたちでその時代におけるポピュラー文化の意味を読み解いていくことを考えています。現在の文化から時代を遡りつつ，さまざまなジャンルを横断しながら，ポピュラー文化を概観していきます。過去の文化を扱いながら，現在の文化とつながる部分，つながらない部分を意識しながら，社会と文化の関係を考察していきたいと思います。
後期科目であるこの授業では、「戦後」と呼ばれた時代について考えてみたいと思います。

到達目標 時代意識の反映物としてさまざまな現代文化を解読することで，社会を理解するための１つの方法を学んでいきます。
また，文化研究の方法論的議論や時代比較などを通じて，自明なものと受け取られやすい「文化」を学問的に扱う方法を習得できます。

成績評価の方法と基準 レポート　60％
リアクションペーパーなどの平常点　40％

SOC200LA

社会学ＬＣ 2017年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**宗教（宗教的なもの）と社会の関係**

徐　玄九

授業コード：Q2363 2017年度以降入学者
授業コード：P2157 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会」を意味する「Society」には、個々人の自由と連帯の意味が含まれている。すなわち「社会」とは、個人を尊重する自律性と規範、意味、契約などに基づく連帯性の意味が共存している。この「社会」を研究対象とする社会学の主な主題は、(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」である。(1)は「社会」の両軸をなす「自律性」と「連帯性」がいかにバランスを取るかの問題であり、(2)は近代（現代）社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、それの解決方向はいかに見出すかという問題である。
この授業では、社会学の主な主題のうち(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」のなかでも、とくに「宗教（宗教的なもの）と社会の関係」に焦点を当てる。今の世界を理解するために必要不可欠なのが宗教（宗教的なもの）にまつわる多角的な知見である。近代社会の登場に宗教が果たした役割を学びつつ、いまなお私たちの日常生活に影響力を及ぼし続けている宗教性を再認識することで宗教を理解する力を養うことがこの授業の目的である。

到達目標 (1) 冠婚葬祭や年中行事の意味を再確認することができる。
(2) 労働観の変遷と宗教との関係が理解できる。
(3)「近代」と呼ばれる歴史的な変化の一面に宗教が果たした役割を理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価します。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

SOC200LA

社会学ＬＤ 2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**近代社会に内在する合理化の両義性**

徐　玄九

授業コード：Q2364 2017 年度以降入学者
授業コード：P2158 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会」を意味する「Society」には、個々人の自由と連帯の意味が含まれている。すなわち「社会」とは、個人を尊重する自律性と規範、意味、契約などに基づく連帯性の意味が共存している。この「社会」を研究対象とする社会学の主な主題は、(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」である。(1) は「社会」の両軸をなす「自律性」と「連帯性」がいかにバランスを取るかの問題であり、(2) は近代（現代）社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、それの解決方向はいかに見出すかという問題である。
この授業では、社会学の主な主題のうち (2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」のなかでも、とくに「近代社会に内在する合理化の両義性」に焦点を当てる。具体的には、「合理化」の側面から近代社会の特徴を現代まで射程に入れて「近代社会の光と影」について学ぶ。主に取り上げるテーマは「世俗化論」、「合理化論」、「リスク社会論」である。これを通して、歴史の変化のなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについても考えるとともに社会に対する問題意識の「再発見」のきっかけを作る。

到達目標 (1)「近代」とよばれる歴史的な変化の一面を思想と制度の両面で把握する。
(2)「世俗化論」・「合理化論」の相互関連を把握する。
(3)「リスク社会」としての一面をもつ現代社会の特徴を理解する。
(4) 最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価します。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

CUA200LA

文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**政治人類学**

ベル　裕紀

授業コード：Q2382 2017 年度以降入学者
授業コード：P2172 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

到達目標 学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 %で評価する。

CUA200LA

文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

長沢　利明

授業コード：Q2384 2017 年度以降入学者
授業コード：P2174 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 人間と文化との関係の構造的な理解

到達目標 文化人類学のもっとも基本的な研究課題としての「人間と文化との関係」を、さまざまな具体的テーマを提示しながら、考えていく。特に、文化の変容面・動態的側面に注目しつつ、生態環境・生活空間・儀礼構造・民間信仰・民族問題などの諸側面から、この問題を検討していってみることとする。この作業を通じて、文化人類学的な物の考え方や研究方法、分析視角などを学んでいくことにし、極力わかりやすい形で、それを講義していってみたい。

成績評価の方法と基準 学期末試験およびレポート提出によって、成績評価をおこなう。特にレポートの内容の評価に重点を置くので、すぐれたレポートを作成することがのぞましい。

CUA200LA

文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**文化人類学を通して考える現在の地球**

岩原　紘伊

授業コード：Q2386 2017 年度以降入学者
授業コード：P2176 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代の世界が直面する課題を、異文化理解の学問である文化人類学の視座を通して理解する。

到達目標 ①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立つかを理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある文化の違いに由来する衝突について総体的に理解する視線を身に付ける。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

CUA200LA

文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

梅村　絢美

授業コード：Q2388 2017 年度以降入学者
授業コード：P2178 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、「南アジアと身体」をテーマに、主にインドとスリランカにおける身体観やヘルスケア実践、伝統医療について紹介しながら、南アジア特有の身体の在り方について総合的に学習します。「遠い国に住む自分と関係ない人たちの出来事」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

到達目標 南アジア特有の身体観やヘルスケア実践、伝統医療のありよ

うについて理解し、自身の実体験と関連付けながら主体的に思考することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーの内容（４０％）と授業内試験（６０％）に基づき総合的に評価します。

CUA200LA
文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**政治人類学**

ベル　裕紀

授業コード：Q2390 2017 年度以降入学者
授業コード：P2180 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

到達目標 学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 %で評価する。

CUA200LA
文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

梅村　絢美

授業コード：Q2392 2017 年度以降入学者
授業コード：P2182 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、「南アジアと身体」をテーマに、主にインドとスリランカにおける身体観やヘルスケア実践、伝統医療について紹介しながら、南アジア特有の身体の在り方について総合的に学習します。「遠い国に住む自分と関係ない人たちの出来事」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

到達目標 南アジア特有の身体観やヘルスケア実践、伝統医療のありようについて理解し、自身の実体験と関連付けながら主体的に思考することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーの内容（４０％）と授業内試験（６０％）に基づき総合的に評価します。

CUA200LA
文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**今日の文化人類学**

阿部　朋恒

授業コード：Q2394 2017 年度以降入学者
授業コード：P2184 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、期末試験（60 %）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかり行うこと。

CUA200LA
文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**文化人類学を通して考える現在の地球**

岩原　紘伊

授業コード：Q2396 2017 年度以降入学者
授業コード：P2186 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代の世界が直面する課題を、異文化理解の学問である文化人類学の視座を通して理解する。

到達目標 ①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立つかを理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある文化の違いに由来する衝突について総体的に理解する視線を身に付ける。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

CUA200LA
文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

中島　成久

授業コード：Q2398 2017 年度以降入学者
授業コード：P2188 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、米欧編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。秋学期は主にアジア、アフリカにおける人種・民族問題を考える。

到達目標 グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本にいては日常あまり意識のすることのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点（３０％）＋試験（７０％）

CUA200LA
文化人類学Ｌ 2017 年度以降入学者
CUA100LA
文化人類学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**今日の文化人類学**

阿部　朋恒

授業コード：Q2400 2017 年度以降入学者
授業コード：P2190 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、期末試験（60 %）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかり行うこと。

SOS200LA
社会思想ＬＡ 2017 年度以降入学者
SOS100LA
社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪　貴義

授業コード：Q2401 2017 年度以降入学者
授業コード：P2213 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近代日本の東アジア認識について学びます。近代の日本は朝鮮半島、中国、台湾などの東アジア世界と無関係ではありえず、この領域をそれぞれ各国各国の個別史と考えることはできません。そこで
この授業では、幕末、明治期から昭和期までの、国際環境、日本を含む東アジアの政治史を背景に押さえながら、日本の思想家の東アジア認識と、それに対する朝鮮、中国からの応答を各時代の思想家の言説とその考えかたに即して学ぶことを目的とします。

到達目標 日本、東アジアの近代史の基礎を身につけること。また勝海舟、西郷隆盛、福沢諭吉、吉野作造、三木清、尾崎秀実、竹内好、谷川雁、梶村秀樹、森崎和江らの東アジアに関する考え方を理解することを授業の到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（４０％）と学期末のレポート（６０％）の両方を成績評価の基準とします。

SOS200LA
社会思想ＬＢ 2017 年度以降入学者
SOS100LA
社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪　貴義

授業コード：Q2402 2017 年度以降入学者
授業コード：P2214 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 在日朝鮮人詩人、金時鐘 (キム シジョン) の詩と思想を学びます。1929 年に植民地下の朝鮮で生まれ、現在日本に生きる金時鐘の生涯は日本と朝鮮半島の近代史を背景にして両国の「あいだ」そのものの中にあります。この授業ではこのような彼の生涯を追いながら、日朝関係史と同時に、その詩と思想を学びます。

到達目標 近現代の日本と朝鮮半島の歴史を理解すること。
金時鐘の生涯を学びつつ、彼の詩と思想を理解すること。

成績評価の方法と基準 授業中に提出するコメントメール (40%) と、期末レポート (60%) によって評価します。

SOS200LA
社会思想ＬＡ 2017 年度以降入学者
SOS100LA
社会思想Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪　貴義

授業コード：Q2403 2017 年度以降入学者
授業コード：P2215 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではヨーロッパの近代社会思想史を学びます。

16 世紀から 19 世紀初頭の思想家たち、例えばホッブズ、ルソー、カント、ヘーゲル、マルクスたちが生きた西洋の歴史を背景として、その上で各思想家の思考方法、政治社会の構成、個人と社会の関係や経済社会の構造などについての考えかたを学ぶことを目的とします。

到達目標 近代の骨格を作る思想家たちのものの見方、考え方を身につけること。
そのうえで、歴史的思考について学び、思想家たちの目を通して、現在わたしたちが生きている現代社会の政治、経済、社会のあり方を根本から、原理として考える目を養うことを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40 %）と学期末のレポート（60 %）の両方を成績評価の基準とします。

SOS200LA

社会思想ＬＢ 2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪　貴義

授業コード：Q2404 2017 年度以降入学者
授業コード：P2216 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではヨーロッパにおける世紀転換期の思想史を学びます。
西洋の 19 世紀末から 20 世紀初頭という転換期の歴史を踏まえて、ニーチェ、ウェーバー、フロイト、ベンヤミン、アーレントらが根源から考察した人間、社会、歴史、芸術、政治についての思想史を学ぶことがこの授業の目的です。

到達目標 各思想家たちのものの見方、考え方を身につけること。
そのうえで、世紀転換期の歴史を理解し、もう一つの転換期である現代社会を彼らの目を通して自ら考えることができるようになることを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40 %）と学期末のレポート（60 %）の両方を成績評価の基準とします。

M E M O

ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目

3 群（自然科学分野）

≪2017 年度以降入学生≫

３群は、さまざまな自然科学の授業によって構成されています。

基盤科目では、自然科学の学習に必要な基礎的知識を習得します。リベラルアーツ科目では、さまざまなテーマを発展的に学習します。さらに、専門科目である総合科目や教養ゼミを通して、それらのテーマをより深く探求できるようなカリキュラム構成となっています。

基盤科目は、「教養数学」「基礎数学」「入門物理学」「入門化学」「入門生物学」「天文学」「科学史」および「サイエンス・ラボ」からなる選択必修科目です。いずれも、文科系の初学者にもわかりやすく学ぶことができるよう工夫されています。

リベラルアーツ科目は、「数学特講」「発展数学」「教養物理学」「教養化学」および「教養生物学」からなる選択必修科目です。各自の興味に合わせて発展的な学習を行ってください。

なお、基礎数学および発展数学は順次性のある科目です。Ⅰ→Ⅱの順に履修する必要がありますので注意してください。

３群の履修を通して、学生の皆さんが自然科学そのものに興味を持つだけでなく、自然科学を通したものの見方を習得し、各自の専門分野における学習・研究に役立てることが期待されています。

≪2016 年度以前入学生≫

３群には、数学リテラシーと科学リテラシーを学ぶために、つぎの内容の６科目が開講されています。

「サイエンス・ラボ」: 生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を３人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。

「教養数学」: 具体的な問題を解くことで「わかった！」を感じながら、数学の美しさを体験してもらいます。

「基礎数学」: さまざまな分野、特に社会科学などへの応用ができることを目標として、数学の基本的な手法に親しんでもらいます。

「原子から宇宙まで」: 自然現象の背後にある物理法則を微視的立場で理解します。

「生命科学」: 宇宙から人間まで広い範囲の生命現象について、映像等を通じて紹介します。

「物質と環境」: 元素から出発して、化合物の生成のメカニズム、および物質変化の法則性を考え、さらに環境問題を自然科学の面から論じます。

＜留意点＞

2015 年度までに、「自然総合講座」A または B（あるいは両方）を履修して単位を取得したものは「サイエンス・ラボ」の履修はできません。2015 年度までに、「数学、情報を読むためにⅠ」を履修して単位を取得したものは「教養数学 A」を、また「数学、情報を読むためにⅡ」を履修して単位を取得したものは「教養数学 B」を履修できません。

MAT100LA
教養数学A 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A 2016年度以前入学者

平田　康史

授業コード：Q3001 2017年度以降入学者
授業コード：P3401 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法1年A〜G組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

〜　情報を読むために　〜

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学B 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B 2016年度以前入学者

平田　康史

授業コード：Q3002 2017年度以降入学者
授業コード：P3402 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法1年A〜G組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

〜　情報を読むために　〜

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学A 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A 2016年度以前入学者

平田　康史

授業コード：Q3003 2017年度以降入学者
授業コード：P3403 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法1年H〜N組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

〜　情報を読むために　〜

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学B 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B 2016年度以前入学者

平田　康史

授業コード：Q3004 2017年度以降入学者
授業コード：P3404 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法1年H〜N組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

〜　情報を読むために　〜

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学A　2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A　2016年度以前入学者

小木曽　岳義

授業コード：Q3005　2017年度以降入学者
授業コード：P3405　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法1年S〜Y組、国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子H_1、H_2、…、H_{15}と眼鏡G_1、G_2、…、G_{10}と付け髭M_1、M_2、…、M_{25}をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日はH_1、G_1、M_1の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りはH_{13}、G_8、M_{18}の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学B　2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B　2016年度以前入学者

小木曽　岳義

授業コード：Q3006　2017年度以降入学者
授業コード：P3406　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法1年S〜Y組、国1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学A　2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A　2016年度以前入学者

小木曽　岳義

授業コード：Q3007　2017年度以降入学者
授業コード：P3407　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文1年A・B・L〜N・W・X組、国1年、キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子H_1、H_2、…、H_{15}と眼鏡G_1、G_2、…、G_{10}と付け髭M_1、M_2、…、M_{25}をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日はH_1、G_1、M_1の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りはH_{13}、G_8、M_{18}の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学B　2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B　2016年度以前入学者

小木曽　岳義

授業コード：Q3008　2017年度以降入学者
授業コード：P3408　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文1年A・B・L〜N・W・X組、国1年、キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学A 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A 2016年度以前入学者

池田　宏一郎

授業コード：Q3011 2017年度以降入学者
授業コード：P3411 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：キ 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学B 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B 2016年度以前入学者

池田　宏一郎

授業コード：Q3012 2017年度以降入学者
授業コード：P3412 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：キ 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学A 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A 2016年度以前入学者

倉田　俊彦

授業コード：Q3013 2017年度以降入学者
授業コード：P3413 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：環 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　練習問題（40%）、試験（60%）

MAT100LA
教養数学B 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B 2016年度以前入学者

倉田　俊彦

授業コード：Q3014 2017年度以降入学者
授業コード：P3414 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：環 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　練習問題（40%）、試験（60%）

MAT100LA
教養数学A　2017年度以降入学者
MAT100LA
教養数学A　2016年度以前入学者

佐藤　洋祐

授業コード：Q3015　2017年度以降入学者
授業コード：P3415　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：環1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　1．整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2．整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3．実社会における応用として、公開鍵暗号RSAの仕組みについて理解する。公開鍵暗号RSAの仕組みについて理解する。

成績評価の方法と基準　小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA
教養数学B　2017年度以降入学者
MAT100LA
教養数学B　2016年度以前入学者

佐藤　洋祐

授業コード：Q3016　2017年度以降入学者
授業コード：P3416　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：環1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA
教養数学A　2017年度以降入学者
MAT100LA
教養数学A　2016年度以前入学者

佐藤　洋祐

授業コード：Q3017　2017年度以降入学者
授業コード：P3417　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：国環キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　1．整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2．整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3．実社会における応用として、公開鍵暗号RSAの仕組みについて理解する。公開鍵暗号RSAの仕組みについて理解する。

成績評価の方法と基準　小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA
教養数学B　2017年度以降入学者
MAT100LA
教養数学B　2016年度以前入学者

佐藤　洋祐

授業コード：Q3018　2017年度以降入学者
授業コード：P3418　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：国環キ1年/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA
教養数学A 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A 2016年度以前入学者

江口　直日

授業コード：Q3019 2017年度以降入学者
授業コード：P3419 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：環キ 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学B 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B 2016年度以前入学者

江口　直日

授業コード：Q3020 2017年度以降入学者
授業コード：P3420 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：環キ 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学A 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学A 2016年度以前入学者

江口　直日

授業コード：Q3021 2017年度以降入学者
授業コード：P3421 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1年 E～I・P～V 組・国 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標　①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT100LA
教養数学B 2017年度以降入学者

MAT100LA
教養数学B 2016年度以前入学者

江口　直日

授業コード：Q3022 2017年度以降入学者
授業コード：P3422 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文 1年 E～I・P～V 組・国 1年/法文営国環キ 2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標　①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2017年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2016年度以前入学者

若井　健太郎

授業コード：Q3031 2017年度以降入学者
授業コード：P3451 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年A〜C組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（準備編）〜

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ2/3）と課題提出（およそ1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2017年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2016年度以前入学者

若井　健太郎

授業コード：Q3032 2017年度以降入学者
授業コード：P3452 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営1年A〜C組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（微分編）〜

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ2/3）と課題提出（およそ1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2017年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2016年度以前入学者

松田　直祐

授業コード：Q3033 2017年度以降入学者
授業コード：P3453 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年D〜F組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（準備編）〜

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ2/3）と課題提出（およそ1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2017年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2016年度以前入学者

松田　直祐

授業コード：Q3034 2017年度以降入学者
授業コード：P3454 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営1年D〜F組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（微分編）〜

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ2/3）と課題提出（およそ1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2017年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2016年度以前入学者

池田　宏一郎

授業コード：Q3035 2017年度以降入学者
授業コード：P3455 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営1年G〜J組/法文営国環キ2-4年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（準備編）〜

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2017 年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2016 年度以前入学者

池田　宏一郎

授業コード：Q3036 2017 年度以降入学者
授業コード：P3456 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 G〜J 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（微分編）〜

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2017 年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2016 年度以前入学者

若井　健太郎

授業コード：Q3037 2017 年度以降入学者
授業コード：P3457 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 K〜M 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（準備編）〜

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2017 年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2016 年度以前入学者

若井　健太郎

授業コード：Q3038 2017 年度以降入学者
授業コード：P3458 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 K〜M 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（微分編）〜

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2017 年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅰ 2016 年度以前入学者

松田　直祐

授業コード：Q3039 2017 年度以降入学者
授業コード：P3459 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営 1 年 N〜Q 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（準備編）〜

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2017 年度以降入学者
MAT100LA
基礎数学Ⅱ 2016 年度以前入学者

松田　直祐

授業コード：Q3040 2017 年度以降入学者
授業コード：P3460 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営 1 年 N〜Q 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）
〜 社会科学を学ぶための数学（微分編）〜

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA

基礎数学Ⅰ 2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ 2016 年度以前入学者

倉田　俊彦

授業コード：Q3041 2017 年度以降入学者
授業コード：P3461 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 R～U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA

基礎数学Ⅱ 2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ 2016 年度以前入学者

倉田　俊彦

授業コード：Q3042 2017 年度以降入学者
授業コード：P3462 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 R～U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

PHY100LA

入門物理学A 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

井坂　政裕

授業コード：Q3051 2017 年度以降入学者
授業コード：P3021 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年A～G組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。
身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA

入門物理学B 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ 2016 年度以前入学者

井坂　政裕

授業コード：Q3052 2017 年度以降入学者
授業コード：P3022 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年A～G組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、２０世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。
本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA

入門物理学A 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

吉灘　好

授業コード：Q3053 2017 年度以降入学者
授業コード：P3023 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年H～N組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

到達目標 ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目的とする。

成績評価の方法と基準 春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

PHY100LA

入門物理学Ｂ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ 2016 年度以前入学者

吉灘　好

授業コード：Q3054 2017 年度以降入学者
授業コード：P3024 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年Ｈ～Ｎ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

到達目標 熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

成績評価の方法と基準 秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験 の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

PHY100LA

入門物理学Ａ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

井坂　政裕

授業コード：Q3055 2017 年度以降入学者
授業コード：P3025 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年Ｓ～Ｙ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。
身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA

入門物理学Ｂ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ 2016 年度以前入学者

井坂　政裕

授業コード：Q3056 2017 年度以降入学者
授業コード：P3026 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年Ｓ～Ｙ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、２０世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。
本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA

入門物理学Ａ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

鈴木　裕武

授業コード：Q3057 2017 年度以降入学者
授業コード：P3027 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年Ａ～Ｎ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物理学の根幹をなすニュートン力学とアインシュタインの特殊相対性理論の基礎を学ぶ。ニュートン力学では，身近な物体の運動を理解するための方法を知り，特殊相対性理論では，日常的な常識では理解できない宇宙の真理に迫る。物理学の基礎を学ぶと同時に物理的・科学的なものの見方も学ぶ。

到達目標 ニュートン力学によって身近な物体や人工衛星の運動が説明できることを理解する。また，理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては，時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど，一般的な常識を越えた宇宙の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して，理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど，配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート，期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに，授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく，合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA

入門物理学Ｂ　2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ　2016 年度以前入学者

鈴木　裕武

授業コード：Q3058　2017 年度以降入学者
授業コード：P3028　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年Ａ～Ｎ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　原子から宇宙まで，物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から，オーロラ，太陽の一生，ブラックホールなどの宇宙で起きている物理現象を解説する。宇宙空間で起きている物理現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

到達目標　放射線の基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている電磁気的現象を学び，それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

成績評価の方法と基準　平常評価（小テストなど，配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート，期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに，授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく，合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA

入門物理学Ａ　2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ　2016 年度以前入学者

石川　壮一

授業コード：Q3059　2017 年度以降入学者
授業コード：P3029　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年Ｐ～Ｘ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　・本講義では、多岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起こっている力とか運動に関係している現象を支配している法則（ニュートンの法則）とその応用について、歴史的側面を概観しながら基礎を解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

到達目標　・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

成績評価の方法と基準　平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を８割程度とする。

PHY100LA

入門物理学Ｂ　2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ　2016 年度以前入学者

石川　壮一

授業コード：Q3060　2017 年度以降入学者
授業コード：P3030　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年Ｐ～Ｘ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　・本講義では、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（蜃気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

到達目標　・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

成績評価の方法と基準　平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA

入門物理学Ａ　2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ　2016 年度以前入学者

石川　壮一

授業コード：Q3061　2017 年度以降入学者
授業コード：P3031　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　・本講義では、多岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起こっている力とか運動に関係している現象を支配している法則（ニュートンの法則）とその応用について、歴史的側面を概観しながら基礎を解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

到達目標　・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

成績評価の方法と基準　平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を８割程度とする。

PHY100LA

入門物理学Ｂ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ 2016 年度以前入学者

石川　壮一

授業コード：Q3062 2017 年度以降入学者
授業コード：P3032 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（蜃気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA

入門物理学Ａ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

井坂　政裕

授業コード：Q3063 2017 年度以降入学者
授業コード：P3033 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年Ｋ～Ｏ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。
身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA

入門物理学Ｂ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ 2016 年度以前入学者

井坂　政裕

授業コード：Q3064 2017 年度以降入学者
授業コード：P3034 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年Ｋ～Ｏ組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、２０世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。
本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA

入門物理学Ａ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

鈴木　裕武

授業コード：Q3065 2017 年度以降入学者
授業コード：P3035 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 Q～U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物理学の根幹をなすニュートン力学とアインシュタインの特殊相対性理論の基礎を学ぶ。ニュートン力学では，身近な物体の運動を理解するための方法を知り，特殊相対性理論では，日常的な常識では理解できない宇宙の真理に迫る。物理学の基礎を学ぶと同時に物理的・科学的なものの見方も学ぶ。

到達目標 ニュートン力学によって身近な物体や人工衛星の運動が説明できることを理解する。また，理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては，時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど，一般的な常識を越えた宇宙の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して，理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど，配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート，期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに，授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく，合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA

入門物理学Ｂ 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ 2016 年度以前入学者

鈴木　裕武

授業コード：Q3066 2017 年度以降入学者
授業コード：P3036 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 Q～U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子から宇宙まで，物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から，オーロラ，太陽の一生，ブラックホールなどの宇宙で起きている物理現象を解説する。宇宙空間で起きている物理現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

到達目標 放射線の基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている電磁気的現象を学び，それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

成績評価の方法と基準　平常評価（小テストなど，配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート，期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに，授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく，合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA

入門物理学 A　2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで Ⅰ　2016 年度以前入学者

吉灘　好

授業コード：Q3067　2017 年度以降入学者
授業コード：P3037　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

到達目標　ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目的とする。

成績評価の方法と基準　春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

PHY100LA

入門物理学 B　2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで Ⅱ　2016 年度以前入学者

吉灘　好

授業コード：Q3068　2017 年度以降入学者
授業コード：P3038　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

到達目標　熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

成績評価の方法と基準　秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験 の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

BIO100LA

入門生物学 A　2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

木原　章

授業コード：Q3081　2017 年度以降入学者
授業コード：P3051　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 A〜N 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、ＤＮＡから細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどの様な影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標　本授業の到達目標は２つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだというと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準　授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。
【成績に関わるルール】
1．単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2．授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3．授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA

入門生物学 B　2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

木原　章

授業コード：Q3082　2017 年度以降入学者
授業コード：P3052　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法 1 年 A〜N 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 ＋ 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標　本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだというと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけ

てもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。
【成績に関わるルール】
1．単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2．授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3．授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA
入門生物学 A 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学 I 2016 年度以前入学者

木原　章

授業コード：Q3083 2017 年度以降入学者
授業コード：P3053 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 S〜Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、ＤＮＡから細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどの様な影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだというと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。
【成績に関わるルール】
1．単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2．授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3．授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA
入門生物学 B 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学 II 2016 年度以前入学者

木原　章

授業コード：Q3084 2017 年度以降入学者
授業コード：P3054 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 S〜Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだというと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。
【成績に関わるルール】
1．単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2．授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3．授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA
入門生物学 A 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学 I 2016 年度以前入学者

水澤　博

授業コード：Q3085 2017 年度以降入学者
授業コード：P3055 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：文 1 年 A〜X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会は少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の場まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身に着けておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことにもなるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろ

うと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた21世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていたのか」と驚き、感動するのではないだろうか。
生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている60兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が60兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは1個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して６０兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する1対のゲノムＤＮＡ(2n)は、複製と分離を繰り返して６０兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、６０兆個全ての細胞にＡＴＧＣ文字で書かれた同じゲノムＤＮＡが存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違ってるということは無いのだろうか？ 1個の細胞から６０兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、ＤＮＡが複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、ＤＮＡは細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO100LA
入門生物学Ｂ 2017年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅱ 2016年度以前入学者

町田　郁子

授業コード：Q3086 2017年度以降入学者
授業コード：P3056 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：文１年 A～X 組、環１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学Ｂ」では、マクロレベルの生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。地球上には、多種多様な生物が存在しており、生命活動を営んでいます。どのようにして多くの生物種が誕生するに至ったのか、また生物が共通して持つ機能や性質・種特有の特徴などについて学ぶことにより、生物が環境に適応し他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

到達目標 生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めることを目標とします。
また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

成績評価の方法と基準 毎回の授業時に提出するショートレポート（５０％）および期末試験（５０％）。（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

BIO100LA
入門生物学Ａ 2017年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅰ 2016年度以前入学者

宇野　真介

授業コード：Q3087 2017年度以降入学者
授業コード：P3057 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：営１年 A～J 組、キ１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、DNAから細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の2点です。1）人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得。2）取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝20％、提出課題＝30％、期末試験＝50％を基本とします。小テストは学期中旬に1回実施。提出課題として、指定された授業について300字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝９０％以上　A＝８０～８９％　B＝７０～７９％　C＝６０～６９％　D（不合格）＝５９％以下。

BIO100LA
入門生物学Ｂ 2017年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅱ 2016年度以前入学者

宇野　真介

授業コード：Q3088 2017年度以降入学者
授業コード：P3058 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：営１年 A～J 組、キ１年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の2点です。1）社会的に重要視されている諸問題について、より深い理解に至るための基礎知識の取得。2）取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝20％、提出課題＝30％、期末試験＝50％を基本とします。小テストは学期中旬に1回実施。提出課題として、指定された授業について300字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝９０％以上　A＝８０～８９％　B＝７０～７９％　C＝６０～６９％　D（不合格）＝５９％以下。

BIO100LA

入門生物学Ａ　2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅰ　2016 年度以前入学者

宇野　真介

授業コード：Q3089　2017 年度以降入学者
授業コード：P3059　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 K〜U 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1）人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得。2）取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝ 20 %、提出課題＝ 30 %、期末試験＝ 50 %を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+ = ９０%以上　A = ８０〜８９%　B = ７０〜７９%　C = ６０〜６９%　D（不合格） = ５９%以下。

BIO100LA

入門生物学Ｂ　2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ　2016 年度以前入学者

宇野　真介

授業コード：Q3090　2017 年度以降入学者
授業コード：P3060　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 K〜U 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1）社会的に重要視されている諸問題について、より深い理解に至るための基礎知識の取得。2）取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝ 20 %、提出課題＝ 30 %、期末試験＝ 50 %を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+ = ９０%以上　A = ８０〜８９%　B = ７０〜７９%　C = ６０〜６９%　D（不合格） = ５９%以下。

BIO100LA

入門生物学Ａ　2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅰ　2016 年度以前入学者

木原　章

授業コード：Q3091　2017 年度以降入学者
授業コード：P3061　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、ＤＮＡから細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどの様な影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は２つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだというと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。
【成績に関わるルール】
１．単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
２．授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
３．授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA

入門生物学Ｂ　2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ　2016 年度以前入学者

木原　章

授業コード：Q3092　2017 年度以降入学者
授業コード：P3062　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだというと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけ

てもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。
【成績に関わるルール】
1．単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2．授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3．授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA
入門生物学 A 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学 I 2016 年度以前入学者

水澤　博

授業コード：Q3093 2017 年度以降入学者
授業コード：P3063 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会は少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の場まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身に着けておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことにもなるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろうと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた 21 世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていたのか」と驚き、感動するのではないだろうか。
生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている 60 兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が 60 兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは１個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して６０兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する１対のゲノムＤＮＡ (2n) は、複製と分離を繰り返して６０兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、６０兆個全ての細胞にＡＴＧＣ文字で書かれた同じゲノムＤＮＡが存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違ってるということは無いのだろうか？ １個の細胞から６０兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、ＤＮＡが複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、ＤＮＡは細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO100LA
入門生物学 A 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学 I 2016 年度以前入学者

水澤　博

授業コード：Q3095 2017 年度以降入学者
授業コード：P3065 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会は少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の場まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身に着けておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことにもなるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろうと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた 21 世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていたのか」と驚き、感動するのではないだろうか。
生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている 60 兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が 60 兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは１個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して６０兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する１対のゲノムＤＮＡ (2n) は、複製と分離を繰り返して６０兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、６０兆個全ての細胞にＡＴＧＣ文字で書かれた同じゲノムＤＮＡが存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違ってるということは無いのだろうか？ １個の細胞から６０兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、ＤＮＡが複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、ＤＮＡは細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

CHM100LA
入門化学 A 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境 I 2016 年度以前入学者

向井　知大

授業コード：Q3111 2017 年度以降入学者
授業コード：P3081 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

到達目標 自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。(配分 100%)

CHM100LA
入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

向井　知大

授業コード：Q3112 2017 年度以降入学者
授業コード：P3082 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

到達目標 現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。(配分 100%)

CHM100LA
入門化学Ａ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

小林　令子

授業コード：Q3113 2017 年度以降入学者
授業コード：P3083 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 I～N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA
入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

小林　令子

授業コード：Q3114 2017 年度以降入学者
授業コード：P3084 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 I～N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、人体や環境に有害な化学物質について学習します。また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA
入門化学Ａ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

中田　和秀

授業コード：Q3115 2017 年度以降入学者
授業コード：P3085 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA
入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

中田　和秀

授業コード：Q3116 2017 年度以降入学者
授業コード：P3086 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA

入門化学Ａ 2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

中田　和秀

授業コード：Q3117 2017 年度以降入学者
授業コード：P3087 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA

入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

中田　和秀

授業コード：Q3118 2017 年度以降入学者
授業コード：P3088 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA

入門化学Ａ 2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

御代川　貴久夫

授業コード：Q3119 2017 年度以降入学者
授業コード：P3089 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：文 1 年 P～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） （1）エネルギー保存則、エントロピー、エネルギーの変換といったエネルギー科学の基礎、（2）化石燃料の種類、埋蔵量、化石燃料の資源としての将来性、熱汚染、（3）核壊変、原子力発電所の原理と実際、放射性物質の生物への影響、（4）太陽光エネルギー、地熱発電など更新性エネルギーの利用、（5）エネルギー収支の計算法などについて解説する。

到達目標 エネルギーの利用が環境に及ぼす影響について理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA

入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

御代川　貴久夫

授業コード：Q3120 2017 年度以降入学者
授業コード：P3090 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 P～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） （1）大気、水、岩石圏の地球科学および生態学について基礎的な知識の説明、（2）SPM、SOx、NOx などによる大気汚染と対策技術、（3）酸性雨の発生機構と環境への影響、（4）フロン類によるオゾン層の破壊と保護への国際協力、（5）二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球の温暖化とその人類への影響、および（6）ダイオキシンのような化学物質による環境汚染、（7）リサイクルなどについて解説する。

到達目標 現在の環境問題の自然科学的側面を理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA

入門化学Ａ 2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

小林　令子

授業コード：Q3121 2017 年度以降入学者
授業コード：P3091 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知

識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA
入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

小林　令子

授業コード：Q3122 2017 年度以降入学者
授業コード：P3092 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：営 1 年 A〜J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、人体や環境に有害な化学物質について学習します。また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA
入門化学Ａ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

中田　和秀

授業コード：Q3123 2017 年度以降入学者
授業コード：P3093 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象： 文 1 年 A〜N 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。(100%)

CHM100LA
入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

中田　和秀

授業コード：Q3124 2017 年度以降入学者
授業コード：P3094 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：文 1 年 A〜N 組/法文営国環キ 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。(100%)

CHM100LA
入門化学Ａ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

御代川　貴久夫

授業コード：Q3125 2017 年度以降入学者
授業コード：P3095 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） （1）エネルギー保存則、エントロピー、エネルギーの変換といったエネルギー科学の基礎、（2）化石燃料の種類、埋蔵量、化石燃料の資源としての将来性、熱汚染、（3）核壊変、原子力発電所の原理と実際、放射性物質の生物への影響、（4）太陽光エネルギー、地熱発電など更新性エネルギーの利用、（5）エネルギー収支の計算法などについて解説する。

到達目標 エネルギーの利用が環境に及ぼす影響について理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA
入門化学Ｂ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅱ 2016 年度以前入学者

御代川　貴久夫

授業コード：Q3126 2017 年度以降入学者
授業コード：P3096 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） （1）大気、水、岩石圏の地球科学および生態学について基礎的な知識の説明、（2）SPM、SOx、NOx などによる大気汚染と対策技術、（3）酸性雨の発生機構と環境への影響、（4）フロン類によるオゾン層の破壊と保護への国際協力、（5）二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球の温暖化とその人類への影響、および（6）ダイオキシンのような化学物質による環境汚染、（7）リサイクルなどについて解説する。

到達目標 現在の環境問題の自然科学的側面を理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

NAS100LA
サイエンス・ラボA 2017 年度以降入学者
NAS100LA
サイエンス・ラボA 2016 年度以前入学者

各担当者

授業コード：**各授業による** 2017 年度以降入学者
授業コード：**各授業による** 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板参照）

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は，植物が行う光合成のしくみや，光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は，動物と光の様々な関係（光走性，概日リズムなど）を学んだ上で，人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

到達目標 自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

NAS100LA
サイエンス・ラボB 2017 年度以降入学者
NAS100LA
サイエンス・ラボB 2016 年度以前入学者

各担当者

授業コード：**各授業による** 2017 年度以降入学者
授業コード：**各授業による** 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板参照）

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見，遺伝子の本体が DNA であることの証明，それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

到達目標 自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

ASR100LA
天文学A 2017 年度以降入学者
ASR100LA
天文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

福島　登志夫

授業コード：Q3171 2017 年度以降入学者
授業コード：P3111 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

到達目標 宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（１００%）による。

ASR100LA
天文学B 2017 年度以降入学者
ASR100LA
天文学Ⅱ 2016 年度以前入学者

福島　登志夫

授業コード：Q3172 2017 年度以降入学者
授業コード：P3112 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

到達目標 天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（１００%）による。

ASR100LA
天文学A 2017 年度以降入学者
ASR100LA
天文学Ⅰ 2016 年度以前入学者

下井倉　ともみ

授業コード：Q3173 2017 年度以降入学者
授業コード：P3113 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙・地球の全体像や形成の歴史を概観する。

到達目標 ・恒星、銀河、宇宙の構成に関する基礎知識を身に付ける。
・基本的な法則・原理が自然現象とどのように結びつき、我々がどのように宇宙を理解してきたのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 レポート (30%程度)、期末試験を行う (70 %程度)。また、授業中の問いかけに対する反応を成績評価に加味することがある。

ASR100LA
天文学 B 2017 年度以降入学者
ASR100LA
天文学 Ⅱ 2016 年度以前入学者

下井倉　ともみ

授業コード：Q3174 2017 年度以降入学者
授業コード：P3114 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 太陽系、星間物質、星の進化・元素の合成と物質の輪廻、銀河、膨張する宇宙など、現代の科学が解明した宇宙の姿を紹介する。

到達目標 ・恒星、銀河、宇宙の構成に関する基礎知識を身に付ける。
・宇宙空間の諸現象について、その概要を学ぶ。

成績評価の方法と基準 レポート (30%程度)、期末試験を行う (70 %程度)。また、授業中の問いかけに対する反応を成績評価に加味することがある。

ASR100LA
天文学 A 2017 年度以降入学者
ASR100LA
天文学 Ⅰ 2016 年度以前入学者

福島　登志夫

授業コード：Q3175 2017 年度以降入学者
授業コード：P3115 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

到達目標 宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（１００%）による。

ASR100LA
天文学 B 2017 年度以降入学者
ASR100LA
天文学 Ⅱ 2016 年度以前入学者

福島　登志夫

授業コード：Q3176 2017 年度以降入学者
授業コード：P3116 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

到達目標 天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（１００%）による。

SHS100LA
科学史 A 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅰ 2016 年度以前入学者

谷本　勉

授業コード：Q3181 2017 年度以降入学者
授業コード：P3121 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA
科学史 B 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅱ 2016 年度以前入学者

谷本　勉

授業コード：Q3182 2017 年度以降入学者
授業コード：P3122 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA
科学史 A 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅰ 2016 年度以前入学者

大橋　由紀夫

授業コード：Q3183 2017 年度以降入学者
授業コード：P3123 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 東アジアの伝統科学史について講義する。（科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観できることになる。）

到達目標 東アジアにおける社会と伝統科学の関係について理解を深める。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート。

SHS100LA
科学史 B 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅱ 2016 年度以前入学者

大橋　由紀夫

授業コード：Q3184 2017 年度以降入学者
授業コード：P3124 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代地中海世界・イスラーム世界の伝統科学史、および、近代科学成立発展史を講義する。（科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観できることになる。）

到達目標 近代科学の成立事情とともに、科学的な研究方法についても理解を深める。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート。

SHS100LA
科学史 A 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅰ 2016 年度以前入学者

谷本　勉

授業コード：Q3185 2017 年度以降入学者
授業コード：P3125 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA
科学史 B 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅱ 2016 年度以前入学者

谷本　勉

授業コード：Q3186 2017 年度以降入学者
授業コード：P3126 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA
科学史 A 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅰ 2016 年度以前入学者

谷本　勉

授業コード：Q3187 2017 年度以降入学者
授業コード：P3127 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA
科学史 B 2017 年度以降入学者
SHS100LA
科学史 Ⅱ 2016 年度以前入学者

谷本　勉

授業コード：Q3188 2017 年度以降入学者
授業コード：P3128 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

MAT200LA
数学特講 LA 2017 年度以降入学者
MAT100LA
教養数学 A 2016 年度以前入学者

安東　祐希

授業コード：Q3201 2017 年度以降入学者
授業コード：P3423 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 線形代数学を学ぶ。特に、比例関係を複数の変数に拡張して得られる式について考察する。

到達目標 次のような計算ができ、さらにそれを応用することができる。
・行列演算と行列式計算
・逆行列の導出
「参考書」欄に紹介した書籍（３冊目）の問題から、応用例を一つ以下に挙げよう。
～～～
ある国では、インフルエンザが流行するのを防ぐために、予防接種をしたいと思っている。ただし、インフルエンザのウイルスには１と２の２

種類があるとし、ワクチン１はウイルス１に対しては 85 %の有効性をもち、ウイルス２に対しては 70 %の有効性をもっているものとし、またもう１つのワクチン２はウイルス１に対しては 60 %、ウイルス２に対しては 90 %の有効性をもっているものとする。いま、ウイルス１、２の比率がどうなっているかは全く分からないものとして、この国の「政府」が決定すべきワクチンの利用比率を求めよ。

成績評価の方法と基準 到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

MAT200LA
数学特講 LB 2017 年度以降入学者
MAT100LA
教養数学 B 2016 年度以前入学者

安東　祐希

授業コード：Q3202 2017 年度以降入学者
授業コード：P3424 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 線形代数学を学ぶ。特に、複数変数に拡張した比例関係について、図形的理解を進める。

到達目標 次のような計算ができ、さらにそれを応用することができる。
・連立一次方程式の解法
・固有値と固有ベクトル
「参考書」欄に紹介した書籍（３冊目）の問題から、応用例を一つ以下に挙げよう。
～～～
ある大学の同窓会で、卒業生からの寄付金の状況を調査したところ、１つの年度に寄付をしてくれた卒業生のうちの 80 %がその次の年度にも寄付をしてくれ、１つの年度に寄付をしてくれなかった卒業生のうちの 30 %が次の年度には寄付をしてくれるということがわかったという。このとき、ある年度の卒業生だけに限って調べた場合、卒業の１年後、２年後、さらには一般にｎ年後に寄付をしてくれる人としてくれない人の割合を求め、それに従って、割合がどのように変化してゆくかについて説明せよ。

成績評価の方法と基準 到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

MAT200LA
発展数学ＬⅠ 2017 年度以降入学者
MAT200LA
発展数学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

池田　宏一郎

授業コード：Q3211 2017 年度以降入学者
授業コード：P3481 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学に必要不可欠な数学（１変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が１変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理的解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

到達目標 いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、２変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT200LA
発展数学ＬⅡ 2017 年度以降入学者
MAT200LA
発展数学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

池田　宏一郎

授業コード：Q3212 2017 年度以降入学者
授業コード：P3482 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学に必要不可欠な数学（２変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に２変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

到達目標 与えられた２変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT200LA
発展数学ＬⅠ 2017 年度以降入学者
MAT200LA
発展数学Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

倉田　俊彦

授業コード：Q3213 2017 年度以降入学者
授業コード：P3483 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学に必要不可欠な数学（１変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が１変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理的解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

到達目標 いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、２変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学 II」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（80%）、平常点 (20%)

MAT200LA

発展数学ＬⅡ 2017 年度以降入学者

MAT200LA

発展数学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

倉田　俊彦

授業コード：Q3214 2017 年度以降入学者
授業コード：P3484 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国環キ 2-4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学に必要不可欠な数学（２変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に２変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

到達目標 与えられた２変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（80%）、平常点 (20%)

PHY200LA

教養物理学 LA 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

石川　壮一

授業コード：Q3221 2017 年度以降入学者
授業コード：P3039 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） サブタイトルを「宇宙と地球」とする。我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

到達目標 ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。

PHY200LA

教養物理学 LA 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅠ 2016 年度以前入学者

石川　壮一

授業コード：Q3222 2017 年度以降入学者
授業コード：P3040 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） サブタイトルを「宇宙と地球」とする。我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

到達目標 ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。

BIO200LA

教養生物学ＬＡ 2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

水澤　博

授業コード：Q3232 2017 年度以降入学者
授業コード：P3064 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の科学ニュースには『生命』や『健康』に関連する話題がとても多いことに気が付いているだろうか。毎日のことなので、特に多いという実感は無いのかもしれないがめっきり増えた。私が 1960 年代後半に大学（生物学科）に入学した当時、高校の先生方がこれからは生命科学の時代になるよと言っていたことを思い出す。そして 50 年後の今、確かにバイオの時代となった。
かつて死の病と恐れられていた『がん』という病気が一部とは言え『治る』病気になってきたことは驚きである。実際、私の周囲にもガンに罹ったが治療して心配は無くなったと語ってくれる友人は多い。とても印象深いことは、若い方ががんに罹患した場合、子供を生むことが現実の課題になってきていることである。
もう一つ、生命科学の発展を後押しする発見が iPS 細胞だ。この iPS 細胞の登場は、常識をひっくり返した。遺伝子の働きによって、細胞が後戻りすることが有りうることを示したのだ。そして、基礎的な分子生物学研究の成果を元に iPS 細胞の後戻りとがんの発生に共通性があることが明らかになった。
そこで、秋学期の教養生物学では、『iPS 細胞』と『がん細胞』に焦点を当てて、細胞と遺伝子の結びつきについて学ぶことにする。今でも、がんに罹患すると不治の病であると信じ、非科学的な悪徳医療に騙されるケースも後を絶たない。科学的に見ることによって騙されない体質を作ることは重要である。
なお、本講義は、遺伝子、ＤＮＡ，ＲＮＡ，タンパク質、翻訳、転写など、高等学校・生物ＩＩ程度の知識を持っていることを前提として話します。

到達目標 『がん』という病気と『iPS』細胞の共通性について、細胞に存在する様々なタンパク質や遺伝子がかかわっていることを理解することが目標である。また、ヒトの、発生、成長、分化の仕組や、成長の逆行など、遺伝子とタンパク質の連携や、それらと生命とのかかわりを理解することを目標とする。また、新しくわかってきた『病気が起こる仕組』みについて理解を深めることも目標としたい。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO200LA

教養生物学ＬＡ 2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

水澤　博

授業コード：Q3234 2017 年度以降入学者
授業コード：P3066 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の科学ニュースには『生命』や『健康』に関連する話題がとても多いことに気が付いているだろうか。毎日のことなので、特に多いという実感は無いのかもしれないがめっきり増えた。私が 1960 年代後半に大学（生物学科）に入学した当時、高校の

先生方がこれからは生命科学の時代になるよと言っていたことを思い出す。そして50年後の今、確かにバイオの時代となった。
かつて死の病と恐れられていた『がん』という病気が一部とは言え『治る』病気になってきたことは驚きである。実際、私の周囲にもガンに罹ったが治療して心配は無くなったと語ってくれる友人は多い。とても印象深いことは、若い方ががんに罹患した場合、子供を生むことが現実の課題になってきていることである。
もう一つ、生命科学の発展を後押しする発見がiPS細胞だ。このiPS細胞の登場は、常識をひっくり返した。遺伝子の働きによって、細胞が後戻りすることが有りうることを示したのだ。そして、基礎的な分子生物学研究の成果を元にiPS細胞の後戻りとがんの発生に共通性があることが明らかになった。
そこで、秋学期の教養生物学では、『iPS細胞』と『がん細胞』に焦点を当てて、細胞と遺伝子の結びつきについて学ぶことにする。今でも、がんに罹患すると不治の病であると信じ、非科学的な悪徳医療に騙されるケースも後を絶たない。科学的に見ることによって騙されない体質を作ることは重要である。
なお、本講義は、遺伝子、ＤＮＡ，ＲＮＡ，タンパク質、翻訳、転写など、高等学校・生物ＩＩ程度の知識を持っていることを前提として話します。

到達目標 『がん』という病気と『iPS』細胞の共通性について、細胞に存在する様々なタンパク質や遺伝子がかかわっていることを理解することが目標である。また、ヒトの、発生、成長、分化の仕組や、成長の逆行など、遺伝子とタンパク質の連携や、それらと生命とのかかわりを理解することを目標とする。また、新しくわかってきた『病気が起こる仕組』みについて理解を深めることも目標としたい。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO200LA
教養生物学ＬＢ 2017年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

本川　達雄

授業コード：Q3235 2017年度以降入学者
授業コード：P3067 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものとどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものかが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なのかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直してみることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA
教養生物学ＬＢ 2017年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

本川　達雄

授業コード：Q3237 2017年度以降入学者
授業コード：P3069 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものとどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものかが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なのかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直してみることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA
教養生物学ＬＢ 2017年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

本川　達雄

授業コード：Q3239 2017年度以降入学者
授業コード：P3071 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものとどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものかが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なのかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直し

てみることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA
教養生物学ＬＣ 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

本川　達雄

授業コード：Q3242 2017 年度以降入学者
授業コード：P3068 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているのだろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすのか、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA
教養生物学ＬＣ 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

本川　達雄

授業コード：Q3244 2017 年度以降入学者
授業コード：P3070 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているのだろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすのか、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA
教養生物学ＬＣ 2017 年度以降入学者
BIO100LA
生命科学Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

本川　達雄

授業コード：Q3246 2017 年度以降入学者
授業コード：P3072 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているのだろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすのか、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

CHM200LA
教養化学ＬＡ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**エネルギーの科学**

向井　知大

授業コード：Q3261 2017 年度以降入学者
授業コード：P3097 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

到達目標 エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標にして下さい。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。(配分 100%)

CHM200LA
教養化学ＬＡ 2017 年度以降入学者
CHM100LA
物質と環境Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**エネルギーの科学**

中島　弘一

授業コード：Q3262 2017 年度以降入学者
授業コード：P3098 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではエネルギーと環境をテーマに、エネルギーを作り出す仕組みとそれに伴う環境問題について理解することを目標にします。
原子力は事故があったときの放射能漏れだけが問題なのではありません。温室効果ガスと地球温暖化も理屈を知っておく必要があります。太陽電池や燃料電池もそのメリット、デメリットを知っておく必要があります。社会の一員として今後のエネルギー利用を、問題点を理解したうえで、自らが適切に判断できる理解力を養います。

到達目標 原子力エネルギーとは何か、利用に際してどういう問題があるのかという知識が身につく。石油や石炭を燃やしてどのように電気に変換されるのか？ 温暖化とどうリンクしているのかを理解できる。自然エネルギーが抱える問題点は何か？ 水素を利用した燃料電池の特徴に関する知識が得られる。また、現状残されている課題を知識として得ることができる。

成績評価の方法と基準 毎時限、講義の最後に小テストを行い、その結果（３０％）と期末試験の成績（７０％）をもとに評価する。

CHM200LA

教養化学ＬＢ　2017年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**環境化学**

中島　弘一

授業コード：Q3263　2017年度以降入学者
授業コード：P3099　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 科学技術の発達によって、人類は着実に生命のなぞを解き明かしつつあります。そして不完全ながらもその知識をもとに、多種多様な薬品、食品添加物、あるいは技術が生み出され応用されて来ています。ホルモンの仕組みから筋肉増強剤や避妊薬の開発、遺伝子操作による害虫や農薬に強い作物への改良、倫理的な問題が不透明なまま利用されているものも少なくありません。この授業では、はじめに過去の公害事例についてその原因等を概説した後、日用品や食品など、身の回りの化学物質についての環境問題を取り上げながら、生命を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の働きなどとの関連を解説します。

到達目標 過去の公害問題の概要を理解する。
生命に関係する物質がどういう分子構造をもち、どのような働きを持って機能しているかを理解することができる。例えば、食事を取って、それがエネルギーに変換される、あるいは、身体そのものに変化する仕組みを理解できる。
体の中での物質の認識の仕組みを理解できる。例えば、免疫反応の仕組みや、でんぷんを消化できて、セルロースを消化できない理由を理解できる。
合成品が生命に与える影響を理解できる。

成績評価の方法と基準 基本的には期末試験の成績（９０％）をもとにしますが、毎回出席を取り、授業への積極的な参加度（１０％）も勘案します。

CHM200LA

教養化学ＬＢ　2017年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**環境問題を考えるための化学**

西村　直美

授業コード：Q3264　2017年度以降入学者
授業コード：P3100　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在、地球が直面している環境問題は深刻である。環境問題を解決するためには、その問題点をメカニズムから理解することが大切である。そのためには基本的な化学の理解が必須である。本講座は環境問題を考えることを最終目的とするが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的とした。

到達目標 最終的には現在地球が直面している問題点を理解してもらい、その解決策を探るために必要な知識としての化学を理解してもらうことが目標である。

成績評価の方法と基準 出席(20％)、小テスト(20％)、レポート(20％)、期末試験(40％)を総合的に評価します。

ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目

４群（外国語科目群）

≪2017 年度以降入学者≫

４群には英語と英語以外の諸外国語〔ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語（留学生のみ)〕があります。

＜英語＞

ILAC 科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

ILAC 科目のうち英語科目の構成は、１００番台必修科目（１年次・２科目)、２００番台選択必修科目（２年次・１科目)、選択科目（１～４年次）に大別されます。必修科目は、英語運用能力の向上を目指す English１（リーディング系）と English２（表現系）で、選択必修科目は、１年次に培った力を総合的に展開する English３（テーマ別、４技能統合型）で、いずれも習熟度別・少人数編成のクラスで行われます。選択科目は、レベル別に開講されている多様な科目のなかから、自由に選んで、1 年次から履修することができます（ただし、必修科目ならびに選択必修科目の英語単位は３年次までに修得することが必要です)。

また上記の科目のほかに、さらに総合的な英語能力を伸ばすための授業として、総合科目（教養ゼミ）（２～４年次）が開講されます（2018 年度からの開講)。総合科目は、専門科目として扱われ、修得単位は専門科目の単位となります。そのほか、グローバル・オープン科目として開講される、Intercultural Communication A～D もあります（詳しくは WEB シラバスを参照)。この４科目は２００番台リベラルアーツ科目として認定されます。

＜諸外国語＞

「諸外国語」は、それぞれの言語を学びながら、その言語が用いられている地域の歴史・文化・生活に接し、理解を深めることを目的に開講されています。

外国語科目は、必修諸外国語（１・２年次)、選択必修外国語（２年次以上)、選択外国語（２年次以上)、さらにリベラルアーツ科目と総合科目から構成されています。必修諸外国語では、大学で新しく出会う外国語の基礎を１年次に学び、その基礎力を用いて２年次にさらなる学習を続けます。また、せっかく学び始めた外国語の能力をより高めたい場合には、１年次秋に英語と諸外国語から選ぶ選択必修外国語で、諸外国語を選択すると、より多くの学習の機会を楽しむことができます。そのほかに、選択外国語には、各言語それぞれに「＊＊語コミュニケーション」「＊＊語視聴覚」「時事＊＊語」などバラエティ豊かな科目が設置され、さまざまなアプローチから外国語に接し、語学力の修得とともに生きた外国語の世界に触れながら４年次まで学習を続けることができます。

リベラルアーツ科目には、１年次から学べる「＊＊語の世界Ｌ」という入門のための科目があります。２

年次からの「＊＊の文化と社会Ｌ」では、その言語が話される地域の文化や生活を広く深く学ぶことができます。総合科目では、それまでに学習した外国語の能力を十分に生かしつつ、より高度で専門的な内容を学んでいきます。また、総合科目の中には、英語と諸外国語を一つ学んだのちに、さらにもう一つの外国語の世界に触れてみたいと思うグローバルな関心を抱く学生のために「第三外国語としての＊＊語」という科目があります。※言語によっては開講されていない科目があります。

このように、法政大学では、とても多彩な外国語の世界がみなさんを待っています。

なお、選択外国語科目のテキストは、担当教員より受講が許可されてから購入してください。

≪2016 年度以前入学者≫

４群には英語と英語以外の諸外国語〔ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語（留学生のみ)〕があります。

＜英語＞

基礎科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

基礎科目の構成は、必修科目（１年次・２科目）と選択科目（１～４年次）に大別されます。必修科目は、English１（リーディング系）とEnglish２（表現系）で、習熟度別・少人数編成のクラスで行われます。選択科目は、レベル別に開講されている多様な科目のなかから、自由に選んで、１年次から履修することができます（ただし、必修科目の英語単位は３年次までに修得することが必要です)。

また、基礎科目のほかに、グローバル・オープン科目として開講される、Intercultural Communication A～D もあります（詳しくは WEB シラバスを参照)。この４科目は基礎科目４群（選択）として認定されます。

＜諸外国語＞

「諸外国語」は、それぞれの言語を学びながら、その言語が用いられている地域の歴史・文化・生活に接し、理解を深めることを目的に開講されています。１年次には０群に「～語の世界」という入門のための科目も用意してあります。

ロシア語以外の外国語には、クラス授業以外に、クラス授業と代替できる選択必修科目があります。「ドイツ語」には、「コミュニケーション」「表現法」「視聴覚」「時事ドイツ語」「検定ドイツ語」などがあります。「フランス語」には、「コミュニケーション」「視聴覚」「時事フランス語」「検定フランス語」「情報フランス語」などがあります。「中国語」には、「コミュニケーション」「表現法」「視聴覚」「検定中国語」などがあります。「スペイン語」には、「コミュニケーション」「講読」「時事スペイン語」などがあります。「朝鮮語」には、「コミュニケーション」「講読」「表現法」「視聴覚」などがあります。

「ロシア語」は、基礎知識から学び、ロシア社会の理解を目的としています。「中国語」は１年次から生活会話を中心とした授業を組み、２年次では各種文体の読解力増強を図ります。「スペイン語」は、１年次を基礎コースとし、文法・講読を、２年次に小説・エッセイ等を用いて読解力を深めます。「朝鮮語」は、１年次には発音・文字・文法など総合的な基礎を固め、２年次には読解力や表現力を深めます。

なお、選択科目のテキストは、担当教員より受講が許可されてから購入してください。

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 LA　2017 年度以降入学者

ARSa200LA

ドイツの文化と社会Ⅰ　2016 年度以前入学者

内田　俊一

授業コード：R4297　2017 年度以降入学者
授業コード：P6659　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「ローレライ」や「野ばら」、「菩提樹」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は誰でも知っているでしょう。またドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聴けば、、あぁ、あの曲かとわかるでしょう。ＣＤ等を使ってそのような歌の数々を鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。さらに、取り上げた曲の背後にある、成立当時の社会状況等についての解説も加えます。そのようにしてドイツ文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。

到達目標 ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行います。受講者数が少ない場合は、平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でもドイツ語未習者には必ず試験（歌詞の和訳）を課します。成績評価基準：試験５０％＋平常点５０％

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 LB　2017 年度以降入学者

ARSa200LA

ドイツの文化と社会Ⅱ　2016 年度以前入学者

内田　俊一

授業コード：R4298　2017 年度以降入学者
授業コード：P6660　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、ドイツ語の歌を鑑賞し、歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。そのようにしてドイツの文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。なお、ドイツ語未修者の秋学期のみの履修は認めません。

到達目標 ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行います。受講者が少ない場合は平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でも、ドイツ語未修者には必ず試験（歌詞の和訳）を課します。成績評価基準：試験 50 ％＋平常点 50 ％

ARSa200LA

ドイツ語の世界ＬＡ　2017 年度以降入学者

ARSa100LA

ドイツ語の世界Ⅰ　2016 年度以前入学者

D．ハイデンライヒ

授業コード：R4295　2017 年度以降入学者
授業コード：P0401　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Literarische Plätze*《文学名所》

春学期はロマン主義とライン川を出発点として、様々な文学名所を体験しながら、ドイツ語とドイツ文化を探る。

到達目標 ◦「文学名所」というテーマを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
◦ 映画の解釈方法を身につける。
◦ 異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）： 60%
学期末試験： 40%
受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

ARSa200LA

ドイツ語の世界ＬＢ　2017 年度以降入学者

ARSa100LA

ドイツ語の世界Ⅱ　2016 年度以前入学者

D．ハイデンライヒ

授業コード：R4296　2017 年度以降入学者
授業コード：P0402　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Deutsche Charaktere, Figuren und Helden*《ドイツのシンボルキャラクター》。秋学期はハーメルンの笛吹き男、ミュンヒハウゼン男爵、カスパー・ハザー：このようなドイツで生み出されたシンボルキャラクターが、なぜ世代を越え、国を越え多くの人々に愛されるのかという問いを考察しながらドイツ語とドイツ文化を探る。

到達目標 ◦「シンボルキャラクター」というテーマを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
◦ 映画の解釈方法を身につける。
◦ 異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）： 60%
学期末試験： 40%
受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

ARSa200LA

フランスの文化と社会 LA　2017 年度以降入学者

ARSa300LA

フランスの文化と社会Ⅰ　2016 年度以前入学者

篠原　学

授業コード：R5291　2017 年度以降入学者
授業コード：P6661　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。春学期にはとくに芸術面に力点を置き、フランスの地理、食文化、美術、音楽、文学および思想について扱います。一般的なフランスのイメージから出発して、ときにはそれを大きく塗り替えながら、フランスという国についての知識を深めていくことが目標です。いわゆる「フランス料理」の本来の多様性、美術史における印象派の意義、音楽における古楽からクラシックへの展開、シャンソンの位置づけ、文学と思想の影響関係等々について学びます。フランスに関心のある学生を対象としており、フランス語を履修している必要はありません。

到達目標 この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標としています。この授業をつうじて、異文化理解への第一歩を踏み出すことができると同時に、観光やマスメディアなどの分野で役立つ基礎知識を学ぶことができます。また、自文化を相対化する視座を開くうえでも、フランス的なものの見方や文化的な価値観を知ることは非常に有効です。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（４０％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（６０％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

ARSa200LA
フランスの文化と社会 LB　2017 年度以降入学者
ARSa300LA
フランスの文化と社会 Ⅱ　2016 年度以前入学者

篠原　学

授業コード：R5292　2017 年度以降入学者
授業コード：P6662　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。秋学期にはとくに法・制度面に力点を置き、フランスの言語、歴史、ライシテ（脱宗教性）、移民問題、パリテ（男女同数）、パックス（民事連帯契約）等について扱います。フランスの歴史を学んでいくと、現行の制度がどのような必然性をもって運用されているかがわかります。その観点から、フランスの政治・教育制度やライシテの理念、パリテやパックスの理想、さらにはヨーロッパにおけるフランスの位置どりについて学びます。また、最後には、こうした多面的なフランス社会を映し出す鏡としての、フランス映画を鑑賞します。フランスに関心のある学生を対象としており、フランス語を履修している必要はありません。

到達目標 この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標としています。この授業をつうじて、異文化理解への第一歩を踏み出すことができると同時に、観光やマスメディアなどの分野で役立つ基礎知識を学ぶことができます。また、自文化を相対化する視座を開くうえでも、フランス的なものの見方や文化的な価値観を知ることは非常に有効です。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（４０％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（６０％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

ARSa200LA
フランス語の世界ＬＡ　2017 年度以降入学者
ARSa100LA
フランス語の世界Ⅰ　2016 年度以前入学者

竹本　研史

授業コード：R5271　2017 年度以降入学者
授業コード：P0403　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語は、英語の次に世界で使用されており、国際連合の公用語の 1 つにもなっています。ただし、「フランス語の世界」と銘打っておりますが、この授業は語学の授業というわけではありません。もちろん言語と文化は、密接な関係を有しております。しかしながら、世界の各地にはフランス語を基軸としながらも多彩な文化が広がっているはずです。また、フランスそれ自体が多民族国家であり、「フランス文化」などと 1 つにくくれるものではありません。そこで、本講義では、「フランス語圏文化」という観点から、視聴覚教材も積極的に利用しつつ、フランスを中心とする多様なフランス語圏の社会や文化を一緒に解剖していきましょう。

到達目標 それぞれが豊かな広がりを持つ映画、音楽、美術、建築などの芸術文化を通じて、フランス語圏文化の多様さへの理解を深めることによって、多様な価値観を受容することを目的とします。

成績評価の方法と基準 各回に提出してもらうコメントシート［20%］、および学期末におこなう筆記試験［80%］により評価。

ARSa200LA
フランス語の世界ＬＢ　2017 年度以降入学者
ARSa100LA
フランス語の世界Ⅱ　2016 年度以前入学者

竹本　研史

授業コード：R5272　2017 年度以降入学者
授業コード：P0404　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語は、英語の次に世界で使用されており、国際連合の公用語の 1 つにもなっています。ただし、「フランス語の世界」と銘打っておりますが、この授業は語学の授業というわけではありません。もちろん言語と文化は、密接な関係を有しております。しかしながら、世界の各地にはフランス語を基軸としながらも多彩な文化が広がっているはずです。また、フランスそれ自体が多民族国家であり、「フランス文化」などと 1 つにくくれるものではありません。そこで、本講義では、「フランス語圏文化」という観点から、視聴覚教材も積極的に利用しつつ、フランスを中心とする多様なフランス語圏の社会や文化を一緒に解剖していきましょう。

到達目標 海外県・海外領土なども含めたフランス国内の地方文化、ならびにフランス以外のフランス語圏の文化、そしてフランス社会に関する学習を通じて、ア・プリオリに捉えられてきた「フランス文化」を内部と外部から照射することで解体し、フランス語圏文化の多様さへの理解を深めることによって、多様な価値観を受容することを目的とします。

成績評価の方法と基準 各回に提出してもらうコメントシート［20%］、および学期末におこなう筆記試験［80%］により評価。

ARSa200LA
フランス生活文化論 LA　2017 年度以降入学者

徳井　淑子

授業コード：R5293　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの生活文化について、特にファッション文化を対象とし、それを通してみえる生活感情の歴史を解説します。時代のファッションが、いかに時代の人びとの感性を示し、それが今日の生活のなかにいかに定着しているのか、日本人の感性との比較も視野に入れてフランスの生活文化の特質を示します。本講では特に色と文様の表象を切り口とします。

到達目標 ファッションあるいは風俗に関わるフランス語の歴史を学ぶことができます。また服飾表現の豊かさを知ることにより、現代ファッションを批評するちからを養うことができます。さらに服飾文化の分析をいかに行い、そこからなにがわかるのか、ファッションをテーマとして研究する際の資料の探し方、方法のあり方を身につけることができます。

成績評価の方法と基準 学期末試験（70 %）
授業への参加度とリアクションペーパーによる理解度（30 %）

ARSa200LA

フランス生活文化論 LB　2017 年度以降入学者

徳井　淑子

授業コード：R5294　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの生活文化について、特にファッション文化を対象とし、それを通してみえる生活感情の歴史を解説します。時代のファッションが、いかに時代の人びとの感性を示し、それが今日の生活のなかにいかに定着しているのか、日本人の感性との比較も視野に入れてフランスの生活文化の特質を示します。本講では特に異国・懐古趣味を中心に、またブランドやジェンダー規範など現代の問題にも言及します。

到達目標 ファッションあるいは風俗に関わるフランス語の歴史を学ぶことができます。また服飾表現の豊かさを知ることにより、現代ファッションを批評するちからを養うことができます。さらに服飾文化の分析をいかに行い、そこからなにがわかるのか、ファッションをテーマとして研究する際の資料の探し方、方法のあり方を身につけることができます。

成績評価の方法と基準 学期末試験（70 %）
授業への参加度とリアクションペーパーによる理解度（30 %）

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 LA　2017 年度以降入学者

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 I　2016 年度以前入学者

佐藤　千登勢

授業コード：R6243　2017 年度以降入学者
授業コード：P6663　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。SA ロシアに向かう予定の２年生は事前学習の一環として、必ず履修してください。
ロシアは、峻厳で美しい自然、深くて豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

到達目標 この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

成績評価の方法と基準 レヴューシート（50 %）、期末レポート（50 %）の基準により判断します。

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 LB　2017 年度以降入学者

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 II　2016 年度以前入学者

小西　昌隆

授業コード：R6244　2017 年度以降入学者
授業コード：P6664　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくことになりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収していってほしいと思います。

到達目標 この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

成績評価の方法と基準 レヴューシート（50 %）、期末レポート（50 %）の基準により判断します。

ARSe200LA

中国の文化と社会ＬＡ　2017 年度以降入学者

ARSe200LA

中国の文化と社会 I　2016 年度以前入学者

山本　律

授業コード：R7447　2017 年度以降入学者
授業コード：P6665　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
映画は、その時代の社会を映し出します。
今学期は、近年中国で若者を中心に人気を博した映画を題材に、これらの映画がなぜ製作されたのか、なぜ人気を博したのかについて考えてみたいと思います。

到達目標 中国の文化と社会についての理解を深めます。

成績評価の方法と基準 平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %、レポート 40 %

ARSe200LA

中国の文化と社会ＬＢ　2017 年度以降入学者

ARSe200LA

中国の文化と社会 II　2016 年度以前入学者

山本　律

授業コード：R7448　2017 年度以降入学者
授業コード：P6666　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
映画は、その国の文化と社会を映し出します。
今期では、中国文化を語るうえで欠くことのできない中国武術、いわ

ゆるカンフー映画を題材に、なぜ中国でカンフー映画が人気を博しているのか、中国の人々はカンフー映画に何をみているのかについて考えていきたいと思います。

到達目標　中国の文化と社会についての理解を深めます。

成績評価の方法と基準　平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %、レポート 40 %

ARSe200LA
中国の文化と社会ＬＣ　2017 年度以降入学者
ARSe200LA
中国の文化と社会Ⅰ　2016 年度以前入学者

鈴木　直子

授業コード：R7449　2017 年度以降入学者
授業コード：P6681　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　この授業では、主に中国の演劇作品を通して、中国の文化や社会に対する知識や理解を深めることを目標としている。春学期は特に演劇からみた日中交流史について学んでいく。
　隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どういうものなのか。実際の作品に触れることで、中国の人々と共通の話題が生まれ、また自国の文化についても再認識する契機となる。日中交流の歴史から、これからの日中関係についても考えてみて欲しい。
　作品鑑賞では字幕のない映像を使用することもあるので、中国語を履修していることが望ましい。

到達目標　1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢を理解することができる。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。
4. これまでの日中交流の歴史を回顧し、その上で今後の自分たちの時代の日中関係についても各自の考えを持ち、述べることができる。

成績評価の方法と基準　各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。
平常点（15 点）、リアクションペーパー（35 点）、期末試験（50 点）

ARSe200LA
中国の文化と社会ＬＤ　2017 年度以降入学者
ARSe200LA
中国の文化と社会Ⅱ　2016 年度以前入学者

鈴木　直子

授業コード：R7450　2017 年度以降入学者
授業コード：P6682　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　この授業では、主に中国の演劇、映画作品を通して、中国の文化や社会に対する知識や理解を深めることを目標としている。秋学期は実際の演劇作品や映画を鑑賞していく。
　隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どういうものなのか。実際の作品に触れることで、中国の人々と共通の話題が生まれ、また自国の文化についても再認識する契機となる。
　作品鑑賞では字幕のない映像を使用することもあるので、中国語を履修していることが望ましい。

到達目標　1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢を理解することができる。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。

成績評価の方法と基準　各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。
平常点（15 点）、リアクションペーパー（40 点）、期末試験（45 点）

ARSe200LA
中国語の世界ＬＡ　2017 年度以降入学者
ARSe100LA
中国語の世界Ⅰ　2016 年度以前入学者

渡邉　大

授業コード：R7445　2017 年度以降入学者
授業コード：P0407　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　中国語ということばを通して、中国人や中国文化、また、中国という国について考えます。

到達目標　中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ることで、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいものの見方ができるような授業を心がけます。

成績評価の方法と基準　出席（２割）、授業への取り組み（２割）、試験（６割）によって評価します。

ARSe200LA
中国語の世界ＬＢ　2017 年度以降入学者
ARSe100LA
中国語の世界Ⅱ　2016 年度以前入学者

渡邉　大

授業コード：R7446　2017 年度以降入学者
授業コード：P0408　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、中国的思考法について考えます。

到達目標　中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、漢字という文字体系が、中国語や中国的思考法といかに結びついているのか、を理解してもらえればと思います。

成績評価の方法と基準　出席（２割）、授業への取り組み（２割）、レポート・試験（６割）によって評価します。

ARSa200LA
スペイン語の世界ＬＡ　2017 年度以降入学者
ARSa100LA
スペイン語の世界Ⅰ　2016 年度以前入学者

塩﨑　公靖

授業コード：R8305　2017 年度以降入学者
授業コード：P0409　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

到達目標　本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

とくに、言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

成績評価の方法と基準 プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容と出席で総合評価する。
出席は毎回配布するコメントシートの提出をもって、出席とみなし、３回以上の欠席は不可とする。

ARSa200LA
スペイン語の世界ＬＢ　2017 年度以降入学者
ARSa100LA
スペイン語の世界Ⅱ　2016 年度以前入学者

塩﨑　公靖

授業コード：R8306　2017 年度以降入学者
授業コード：P0410　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

到達目標 本講義では、また、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。とくに、言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

成績評価の方法と基準 プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容と出席で総合評価する。
出席は毎回配布するコメントシートの提出をもって、出席とみなし、３回以上の欠席は不可とする。

ARSe200LA
朝鮮の文化と社会 LA　2017 年度以降入学者
ARSe200LA
朝鮮の文化と社会Ⅰ　2016 年度以前入学者

李　英美

授業コード：R9289　2017 年度以降入学者
授業コード：P6667　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。
朝鮮・韓国の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

到達目標 春学期には、朝鮮・韓国に関する入門書のテキストに沿って、朝鮮・韓国の文化と社会を概観する。

成績評価の方法と基準 レポート５０％、平常点５０％をもって総合的に評価する。

ARSe200LA
朝鮮の文化と社会 LB　2017 年度以降入学者
ARSe200LA
朝鮮の文化と社会Ⅱ　2016 年度以前入学者

李　英美

授業コード：R9290　2017 年度以降入学者
授業コード：P6668　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では韓国・朝鮮の文化と社会全般について学ぶ。
韓国・朝鮮の文化と社会に関する基礎知識を身につけ、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

到達目標 秋学期には、主に現代韓国の文化と社会について、ひと通り概観することが到達目標である。

成績評価の方法と基準 レポート５０％、平常点５０％をもって総合的に評価する。

ARSe200LA
日本の文化と社会 LA　2017 年度以降入学者
ARSe200LA
日本の文化と社会Ⅰ　2016 年度以前入学者

小宮　修太郎

授業コード：R3623　2017 年度以降入学者
授業コード：P6669　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望の多いものが選ばれる。

到達目標 １．テーマに関する資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
２．討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
３．異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

成績評価の方法と基準 期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（出席率と授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。:レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が 60 %以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA

日本の文化と社会 LB　2017 年度以降入学者

ARSe200LA

日本の文化と社会 Ⅱ　2016 年度以前入学者

小宮　修太郎

授業コード：R3624　2017 年度以降入学者
授業コード：P6670　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望の多いものが選ばれる。ただし、後半の３つの課題については時事問題の中で担当教師が選んだものを行う。

到達目標 １．テーマに関する資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
２．討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
３．異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

成績評価の方法と基準 期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（出席率と授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。:レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が 60 %以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA

日本語の世界 LA　2017 年度以降入学者

ARSe100LA

日本語の世界 Ⅰ　2016 年度以前入学者

小宮　修太郎

授業コード：R3621　2017 年度以降入学者
授業コード：P0413　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修対象：< 2017 年度以降入学生>法文営国環キ 2〜4 年、< 2016 年度以前入学生>留学生のみ法文営キ 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語学入門の授業を行う。言語は現代社会のコミュニケーションの道具でもあるが、過去の時代から受けつがれ、形成されてきた文化的な産物でもある。そのようにしてできた言語の諸側面を見つめながら、日本語への理解を深めてもらうのが主な目的である。留学生の皆さんにとっては、読んだり話したりする中で日本語の力を伸ばしていく場にもなると思う。

到達目標 １．日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
２．話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
３．あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

成績評価の方法と基準 予習宿題の提出率 (25%)、期末テストの評価 (25%)、平常点 (50%) を総合して評価を決める。
出席率が 60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA

日本語の世界 LB　2017 年度以降入学者

ARSe100LA

日本語の世界 Ⅱ　2016 年度以前入学者

小宮　修太郎

授業コード：R3622　2017 年度以降入学者
授業コード：P0414　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修対象：< 2017 年度以降入学生>法文営国環キ 2〜4 年、< 2016 年度以前入学生>留学生のみ法文営キ 1〜3 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語学入門の授業を行う。言語は現代社会のコミュニケーションの道具でもあるが、過去の時代から受けつがれ、形成されてきた文化的な産物でもある。そのようにしてできた言語の諸側面を見つめながら、日本語への理解を深めてもらうのが主な目的である。留学生の皆さんにとっては、読んだり話したりする中で日本語の力を伸ばしていく場にもなると思う。

到達目標 １．日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
２．話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
３．あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

成績評価の方法と基準 予習宿題の提出率 (25%)、期末テストの評価 (25%)、平常点 (50%) を総合して評価を決める。
出席率が 60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

M E M O

英語　＜2017 年度以降入学生向け＞

ILAC 科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

英語系科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。必修科目は、English１（リーディング系、１年次・２単位）と English２（表現系、１年次・２単位）で、習熟度別・少人数編成のクラスで行われます。また、２年次に選択必修科目として英語を選択した学生は、English３（テーマ別、４技能統合型、２単位）を受講します。選択科目は、レベル別に開講されている多様な科目のなかから、自由に選んで、１年次から４年次まで履修することができます。ただし、必修科目ならびに選択必修科目の英語単位は３年次までに修得することが必要です。

なお、上記の科目のほかに、さらに総合的な英語能力を伸ばすための授業として、総合科目（教養ゼミ）（２～４年次）が１コマ開講されます（2018 年度からの開講）。総合科目は、専門科目として扱われ、修得単位は専門科目の単位となります。またグローバル・オープン科目も開講されます。

■英語系科目：必修科目、選択必修科目、選択科目の目的と内容

１．必修科目

＜１年次　English１と English２＞

- 英語の必修科目として、１年次にEnglish１とEnglish２を履修します。
- 必修科目のクラスは、入学時に受験したTOEFL®-ITP Level 2 Pre-TOEFLのスコアにもとづいて、学部ごとに習熟度別に編成され、それぞれの習熟度に応じた授業が行われます。
- 下記の種目の説明および学習目標は、全クラス共通です。
- 個々のクラスの授業内容や目標については、Webシラバスならびに初回の授業時に配布される各クラスのシラバスを参照してください。

English１・２の内容

英語の必修科目は、高校までに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目標としています。専門課程に進級したり社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、臆することなく、さまざまな種類の英文を読んだり、さまざまなことがらについて英語で話したり、書いたりできるようにするための基礎作りでもあります。

便宜上、英語の力を読む･書く・話す･聴くという４技能に分け、読む力を主に English１で、書く･話す力を English２で、養うこととします。聴く力、すなわち効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力については、English１・２を通じて養います。また、英語辞書の効果的な使い方についても、English１・２の双方で指導します。

English１の学習目標

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。

「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

English２の学習目標

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的構成をもつパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグ

ラフから成る短いレポートを書けるようにします。
また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

２．選択必修科目

＜２年次　English３＞

- 選択必修科目として英語を選択した人は、２年次にEnglish３を履修します。
- English３のクラスは、１年次秋学期末に受験するTOEFL®-ITP Level 2 Pre-TOEFL（一部の学生は、TOEFL®-ITP Level 1）のスコアにより、原則的に学部ごとに習熟度別に編成されます。その際、１年次秋学期の初めに実施する「2年次英語・諸外国語選択希望登録＜必須＞」で希望した、主たる授業言語とカテゴリーを考慮します。
- 下記の学習目標は、全クラス共通です。
- 個々のクラスの授業内容や目標については、Webシラバスを参照してください。

English３の学習目標

１年次に身につけた英語の４技能（読む・書く・話す・聴く）を用いて、English３では以下の能力を重点的に涵養します。

１．国際語としての英語を通じて、世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈のなかで相対化する能力

２．多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析した上で、英語で意見を発信する能力

English３の内容

上記の学習目標を達成するためには、スキルとしての英語を身につけるとともに、そこから一歩進んで、英語を通じて何を学ぶか、ということが肝要となります。そのためEnglish３の学習内容は、以下の３カテゴリーに区分されています。

・現代の諸相
・英語圏の文化と社会
・世界の中の日本

受講生は、上記のいずれかのカテゴリーを扱うクラスに割り振られます。英語の４技能を総合的に用いながら、当該カテゴリーに関連するさまざまなトピックに触れることで、英語による批判的思考および自らの意見を英語で発信する能力の向上を目指します。

３．選択科目、総合科目（教養ゼミ）、グローバル・オープン科目

- ３～４年次生には英語の必修科目は開講されていませんが、それに代えて選択科目と総合科目（教養ゼミ）が開講されています。１～２年次で身につけた英語の基礎力と勉強の仕方を活かして、各自の興味や関心、専門分野、将来の職業や目標などに応じて、自分で選び受講することができます。
- 選択科目（1年次～4年次対象）、総合科目（教養ゼミ）（2年次～4年次対象）、グローバル・オープン科目（1年次～4年次対象）の種類や科目名については、後掲の「英語系科目一覧＜2017年度以降入学生向け＞」を参照してください。個々の授業の内容や目標については、各授業のシラバスを参照してください。
- 総合科目（教養ゼミ）では、ゼミナール形式で、必修科目、選択科目の学習を発展させて、学部専門科目とは異なる高度な学びを実施します。
- グローバル・オープン科目は、全学部の学生対象に開講される、英語でさまざまな科目を学ぶ授業です。
- 必修科目English１、English２と選択必修科目English３と並行して、選択科目、グローバル・オー

プン科目を履修することができます。総合科目（教養ゼミ）は、1 年次生には開講されていません。

■英語系科目の履修について

1．1年次（・２年次）の必修科目(選択必修科目)は次のとおりで、卒業のために必要な最低限の単位です（Ⅰは春学期科目、Ⅱは秋学期科目)。

＜1 年次＞

「English１Ⅰ」「English１Ⅱ」「English２Ⅰ」「English２Ⅱ」（各１単位）合計４単位

＜2年次＞※選択必修科目として、「英語」を選択した場合。

「English３Ⅰ」「English３Ⅱ」（各１単位）合計２単位

2．さらに継続して自分の英語力を伸ばすためには、英語系科目（選択科目、総合科目、グローバル・オープン科目）を履修してください。

これらの科目は卒業所要単位に組み込むことができます。選択科目については、その単位を超えて履修することも可能です。総合科目、グローバル・オープン科目については各学部の『履修の手引き』を参照してください。

■再履修に関する注意

1．必修科目 English１、English２の単位を再履修する方法は以下の２つです。

(1) 再履修者用の English１、English２のクラス（土曜３・４限）を履修する

（必ず指定されたクラスを受講すること）

(2)外部英語能力試験のスコアによる

※詳しくは各学部の『履修の手引き』を参照してください。

2．選択必修科目 English３の単位を再履修する方法は以下の３つです。

(1) 前年度受講クラスと同じ曜日・時限・レベルに開講されるクラスを履修する

（担当教員の許可が必要となります）

(2)上記に受講しなくてはならない専門科目がある場合、再履修者用の English３のクラス（土曜３限）を履修する

(3)外部英語能力試験のスコアによる

※詳しくは各学部の『履修の手引き』を参照してください。

3．クラス履修による場合、修得できなかった種目と同一期のセメスター（ⅠまたはⅡ）で履修することになります。下記「セメスター制について」をよく参照してください。

■セメスター制について

1．同一名称の科目のうち、ローマ数字のⅠは春学期開講科目、Ⅱは秋学期開講科目を表します。

2．選択科目、総合科目については、ⅠとⅡを連続して履修することを原則としますが、担当教員が認めた場合には別名称の科目を学期ごとに単位修得し、単位を加算する（別科目のⅠとⅡを組み合わせる）ことも可能です。

例）「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」を春学期、「英語アカデミック・リーディングⅡ」を秋学期に履修し、合計２単位を修得する。

Ⅰ（春学期）またはⅡ（秋学期）のみの履修を希望する場合、かならず年度当初に担当教員に申し出て、その許可を得てください。

3．履修登録は春学期に１回のみ行われます。したがってⅡ（秋学期）のみを履修する授業であっても、年度当初に受講許可を得て履修登録を行っておくことが必要となるので十分に注意してください。

4．成績評価はⅠ（春学期)、Ⅱ（秋学期）それぞれ別に行われます。

■選択科目、グローバル・オープン科目のレベルおよび選抜について

1．選択科目は受講者の英語力に応じてレベルが設定されています。英語の授業から最大限の達成感と充実感を得るためには、自分の英語力を認識したうえで、自分に最も適した授業を選ぶことが重要です。そのために、以下の注意事項と各担当教員によるシラバスをよく読み、授業のレベルと内容を十分に理解したうえで履修してください。

2．選択科目はレベル２～レベル４までのいずれかに分類されています。

- 各科目にどのようなレベルの授業が配置されているかについては、後掲の「英語系科目一覧＜2017 年度以降入学生向け＞」を参照してください。
- 各授業の具体的なレベルについては、各担当教員によるシラバスを参照してください。
  各レベルに対応する TOEFL®-ITP のスコアは次のとおりです。

レベル 1	369 点以下
レベル 2	370 点～399 点
レベル 3	400 点～429 点
レベル 4	430 点以上

3．「英語で学ぶ社会と文化」、「英語オーラル・コミュニケーション」、「ビジネス・イングリッシュ」、「英語アカデミック・リーディング」、「英語検定試験対策」では、これらの科目を**英語選択必修科目**として履修する法学部国際政治学科生の履修が優先されます。それ以外の学生は、クラス定員に応じて、これらの科目を英語選択科目として受講することができます。

4．グローバル・オープン科目については、必要とされる英語能力基準を満たしている者のみ受講が可能となる科目もあります。詳しくは、各担当教員のシラバスを参照して下さい。

5．選択科目、グローバル・オープン科目とも、初回授業において選抜が実施されることがあります。その際参考とされますので、すでに取得している TOEFL®-ITP などのＳＴ（下記参照）のスコアや級は、選択科目の場合はかならず（グローバル・オープン科目の場合はシラバスの指示によって）初回授業に持参してください。

6．現時点での英語力（スコア）が、履修を希望する授業のレベルに満たない場合、あるいはそれを超えている場合であっても、受講が認められることがあります。初回授業に出席し、担当教員の指示に従ってください。

7．初回授業での選抜に参加できなかった授業でも、欠員が出た場合などに受講が認められることがあります。掲示等でもお知らせしますので、注意してください。

※ＳＴ（＝Standardized Tests）とは、TOEFL®、TOEIC®や実用英語検定などの社会的に公認されているテストのことです。以下の点によく注意してください。

- ＳＴのスコアや級を持っていることで自動的に選択科目、一部のグローバル・オープン科目の受講資格が得られるわけではありません。ＳＴのスコアや級を履修者決定にどのように利用するかは、担当教員によって異なります。必ず初回の授業に出席し、担当教員の指示に従ってください。

2017年度以降
入学生向け

英語系科目一覧

英語　必修科目・選択必修科目

科目の名称と内容	単位	定員	履修年次
English 1 I/II （リーディング系）	I，II　各1	24	1
English 2 I/II （表現系）	I，II　各1	24	1
English 3 I/II（3カテゴリーから選択） ■　現代の諸相 英語の４技能を連動させて、特定の国にとらわれない現代の様々な事象を考察する。 ■　英語圏の社会と文化 英語の４技能を連動させて、英語圏の歴史、社会、文化について考察する。 ■　世界の中の日本 英語の４技能を連動させて、世界から見た日本の姿や日本の歴史、社会、文化を考察する。	I，II　各1	24	2

英語　選択科目、総合科目、グローバル・オープン科目

（科目の詳細、実際に開講される授業の内容については、各クラスのシラバスを参照のこと。）

	科目の名称と内容	単位	レベル 1～4＊	履修年次
選択科目	**英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ** 会話・ディスカッション・プレゼンテーション。原則として英語による授業。	I，II各1	2～3	1～4
	ビジネス・イングリッシュⅠ/Ⅱ ビジネスの場で実践的に使える英語を学ぶ。	I，II各1	2～3	1～4
	英語で学ぶ社会と文化　Ⅰ/Ⅱ ■　社会と文化の諸相を知る 世界の国々の社会と文化についての知識を身につける。 ■　マスメディアで読む世界情勢 新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどを通じて世界情勢について学ぶ。	I，II各1	2～3	1～4
	英語アカデミック・リーディングⅠ/Ⅱ 語彙力の強化とともに、論理的・批判的に読む力を養う授業。	I，II各1	2～3	1～4
	英語検定試験対策　Ⅰ/Ⅱ TOEFL®、TOEIC®、IELTSなどの検定試験の準備。	I，II各1	2～3	1～4
グローバル・オープン科目（選択科目）	**English Academic Writing　Ⅰ/Ⅱ**	I，II各1	4	1～4
	English Presentation　Ⅰ/Ⅱ	I，II各1	4	1～4
	English Reading and Vocabulary　Ⅰ/Ⅱ	I，II各1	4	1～4
総合科目	**Liberal Arts Seminar Ⅰ/Ⅱ (Issues in Modern Japanese Society)** （総合科目：教養ゼミ） In this course students examine and discuss various issues related to modern Japanese society	I，II各2	4	2～4
グローバル・オープン科目（リベラル・アーツ科目）	**Intercultural Communication A** ： Themes in Global History; Trans-Pacific Interactions 【WEBシラバスを参照】	各2	4	1～4
	Intercultural Communication B ： Language Teaching for Multicultural Understanding 【WEBシラバスを参照】	各2	4	1～4
	Intercultural Communication C ： Politeness and Formality in Japanese, English, and Beyond 【WEBシラバスを参照】	各2	4	1～4
	Intercultural Communication D ： Art-Based Language Education: Learning/Teaching English Creatively through Social Activism 【WEBシラバスを参照】	各2	4	1～4

＊レベルの目安（TOEFL®(ITP/PBT)）レベル１＝～369　レベル２＝370～399　レベル３＝400～429　　レベル４＝430～

英語＜2016 年度以前入学生向け＞

基礎科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

基礎科目の構成は、必修科目（１年次・２科目）と選択科目（１～４年次）に大別されます。必修科目は、English１（リーディング系）とEnglish２（表現系）で、習熟度別・少人数編成のクラスで行われます。選択科目は、レベル別に開講されている多様な科目のなかから、自由に選んで、１年次から履修することができます。ただし、必修科目の英語単位は３年次修了までに修得する必要があります。詳細については『履修の手引き』を参照してください。

また基礎科目のほかに、グローバル・オープン科目も開講されています。

■英語系科目：基礎科目［必修科目・選択科目］の目的と内容

１．必修科目

- 英語の必修科目として、１年次にEnglish１とEnglish２を履修します。
- 必修科目のクラスは、入学時に受験したTOEFL®-ITP Level 2 Pre-TOEFLのスコアにもとづいて、学部ごとに習熟度別に編成され、それぞれの習熟度に応じた授業が行われます。
- 下記の種目の説明および学習目標は、全クラス共通です。
- 個々のクラスの授業内容や目標については、WEBシラバスを参照してください。

English１・２の区分

英語の必修科目は、高校までに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目標としています。専門課程に進級したり社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、臆することなく、さまざまな種類の英文を読んだり、さまざまなことがらについて英語で話したり、書いたりできるようにするための基礎作りでもあります。

便宜上、英語の力を読む･書く・話す･聴くという４技能に分け、読む力を主に English１で、書く･話す力をEnglish２で、養うこととします。聴く力、すなわち効果的に英語を聞き取り、意味をつかむ力については、English１・２を通じて養います。また、英語辞書の効果的な使い方についても、English１・２の双方で指導します。

English１の学習目標

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。

「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

English２の学習目標

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的構成をもつパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフから成る短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

2．選択科目、グローバル・オープン科目

・　２～４年次生には英語の必修科目は開講されていませんが、それに代えて多様な選択科目、グローバル・オープン科目が開講されています。１年次で身につけた英語の基礎力と勉強の仕方を活かして、各自の興味や関心、専門分野、将来の職業や目標などに応じて、自分で選び受講することができます。

・　選択科目、グローバル・オープン科目の種類や科目名については、後掲の「英語系科目一覧＜2007 年度～2016 年度入学生向け＞」を参照してください。個々の授業の内容や目標については、各授業のシラバスを参照してください。

■英語系科目の履修について

1．1 年次の必修科目は次のとおりで、卒業のために必要な最低限の単位です（Ⅰは春学期科目、Ⅱは秋学期科目）。

● 外国語履修パターン①の学生
「English１Ⅰ」「English１Ⅱ」「English２Ⅰ」「English２Ⅱ」（各１単位）合計４単位

● 外国語履修パターン②の学生
「English１Ⅰ」「English２Ⅰ」（各１単位）合計２単位

2．さらに継続して自分の英語力を伸ばすためには、英語系科目（選択科目、グローバル・オープン科目）を履修してください。

これらの科目は卒業所要単位に組み込むことができます。総合科目については各学部の『履修の手引き』を参照してください。グローバル・オープン科目については、「グローバル・オープン科目時間割」を参照してください。

■再履修に関する注意

1．必修科目 English１、English２の単位を再履修する方法は以下の２つです。

(1) 再履修者用の English１、English２のクラス（土曜３・４限）を履修する
（必ず指定されたクラスを受講すること）

(2)外部英語能力試験のスコアによる
※詳しくは各学部の『履修の手引き』を参照してください。

■　セメスター制について

1．同一名称の科目のうち、ローマ数字のⅠは春学期開講科目、Ⅱは秋学期開講科目を表します。

2．選択科目については、ⅠとⅡを連続して履修することを原則としますが、担当教員が認めた場合には別名称の科目を学期ごとに単位修得し、単位を加算する（別科目のⅠとⅡを組み合わせる）ことも可能です。

例)「マスメディアの英語Ⅰ」 を春学期、 「英語リーディング・ワークショップⅡ」を秋学期に履修し、合計２単位を修得する。

Ⅰ（春学期）またはⅡ（秋学期）のみの履修を希望する場合、かならず年度当初に担当教員に申し出て、その許可を得てください。

3．Ⅱ（秋学期）のみを履修する授業であっても、年度当初に受講資格を得ることが必要となるので十分に注意してください。

■　選択科目、グローバル・オープン科目のレベルおよび選抜について

1．選択科目、グローバル・オープン科目は受講者の英語力に応じてレベルが設定されています。英語の授業から最大限の達成感と充実感を得るためには、自分の英語力を認識したうえで、自分に最も適した授業を選ぶことが重要です。そのために、以下の注意事項と各担当教員によるシラバスをよく読み、授業のレベルと内容を十分に理解したうえで履修してください。

２．選択科目はレベル１～レベル４までのいずれかに分類されています。

- 各科目にどのようなレベルの授業が配置されているかについては、後掲の「英語系科目一覧＜2007 年度～2016 年度入学生向け＞」を参照してください。
- グローバル・オープン科目は、レベル４のみの開講となります。また、必要とされる英語能力基準を満たしている者のみ受講が可能となる科目もあります。各担当教員によるシラバスを参照してください。
- 各授業の具体的なレベルについては、各担当教員によるシラバスを参照してください。
  各レベルに対応する TOEFL®-ITP のスコアは次のとおりです。

レベル 1	369 点以下
レベル 2	370 点～399 点
レベル 3	400 点～429 点
レベル 4	430 点以上

３．「マスメディアの英語」、「英語オーラル・コミュニケーション」、「英語ビジネス・コミュニケーション」、「英語リーディング・ワークショップ」、「英語検定試験対策」、「英文ライティング」では、これらの科目を**英語選択必修科目**として履修する法学部国際政治学科生の履修が優先されます。それ以外の学生は、クラス定員に応じて、これらの科目を英語選択科目として受講することができます。

４．現時点での英語力（スコア）が、履修を希望する授業のレベルに満たない場合、あるいはそれを超えている場合であっても、受講が認められることがあります。初回授業に出席し、担当教員の指示に従ってください。

５．初回授業での選抜に参加できなかった授業でも、欠員が出た場合などに受講が認められることがあります。掲示等でもお知らせしますので、注意してください。

※ＳＴ（＝Standardized Tests）とは、TOEFL®、TOEIC®や実用英語検定などの社会的に公認されているテストのことです。以下の点によく注意してください。

- ＳＴのスコアや級を持っていることで自動的に選択科目、総合科目の受講資格が得られるわけではありません。ＳＴのスコアや級を履修者決定にどのように利用するかは、担当教員によって異なります。必ず初回の授業に出席し、担当教員の指示に従ってください。

英語系科目一覧

１年次の英語必修科目の単位は、卒業のために必要な最低限の単位です。そのほかに、１～4 年次に英語選択科目、グローバル・オープン科目から自由に選んで履修できます。これらの科目を計画的・積極的に活用して、卒業時までに英語力を向上させてください（なお、卒業必要単位は３年次修了までに修得することが必要です。また、履修可能単位数は学部・学科によって異なる場合がありますので、詳細については『履修の手引き』を参照してください）。

英語　必修科目（1 年次）

科目の名称と内容	単位	定員	履修年次
English 1 I/II （リーディング系）	I，II　各 1	24	1
English 2 I/II （表現系）	I，II　各 1	24	1

英語　選択科目、総合科目、グローバル・オープン科目

（科目の詳細、実際に開講される授業の内容については、各クラスのシラバスを参照のこと。）

	科目の名称と内容	レベル 1～4 ＊	単位	履修の具体例（○：推奨　◎：強く推奨）						（一クラスの定員）
				英語の基礎を固める	英語の総合的な運用力を高める	ビジネスの現場で通用する英語力を身に付ける	英語で日本文化を伝える力を身に付ける	英語圏の文化を深く研究する	海外の大学・大学院への留学準備をする	
選択科目（1～4年次）	**英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ** 会話・ディスカッション・プレゼンテーション。原則として英語による授業。	2～3	I，II 各 1		○	○	◎		○	24
	英語ビジネス・コミュニケーションⅠ/Ⅱ ビジネスの場で実践的に使える英語を学ぶ。	2～3	I，II 各 1			◎				24
	英文ライティングⅠ/Ⅱ　＊ ライティングを学ぶ。原則として英語による授業。	2～3	I，II 各 1		○	○	◎		○	24
	英語アカデミック・ライティング　Ⅰ/Ⅱ 英文レポートや論文の書き方を学ぶ。原則として英語による授業。	4	I，II 各 1				◎	○	◎	20
	マスメディアの英語　Ⅰ/Ⅱ 新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどを通じて英語を学ぶ。	2～3	I，II 各 1		○	◎		○	○	36
	映画で学ぶ英語　Ⅰ/Ⅱ 映画を素材として英語を学ぶ。	4	I，II 各 1					◎	○	36
	英語リーディング・ワークショップⅠ/Ⅱ 論説、小説などを読む。	2～3	I，II 各 1		○		○	◎	◎	36
	英語検定試験対策　Ⅰ/Ⅱ TOEFL®、TOEIC®など検定試験の準備。	2～3	I，II 各 1	○	○	◎			○	
グローバル・オープン科目、リベラルアーツ科目（1～4年次）	Intercultural Communication A - D **【WEB シラバスを参照】**	4	各 2		◎				◎	

＊レベルの目安（TOEFL®(ITP/PBT)）
レベル１＝～３６９　　レベル２＝370～399　　レベル３＝400～429　　レベル４＝430～
＊英文ライティングⅠ/Ⅱは、2018 年度のみの開講となります。

LANe100LA
入門英語 (SSI) Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
入門英語Ⅰ 2016 年度以前入学者

山崎　暁子

授業コード：R0801 2017 年度以降入学者
授業コード：E0501 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国環 1〜4 年（SSI 生のみ）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英文法の基礎を復習しながら、会話や短い文章のリスニング、発音練習を行なう。会話で学んだ表現を応用して発話することで、日常的な英語表現を身につける。

到達目標 英語の音に慣れ、日本語の音との違いを意識することで、聴き取りと発音の能力を高める。英文の基本的な構造を理解して、簡単な英文を読み、書き、発話できるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、予習・宿題 20 %、筆記試験 50 %。第 1 回の授業で選抜のためのアンケートを実施するので、必ず出席すること。登録期間終了後の欠席は原則的に 3 回までとする。遅刻・早退は減点の対象とする。

LANe100LA
入門英語 (SSI) Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
入門英語Ⅱ 2016 年度以前入学者

山崎　暁子

授業コード：R0802 2017 年度以降入学者
授業コード：E0502 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国環 1〜4 年（SSI 生のみ）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英文法の基礎を復習しながら、会話や短い文章のリスニング、発音練習を行なう。会話で学んだ表現を応用して発話することで、日常的な英語表現を身につける。

到達目標 英語の音に慣れ、日本語の音との違いを意識することで、聴き取りと発音の能力を高める。英文の基本的な構造を理解して、簡単な英文を読み、書き、発話できるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、予習・宿題 20 %、筆記試験 50 %。履修希望者は必ず第 1 回の授業に出席すること。登録期間終了後の欠席は原則的に 3 回までとする。遅刻・早退は減点の対象とする。

LANe100LA
入門英語 (SSI) Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
入門英語Ⅰ 2016 年度以前入学者

前川　裕

授業コード：R0803 2017 年度以降入学者
授業コード：E0503 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国環 1〜4 年（SSI 生のみ）

授業の概要と目的（何を学ぶか） スポーツサイエンスインスティテュート所属学生のための英語であり、それ以外のものは受講できない。学生は基礎的な文法力および英会話力を身につけることを目的とする。

到達目標 スポーツ選手である学生が、海外等に出たときに、ある程度外国の競技者と英語で話ができるようになるために必要な英語基礎力の養成を目指す。

成績評価の方法と基準 平常点（６０%）、授業内試験（４０%）

LANe100LA
入門英語 (SSI) Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
入門英語Ⅱ 2016 年度以前入学者

前川　裕

授業コード：R0804 2017 年度以降入学者
授業コード：E0504 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国環 1〜4 年（SSI 生のみ）

授業の概要と目的（何を学ぶか） スポーツサイエンスインスティテュート所属学生のための英語であり、それ以外のものは受講できない。学生が基礎的な文法力および英会話力を身につけることを目的とする。

到達目標 スポーツ選手である学生が海外での競技生活が可能になる程度の英語力の養成を目指す。

成績評価の方法と基準 平常点（６０%）、授業内試験（４０%）

LANe100LA
入門英語 (SSI) Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
入門英語Ⅰ 2016 年度以前入学者

須藤　祐二

授業コード：R0805 2017 年度以降入学者
授業コード：E0505 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国環 1〜4 年（SSI 生のみ）

授業の概要と目的（何を学ぶか） SSI の学生のなかで英語を苦手とする学生に、英語の基本から解説と演習を行う。

到達目標 受講生は、英語の基本的な構造を理解できるようにする。また、挨拶や自己紹介など、身の回りの日常会話のための表現を身につけるようにする。

成績評価の方法と基準 学期末試験 50 %、授業時の応答や参加度 50 %。4 回以上欠席した者は、成績評価の対象から外れる。また、遅刻 2 回で欠席 1 回に換算するので、注意すること。
授業に出ていても、予習を行っていない、または、演習に積極的に参加しない受講生は出席と認めないことがある。

LANe100LA
入門英語 (SSI) Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
入門英語Ⅱ 2016 年度以前入学者

須藤　祐二

授業コード：R0806 2017 年度以降入学者
授業コード：E0506 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国環 1〜4 年（SSI 生のみ）

授業の概要と目的（何を学ぶか） SSI の学生のうち英語を苦手とする学生に、英語の基本から解説と演習を行う。春学期よりも多少難しい文法項目まで範囲に収め、基礎的な英語の運用能力の習得を目指す。

到達目標 受講生は、英語の基本的な構造を理解できるようにする。ま

た、挨拶や自己紹介だけでなく、時制や適切な語句の選択等などを通じて、春学期よりも多少高い英語表現能力を身につけるようにする。

成績評価の方法と基準 学期末試験 50 %、授業時の応答や参加度 50 %。4 回以上欠席した者は、成績評価の対象から外れる。また、遅刻 2 回で欠席 1 回に換算するので、注意すること。
授業に出ていても、予習を行っていない、または、演習に積極的に参加しない受講生は出席と認めないことがある。

LANe200LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅰ 2016 年度以前入学者

スティーブン　モリス

授業コード：R2301 2017 年度以降入学者
授業コード：E0541 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills.

到達目標 The goal of this course is to further enhance students' oral communication skills. The course will make use of the TED English programmes to enable students become more effective and proficient in English.

成績評価の方法と基準 Class Activities & Homework 35%
In Class Quizzes 35%
Final Exam 30%
The pass mark is 60%
Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

LANe200LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅱ 2016 年度以前入学者

スティーブン　モリス

授業コード：R2302 2017 年度以降入学者
授業コード：E0542 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills.

到達目標 The goal of this course is to further enhance students' oral communication skills. The course will make use of the TED English programmes to enable students become more effective and proficient in English

成績評価の方法と基準 Class Activities & Homework 35%
In Class Quizzes 35%
Final Exams 30%
The pass mark is 60%
Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

LANe200LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅰ 2016 年度以前入学者

リービ　英雄

授業コード：R2303 2017 年度以降入学者
授業コード：E0543 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） A comprehensive course in oral communication that focuses on introducing cultural issues in English. The course will employ audio-visual materials through which students will acquire the basic grammar and vocabulary of cultural explanation.

到達目標 「文化」について英語で理解し、表現するスキルをみがく。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%) とリポート (50%)。

LANe200LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅱ 2016 年度以前入学者

リービ　英雄

授業コード：R2304 2017 年度以降入学者
授業コード：E0544 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） A course that focuses on oral expression of cultural topics in English. The students, in consultation with the professor, will speak on selected topics dealing with various world cultures, including Japanese.

到達目標 「文化」について英語で理解し、表現するスキルをみがく。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%) とリポート (50%)。

LANe200LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語オーラル・コミュニケーション Ⅰ 2016 年度以前入学者

ロジャー　エドウィン　パティモア

授業コード：R2305 2017 年度以降入学者
授業コード：E0545 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） The course has several objectives:
1. Enjoy English for meaningful communication.
2. Upgrade high school (or other) English for production (speaking)
3. Learn strategies for better communication.
4. Improve student skills.
5. Achieve a goal of 60%- 70% inter-student English use during the full class period

到達目標 The goal of the course is to help motivated English students achieve a lower intermediate level of speaking and listening in English.

By the end of the course students should be:
1. Able to achieve a A1 / A2 level on the Common European Frame of Reference (CEFR)
2. Have a simple conversation in English without difficulty

成績評価の方法と基準 1. Participation and Student Skills (15 points)
2. Organization - keep a neat print file, bring textbook (5 points)
3. Online Homework Assignments (5 points)
4. Presentations and Reports in Class (10 points)
5. Two paper tests:
*Mid-term: 10 points
*Final: 25 points
6. Final Speaking Test 30 points

LANe200LA
英語オーラル・コミュニケーションⅡ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語オーラル・コミュニケーションⅡ 2016 年度以前入学者

ロジャー　エドウィン　パティモア

授業コード：R2306 2017 年度以降入学者
授業コード：E0546 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） We will also continue to improve speaking skills using our DVD based textbook. In this semester we will learn discuss skills. Also, we will watch and discuss a movie over several classes.

到達目標 The goals of the fall course are:
1.Achieve a classroom level of 80 - 90% English use including classroom language and non-related personal conversations. In other words, use English for everything.
2.Students or student groups will be more responsible for management of the class. For example:
a. Demonstrate language skills
b. Check movie homework
c. Demonstrate Roleplays based on textbook DVD clips
d. Summarize parts of a movie

成績評価の方法と基準 1. Participation (20 points)
2. Demonstrations and Roleplays (10 points)
3. Organization File 5 points
4. Online HW completion 10 points
5. Paper Tests (Mid 10 + Final 15 = 25 points)
6. Group Discussion Test 30 points

LANe200LA
ビジネス・イングリッシュⅠ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語ビジネス・コミュニケーションⅠ 2016 年度以前入学者

ジョン　ライリー

授業コード：R2351 2017 年度以降入学者
授業コード：E0571 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices. Gaining insights into these practices will increase their knowledge and expand their worldview.

到達目標 The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business

成績評価の方法と基準 Coursework (Attendance, class participation, assignments, class preparation, etc.): 50%
Student Pair Speaking Examination: 50%

LANe200LA
ビジネス・イングリッシュⅡ 2017 年度以降入学者
LANe100LA
英語ビジネス・コミュニケーションⅡ 2016 年度以前入学者

ジョン　ライリー

授業コード：R2352 2017 年度以降入学者
授業コード：E0572 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices. Gaining insights into these practices will increase their knowledge and expand their worldview.

到達目標 The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business

成績評価の方法と基準 Coursework (Attendance, class participation, assignments, class preparation, etc.): 50%
Student Pair Speaking Examination: 50%

LANe200LA
Englsh Readng and Vocabulary Ⅰ 2017 年度以降入学者

ウォルター　カズマー

授業コード：R2381 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course hopes to have students reading and learning to use vocabulary at progressively higher levels.

到達目標 Read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

成績評価の方法と基準 Class participation 50%
Homework 25%
Quizzes 25%

LANe200LA
Englsh Readng and Vocabulary Ⅱ 2017 年度以降入学者

ウォルター　カズマー

授業コード：R2382 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course hopes to have students reading and learning to use
vocabulary at progressively higher levels.

到達目標 Read and learn 5-10 new vocabulary items per class

成績評価の方法と基準 Class participation 50%
Homework 25%
Quizzes 25%

LANe100LA
英文ライティングⅠ
2016 年度以前入学者

松澤　圭子

授業コード：E0593　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語は読めても、英語をすらすら書けない、英語を書くのは、いまいち手ごたえがなく、つまらない、と思う学生も多いのではないだろうか。それは、英語を「書く」作業が、日本語頭で考えた日本文を、単語/文章レベルで、単純に英語に「置き換え」ているからである。
「英文ライティング」は、日本語を英語に「置き換える」ことではない。英語発想/視点でロジックの通った英文にしなければ通じない。では、どうするか？
本授業では、私の長年の企業での翻訳（和 → 英）（今も現役）から獲得した英文ライティングの「こつ（キーポイント）」（下記参照）を具体的な例文を取り上げながら習得する。ライティング学習は、基本的に 1 対 1 の添削が理想的で、そのやり取り（練習）が多ければ多いほど上達する。そこで、上記のキーポイントを学習しながら、「書く」「添削」の練習を繰り返すことで、より効率的に英文ライティング上達をめざす。「添削」する私は、日本人なので、言いたい内容を理解し、その内容を崩すことなく、「英語発想」の英文にしていくためのコメントをつけるので、学生は次回に生かせる。
＜キーポイント＞
(1) 主語と述語の合致 → 主語と述語が軸になる。（論理力）
自動的に、頭の中の日本語の「～は」を主語に、「～です」を述語にしない。（この間違いは意外と多い。）
(2) 適切な英単語の選択/単語の語感の把握（思考力）
英文を作るときは、表現の「あいまいさ」を、より具体的、明確なものにする。
(3) 発想/視点の転換 ← ネガティブ/ポジティブ表現（頭の柔軟さ）
同じ内容で、発想/視点を変えた英文を、沢山作る。正解英文は 1 つではない。
(4) ロジカル →「軸」→　日本語の「起承転結」を、英語の「結論から詳細へ」に変える。（文章構成力＋論理力）。
授業では、上記 4 つのポイントの裏にある英語的思考/発想/文化の話を、私の翻訳の仕事や英米人との仕事での成功/失敗談、海外体験談を楽しく織り交ぜて伝えていくので、学生は、4 つの「ポイント」をより具体的にイメージできる。
上記に基づき、英文を「書く」「コメントつき添削」を繰り返すことで、確実に自分の英文が「英語発想の英文」になっていくことを実感でき、「目からうろこ」の体験ができる。

到達目標 学生は上記ポイントを学習することで、下記のスキルを身につけることができ、最終的に、英文の中に英語の文化を発見し、英文を「書く」ことの楽しさを味わえる。（下記の各番号は、上記キーポイントの番号に対応する。）
(1) 学生は、主語に対してロジックの合う述語を正しく選ぶことができ、英文の「軸」を作ることができる。→ 英文書き出しの基本
(2) 学生は、英語の語感は、辞書の対訳語だけではつかめないことを知り、自分で適切な英語表現を選択でき、英語にしづらい日本語表現に対しては、説明的に（Describe）して、表現できる。→「思考力」「表現力の幅」の上達（英英辞典の利用）
(3) 学生は、正解英文は 1 つではない、と知ることができる。いろいろな角度から考え、いろいろな視点/発想を使って、複数の英文で表現できるようになる。「英文表現の楽しさ」を知る。→「頭の柔軟さ」
(4) 学生は、論理の運び方を学び、自分の言いたいことを、わかりやすく英文で表現できる能力を身につけることができる。→「思考力」「論理力」
「書く」ことは「頭を使って、整理し表現する」ことであり、英語を「書く」トレーニングを積むことで、頭の柔軟性、思考力、論理の組み立て力を高めることができる。そして、日本語思考（発想）と英語思考（発想）の間を行き来することで、日本語と英語の文化や発想の違いを実感できる。
英文を「書く」ことは、大学受験内容の影響でなかなか身につけることが難しかったが、実は、社会に出ると、英語を「書く」能力の要求度は高い。社会に出た後も、英語と楽しく付き合い、自分の人生に役立ててほしい。

成績評価の方法と基準 授業態度、授業への姿勢、意欲、発表、提出すべき課題（宿題）、期末試験を総合して評価する。出席数も考慮する。数字割合は下記です。
期末試験 50%
課題宿題等提出物 30%
平常点 20%

LANe100LA
英文ライティングⅡ
2016 年度以前入学者

松澤　圭子

授業コード：E0594　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期で学習したキーポイント（下記）をベースに、さらに英文を書きながら理解を深め、より洗練された英文を書けるようにする。
キーポイント
(1) 主語と述語の合致
(2) 適切な英単語の選択/単語の語感の把握
(3) 発想/視点の転換
(4) ロジカル →「軸」
また新たに、下記のポイント（テクニック）を学ぶ。
(5) 日本語頭と英語頭（春学期のまとめでもある）
(6) 英文全体に目を向けて、日本語の「起承転結」と英語の「結論から詳細へ」という、論理の運び方を学ぶ。
(7) 英文を作るときに、日本語で考えている言葉/文章の中から、不要な言葉は「削除」するテクニック
(8) 上記 (7) と逆に、「補足」の英語を加えるテクニック
(9) 英語らしい表現や日本語らしい表現（それぞれ双方に訳しづらい表現）を見つけ、思考の流れや発想の違いをさらに学ぶ。

到達目標 学生は、英語発想/ロジックに基づく、より洗練された英文を書けるようになり、その中で日本語文化と英語文化を楽しむことができる。学生は、コミュニケーションの重要性を学び、積極的に自分の表現で伝えることを楽しくできるようになる。
上記により、広く世界を見る目を養い、他国の文化を理解し、複数の視点で物事を考える力をつけることができる。身近にある英語（英字新聞/洋書/洋画等）を楽しめる。

成績評価の方法と基準 授業態度、授業への姿勢、意欲、発表、提出すべき課題（宿題）、期末試験を総合して評価する。出席数も考慮する。数字割合は下記です。
期末試験 50%
課題宿題等提出物 30%
平常点 20%

LANe200LA
English Academic Writing Ⅰ
2017 年度以降入学者

LANe100LA
英語アカデミック・ライティングⅠ
2016 年度以前入学者

ロジャー　エドウィン　パティモア

授業コード：R2391　2017 年度以降入学者
授業コード：E0611　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） English Academic I is part 1 of a two-part course. Some of the objectives of the this part of the course are:
1. Increase academic vobabulary
2. Increase keyboarding skills
3. Improve word processing skills
4. Learn to paraphrase effectively

5. Learn to summarize
6. Write a paragraph
7. Write an independent essay suitable for IELTS or TOEFL or any other writing purpose.

到達目標 Some goals for the spring semester:
1. Develop skills necessary for good academic writing. (See outline and objectives for a list.)
2. Understand the importance of the paragraph and where it fits into academic writing.
3. Understand different kinds of paragraphs:
a. General assignment type paragraph
b. Body paragraph of a TOEFL or IELTS independent essay
c. Conclusion paragraph
4. Understand the purpose and structure of the independent essay for IELTS, TOEFL, Eiken (１級 200-240 words) or TOEIC Writing and Speaking.

成績評価の方法と基準 1. Participation (20 points) Proof of academic attitudes
a. Being really present in class by paying attention, asking questions
b. Cooperation with teacher by recognizing and answering a variety of different types of questions.
c. Following instructions
d. Communicating and cooperating with other students
2. Organization - Print file(s) (10 points)
3. Keyboarding (10)
4. Paraphrasing and other assignments handed in (5 points)
5. AWL Test (20 points)
6. Paragraph(s), Essay including pre-writing and outline assignments (35 points)

LANe200LA

English Academic Writing Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語アカデミック・ライティングⅡ　2016 年度以前入学者

ロジャー　エドウィン　パティモア

授業コード：R2392　2017 年度以降入学者
授業コード：E0612　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） The main objectives for the fall are:
1. AWL Sbulist 2, Gr. 5, 6 and Sublist 3 Gr. 1-6 Sublist 4 Gr. 1,2
2. Increase keyboarding speed to 35 wpm 95% accuracy (or your goal)
3. Review the independent essay and write one
4. Notetaking (TOEFL Integrated Question skill), paraphrasing, summarizing
5. Skimming, Scanning and other reading skills
6. Write 2 IELTS Task 1 Essays
7. Write 2 TOEFL Integrated Tasks

到達目標 This course is a continuation of Academic I in the spring semester. The fall course aims to:
1. Build skills necessary IELTS Task 1 and TOEFL Integrated type proficiency tests.
a. paraphrasing
b. summarizing
c. skimming / scanning
d. essay structure
e. test strategy
2. Build academic vocabulary skills
3. Build keyboarding and word processing skills

成績評価の方法と基準 Students will be graded on the following:
1. Participation (See spring semester syllabus) (10 points)
2. AWL (Mid-semester and Final 25 points)
3. Keyboarding (5 points)
4. Other assignments such as notes or summaries (10 points)
5. One review independent essay (timed) (5 points)
6. One IELTS Task 1 essay not timed (10 points)
7. One IELTS Task 2 essay in class (15 points)
8. One TOEFL Integrated Essay not timed (10 points)
9. One TOEFL Integrated Essay timed (15 points)

LANe200LA

English Academic Writing Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語アカデミック・ライティングⅠ　2016 年度以前入学者

マーク　バーンズ

授業コード：R2393　2017 年度以降入学者
授業コード：E0613　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

到達目標 This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with social and creative writing. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

LANe200LA

English Academic Writing Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語アカデミック・ライティングⅡ　2016 年度以前入学者

マーク　バーンズ

授業コード：R2394　2017 年度以降入学者
授業コード：E0614　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

到達目標 This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with social and creative writing. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

LANe200LA

English Academic Writing Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語アカデミック・ライティングⅠ　2016 年度以前入学者

ALAN　M　NICHOLLS

授業コード：R2395　2017 年度以降入学者
授業コード：E0615　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

到達目標 The student will be able to prepare an Essay in a format acceptable for academic publication.

成績評価の方法と基準 Homework Assignments:30%
Worksheet Assignments: 30%
Participation: 20%
Presentation:20%
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA

English Academic Writing Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語アカデミック・ライティングⅡ　2016 年度以前入学者

ALAN　M　NICHOLLS

授業コード：R2396　2017 年度以降入学者
授業コード：E0616　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

到達目標 This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. The final document will be a document format for an academic essay.

成績評価の方法と基準 Homework assignments: 40%
Classroom Worksheets: 30%
Group Participation:20%
Presentation:10%
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

田中　邦佳

授業コード：R2401　2017 年度以降入学者
授業コード：E0623　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

到達目標 ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

成績評価の方法と基準 平常点および小テスト（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。
　未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅱ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

田中　邦佳

授業コード：R2402　2017 年度以降入学者
授業コード：E0624　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

到達目標 ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

成績評価の方法と基準 平常点および小テスト（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。
　未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみら

れない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

LANe200LA
英語で学ぶ社会と文化Ⅰ 2017年度以降入学者
LANe100LA
マスメディアの英語Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**社会と文化の諸相を知る**

岩坪　友子

授業コード：R2403 2017年度以降入学者
授業コード：E0625 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） ＜社会・文化の諸相を学びながら英語の諸技能を向上させる＞
世界の社会と文化のさまざまな側面を扱った英語素材の学習を通して、知識や問題意識を養いながら、英語のリスニング力とリーディング力の向上を図ります。クリティカル・シンキング力を鍛え、英語素材の要約や自分の意見を英語で発信する練習も行います。

到達目標 (1) 授業で扱った英語素材について、構文や語彙を理解し、論旨を把握できている
(2) 授業で扱った英語素材について、平易な英語で要約したり意見を表現できる
(3) 英語の文章を読んで、必要な情報を得ることができる
(4) 英語の音声を聴いて、必要な情報を得ることができる
(5) さまざまなトピックについて、予習・授業・復習を通じて理解に努め、批判的・論理的に考察し、自分の見解を深めることができる

成績評価の方法と基準 平常点（予習・授業時の発言内容・課題・小テストなど）50%、期末試験50%の割合で、上記到達目標(1)〜(5)に照らして評価します。原則として欠席回数が4回に達した受講生は単位取得の資格がなくなります。欠席・遅刻・無回答などは減点となります。次のような姿勢で取り組んでください：①自力でできるところまでしっかり予習、目的意識を持って出席②授業で理解を深め、積極的に参加貢献③復習と自習で定着・弱点克服・上達を図り④授業と期末試験で成果を発揮

LANe200LA
英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者
LANe100LA
マスメディアの英語Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**社会と文化の諸相を知る**

岩坪　友子

授業コード：R2404 2017年度以降入学者
授業コード：E0626 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） ＜社会・文化の諸相を学びながら英語の諸技能を向上させる＞
春学期に引き続き、世界の社会と文化のさまざまな側面を扱った英語素材の学習を通して、知識や問題意識を養いながら、英語のリスニング力とリーディング力の向上を図ります。クリティカル・シンキング力を鍛え、英語素材の要約や自分の意見を英語で発信する練習も行います。

到達目標 (1) 授業で扱った英語素材について、構文や語彙を理解し、論旨を把握できている
(2) 授業で扱った英語素材について、平易な英語で要約したり意見を表現できる
(3) 英語の文章を読んで、必要な情報を得ることができる
(4) 英語の音声を聴いて、必要な情報を得ることができる
(5) さまざまなトピックについて、予習・授業・復習を通じて理解に努め、批判的・論理的に考察し、自分の見解を深めることができる

成績評価の方法と基準 平常点（予習・授業時の発言内容・課題・小テストなど）50%、期末試験50%の割合で、上記到達目標(1)〜(5)に照らして評価します。原則として欠席回数が4回に達した受講生は単位取得の資格がなくなります。欠席・遅刻・無回答などは減点となります。次のような姿勢で取り組んでください：①自力でできるところまでしっかり予習、目的意識を持って出席②授業で理解を深め、積極的に参加貢献③復習と自習で定着・弱点克服・上達を図り④授業と期末試験で成果を発揮

LANe200LA
英語で学ぶ社会と文化Ⅰ 2017年度以降入学者
LANe100LA
マスメディアの英語Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**社会と文化の諸相を知る**

菊池　かおり

授業コード：R2405 2017年度以降入学者
授業コード：E0627 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会において重要なトピックについての文章を読み解き、論理的思考に基づいた自分の意見を英語で表現する方法を学びます。多くの英単語や文法を学んだとしても、実際にそれらが活用できなければ知識が無駄になってしまいます。そのため授業では、パラグラフ・リーディングやグループ・プレゼンテーションなどを通して、論理的思考能力と英語の運用能力を磨きます。

到達目標 議論の大意を素早く把握するためのリーディングスキルとリスニングスキルの強化、そして自分の意見を論理的に述べるために必要なライティングスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。

成績評価の方法と基準 平常点２５%、ライティングなどの課題１５%、グループ・プレゼンテーション２０%、期末試験４０%

LANe200LA
英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者
LANe100LA
マスメディアの英語Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：**社会と文化の諸相を知る**

菊池　かおり

授業コード：R2406 2017年度以降入学者
授業コード：E0628 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会において重要なトピックについての文章を読み解き、論理的思考に基づいた自分の意見を英語で表現する方法を学びます。多くの英単語や文法を学んだとしても、実際にそれらが活用できなければ知識が無駄になってしまいます。そのため授業では、パラグラフ・リーディングやグループ・プレゼンテーションなどを通して、論理的思考能力と英語の運用能力を磨きます。

到達目標 議論の大意を素早く把握するためのリーディングスキルとリスニングスキルの強化、そして自分の意見を論理的に述べるために必要なライティングスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。

成績評価の方法と基準 平常点２５%、ライティングなどの課題１５%、グループ・プレゼンテーション２０%、期末試験４０%

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅰ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

余田　剛

授業コード：R2407　2017年度以降入学者
授業コード：E0631　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

到達目標 この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまででではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程の基本的なリスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

成績評価の方法と基準 試験の成績（70％）と平常点（30％）とから総合的に評価する。欠席が4回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は3回に達するごとに1回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

余田　剛

授業コード：R2408　2017年度以降入学者
授業コード：E0632　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

到達目標 この授業では、政治情勢をはじめとし、その他世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまででではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程の基本的なリスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

成績評価の方法と基準 試験の成績（70％）と平常点（30％）とから総合的に評価する。欠席が4回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は3回に達するごとに1回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅰ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

高根　広大

授業コード：R2409　2017年度以降入学者
授業コード：E0633　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英字新聞をまとめたテキストを使用し、国内外の幅広い分野に関する問題や英語表現を学ぶ。リーディング学習が中心となるが、リスニングやライティングの学習にも取り組む。

到達目標 英字新聞の内容を理解し、他の英語に置き換えたり、英語で要約できるようにする。

成績評価の方法と基準 平常点：30％、期末試験：70％、合計100％として評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。期末試験では授業で扱った英文の内容をもとに到達度を測る。評価基準はA+:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60点である。欠席は3回まで。4回欠席した時点で、単位取得の資格を失う。授業開始から30分以降の入室は欠席とみなす。遅刻（出欠確認後の入室）3回で欠席1回とする。期末テストの受験は必須とする。また、第1回めの授業も必ず出席すること。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

高根　広大

授業コード：R2410　2017年度以降入学者
授業コード：E0634　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英字新聞をまとめたテキストを使用し、国内外の幅広い分野に関する問題や英語表現を学ぶ。リーディング学習が中心となるが、リスニングやライティングの学習にも取り組む。

到達目標 英字新聞の内容を理解し、他の英語に置き換えたり、英語で要約できるようにする。

成績評価の方法と基準 平常点：30％、期末試験：70％、合計100％として評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。期末試験では授業で扱った英文の内容をもとに到達度を測る。評価基準はA+:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60点である。欠席は3回まで。4回欠席した時点で、単位取得の資格を失う。授業開始から30分以降の入室は欠席とみなす。遅刻（出欠確認後の入室）3回で欠席1回とする。期末テストの受験は必須とする。また、第1回めの授業も必ず出席すること。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅰ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**社会と文化の諸相を知る**

衣笠　正晃

授業コード：R2411　2017年度以降入学者
授業コード：E0635　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語メディア（ニュースサイト・新聞・雑誌など）のレポート・記事・論説の視聴・講読を行ないます。聴解力・読解力・語彙力を中心に英語運用能力を向上させ、英語で／英語を通じて考えるために欠かせない、総合的な情報収集能力を身につけることを目的とします。

到達目標 1）英語学習の基本的スキルを強化するとともに、時事英語の特徴・語法を理解する。
2）英文の内容・論旨を把握・理解するのに必要な、正確なリスニング力・読解力を身につける。
2）現代社会について考察・議論するために欠かせない、高いレベルの語彙を習得する。
3）各メディアの個性や立ち位置を知るとともに、現代社会の多様な問題への関心を深める。

成績評価の方法と基準 平常点（授業への参加度、小テスト、提出物など。60％）と学期末試験（40％）によって評価します。評価にあたっては下記の各点に注目します。
1）英語学習の基本的事項や時事英語の常識を習得・理解できているか。
2）正確なリスニング力や読解力にもとづいて、英文の内容・論旨が把握できているか。
3）現代社会についての考察・議論に必要な、高いレベルの語彙が身についているか。
4）メディアのあり方や現代社会の抱える問題への関心や知識を深めているか。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**社会と文化の諸相を知る**

衣笠　正晃

授業コード：R2412　2017年度以降入学者
授業コード：E0636　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 英語メディア（ニュースサイト・新聞・雑誌など）のレポート・記事・論説の視聴・講読を行ないます。聴解力・読解力・語彙力を中心に英語運用能力を向上させ、英語で／英語を通じて考えるために欠かせない、総合的な情報収集能力を身につけることを目的とします。

到達目標 1）英語学習の基本的スキルを強化するとともに、時事英語の特徴・語法を理解する。
2）英文の内容・論旨を把握・理解するのに必要な、正確なリスニング力・読解力を身につける。
2）現代社会について考察・議論するために欠かせない、高いレベルの語彙を習得する。
3）各メディアの個性や立ち位置を知るとともに、現代社会の多様な問題への関心を深める。

成績評価の方法と基準 平常点（授業への参加度、小テスト、提出物など。60％）と学期末試験（40％）によって評価します。評価にあたっては下記の各点に注目します。
1）英語学習の基本的事項や時事英語の常識を習得・理解できているか。
2）正確なリスニング力や読解力にもとづいて、英文の内容・論旨が把握できているか。
3）現代社会についての考察・議論に必要な、高いレベルの語彙が身についているか。
4）メディアのあり方や現代社会の抱える問題への関心や知識を深めているか。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅰ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅰ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

遠藤　郁子

授業コード：R2413　2017年度以降入学者
授業コード：E0637　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では新聞・雑誌・テレビニュース／ドラマ・ブログを中心とする英語メディアを通して世界の政治や経済、社会問題、文化などを批評的に分析します。それにより、多様な文化や人びとの生き方を尊重し、自らのそれを相対的に捉える能力を身につけます。
この授業は学生の英語の知識や技能向上そのものを最終目標とするのではなく、英語を使うことで学生が視野を広げ、授業終了後もそれぞれの目標や関心に応じて英語を継続的に学習・運用をすることを目的とします。

到達目標 この授業は以下の4つを目標とします：
①時事英語を繰り返し読む・聴くことでその語学的特徴や語彙を理解する
さらに、そこで学んだ
②世界情勢に関して英語でプレゼンテーションやディスカッションをする
こうした訓練を通じて
③世界情勢を批判的に分析し、日本の文化や社会を相対化する
最終的には
④授業終了後も英語を使って自身の視野を広げる能力を身につける

成績評価の方法と基準 授業への貢献（出席・ディスカッション・ペア／グループワークへの参加）30%、グループプレゼンテーション30%、中間・期末試験各20%で評価します。欠席回数が4回以上で履修継続は不可となります。

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ　2017年度以降入学者

LANe100LA

マスメディアの英語Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**マスメディアで読む世界情勢**

遠藤　郁子

授業コード：R2414　2017年度以降入学者
授業コード：E0638　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では新聞・雑誌・テレビニュース／ドラマ・ブログを中心とする英語メディアを通して世界の政治や経済、社会問題、文化などを批評的に分析します。それにより、多様な文化や人びとの生き方を尊重し、自らのそれを相対的に捉える能力を身につけます。

この授業は学生の英語の知識や技能向上そのものを最終目標とするのではなく、英語を使うことで学生が視野を広げ、授業終了後もそれぞれの目標や関心に応じて英語を継続的に学習・運用をすることを目的とします。

到達目標 この授業は以下の４つを目標とします：
①時事英語を繰り返し読む・聴くことでその語学的特徴や語彙を理解するさらに、そこで学んだ
②世界情勢に関して英語でプレゼンテーションやディスカッションをするこうした訓練を通じて
③世界情勢を批判的に分析し、日本の文化や社会を相対化する
最終的には
④授業終了後も英語を使って自身の視野を広げる能力を身につける

成績評価の方法と基準 授業への貢献（出席・ディスカッション・ペア／グループワークへの参加）30%、グループプレゼンテーション 30%、中間・期末試験各 20%で評価します。欠席回数が 4 回以上で履修継続は不可となります。

LANe200LA
English Presentation Ⅰ　2017 年度以降入学者
LANe100LA
映画で学ぶ英語Ⅰ　2016 年度以前入学者

ナダー　ジャミリア

授業コード：R2441　2017 年度以降入学者
授業コード：E0641　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, businessand cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

到達目標 You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising , collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

成績評価の方法と基準 In-class performance* and participation 25%
Presentations 45%
Self evaluation 10%
Outside class preparation 20%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

LANe200LA
English Presentation Ⅱ　2017 年度以降入学者
LANe100LA
映画で学ぶ英語Ⅱ　2016 年度以前入学者

ナダー　ジャミリア

授業コード：R2442　2017 年度以降入学者
授業コード：E0642　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

到達目標 You will become a better presenter. You will improve your abil- ity to communicate in front of a group, including topic selec- tion, generating ideas, organising , collecting supporting infor- mation, visual communication, consideration of your voice, and movement.

成績評価の方法と基準 In-class performance* and participation 25%
Presentations 45%
Self evaluation 10%
Outside class preparation 20%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

LANe200LA
English Presentation Ⅰ　2017 年度以降入学者
LANe100LA
映画で学ぶ英語Ⅰ　2016 年度以前入学者

ジョン　ライリー

授業コード：R2443　2017 年度以降入学者
授業コード：E0643　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course teaches English and presentations through students making mini, short and long presentations, and by watching presentations and talks in movies, TV shows and other media.

到達目標 The presentations skills developed by students will help them be better communicators in English.

成績評価の方法と基準 Class participation - 25%
Solo Presentation - 25%
Group Presentation - 25%
Power Point Presentation - 25%

LANe200LA
English Presentation Ⅱ　2017 年度以降入学者
LANe100LA
映画で学ぶ英語Ⅱ　2016 年度以前入学者

ジョン　ライリー

授業コード：R2444　2017 年度以降入学者
授業コード：E0644　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course teaches English and presentations through students making mini, short and long presentations, and by watching presentations and talks in movies, TV shows and other media.

到達目標 The presentations skills developed by students will help them be better communicators in English.

成績評価の方法と基準 Class participation - 25%
Solo Presentation - 25%
Group Presentation - 25%

Power Point Presentation - 25%

LANe200LA

English Presentation Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

映画で学ぶ英語Ⅰ　2016 年度以前入学者

コートランド　D　スミス

授業コード：R2445　2017 年度以降入学者
授業コード：E0645　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

到達目標 This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

成績評価の方法と基準 Presentations (50%)
Class participation (40%)
Final presentation (10%)
*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.
Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

LANe200LA

English Presentation Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

映画で学ぶ英語Ⅱ　2016 年度以前入学者

コートランド　D　スミス

授業コード：R2446　2017 年度以降入学者
授業コード：E0646　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

到達目標 The goal of this course is to enable students to make effective presentations on a variety of topics. Students will learn to confidently deliver multimedia informative/descriptive speeches, as well as comparative, demonstrative and argumentative/persuasive presentations. Students will also learn to evaluate the quality and content of others' presentations, to take notes on presentation content, and to provide detailed feedback to help presenters to improve their presentation technique.

成績評価の方法と基準 Presentations (50%)
Class participation (40%)
Final presentation (10%)
*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.
Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

LANe200LA

English Presentation Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

映画で学ぶ英語Ⅰ　2016 年度以前入学者

マーク　バーンズ

授業コード：R2447　2017 年度以降入学者
授業コード：E0647　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

到達目標 This subject aims to equip learners with the confidence and basic ability to deliver effective presentations in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

LANe200LA

English Presentation Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

映画で学ぶ英語Ⅱ　2016 年度以前入学者

マーク　バーンズ

授業コード：R2448　2017 年度以降入学者
授業コード：E0648　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 4

授業の概要と目的（何を学ぶか） The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

到達目標 This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

成績評価の方法と基準 Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

LANe200LA

英語アカデミック・リーディングⅠ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語リーディング・ワークショップⅠ/Ⅱ　2016 年度以前入学者

岩崎　博

授業コード：R2451　2017 年度以降入学者
授業コード：E0663　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） 美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う論文を読む。英文を読み解くことによって新しい視点、刺激的な世界観に触れる。個々の論文には難解なものもあるが、それを読み解き理解する喜びを体験したい。パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、 多量の英文を読みこなす能力を養う。特に、トピックセンテンスを中心に、文章を要約する方法を学ぶ。また、読んで理解した内容を、口頭で的確に表現できるようになりたい。

到達目標 パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
理解した内容を口頭で言い表すことができるようになる。
英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。
トピックを理解することにより、細部に理解できないところがあっても、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。
レトリックを読み解く技術を身につける。
意味が文脈によって産出されることを理解する。
抽象的な表現の具体的内容を理解する方法を学ぶ。
テクストを批判的に読み解く技術を学ぶ。
辞書を引く意味を理解する。
辞書が活用できるようになる。
最終的に、多量の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点 50 パーセント、試験の点 50 パーセントの比率で評価を行う。
一度欠席するたびに、平常点から 2 点ずつ引いて行く。
4 回以上欠席した場合、単位の取得意思がないものとみなす。

LANe200LA

英語アカデミック・リーディングⅡ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語リーディング・ワークショップⅠ/Ⅱ　2016 年度以前入学者

岩崎　博

授業コード：R2452　2017 年度以降入学者
授業コード：E0664　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） 美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う論文を読む。論文を読み解くことによって新しい視点、刺激的な世界観に触れる。個々の論文には難解なものもあるが、それを読み解き理解する喜びを体験したい。パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、多量の英文を読みこなす能力を養う。特に、トピックセンテンスを中心に、文章を要約する方法を学ぶ。また、読んで理解した内容を、口頭で的確に表現できるようになりたい。

到達目標 パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
理解した内容を口頭で言い表すことができるようになる。
英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。
細部に理解できないところがあっても、トピックを理解することにより、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。
レトリックを読み解く技術を身につける。
意味が文脈によって産出されることを理解する。
テクストを批判的に読み解く技術を学ぶ。
辞書を引く意味を理解する。
辞書が活用できるようになる。
最終的に、多量の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

成績評価の方法と基準 平常点 50 パーセント、試験の点 50 パーセント。
一度欠席するたびに、平常点から 2 点ずつ引いて行く。
4 回以上欠席した場合、単位の取得意思がないものとみなす。

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語検定試験対策Ⅰ　2016 年度以前入学者

久慈　美貴

授業コード：R2481　2017 年度以降入学者
授業コード：E0691　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC Test listening part の速度に慣れ、重要点（設問部分）をチェックできるよう練習したい。
自習用オーディオファイルを何度も聞いて、音と速さ、設問形式になじんでほしい。

到達目標 TOEIC Test の listening part の速度に慣れ、単語ではなくフレーズの塊を聞き取れるようになる。
既習の文法事項を復習し再確認する。
ビジネス関連の語彙を増やす。

成績評価の方法と基準 授業時の提出物（テキストの演習問題、ボキャブラリークイズ、グラマークイズなど）80 %、期末テスト 20 %として評価する。
3 回以上欠席した場合、評価の対象としない。

遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意してほしい。

LANe200LA
英語検定試験対策Ⅱ 2017年度以降入学者
LANe100LA
英語検定試験対策Ⅱ 2016年度以前入学者

久慈　美貴

授業コード：R2482 2017年度以降入学者
授業コード：E0692 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 音の脱落・連結音など聞き取りにくい音になじみ、より正確に設問の意図をつかむよう練習したい。
必要に応じて文法プリントや追加のreading問題を配布し、リーディングの基礎を固めていきたい。

到達目標 とくにPart IIIのように会話の流れと設問が前後するような問題でも、聞きながら情報を整理して、回答できるようにする。
Reading partでは、設問から記事のポイントを押さえて、重要点を探せるようにする。

成績評価の方法と基準 授業時の提出物80％、期末試験20％として評価する。
平常の提出物の評価割合が大きいので、欠席しないよう気をつけましょう。3回以上欠席した場合、評価の対象としません。

LANe200LA
英語検定試験対策Ⅰ 2017年度以降入学者
LANe100LA
英語検定試験対策Ⅰ 2016年度以前入学者

鈴木　理枝

授業コード：R2483 2017年度以降入学者
授業コード：E0693 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、TOEIC TEST650点以上を目標に掲げる学生を対象とする。TOEIC TEST受験に最低限必要な語彙力と文法の基礎知識の蓄積及び問題演習による解答テクニックの習得を目指す。

到達目標 ・TOEIC TESTを受験して、650点以上を獲得する。
・社会で英語を使用して働けるように、基本表現を身につける。
・ビジネスに関連する語彙、表現を身につける。

成績評価の方法と基準 平常点：50％　授業への積極的参加、発表の結果。他に授業中に実施する実践的な練習問題についても回収して平常点に加える。
期末試験：50％（TOEICテスト形式）

LANe200LA
英語検定試験対策Ⅱ 2017年度以降入学者
LANe100LA
英語検定試験対策Ⅱ 2016年度以前入学者

鈴木　理枝

授業コード：R2484 2017年度以降入学者
授業コード：E0694 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル3,4

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前期に続き、この授業ではTOEIC TESTで650点以上を目標に、このレベルに必要とされる知識の蓄積と、問題演習による解答テクニックの習得を目指す。社会で必要とされる知識を身につける。

到達目標 ・TOEIC TESTを受験して、650点以上を獲得する。
・社会で英語を使用して働けるように、基本表現を身につける。
・ビジネスに関連する語彙、表現を身につける。

成績評価の方法と基準 平常点：50％　授業への積極的参加、発表の結果。他に授業中に実施する実践的な練習問題についても回収して平常点に加える。
期末試験：50％（TOEICテスト形式）

LANe200LA
英語検定試験対策Ⅰ 2017年度以降入学者
LANe100LA
英語検定試験対策Ⅰ 2016年度以前入学者

野崎　将俊

授業コード：R2485 2017年度以降入学者
授業コード：E0695 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：法文営国、レベル2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC全パートの問題演習を通じてスコアアップと英語の基礎力向上を目指す。新形式に対応。

到達目標 スコア600を目標とする。TOEICに特有のボキャブラリーを増やす。アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア各国の英語に慣れ、正確に聞き取ることができる。文法問題に強くなる。リーディングのスピードを上げる。

成績評価の方法と基準 出席を含む平常点４０％、授業内の活動３０％、ポストテスト３０％とし、６０点以上を合格とする。

LANe200LA
英語検定試験対策Ⅱ 2017年度以降入学者
LANe100LA
英語検定試験対策Ⅱ 2016年度以前入学者

野崎　将俊

授業コード：R2486 2017年度以降入学者
授業コード：E0696 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：法文営国、レベル2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEFL iBTテストの問題演習を通じてスコアアップと英語力の向上を目指す。

到達目標 留学に必要な検定英語のスコア獲得を目標とする。TOEFL特有のボキャブラリーを増やす。アメリカ英語に慣れ、正確に聞き取ることができる。文法に強くなる。リーディングのスピードを上げる。ス

ピーキング、ライティング問題に取り組む。

成績評価の方法と基準 出席を含む平常点 40 %、予習・復習課題 30 %、ファイナルテスト 30 %とし、60 点以上を合格とする。

LANe200LA

英語検定試験対策 Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語検定試験対策 Ⅰ　2016 年度以前入学者

高橋　佳江

授業コード：R2487　2017 年度以降入学者
授業コード：E0697　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） TOEIC(R)650 点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低 1 回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。
この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

到達目標 大学生の TOEIC(R) 全国平均（400 点台後半）以上の点を最低取れるようにして、実際に 500 点台の英単語を書けるようにしていく。

成績評価の方法と基準 出席が 12 回以上で、試験の点数が、概ね 60 点以上の者を合格とする。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、また、学期半ばで欠席が 4 回以上になった者は、その時点で名簿から削除する。試験の点数のほかに、授業時の発言点、自主レポート点などを考慮する。

LANe200LA

英語検定試験対策 Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語検定試験対策 Ⅱ　2016 年度以前入学者

高橋　佳江

授業コード：R2488　2017 年度以降入学者
授業コード：E0698　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

履修対象：法文営国、レベル 2,3

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低 1 回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。
この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

到達目標 春学期から引き続いて学んでいる学生は TOEIC(R) を受験して得点が 30 点以上上がっていることを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席が 12 回以上で、試験の点数が、概ね 60 点以上の者を合格とする。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、また、学期半ばで欠席が 4 回以上になった者は、その時点で名簿から削除する。試験の点数のほかに、授業時の発言点、自主レポート点などを考慮する。

M E M O

ドイツ語　　2017 年度以降入学生用

■授業の目的・内容

１年次＝入門の基礎コース

「ドイツ語１」

「ドイツ語２」

①音のルールを知って、初見の単語でも発音できる。　②基礎的な文法事項を習得する。

③辞書などを用いて、初歩的なテキストを分析し理解する。　④基本的な口語表現を学ぶ。

２年次＝基礎コース

「ドイツ語３」

①文学作品や時事的な評論文、あるいは映像を主とした教材などを用いて、文法力の強化を図るとともに、テキストの内容を的確に把握する。

②異文化としてのドイツ文化を具体例の積み重ねによって知る。

「ドイツ語４」

①様々な教材を用いて、文法の知識を深め、テキストを正確に把握する。

②異文化理解について学ぶ。

２年次の「ドイツ語３」は２単位が必修である。また、選択必修として、諸外国語（ドイツ語）を選択した学生は、「ドイツ語４」の２単位が必修である。さらにドイツ語を学びたい学生は、各自の興味に応じて「ドイツ語コミュニケーション」などの選択科目（別掲）を履修することができる。

■授業の形式・進め方

これらの授業によってドイツ語の実践的な言語能力の育成をめざすが、重要なのは、さまざまな教材による言語運用の練習を通じて、わたしたちとは異なる言語をよりどころとする「異文化としてのドイツ文化」を実際に知ることである。リベラルアーツ科目「ドイツ語の世界L」は、これから学ぶドイツ語とその文化圏を導入的に紹介する授業であり、ドイツ語学習の手始めとして勧められる。さらに、２～４年次のリベラルアーツ科目「ドイツの文化と社会L」、総合科目「ドイツ語圏の文学」「比較文化」などの選択科目が開講され、語学としてのドイツ語を深く学びたい学生、ドイツ語圏の文化、社会、政治に関心のある学生は、興味、専攻分野に応じて履修することができる。

■成績評価の方法

原則として、春・秋学期の期末試験と適宜行われる授業内小テストによる。評価は、試験の結果に授業参加への積極性、出席率を考慮して総合的に判断する。詳しくは各教員から指示がある。

■使用テキスト

各教員がその都度指示する。

■ドイツ語の学び方

１．なぜドイツ語を学ぶのか？

なぜドイツ語なのだろう、新しく学ぶ２つめの外国語に自分は何を求めているのだろう、まず一度考えてみてください。

２．どの程度ドイツ語を学べるのか？

「ドイツ語１」「ドイツ語２」（１年次）「ドイツ語３」（２年次）という３つの科目（合計６単位）は卒業のためのミニマムであり、かつ、ドイツ語という新しい言葉を学ぶためのミニマムです。

３．どのようなドイツ語を学ぶのか？

ａ）「ドイツ語の世界L」：ドイツ語と、ドイツ語を話す人たちと、ドイツ語を話す人たちの文化について幅広く紹介する授業です。ILAC科目４群の「ドイツ語１」「ドイツ語２」「ドイツ語３」とともに履修することができます。

ｂ）選択科目：「ドイツ語１」「ドイツ語２」「ドイツ語３」はいわゆるクラス指定ですが、以下のように、さらに多様なドイツ語関連の科目を選択することができます。

ILAC４群の２～４年生用の選択科目「ドイツ語コミュニケーション」「ドイツ語視聴覚」「時事ドイツ語」「検定ドイツ語」から、自分の興味に応じてさらに履修することができます。

ｃ）２年次には、必修で「ドイツ語３」を全員が履修します。なお、選択必修で諸外国語（ドイツ語）を選択した学生は、「ドイツ語３」「ドイツ語４」を履修します。「ドイツ語表現法」（※）を修得することで「ドイツ語４」を充当することもできます。

ｄ）総合科目（自由科目）：各種の興味深いドイツ語関連科目が２、３、４年生用に開講されており、卒業所要単位として最大２０単位まで履修できます。

４．ドイツ語関連科目・年次配当表：書きたい、話したい、読みたい、資格をとりたい、ドイツの文化を知りたい、ドイツの現在を知りたいなど、みなさんの関心や目的に応じて組み合わせてください。

外国語科目	リベラルアーツ科目	総合科目
［1 年次クラス授業］ ドイツ語１Ⅰ・Ⅱ ドイツ語２Ⅰ・Ⅱ ［2 年次クラス授業］ ドイツ語３Ⅰ・Ⅱ ［2 年次選択必修科目］ ドイツ語４Ⅰ・Ⅱ ドイツ語表現法Ⅰ・Ⅱ（※） ［2～4 年次選択科目］ ドイツ語コミュニケーション Ⅰ・Ⅱ ドイツ語視聴覚Ⅰ・Ⅱ 時事ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 検定ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	ドイツ語の世界 LA・B （1～4 年次） ドイツの文化と社会 LA・B （2～4 年次）	総合科目： 第三外国語としてのドイツ語Ａ・Ｂ ドイツ語コミュニケーション中級Ａ・Ｂ 留学ドイツ語Ａ・Ｂ ドイツの思想Ａ・Ｂ（３・４年次） ドイツ語圏の文学Ａ・Ｂ ドイツ語圏の芸術Ａ・Ｂ 比較文化Ａ・Ｂ（３・４年次） 教養ゼミⅠ・Ⅱ（ドイツ語講読）

（※）パターンＢの学生は、選択必修の必要単位（２単位）を修得以降、選択科目となります（『履修の手引き』参照）。

ドイツ語　2016 年度以前入学生用

■授業の目的・内容

１年次＝入門の基礎コース

「ドイツ語１」：表現－文法の基礎

「ドイツ語２」：読解－文法の練習

① 音のルールを知って、初見の単語でも発音できる。　②基礎的な文法事項を習得する。

③ 辞書などを用いて、初歩的なテキストを分析し理解する。　④基本的な口語表現を学ぶ。

２年次＝基礎コース

「ドイツ語３」：理解－テキストの把握

① 文学作品や時事的な評論文、あるいは映像を主とした教材などを用いて、文法力の強化を図るとともに、テキストの内容を的確に把握する。

② 異文化としてのドイツ文化を具体例の積み重ねによって知る。

「ドイツ語４」「ドイツ語５」：理解インテンシブ

① 様々な教材を用いて、文法の知識を深め、テキストを正確に把握する。

② 異文化理解について学ぶ。

２年次の「ドイツ語３」は２単位が必修である。さらにドイツ語を学びたい学生は、基礎科目４群の残りの４単位をドイツ語で履修することができる。ドイツ語重点クラスの学生は、２年次以降に「ドイツ語３」の他に「ドイツ語４」「ドイツ語５」を履修する。さらに、各自の興味に応じて「ドイツ語コミュニケーション」などの選択科目（別掲）を履修することができる。

■授業の形式・進め方

これらの授業によってドイツ語の実践的な言語能力の育成をめざすが、重要なのは、さまざまな教材による言語運用の練習を通じて、わたしたちとは異なる言語をよりどころとする「異文化としてのドイツ文化」を実際に知ることである。１年次の基礎科目０群の選択科目「ドイツ語の世界」は、これから学ぶドイツ語とその文化圏を導入的に紹介する授業であり、ドイツ語学習の手始めとして勧められる。２、３、４年次の総合科目には「ドイツの文化と社会」「ドイツの文学」「比較文化」などの選択科目が開講されている。語学としてのドイツ語を深く学びたい学生、ドイツ語圏の文化、社会、政治に関心のある学生は、興味、専攻分野に応じて履修することができる。

■成績評価の方法

原則として、春・秋学期の期末試験と適宜行なわれる授業内小テストによる。評価は、試験の結果に授業参加への積極性、出席率を考慮して総合的に判断する。詳しくは各教員から指示がある。

■使用テキスト

各教員がその都度指示する。

■ドイツ語の学び方

１．なぜドイツ語を学ぶのか？

なぜドイツ語なのだろう、新しく学ぶ２つ目の外国語に自分は何を求めているのだろう、まず一度考えてみてください。

２．どの程度ドイツ語を学べるのか？

「ドイツ語１」「ドイツ語２」（１年次）「ドイツ語３」（２年次）という３つの科目（合計６単位）は卒業のためのミニマムであり、かつ、ドイツ語という新しい言葉を学ぶためのミニマムです。

3．どのようなドイツ語を学ぶのか？

a）「ドイツ語の世界」：ドイツ語と、ドイツ語を話す人たちと、ドイツ語を話す人たちの文化について幅広く紹介する授業です。基礎科目０群の科目であり、基礎科目４群の「ドイツ語１」「ドイツ語２」「ドイツ語３」とともに履修することができます。

b）選択科目：「ドイツ語１」「ドイツ語２」「ドイツ語３」はいわゆるクラス指定ですが、以下のように、さらに多様なドイツ語関連の科目を選択することができます。

基礎科目４群の２～４年生用の選択科目「ドイツ語コミュニケーション」「ドイツ語表現法」「ドイツ語視聴覚」「時事ドイツ語」「検定ドイツ語」から、自分の興味に応じて履修することができます。

２年次に「ドイツ語３」のクラス授業に代えて、上記の２～４年生用の選択科目で代替履修することができます。

c）**＜2007年度以降入学生＞**

２年次の外国語の必修単位は入学時に届け出た履修パターンによって異なります。２年次のドイツ語の必修単位が２単位の学生は「ドイツ語３」を、４単位の学生は「ドイツ語３」「ドイツ語４」を、６単位の学生は「ドイツ語３」「ドイツ語４」「ドイツ語５」を履修します。どのパターンの学生も「ドイツ語３」は指定されたクラス名の該当科目を履修します。また、「ドイツ語３」「ドイツ語４」「ドイツ語５」を上記の２～４年生用の選択科目に代替することができます。

＜2006年度以前入学生＞

２年次の外国語の必修単位は６単位です。履修の仕方は、「ドイツ語３」（２単位）＋「英語３」「英語４」（４単位）または「ドイツ語３」「ドイツ語４」（４単位）＋「英語３」（２単位）または「ドイツ語３」「ドイツ語４」「ドイツ語５」（６単位）のいずれかです。１年次秋学期の事前登録時に届け出た方法で履修します。「ドイツ語３」は指定されたクラス名の該当科目を履修します。「ドイツ語３」＋「英語３」「英語４」を選択した場合は、「ドイツ語３」のクラス授業の代替として、上記の２～４年生用の選択科目から１科目（２単位）を履修することができます。２年次でドイツ語を４単位または６単位履修する場合の「ドイツ語４」「ドイツ語５」はいわゆるクラス指定ではなく、科目のために別途クラスが編成されます。この場合にも「ドイツ語３」「ドイツ語４」「ドイツ語５」を上記の２～４年生用の選択科目によって代替することができます。

d）総合科目（自由科目）：各種の興味深いドイツ語関連科目が２、３、４年生用に開講されており、卒業所要単位として最大２０単位まで履修できます。

4．ドイツ語関連科目・年次配当表：書きたい、話したい、読みたい、資格をとりたい、ドイツの文化を知りたい、ドイツの現在を知りたいなど、みなさんの関心や目的に応じて組み合わせてください。

１年次	２年次	３，４年次
基礎科目０群： ドイツ語の世界 基礎科目４群： ［クラス授業］ ドイツ語１ ドイツ語２	基礎科目４群：※ ［クラス授業］ ドイツ語３ ドイツ語４ ドイツ語５ ［選択科目］ ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ドイツ語表現法Ⅰ・Ⅱ ドイツ語視聴覚Ⅰ・Ⅱ 時事ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 検定ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	総合科目： ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ（２年～） ドイツ語コミュニケーションⅢ・Ⅳ 留学ドイツ語Ⅰ・Ⅱ（２年～） ドイツ語講読Ⅰ・Ⅱ ドイツの思想Ⅰ・Ⅱ ドイツの文学Ⅰ・Ⅱ ドイツの芸術Ⅰ・Ⅱ 比較文化Ⅰ・Ⅱ ドイツの文化と社会Ⅰ・Ⅱ （２年～）

※２年次の「ドイツ語３」「ドイツ語４」「ドイツ語５」は選択した履修パターンにより受講すべき科目が異なります（『履修の手引き』参照）。

「ドイツ語３」「ドイツ語４」「ドイツ語５」は、選択科目で代替可能です。

LANd200LA

ドイツ語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

岡田　恒雄

授業コード：R4241　2017 年度以降入学者
授業コード：E2201　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語 1、2 を学習した学生が、辞書を引き、文法の復習をしながら、ドイツ語理解力を高めていく授業です。ドイツのニュースや時事的問題を扱った長文を読んで、ドイツの現状をドイツ語で理解し、ドイツの文化を日本の文化と比較してほしいと思います。

到達目標 文法、講読を学んだ学生が、独和辞典を使いこなすことで発音と語彙を学び、長文を読みこなすことで、さらにドイツ語を理解できるようにしてほしいと思います。
ドイツのニュースを取り上げたドイツ語の長文を理解できれば、日本とドイツ語圏の国々の文化的差異を認識し、日常生活を簡単なドイツ語で表現することもできるようになります。

成績評価の方法と基準 試験 70%、平常点（授業での発表など）20%、授業態度 10%

LANd200LA

ドイツ語４Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

岡田　恒雄

授業コード：R4242　2017 年度以降入学者
授業コード：E2202　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期よりもテクストの内容がいささか難しくなります。より徹底的に独和辞典をひき、ドイツ語 1、2 を一通り学習した学生が、その学習知識をさらに高めていく実践的な授業です。さまざまなシチュエーションを想定して、これらの表現を身近に感じ一文一文を理解して欲しいと思います。

到達目標 初級文法、講読を学び終えた学生が、もう一度、ゆとりをもって、新たに学び直すことで、例えば、以下のような日常生活を簡単なドイツ語で表現できるようにしたいと思います。
1) 職業、学業、趣味なども含めて、くわしく自己紹介
2) 日頃の活動や予定について、習った表現を応用し、文章を書いたり、ときどきミスはあっても話すことができるようにしてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 期末試験 70%　平常点（授業での発表など）20%、授業態度 10%

LANd200LA

ドイツ語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

外山　知子

授業コード：R4243　2017 年度以降入学者
授業コード：E2203　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語の向上と異文化理解

到達目標 文法の復讐と読解力の向上をめざすばかりでなく、書かれた内容を通して、翻訳では伝わりにくいドイツの文化、ヨーロッパの文化に触れ、世界を広げる。

成績評価の方法と基準 出席回数が足りないと、課題を提出する資格も試験を受ける資格も失うので気をつけること。具体的には授業中に話す。

LANd200LA

ドイツ語４Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

外山　知子

授業コード：R4244　2017 年度以降入学者
授業コード：E2204　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語の向上と異文化相互理解

到達目標 ドイツ語の文章が自分で楽しみながら読めるようになる。それにとどまらず語彙を増やし、構造を理解しながらドイツ語の総合力を高める。
ドイツへの理解を深める。

成績評価の方法と基準 授業に取り組む姿勢、授業時、授業後の課題提出 (50%)、試験 (50%) を総合的に評価する。

LANd200LA

ドイツ語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

遠藤　浩介

授業コード：R4245　2017 年度以降入学者
授業コード：E2205　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では日本のドイツ語学習者向けに編纂した時事ドイツ語のテクストを読みます。これまでのドイツ語の授業で学んだことを踏まえつつ、辞書を引き、文法を復習しながらドイツ語読解力を高めるとともに、ドイツで起きていることを把握し、日本の現状と比較検討しながら自分の意見を組み立てていただきたいと思います。

到達目標 （1）ドイツ語の長文を読むことで、文法力・語彙力を高める。（2）ドイツ語圏での出来事への知識を高め、日本と比較する視座を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業での発表・積極的な発言）：50 %

テスト： 50 %

LANd200LA
ドイツ語４Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANd200LA
ドイツ語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

遠藤　浩介

授業コード：R4246 2017 年度以降入学者
授業コード：E2206 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では日本のドイツ語学習者向けに編纂した時事ドイツ語のテクストを読みます。これまでのドイツ語の授業で学んだことを踏まえつつ、辞書を引き、文法を復習しながらドイツ語読解力を高めるとともに、ドイツで起きていることを把握し、日本の現状と比較検討しながら自分の意見を組み立てていただきたいと思います。秋学期ではとくに社会・政治関係の記事を読んでいきたいと思います。

到達目標 （1）ドイツ語の長文を読むことで、文法力・語彙力を高める。（2）ドイツ語圏での出来事への知識を高め、日本と比較する視座を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業での発表・積極的な発言）： 50 %
テスト： 50 %

LANd200LA
ドイツ語表現法Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANd200LA
ドイツ語表現法Ⅰ 2016 年度以前入学者

ウテ・シュミット

授業コード：R4283 2017 年度以降入学者
授業コード：E2213 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） Deutsch schreiben - Vom Satz zum Text
ドイツ語を書いてみましょう：文章からテキストまで

到達目標 受講者はこの授業でドイツ語で文章や短いテキストを書く練習をします。
自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、ブログなどの書き方を習います。
ちょっと文学的な文書、詩とか俳句とか、物語もトライしましょう。
書くことによって基礎文法を確認するだけではなく、実践的に使える語彙も増えます。
会話が苦手だが、ドイツ語で表現したいという学生は是非トライしてみてください。初心者レベルでも文章を書くことが可能です。自分のレベルに合った文書やテキストを書けるように練習しましょう。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。
学期中に提出してもらうドイツ語の作文（６０%）と授業中の課題に取り組む態度（４０%）を総合的に評価します。

LANd200LA
ドイツ語表現法Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANd200LA
ドイツ語表現法Ⅱ 2016 年度以前入学者

ウテ・シュミット

授業コード：R4284 2017 年度以降入学者
授業コード：E2214 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） Deutsch schreiben - Vom Satz zum Text
ドイツ語を書いてみましょう：文章からテキストまで

到達目標 受講者はこの授業でドイツ語で文章や短いテキストを書く練習をします。
自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、ブログなど、の書き方を習います。
ちょっと文学的な文書、詩とか俳句とか、物語もトライしましょう。
書くことによって基礎文法を確認するだけではなく、実践的に使える語彙も増えます。
会話が苦手だが、ドイツ語で表現したいという学生は是非トライしてみてください。初心者レベルでも文章を書くことが可能です。自分のレベルに合った文書やテキストを書けるように練習しましょう。

成績評価の方法と基準 試験は行いません。
学期中に提出してもらうドイツ語の作文（６０%）と授業中の課題に取り組む態度（４０%）を総合的に評価します。

LANd100LA
入門ドイツ語 (SSI) Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANd100LA
スポーツ・ドイツ語Ⅰ 2016 年度以前入学者

浦田　智

授業コード：R4291 2017 年度以降入学者
授業コード：SSI 用時間割表参照 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
SSI 所属学生のみ履修可　※定員制　履修可能年次： 1 年〜

授業の概要と目的（何を学ぶか） スポーツ生を対象にしたドイツ語の入門クラスです。ドイツ語とはどんな言葉かを理解することを目的としています。

到達目標 ドイツ語で表現するための基本となる文法の初歩と関連したドイツ語の文章を学習し、日常のあいさつなどの言い回しが言えるようにする。ドイツ語を正しく発音し、初歩的なドイツ語の総合力を習得することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験を重視すると同時に、毎回の授業への取り組み方などを評価する。到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、授業参加度 20 %を考慮して総合的に評価します。

LANd100LA

入門ドイツ語 (SSI) Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANd100LA

スポーツ・ドイツ語Ⅱ　2016 年度以前入学者

浦田　智

授業コード：R4292　2017 年度以降入学者
授業コード：SSI 用時間割表参照　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

SSI 所属学生のみ履修可　※定員制　履修可能年次：１年～

授業の概要と目的（何を学ぶか） スポーツ生を対象にしたドイツ語の入門クラスです。Ⅰからの継続で、初歩の文法と日常的な場面で使える文を学びながら、基礎的な表現を身につけることを目的としています。

到達目標 ドイツ語で表現するための基本となる文法の初歩と関連したドイツ語の文章を学習し、日常のあいさつなどの言い回しが言えるようにする。ドイツ語を正しく発音し、初歩的なドイツ語の総合力を習得することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験を重視すると同時に、毎回の授業に対する取り組み方、授業中にしっかりとドイツ語を声を出して読んでいるかなどのポイントを加味しながら、到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、授業参加度 20 %の割合で総合的に評価する。

LANd100LA

入門ドイツ語 (SSI) Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANd100LA

スポーツ・ドイツ語Ⅰ　2016 年度以前入学者

宮城　学

授業コード：R4293　2017 年度以降入学者
授業コード：SSI 用時間割表参照　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

SSI 所属学生のみ履修可　※定員制　履修可能年次：１年～

授業の概要と目的（何を学ぶか） アルファベット、文字、発音から始め、動詞の変化を中心に文の基本構造を学びます。

到達目標 ドイツ語の音や単語に親しみ、文を組み立てる基本的なルールを身に付けます。

成績評価の方法と基準 授業への参加度（平常点）（４０％）および学期末の確認テスト（６０％）により評価します。

LANd100LA

入門ドイツ語 (SSI) Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANd100LA

スポーツ・ドイツ語Ⅱ　2016 年度以前入学者

宮城　学

授業コード：R4294　2017 年度以降入学者
授業コード：SSI 用時間割表参照　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

SSI 所属学生のみ履修可　※定員制　履修可能年次：１年～

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春期に引き続き、分離動詞、話法の助動詞を中心に学びます。（秋期から初めてドイツ語をはじめる学生も受講は可能ですが、春期の講義内容を確認しておくことが必要です）

到達目標 分離動詞や助動詞を学んで表現の幅を広げられるようにする。

成績評価の方法と基準 授業への参加度（平常点）（４０％）および学期末の確認テスト（６０％）により評価します。

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅠ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ　2016 年度以前入学者

アネッテ・グルーバー

授業コード：R4281　2017 年度以降入学者
授業コード：E2211　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次：２～4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。６０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。４０％
遅刻はしないこと。

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ　2016 年度以前入学者

アネッテ・グルーバー

授業コード：R4282　2017 年度以降入学者
授業コード：E2212　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次：２～4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。生徒自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自分で勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。６０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。４０％
遅刻はしないこと。

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅰ　2016 年度以前入学者

D．ハイデンライヒ

授業コード：R4285　2017 年度以降入学者
授業コード：E2215　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次：２～4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「名文で養うドイツ語能力と異文化理

解力」をテーマに、このクラスでは古今様々な不滅のテキストを新しいメディアを用いて学ぶ。たとえば、
◦ 簡潔で覚えやすいことわざ
◦ 耳に入りやすい民謡と流行歌のリフレインなど

到達目標 ◦ ドイツ語の能力を向上させる。
◦ ドイツ人の価値観や文化などについての知識を広げる。

成績評価の方法と基準 平常点： 70%
学期末試験： 30%
受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

LANd200LA
ドイツ語視聴覚Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANd200LA
ドイツ語視聴覚Ⅱ 2016 年度以前入学者

D．ハイデンライヒ

授業コード：R4286 2017 年度以降入学者
授業コード：E2216 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「名文で養うドイツ語能力と異文化理解力」をテーマに、このクラスでは古今様々な不滅のテキストを新しいメディアを用いて学ぶ。たとえば、
◦ 有名文学作品の冒頭文
◦ 心に残る映画台詞など

到達目標 ◦ ドイツ語の能力を向上させる。
◦ ドイツ人の価値観や文化などについての知識を広げる。

成績評価の方法と基準 平常点： 70%
学期末試験： 30%
受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

LANd200LA
時事ドイツ語Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANd200LA
時事ドイツ語Ⅰ 2016 年度以前入学者

辻　英史

授業コード：R4287 2017 年度以降入学者
授業コード：E2217 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツのニュース記事を紹介する。
ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。
ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

到達目標 1. 現代のドイツについて知ること
春学期は、政治、経済、社会、環境の 3 つの分野から、現代ドイツの基礎的な事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと
ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の 3 つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

成績評価の方法と基準 授業への参加： 20 %
中間試験： 40 %
期末試験： 40 %

LANd200LA
時事ドイツ語Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANd200LA
時事ドイツ語Ⅱ 2016 年度以前入学者

辻　英史

授業コード：R4288 2017 年度以降入学者
授業コード：E2218 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツのニュース記事を紹介する。
ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。
ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

到達目標 1. 現代のドイツについて知ること
秋学期は、市民社会、地域発展、外国人問題、歴史問題、教育の 4 つの分野から、現代ドイツの最先端の事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと
ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の 3 つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

成績評価の方法と基準 授業への参加： 20 %
中間試験： 40 %
期末試験： 40 %

LANd200LA
検定ドイツ語Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANd200LA
検定ドイツ語Ⅰ 2016 年度以前入学者

佐々木　宗夫

授業コード：R4289 2017 年度以降入学者
授業コード：E2219 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語検定試験 5 級に合格できる力の涵養を目的とする。合格に必要な語彙力をつけるのが主眼になるが、従来の文法の授業では不足がちであった「話す」、「聴く」力も強化させていく。また、差し当たり検定試験が目標でなくとも、初級から学びたい学生も受講してよい。

到達目標 ドイツ語検定試験 5 級に対応する、文法、読解力を習得し、ドイツ語がキチンと聴き取れる様にする。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味もさらに大きくなるように。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、小テスト・宿題 20 %、平常点 10 %の割合で評価

LANd200LA
検定ドイツ語Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANd200LA
検定ドイツ語Ⅱ 2016 年度以前入学者

佐々木　宗夫

授業コード：R4290 2017 年度以降入学者
授業コード：E2220 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語検定試験 4 級に合格できる力の涵養を目的とする。合格に必要な語彙力をつけるのが主眼になるが、従来の文法の授業では不足がちであった「話す」、「聴く」力も強化させていく。後半には、4 級レヴェルを超える内容にもなるが、どこまで進むかは学生諸君の出来具合を判断して決める。

到達目標 ドイツ語検定試験 4 級に対応する、文法、読解力を習得し、ドイツ語がキチンと聴き取れる様にする。語彙力の向上にも努める。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに大きくなるように。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、小テスト・宿題 20 %、平常点 10 %の割合で評価

LANd100LA
ドイツ語補講１Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANd100LA
ドイツ語補講１Ⅰ 2016 年度以前入学者

佐々木　宗夫

授業コード：R4161 2017 年度以降入学者
授業コード：E2227 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 既に一通りはドイツ語に接したことのある諸君が対象だが、ゼロから始めるものとして、基本的な文法力の涵養に努める。予習や復習にそれなりの努力は求められるが、ドイツ語に対してだけではなく歴史や文化に対しても興味を持てるよう工夫してゆく。

到達目標 ドイツ語検定試験の 5〜4 級にチャレンジできるレヴェルへ。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに大きくなるように。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、小テスト・宿題 20 %、平常点 10 %の割合で評価

LANd100LA
ドイツ語補講１Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANd100LA
ドイツ語補講１Ⅱ 2016 年度以前入学者

佐々木　宗夫

授業コード：R4162 2017 年度以降入学者
授業コード：E2228 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 既に一通りはドイツ語に接したことのある諸君が対象だが、ゼロから始めるものとして、基本的な文法力の涵養に努める。具体的には、春学期で学習した動詞の人称変化、及び格変化の応用力をつけ、さらに多様な表現ができるよう、文法の運用能力の向上を図る。春学期で学んだことが前提になるので、格変化は必ずマスターしておくこと。

到達目標 ドイツ語検定試験の 4 級が合格レヴェル、3 級がチャレンジ可能レヴェルに。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに大きくなるように。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、小テスト・宿題 20 %、平常点 10 %の割合で評価

LANd100LA
ドイツ語補講２Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANd100LA
ドイツ語補講２Ⅰ 2016 年度以前入学者

高橋　憲子

授業コード：R4163 2017 年度以降入学者
授業コード：E2229 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語の基礎を学び、ドイツ人のライフスタイルやものの見方についても考えていきます。

到達目標 基本的なドイツ語の文が読めるようになること。

成績評価の方法と基準 期末試験の結果を中心に（90 %）、宿題の提出状況等平常の学習態度も含め、総合的に評価します。

LANd100LA
ドイツ語補講２Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANd100LA
ドイツ語補講２Ⅱ 2016 年度以前入学者

高橋　憲子

授業コード：R4164 2017 年度以降入学者
授業コード：E2230 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語の基礎を学び、ドイツ人のライフスタイルやものの見方についても考えていきます。

到達目標 基本的なドイツ語の文が読めるようになること。

成績評価の方法と基準 期末試験の結果を中心に（90 %）、宿題の提出等学習態度も含め（10 %）、総合的に評価します。

M E M O

フランス語　2017 年度以降入学生用

■授業の目的・内容

「自由と進歩」という法政大学の建学の精神を形づくった、ボアソナード博士の言語であるフランス語を楽しく学びます。それぞれの授業の形式や進め方、成績評価の方法、教科書に関する詳細は、WEBシラバスを見てください。「フランス語1～3」については、ネット上の「授業支援システム」に掲載されているクラスごとの説明を参照すること。

外国語科目

＜1年次＞

「フランス語1」、「フランス語2」＝初心者（デビュタン）向けの授業

発音・初級文法・簡単な表現にくわえ、フランス語圏の文化や社会についての基礎知識を学びます。

＜2年次＞

「フランス語3」＝初級レベル（フォ・デビュタン）向けの授業

1年次で学んだ基礎知識を、実際に使ってみることによって、フランス語力の土台を固めます。

「フランス語3（インテンシブ）」

1年次で学んだ基礎知識を発展させ、通常の「フランス語3」よりも、より高度な運用能力を身につける意欲をもつ学生向けの重点クラスです。

「フランス語4」＝中級（アンテルメディエール）向けの授業

1年次で学んだ基礎知識を発展させ、フランス語の応用力を身につける（書き言葉中心）。「フランス語3」と並行して履修できる。

「フランス語5」

1年次で学んだ基礎知識を発展させ、フランス語の応用力を身につける（話し言葉中心）。「フランス語3」と並行して履修できる。

※ 「実用フランス語技能検定試験（仏検）」などの資格取得を目指す2年生（以上）の学生のための授業として、「検定フランス語（初級）Ⅰ・Ⅱ」がある。仏検は、法政大学を通じて出願すると団体割引が受けられる。

※ オーラル・コミュニケーションをとくに学びたい2年生（以上）の学生のための授業として、「フランス語コミュニケーション（初級）Ⅰ・Ⅱ」や「フランス語視聴覚（入門）Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語視聴覚（初・中級）AⅠ・Ⅱ」、「フランス語視聴覚（初・中級）BⅠ・Ⅱ」がある。アフリカを含むフランス語圏の海外事情を学びたい学生のための授業として「時事フランス語Ⅰ・Ⅱ」がある。

リベラルアーツ科目

「フランス語の世界L」（1～4年次）

語学の授業ではなく、フランス語圏の文化や社会に関する入門編の授業です。

「フランスの文化と社会L」（2～4年次）

語学の授業ではなく、フランス語圏の文化や社会に関する続編の授業です。

「フランス生活文化論LA・LB（服飾史）」（2～4年次）

語学の授業ではなく、フランスの生活文化やその歴史的背景を知るための授業です。

総合科目

「第三外国語としてのフランス語A・B」（2～4年次）

第3外国語として初歩からフランス語を学びたい学生のための授業です。

「教養ゼミⅠ・Ⅱ（フランス語圏文化への招待）」（2～4年次）

比較的少数の受講者で、担当教員とおしゃべりしながらフランス語圏の文化を学ぶゼミ（演習）です。

■フランス語単位履修の例 《豊富なカリキュラムのなかから、授業を選択しよう》

英語など他の外国語や、各学部・学科における専門科目の理解を深めるためにも、フランス語の学習は有益です。以下に、皆さんが学びを組み立てるうえでの参考として、4年間のフランス語履修の流れと、授業の組み合わせの主なパターンを挙げておきます。上記3学部以外の学生は、各学部の履修の手引き等を参照するとともに、学部の事務窓口や、左記のフランス語担当教員に問い合わせてください。

【4年間のフランス語履修の流れ】

全員必修クラス
仏語コースを選択したもののためのクラス
（仏語3でも別のクラスが編成されることになる。）

カッコ内は通年の単位
選択科目

1 年生(必修 4 単位)

2 年生(必修 2 単位)
ただし、選択必修として諸外国語（フランス語）を選択した学生は、必修 4 単位。

3～4 年生

1 年生	仏語1(2)	仏語2(2)	仏語視聴覚（入門）Ⅰ・Ⅱ(2)	仏語の世界LA・LB(4)
2 年生	仏語3(2)	仏語4(2)※	仏語5(2)※	仏の文化と社会LA・LB(4)
3～4 年生	総合科目☆			

※2 年生の選択必修として、諸外国語（フランス語）を選択した学生は、フランス語４、フランス語５から 2 単位を修得する。この 2 単位は、フランス語視聴覚（入門）、フランス語視聴覚（初・中級）Ａで充当することも可能である。

※**派遣留学制度**（全学部が対象）:本学学生が学内選考に応募し、派遣学生に選抜されるならば、奨学金をもらいながらフランス語圏の大学（2017 年現在 5 校）に留学することができます。詳しくは国際交流センター（富士見坂校舎 5F）または同センターのホームページを訪問してください。

【フランス語授業の組み合わせパターン】

パターン①　クラス授業主体に総合的能力を養成する。

1 年生(8)			2 年生(6)			3 年生以上
仏語1	仏語2	仏語の世界	仏語3	仏語4	仏語5	上級仏語A・B☆など

パターン②　クラス授業と関心ある分野の選択科目を組み合わせる。

1 年生(8)		2 年生(6)		3 年生以上
仏語1	仏語2	仏語3	仏語視聴覚（初・中級）AorB★	仏語講読A・B☆
仏語の世界		情報仏語Ⅰ・Ⅱ★		仏の文化と社会LA・LBなど

フランス語　2016 年度以前入学生用

■授業の目的・内容

「自由と進歩」という法政大学の建学の精神を形づくった、ボアソナード博士の言語であるフランス語を楽しく学びます。それぞれの授業の形式や進め方、成績評価の方法、教科書に関する詳細は、WEBシラバスを見てください。「フランス語１～３（重点クラスを除く）」については、ネット上の「授業支援システム」に掲載されているクラスごとの説明を参照すること。

１年生から履修できる科目

「フランス語１」、「フランス語２」＝初心者（デビュタン）向けの授業

発音・初級文法・簡単な表現にくわえ、フランス語圏の文化や社会についての基礎知識を学びます。

【代替可能な授業】「フランス語２」を「フランス語視聴覚Ⅰ・Ⅱ」によって代替することができる。

「フランス語の世界」（０群）

語学の授業ではなく、フランス語圏の文化や社会に関する入門編の授業です。

２年生から履修できる科目

「フランス語３」＝初級レベル（フォ・デビュタン）向けの授業

１年次で学んだ基礎知識を、実際に使ってみることによって、フランス語力の土台を固めます。

【代替可能な授業】「フランス語３」を、４群基礎の選択必修科目（★）、つまり「時事フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「検定フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「情報フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語視聴覚Ⅲ・Ⅳ」、「フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」のいずれかによって代替することができる。

※　「実用フランス語技能検定試験（仏検）」などの資格取得を目指す学生のための授業として、「検定フランス語Ⅰ・Ⅱ」がある。仏検は、法政大学を通じて出願すると団体割引が受けられる。

※　オーラル・コミュニケーションをとくに学びたい２年生（以上）の学生のための授業として、「フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」や「フランス語視聴覚Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語視聴覚Ⅲ・Ⅳ」がある。

※　必修６単位以上の単位をフランス語で履修したい学生を対象とする**重点クラス**として、「フランス語３Ⅰ・Ⅱ重点」、「フランス語４Ⅰ・Ⅱ重点」「フランス語５Ⅰ・Ⅱ重点」がある。これらの重点クラスは、少人数のクラスに編成されており、学生の理解度に応じたきめの細かいフォローが期待できる。

※　第３外国語として初歩からフランス語を学びたい２年生（以上）の学生のための授業として「フランス語初級」（総合科目）がある。

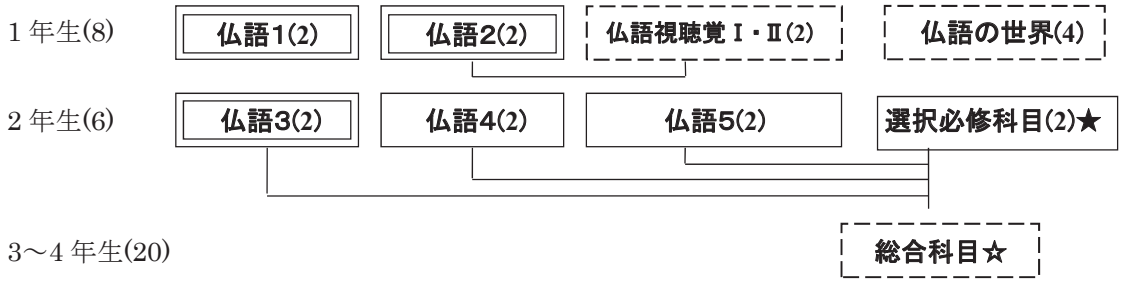
■フランス語単位履修の例《豊富なカリキュラムのなかから、授業を選択しよう》

英語など他の外国語や、各学部・学科における専門科目の理解を深めるためにも、フランス語の学習は有益です。以下に、皆さんが学びを組み立てるうえでの参考として、4年間のフランス語履修の流れと、授業の組み合わせの主なパターンを挙げておきます。上記3学部以外の学生は、各学部の履修の手引き等を参照するとともに、学部の事務窓口や、左記のフランス語担当教員に問い合わせてください。

【4年間のフランス語履修の流れ】

全員必修クラス
仏語コースを選択したもののためのクラス
（仏語3でも別のクラスが編成されることになる。）

カッコ内は通年の単位
―― は代替可能関係を表す
選択科目



※**派遣留学制度**（全学部が対象）:本学学生が学内選考に応募し、派遣学生に選抜されるならば、奨学金をもらいながらフランス語圏の大学（2017 年現在 5 校）に留学することができます。詳しくは国際交流センター（富士見坂校舎 5F）または同センターのホームページを訪問してください。

【フランス語授業の組み合わせパターン】

パターン①　クラス授業主体に総合的能力を養成する。

1年生(8)			2年生(6)			3年生以上(自由科目（総合科目含む）は最大 20 単位修得可)
仏語1	仏語2	仏語の世界	仏語3	仏語4	仏語5	仏語中級Ⅰ・Ⅱ☆など

パターン②　クラス授業と関心ある分野の選択科目を組み合わせる。

1年生(8)		2年生(6)		3年生以上(自由科目（総合科目含む）は最大 20 単位修得可)
仏語1	仏語2	仏語3	仏語視聴覚Ⅲ・Ⅳ★	仏語講読Ⅰ・Ⅱ☆
仏語の世界		情報仏語Ⅰ・Ⅱ★		仏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ☆など

パターン③　選択科目を中心に実践的な運用能力を養成する。

1年生(4)	2年生(6)	3年生以上(自由科目（総合科目含む）は最大 20 単位修得可)
仏語視聴覚Ⅰ・Ⅱ	仏語コミュニケーションⅠ・Ⅱ★	仏語コミュニケーションⅢ・Ⅳ☆
仏語1	検定仏語Ⅰ・Ⅱ★	仏語表現法Ⅰ・Ⅱ☆など
	時事仏語Ⅰ・Ⅱ★	

LANf200LA

フランス語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

森本　文彦

授業コード：R5241　2017 年度以降入学者
授業コード：E3207　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 既に習得したフランス語の知識を用いて比較的平易な時事的文章を読み、練習問題に取り組むことで、複雑な構文の文章を読解する力をつける。

到達目標 フランス語検定 4 級レベル以上への早期到達を目指す。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %，小テスト 30 %，定期試験 40 %

LANf200LA

フランス語４Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

森本　文彦

授業コード：R5242　2017 年度以降入学者
授業コード：E3208　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 既に習得したフランス語の知識を用いて比較的平易な時事的文章を読み、練習問題に取り組むことで、複雑な構文の文章を読解する力をつける。

到達目標 フランス語検定 4 級レベル以上への早期到達を目指す。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %，小テスト 30 %，定期試験 40 %

LANf200LA

フランス語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

ヴァリエンヌ　コリーヌ

授業コード：R5243　2017 年度以降入学者
授業コード：E3209　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。
Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

到達目標 目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。
L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

成績評価の方法と基準 存在と参加 La présence et la participation en classe : 60%.
最終試験 L'examen final : 40 %

LANf200LA

フランス語４Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

ヴァリエンヌ　コリーヌ

授業コード：R5244　2017 年度以降入学者
授業コード：E3210　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

到達目標 目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

成績評価の方法と基準 存在感とクラスへの参加： 60 %。
最終試験： 40 %
La présence et la participation en classe : 60%.
L'examen final : 40 %

LANf200LA

フランス語５Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語５Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

岡村　民夫

授業コード：R5245　2017 年度以降入学者
授業コード：E3211　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの観光、歴史・文化に力点を置きながら、口語定型表現、語彙、会話、聞き取り、短文読解を学び、あわせて初級文法の補充、中級文法の学習も行う。ときどきフランス映画を教材とした学習を行う。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を身につける。

到達目標 定型表現や語彙を身につけ、自由にフランス観光ができるようになる。平易な文章が読めるようになっる。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を養う。

成績評価の方法と基準 平常点 60 %＋期末テスト 40 %

LANf200LA

フランス語５Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語５Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

岡村　民夫

授業コード：R5246　2017 年度以降入学者
授業コード：E3212　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語５Ⅰの継続授業だが、単独に受講も可能。フランスの観光、歴史・文化に力点を置きながら、口語定型表現、語彙、会話、聞き取り、短文読解を学び、あわせて初級文

法の補充、中級文法の学習も行う。時間が余れば、フランス映画を教材とした学習をはさむ。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を身につける。

到達目標 定型表現や語彙を身につけ、自由にフランス観光ができるようになる。動詞がすぐに活用できるようになる。平易な文章が読めるようになる。フランスの地理・社会・歴史・文化の教養を養う。

成績評価の方法と基準 平常点（70 %）＋期末試験（30 %）

LANf200LA
フランス語視聴覚（入門）Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANf100LA
フランス語視聴覚Ⅰ 2016 年度以前入学者

村松　マリ　エマニュエル

授業コード：R5275 2017 年度以降入学者
授業コード：E3223 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡単な会話、フランス語の読み方、基本的な文法、フランス語の書き方を学習しながら、生活や習慣、文化などについて学べる内容の授業である。

到達目標 夏休みまで名前、国籍、職業、専攻、年齢、誕生日、趣味、持ち物、電話番号、メールアドレス、兄弟姉妹を言えるようになる。フランス人の家でホームステイを楽しめる会話ができるようになる。

成績評価の方法と基準 宿題と小テストの評価、授業中のやる気、期末テストの平常点で評価する。

LANf200LA
フランス語視聴覚（入門）Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANf100LA
フランス語視聴覚Ⅱ 2016 年度以前入学者

村松　マリ　エマニュエル

授業コード：R5276 2017 年度以降入学者
授業コード：E3224 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前期同様、簡単な会話、フランス語の読み方、基本的な文法、フランス語の書き方を学習しながら、生活や習慣、文化などについて学べる内容の授業である。

到達目標 料理の作り方を読んだり、生活習慣の話をしたり、学校の決まり、フランス社会のルール、過去の話、予定を言う、将来の希望を言う、たくさんおことを言えるようになる。

成績評価の方法と基準 宿題と小テストの評価、授業中のやる気、期末テストの平常点で評価する。

LANf200LA
フランス語視聴覚（初・中級）Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANf200LA
フランス語視聴覚Ⅲ 2016 年度以前入学者

中村　美緒

授業コード：R5277 2017 年度以降入学者
授業コード：E3225 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語をひととおり学習した初級から中級の学生が対象です。初級文法を復習しながらフランス語をたくさん使ってみましょう。

到達目標 語彙の入れ替えをしてやさしい構造の文章でいろんなことを話せるようになります。春学期終了時には、仏検４〜３級レベルの実力がついているはずです。

成績評価の方法と基準 授業内評価 30 %＋期末試験 70 %で評価します。

LANf200LA
フランス語視聴覚（初・中級）Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANf200LA
フランス語視聴覚Ⅳ 2016 年度以前入学者

中村　美緒

授業コード：R5278 2017 年度以降入学者
授業コード：E3226 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語をひととおり学習した初級から中級の学生が対象です。初級文法を復習しながらフランス語をたくさん使ってみましょう。

到達目標 語彙の入れ替えをしてやさしい構造の文章でいろんなことを話せるようになります。春学期終了時には、仏検３級レベルの実力がついているはずです。

成績評価の方法と基準 授業内評価 30 %＋期末試験 70 %で評価します。

LANf200LA
フランス語コミュニケーション (初級) Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANf200LA
フランス語コミュニケーションⅠ 2016 年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

授業コード：R5273 2017 年度以降入学者
授業コード：E3221 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初級コミュニケーションの授業とする。フランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

到達目標 初心者のフランス語でコミュニケーション（話す、聞く、書く、読む）ができるようになること。

成績評価の方法と基準 成績評価は１００点満点とし、６０点以上が合格となります。１００点の内訳は：期末テスト 20 %、小テスト 60 %、平常点（授業中の発言、欠席の有無）２０%。この授業は５回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

LANf200LA
フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf200LA
フランス語コミュニケーションⅡ 2016 年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

授業コード：R5274 2017 年度以降入学者
授業コード：E3222 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初級コミュニケーションの授業とする。フランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

到達目標 初心者のフランス語でコミュニケーション（話す、聞く、書く、読む）ができるようになること。

成績評価の方法と基準 成績評価は１００点満点とし、６０点以上が合格となります。１００点の内訳は：期末テスト 20 %、小テスト 60 %、平常点（授業中の発言、欠席の有無）２０%。この授業は５回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

LANf200LA
時事フランス語Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANf200LA
時事フランス語Ⅰ 2016 年度以前入学者

近江屋　志穂

授業コード：R5279 2017 年度以降入学者
授業コード：E3227 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） １年程度のフランス語学習歴がある学生を対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化またはフランコフォニーに関するトピックをやさしいフランス語で読んでいきます。

到達目標 フランス社会についての基礎知識を身につけること。時事をテーマとするやさしいフランス語の文章が読めるようになること。将来的にはフランスの新聞記事を読んだりラジオやテレビのニュースを視聴したりできるようになること。

成績評価の方法と基準 平常点、訳読への参加、期末試験

LANf200LA
時事フランス語Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf200LA
時事フランス語Ⅱ 2016 年度以前入学者

近江屋　志穂

授業コード：R5280 2017 年度以降入学者
授業コード：E3228 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） １年程度のフランス語学習歴がある学生を対象に、フランスの歴史・地理・政治・経済・社会・文化またはフランコフォニーに関するトピックをやさしいフランス語で読んでいきます。

到達目標 フランス社会についての基礎知識を身につけること。時事をテーマとするやさしいフランス語の文章が読めるようになること。将来的にはフランスの新聞記事を読んだりラジオやテレビのニュースを視聴したりできるようになること。

成績評価の方法と基準 平常点、訳読への参加、期末試験

LANf200LA
検定フランス語（初級）Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANf200LA
検定フランス語Ⅰ 2016 年度以前入学者

瀬戸　和子

授業コード：R5281 2017 年度以降入学者
授業コード：E3229 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の初級文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う

到達目標 後期秋１１月の「フランス語検定試験」で５，４級合格の実力を目指す

成績評価の方法と基準 授業内小テスト・課題４０%、期末テスト４０%、平常点（出席点）２０%－出席重視

LANf200LA
検定フランス語（初級）Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf200LA
検定フランス語Ⅱ 2016 年度以前入学者

瀬戸　和子

授業コード：R5282 2017 年度以降入学者
授業コード：E3230 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の初級文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う

到達目標 「フランス語検定試験」で秋（１１月）５，４級、あるいは次年度春（５月）４，３級合格の実力を目指す

成績評価の方法と基準 授業内小テスト・課題４０%、期末テスト４０%、平常点（出席点）２０%

LANf100LA
フランス語補講１Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANf100LA
フランス語補講１Ⅰ 2016 年度以前入学者

森本　謙子

授業コード：R5131 2017 年度以降入学者
授業コード：E3249 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。語彙の拡張。

到達目標 すでに学んだフランス語文法の基礎を再確認し、文法知識を深化させます。またフランス語の基礎的な語彙を習得することを目指します。

成績評価の方法と基準 期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

LANf100LA

フランス語補講１Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語補講１Ⅱ　2016 年度以前入学者

森本　謙子

授業コード：R5132　2017 年度以降入学者
授業コード：E3250　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。語彙の拡張。

到達目標 春学期と同様、すでに学んだ文法事項を再確認し、文法の知識を深化させます。語彙の拡張を目指します。

成績評価の方法と基準 期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

LANf100LA

フランス語補講２Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語補講２Ⅰ　2016 年度以前入学者

森本　文彦

授業コード：R5133　2017 年度以降入学者
授業コード：E3251　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部の「フランス語 2-Ⅰ」の再履修者を対象としたものです。会話表現を中心に初級フランス語を学びます。

到達目標 再履修クラスでの学習という望まなかった状況が、逆転し、「外国語を話す」楽しさを味わう機会となって、フランス語を得意科目にすることを目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 30%、小テスト 30%、期末試験 40%

LANf100LA

フランス語補講２Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語補講２Ⅱ　2016 年度以前入学者

森本　文彦

授業コード：R5134　2017 年度以降入学者
授業コード：E3252　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、法・文・経営・人間環境・キャリアデザイン学部の「フランス語 2-Ⅱ」の再履修者を対象としたものです。会話表現を中心に初級フランス語を学びます。
（春学期科目フランス語 2-Ⅰの継続ですから、秋学期のこの科目のみの受講者も春学期 1 回目の授業に必ず出席すること）

到達目標 再履修クラスでの学習という望まなかった状況が、逆転し、「外国語を話す」楽しさを味わう機会となって、フランス語を得意科目にすることを目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 30%、小テスト 30%、期末試験 40%

LANf200LA

フランス語補講３Ⅰ　2016 年度以前入学者

楠本　重行

授業コード：E3253　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の単語の発音の仕方から始めて、基本文法の前半、主として現在時制にかかわる表現を中心に一通り学習します

到達目標 動詞の現在形変化の学習を中心に、フランス語検定 5 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

成績評価の方法と基準 テスト７０%、平常点３０%

LANf200LA

フランス語補講３Ⅱ　2016 年度以前入学者

楠本　重行

授業コード：E3254　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本文法の後半、主として過去・未来にかかわる表現を中心に一通り学習します

到達目標 動詞のさまざまな時制変化の学習を中心に、フランス語検定 4 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

成績評価の方法と基準 テスト７０%、平常点３０%

ロシア語　2017 年度以降入学生用

■授業の目的・内容

1 年次：入門から基礎づくりへ

ロシア語１；発音と文法の基礎

ロシア語２；発音と文法の練習

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした入門コースです。中・高等学校で学んできたラテン文字（ローマ字）とは異なるキリル文字（ロシア文字）の発音と書き方から始めます。文字に慣れたら、挨拶の表現や簡単な文章でロシア語のイントネーションを習得すると同時に、教科書に沿って基本的な文法を学習します。ロシア語１では、文法に重点を置き、ロシア語２では、その練習・応用や会話表現に重点を置きつつ、授業を進めます。

2 年次：基礎から応用へ

ロシア語３；テキストの読解と理解

1 年次で習得できなかった新たな文法事項を学習し、基礎文法を修了します。この文法力を活かして、ロシア語の文章に慣れることを目指し、ロシアの社会や文化に関するテキストを用い、「ロシア語を使ってロシアを知る」ことを目標に、総合的な学習をおこないます。

ロシア語４；ロシア語講読入門

ロシア語５；ロシア語会話入門

いずれもロシア語を重点的に学びたい学生のための科目です。**ロシア語４**では、新聞、雑誌、文学作品などを講読し、読解力を養うと同時に、ロシアに対する理解を深めます。**ロシア語５**は、簡単な挨拶や日常会話から始め、コミュニケーションに不可欠な語彙・文法・表現をネイティヴの先生が指導します。

ロシア語３は 2 年次に全員が必修、**ロシア語４**は 2 年次に必修選択科目として諸外国語（ロシア語）を選択した学生が必修、**ロシア語５**は 2～4 年次に選択科目として履修できますが、さらにロシア語能力を高めたい学生には総合科目の中に**〔ロシア語講読〕〔時事ロシア語〕〔実用ロシア語〕**（いずれも 3,4 年生対象）が開講されており、1 年次から 4 年次まで体系的にロシア語を学習することができます。また、2 年次から 4 年次まで履修可能な総合科目**〔第三外国語としてのロシア語〕〔第三外国語としてのロシア語中級〕**も設置されています。再履修が必要な場合は、**ロシア語１（補講）**と**ロシア語２（補講）**を受講することも可能です。

リベラルアーツ科目の**〔ロシア語の世界 L〕**（隔年開講）と**〔ロシアの文化と社会 L〕**（2 年次以降の履修）は、ロシアの歴史・文化・芸術・社会を紹介する講座であり、ロシアを総合的に理解する講義として勧められます。

■授業の形式・進め方

1 年次には、週に 2 回の授業を 2 人の教員が同じ教科書を用いてリレー方式で授業を進めます。比較的少人数クラスの特徴を生かし、学生の学力にあった授業進行を行います。

また、DVD や CD などの視聴覚資料を用いたり、激しく変化している昨今のロシア事情を紹介することで、現代のロシアを身近に感じられるような授業を心がけます。

2 年次以降は、担当教員が受講学生の関心を考慮しながら学生のロシア語能力をさらに高めていけるような授業をおこないます。「ロシア語を通して、ロシアを知る」ことを実感してください。

■成績評価の方法

平常点（出席、授業態度、課題提出、小テストなど）と学期末テストの結果を総合して学期ごとに評価します。

■使用テキスト

ロシア語１～５：「初級ロシア語」法政大学ロシア語担当教員編

和久利誓一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

その他：開講時に指示します。

■ロシア語を学ぶということ

ロシア語学習にはどんなメリットがあるでしょうか。世界第８位の話者数（第２言語としての話者数も含めると世界第４位）を誇り、国際連合の６つの公用語の１つでもあるロシア語を勉強することで、盤石なコミュニケーションツールのひとつを獲得することになりますね。また、ロシア語の魅力は、その形状のみならず、音声や響きの美しさ、表現の豊かさにもあり、世界でもっとも美しい言語の一つとも言われています。

近年、ますます多岐にわたる産業において日本はロシアにとって重要なパートナーと位置づけられていますし、文化的な交流もずいぶんと盛んになりました。今、大学でロシア語を勉強しなければ、社会に出てからロシア語を学ぶ機会はほとんどありません。まして、ロシアの歴史や豊かな芸術や国情を学びながらロシア語教育を受けることはないでしょう。

21 世紀に活躍する皆さんにとって、ロシア語を学習することは世界を広げ、大きな意義を持つことになるのです。

外国語科目	リベラルアーツ科目	総合科目
1 年次 ロシア語１ ロシア語２	1 年次～ ロシア語の世界 L	第三外国語としてのロシア語 第三外国語としてのロシア語中級 ロシア語講読
2 年次 ロシア語３ ロシア語４ ロシア語５	2 年次～ ロシアの文化と社会 L	時事ロシア語 実用ロシア語

※再履修者は、ロシア語１（補講）とロシア語２（補講）の受講も可能。（2 年次～）

ロシア語　2016 年度以前入学生用

■授業の目的・内容

1 年次：入門から基礎づくりへ

ロシア語１；発音と文法の基礎

ロシア語２；発音と文法の練習

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした入門コースです。中・高等学校で学んできたラテン文字（ローマ字）とは異なるキリル文字（ロシア文字）の発音と書き方から始めます。文字に慣れたら、挨拶の表現や基本的な文章でロシア語のイントネーションを習得すると同時に、教科書に沿って基本的な文法を学習します。ロシア語１では、文法に重点を置き、ロシア語２では、その応用や会話表現に重点を置きつつ、授業を進めます。

2 年次：基礎から応用へ

ロシア語３；テキストの読解と理解

1 年次で習得できなかった新たな文法事項を学習し、基礎文法を修了します。この文法力を活かして、ロシア語の文章に慣れることを目指し、ロシアの社会や文化に関するテキストを用い、「ロシア語を使ってロシアを知る」ことを目標に、総合的な学習をおこないます。

ロシア語４；ロシア語講読入門

ロシア語５；ロシア語会話入門

いずれもロシア語を重点的に学びたい学生のための科目です。**ロシア語４**では、新聞、雑誌、文学作品などを講読し、読解力を養うと同時に、ロシアに対する理解を深めます。**ロシア語５**は、簡単な挨拶や日常会話から始め、コミュニケーションに不可欠な語彙・文法・や表現をネイティヴの先生が指導します。

以上は、2 年次までの科目ですが（**ロシア語３**は全員が必修、**ロシア語４**、**５**は、ロシア語重点履修者）、さらにロシア語能力を高めたい学生には総合科目の中に**〔ロシア語講読〕〔時事ロシア語〕〔ロシア語コミュニケーション〕**（いずれも 3,4 年生対象）が開講されており、1 年次から 4 年次まで体系的にロシア語を学習することができます。また、2 年次から 4 年次まで履修可能な総合科目**〔ロシア語初級〕〔ロシア語中級〕**も設置されています。再履修が必要な場合は、**ロシア語補講１**と**ロシア語補講２**を受講することも可能です。

０群の**〔ロシア語の世界〕**（隔年開講）と総合科目**〔ロシアの文化と社会〕**（2 年次以降の履修）は、ロシアの歴史・文化・芸術・社会を紹介する講座であり、ロシアを総合的に理解する講義として勧められます。

■授業の形式・進め方

1 年次には、週に 2 回の授業を 2 人の教員が同じ教科書を用いてリレー方式で授業を進めます。比較的少人数クラスの特徴を生かし、学生の学力にあった授業進行を行います。

また、DVD や CD などの視聴覚資料を用いたり、激しく変化している昨今のロシア事情を紹介することで、現代のロシアを身近に感じられるような授業を心がけます。

2 年次以降は、担当教員が受講学生の関心を考慮しながら学生のロシア語能力をさらに高めていけるような授業をおこないます。「ロシア語を通して、ロシアを知る」ことを実感してください。

■成績評価の方法

平常点（出席、授業態度、課題提出、小テストなど）と学期末テストの結果を総合して学期ごとに評価します。

■使用テキスト

ロシア語１～５：「初級ロシア語」法政大学ロシア語担当教員編

和久利誓一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

その他：開講時に指示します。

■ロシア語を学ぶということ

ロシア語学習にはどんなメリットがあるでしょうか。世界第８位の話者数（第２言語としての話者数も含めると世界第４位）を誇り、ロシア語、国際連合の６つの公用語の１つであるロシア語を勉強することで、盤石なコミュニケーションツールのひとつを獲得することになりますね。また、ロシア語の魅力は、その形状のみならず、音声や響きの美しさ、表現の豊かさにもあり、世界でもっとも美しい言語の一つとも言われています。

近年、ますます多岐にわたる産業において日本はロシアにとっても重要なパートナーと位置づけられていますし、文化的な交流もずいぶんと盛んになりました。今、大学でロシア語を勉強しなければ、社会に出てからロシア語を学ぶ機会はほとんどありません。まして、ロシアの歴史や豊かな芸術や国情を学びながらロシア語教育を受けることはないでしょう。

21 世紀に活躍する皆さんにとって、ロシア語を学習することは世界を広げ、大きな意義を持つことになるのです。

<table>
<tr><td>1 年次</td><td>2 年次</td><td>3,4 年次</td></tr>
<tr><td>基礎科目 4 群(通年単位２)
ロシア語１
ロシア語２</td><td>基礎科目 4 群(通年単位２)
ロシア語３
ロシア語４
ロシア語５</td><td rowspan="2">総合科目(通年単位４)
ロシア語講読
時事ロシア語
ロシア語コミュニケーション</td></tr>
<tr><td>1 年次～
基礎科目０群(通年単位 4)
ロシア語の世界</td><td>2 年次～
総合科目(通年単位４)
ロシア語初級
ロシア語中級
ロシアの文化と社会</td></tr>
</table>

※再履修者は、ロシア語補講１とロシア語補講２の受講も可能。(2 年次～)

LANr200LA
ロシア語４Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語４Ⅰ重点 2016 年度以前入学者

木部　敬

授業コード：R6211 2017 年度以降入学者
授業コード：E4201 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次に学んだ初級文法を復習し、残りの文法の学習を終える。それらを基礎に、さらに文法の学習を反復しながら、簡単な文章の読解練習を行う。

到達目標 辞書等を用いながら、自分自身の力でロシア語の文章を理解できるようになる。

成績評価の方法と基準 初級文法の知識と読解力を問う期末テスト（80 %）および平常点（20 %）。
平常点は、宿題の評価が主である。

LANr200LA
ロシア語４Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

木部　敬

授業コード：R6212 2017 年度以降入学者
授業コード：E4202 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本格的にテキスト読解の練習に取り組む。既習の文法事項の知識を駆使し、さらに新たな文法を学びながら、正確な読解力を養う。

到達目標 新聞・雑誌やネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

成績評価の方法と基準 ロシア語テキストを日本語に訳する宿題および授業で学んだテキストの暗記テストなど（20 %）。
文法問題および露文和訳の期末試験（80 %）。

LANr200LA
ロシア語４Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語４Ⅰ重点 2016 年度以前入学者

土岐　康子

授業コード：R6213 2017 年度以降入学者
授業コード：E4203 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学んだロシア語の知識を基に、ロシア語文章読解や和文露訳（ロシア語作文）などを通じて、基本文法や基本的な構文を定着させること、また、未習の文法事項を学び基本的な文法の修得を目指します。
さらに、音読や会話のロールプレイなどを通じて、話す、聴く力を伸ばす練習も行います。

到達目標 既習文法を正しく理解していること、辞書を用いてロシア語の文章を理解し日本語に訳せること、簡単な文章をロシア語で表現できること。ロシア語での質問を理解し、それに適切に答えられること。
アクセントの位置やイントネーションを意識して、文章の音読ができること。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40%、学期末テスト 60%の総合評価。

LANr200LA
ロシア語４Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

土岐　康子

授業コード：R6214 2017 年度以降入学者
授業コード：E4204 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的な文法事項の学習を終えた学生を対象とした授業です。この授業では、文章の読解を通して、これまで学習したことの確認、定着、応用を目指します。また、学期の後半ではロシア映画やテレビ番組、大統領演説などを教材として生のロシア語に触れる授業を予定しています。
様々な方面からロシアにアプローチし、理解を深めることがこの授業の大きな目的でもあります。

到達目標 辞書を使ってロシア語の文章を読み、理解し、日本語に訳すことができる。文章の内容に関するロシア語の質問を理解でき、それに的確に答えることができる。ロシア語で書かれたテキストを正確に音読できる、簡単な会話表現を理解でき、的確に応えることができる。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40 %、学期末試験 60 %の総合評価。

LANr200LA
ロシア語５Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語５Ⅰ重点 2016 年度以前入学者

三神　エレーナ

授業コード：R6215 2017 年度以降入学者
授業コード：E4205 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡単な挨拶や日常会話からはじめ、コミュニケーションに不可欠な単語や表現を学びます。身近なテーマの会話練習によってロシア語の文法力だけではなく、聞き取り能力、コミュニケーション能力を身に付ける授業です。

到達目標 当授業を履修した学生達はロシア語能力試験（ＴＲＫИ）A1 レベルの文章を聞き取りができ、主な挨拶や授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができるようになります。

成績評価の方法と基準 期末試験　50 %、出席および宿題・授業への取り組み　50 %

LANr200LA

ロシア語５Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語５Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

三神　エレーナ

授業コード：R6216　2017 年度以降入学者
授業コード：E4206　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2〜4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡単な挨拶や日常会話からはじめ、コミュニケーションに不可欠な単語や表現を学びます。身近なテーマの会話練習によってロシア語の文法力だけではなく、聞き取り能力、コミュニケーション能力を身に付ける授業です。

到達目標 秋学期では、時間表現、街・交通、住宅、天気に関する会話表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取りをしてから会話の実践を行います。
「読む・書く・聴く・話す」という段階で、ロシア語の基本文法やロシア語の表現力を本格的に身に付けます。ロシア語文法が苦手な方やロシア語の基礎を楽しく学びたい方におすすめの授業です。

成績評価の方法と基準 期末試験　50 %、出席および宿題・授業への取り組み　50 %

LANr100LA

ロシア語補講１Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語補講１Ⅰ　2016 年度以前入学者

佐藤　裕子

授業コード：R6061　2017 年度以降入学者
授業コード：E4221　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語のアルファベットを覚え、単語やテキストを正確に発音することができる。初級文法をしっかりと習得し、辞書を用いてテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

到達目標 ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）をきちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験４級合格をひとつの目標とし語学力をつける。

成績評価の方法と基準 授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 %となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 %となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 %とし、最終評価を算出します。

LANr100LA

ロシア語補講１Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語補講１Ⅱ　2016 年度以前入学者

佐藤　裕子

授業コード：R6062　2017 年度以降入学者
授業コード：E4222　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題にも挑戦する。

到達目標 ロシア語テキストを正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。日本語の短い文章を的確なロシア語に出来る。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 %とし、総合的に評価します。

LANr100LA

ロシア語補講２Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語補講２Ⅰ　2016 年度以前入学者

佐藤　裕子

授業コード：R6063　2017 年度以降入学者
授業コード：E4223　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで習得できなかったロシア語の基礎をアルファベット・発音からしっかりと学び直す。教科書および副教材で基礎文法を復習し、聴く、読む、話す、書く力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題や対策問題にも挑戦する。実際のコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

到達目標 ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題に挑戦し、必須単語や文法を着実に身につける。

成績評価の方法と基準 授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 %となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 %となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 %とし、最終評価を算出します。

【重要】ILAC科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANr100LA

ロシア語補講２Ⅱ　2017年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語補講２Ⅱ　2016年度以前入学者

佐藤　裕子

授業コード：R6064　2017年度以降入学者
授業コード：E4224　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期授業の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験4級受験の準備を行う。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

到達目標 格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

成績評価の方法と基準 秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の60％となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を40％とし、総合的に評価します。

M E M O

中国語　2017 年度以降入学生用

１・２年次は、「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」という５つの面からバランスよく学びます。２年次以降は、多彩な中国語関連科目群から、自分の興味・目標に合わせて、自由にカリキュラムを組み立てることができます。４年間を通して、自身の伸ばしたい能力を無理なく着実に身につけましょう。

【１年次】法・文・営・国・環・キ 共通

必修諸外国語のほか、中国語の発音の基礎を学ぶ**「中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ」（歌や朗読等を通した発音の練習・矯正）**や、**講義科目「中国語の世界 LA・LB」（中国語圏の言語、文化、社会等の基礎知識を学ぶ）**の履修をおすすめします。

【２年次】選択必修外国語に「中国語」を選択した、法（国政除く）・文・営の学生（「パターンB」）

必修諸外国語**「中国語３Ⅰ・Ⅱ」**のほか、**「中国語４Ⅰ・Ⅱ」（総合的な学習）、「中国語視聴覚初級Ⅰ・Ⅱ」（視聴覚教材を使用したリスニング中心の学習）、「中国語作文初級Ⅰ・Ⅱ」（語法・ライティングを中心とした学習）**から**２単位以上**を履修し、次のステップへ進むための基礎を固めます。更に、【2～4 年次】各学部共通の選択外国語科目、総合科目を履修し、段階的あるいは集中的に中国語を身につけることができます。

【２～４年次】法・文・営・国・環・キ 共通

選択外国語科目、総合科目、リベラルアーツ科目の中から、学習目的に応じた授業を選択履修することができます。HSK（中国政府公認の中国語資格試験「汉语水平考试」）の資格取得、実践的運能力の向上、中国の社会や文化への理解を深められるように、順次性のある体系的な科目群を用意しています。

◆ **就職活動や留学準備に役立つ中国語資格試験 HSK 対策**
- **「資格中国語初級Ⅰ・Ⅱ」**（語彙力を高める・語法理解）
- **「資格中国語中級 A・B」**（リスニング力を高める）
- **「資格中国語上級 A・B」**（ライティング力を高める）

◆ **読む、聞く、話す、通訳・翻訳するなどの実践的運用力を向上させる**
- **「中国語講読 A・B」**（物語や新聞・雑誌記事等を読み、語彙力を高め、語法理解を深める）
- **「中国語視聴覚中級 A・B」**（視聴覚教材を用いてリスニング力を高める）
- **「中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中級 A・B」**（話す力を高める）
- **「中国語翻訳・通訳 A・B／C・D」**（ネイティブおよびプロの通訳者から翻訳・通訳の基礎を学ぶ）

◆ **中国の社会や文化への理解を深めるための講義科目・教養ゼミ**
- **「中国語の世界 LA・LB」**
- **「中国の社会と文化 LA・LB／LC・LD」**
- **「教養ゼミⅠ・Ⅱ（中国の生活文化）」**

→ 次ページ「2018 年度中国語関連科目カリキュラムマップ」を参照。

※HSK を目安に、各年次の到達目標を設定しています。

＜レベルの目安＞

HSK2 級レベル	簡単な日常会話ができる（基礎単語 300 語程度）。
HSK3 級レベル	基本的なコミュニケーションをとることができる（600 語程度）。
HSK4 級レベル	比較的流暢にコミュニケーションをとることができる（1200 語程度）。 **※本学の派遣留学制度を利用して留学する時に必要なのはこの程度のレベルです。**
HSK5 級レベル	新聞・雑誌を読んだり、テレビ・映画を鑑賞したり、比較的整ったスピーチができる（2500 語以上）。
HSK６級レベル	中国語の情報をスムーズに読み、聞き、意見を流暢に表現できる（5000 語以上）。

2018 年度 中国語関連科目カリキュラムマップ

◆ 選択外国語科目（OOⅠ・Ⅱ）・総合科目（OOA・B）

各年次の「到達目標」に当てはまる科目を「履修推奨科目」として網掛けしています。全科目とも履修年次内なら何年次でも履修可能です。※「中国語４」は法・文・営「パターンB」選択者のみ履修可

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
到達目標／内容	中国語の基礎固め		HSK１・２級レベル		HSK３・４級レベル		HSK5・６級レベル	
総合的な運用能力を高める			中国語４Ⅰ	中国語４Ⅱ	中国語４Ⅰ	中国語４Ⅱ	中国語４Ⅰ	中国語４Ⅱ
資格試験対策 留学準備			資格中国語 初級Ⅰ	資格中国語 初級Ⅱ	資格中国語 初級Ⅰ	資格中国語 初級Ⅱ	資格中国語 初級Ⅰ	資格中国語 初級Ⅱ
			資格中国語 中級A	資格中国語 中級B	資格中国語 中級A	資格中国語 中級B	資格中国語 中級A	資格中国語 中級B
			資格中国語 上級A	資格中国語 上級B	資格中国語 上級A	資格中国語 上級B	資格中国語 上級A	資格中国語 上級B
表現力を伸ばす	中国語コミュニケーション 基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション 基礎Ⅱ	中国語コミュニケーション 基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション 基礎Ⅱ	中国語コミュニケーション 基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション 基礎Ⅱ	中国語コミュニケーション 基礎Ⅰ	中国語コミュニケーション 基礎Ⅱ
			中国語コミュニケーション 初級Ⅰ	中国語コミュニケーション 初級Ⅱ	中国語コミュニケーション 初級Ⅰ	中国語コミュニケーション 初級Ⅱ	中国語コミュニケーション 初級Ⅰ	中国語コミュニケーション 初級Ⅱ
			中国語コミュニケーション 中級A	中国語コミュニケーション 中級B	中国語コミュニケーション 中級A	中国語コミュニケーション 中級B	中国語コミュニケーション 中級A	中国語コミュニケーション 中級B
			中国語作文 初級Ⅰ	中国語作文 初級Ⅱ	中国語作文 初級Ⅰ	中国語作文 初級Ⅱ	中国語作文 初級Ⅰ	中国語作文 初級Ⅱ
読解力を伸ばす			中国語講読A	中国語講読B	中国語講読A	中国語講読B	中国語講読A	中国語講読B
リスニング力を伸ばす			中国語視聴覚 初級Ⅰ	中国語視聴覚 初級Ⅱ	中国語視聴覚 初級Ⅰ	中国語視聴覚 初級Ⅱ	中国語視聴覚 初級Ⅰ	中国語視聴覚 初級Ⅱ
			中国語視聴覚 中級A	中国語視聴覚 中級B	中国語視聴覚 中級A	中国語視聴覚 中級B	中国語視聴覚 中級A	中国語視聴覚 中級B
翻訳・通訳する力を伸ばす			中国語翻訳・通訳A／C	中国語翻訳・通訳B／D	中国語翻訳・通訳A／C	中国語翻訳・通訳B／D	中国語翻訳・通訳A／C	中国語翻訳・通訳B／D

◆ リベラルアーツ科目・総合科目（教養ゼミ）

中国の文化と社会を理解する	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB	中国語の世界 LA	中国語の世界 LB
			中国の社会と文化 LA／LC	中国の社会と文化 LB／LD	中国の社会と文化 LA／LC	中国の社会と文化 LB／LD	中国の社会と文化 LA／LC	中国の社会と文化 LB／LD
			教養ゼミⅠ	教養ゼミⅡ	教養ゼミⅠ	教養ゼミⅡ	教養ゼミⅠ	教養ゼミⅡ

中国語　2016 年度以前入学生用

■授業の目的・内容

詳細は各科目の講義概要（シラバス）を参照のこと（クラス授業の科目は授業時間に配布する）。

１年次から履修可能な科目

・　中国語１・２
　発音と基礎（初級レベル）中国語学習の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。
・　中国語の世界（０群）
　中国語圏の言語、文化、社会等の基礎知識を学ぶ。

２年次から履修可能な科目

・　中国語３
　理解力の増進（中級前段階レベル）簡単な文章を通じて、読解･聴解･表現を伸ばす。
・　中国語重点４（中級前段階レベル）
　中国語を集中的に学習したい人のための科目。重点４は簡単な文章、会話を通じて、読解、聴解、表現を伸ばす。
・　中国語補講　発音と基礎（初級レベル）
　中国語１、あるいは中国語２、いずれかの単位取得ができなかった者のための授業。具体的な授業内容等は開講時に掲示する。授業内容をよく確認した上で時間割上履修可能な時間の授業を履修すること。＊連続履修可（中国語１･中国語２双方の単位取得ができなかった者は、この授業ではなく、履修可能な特定の1年次のクラス授業に繰り入れ補講となるので十分注意して履修すること）
・　中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
　会話（中級前段階レベルの日常会話、旅行会話など）＊連続履修可
・　中国語視聴覚Ⅰ・Ⅱ
　ヒアリング（中級前段階レベル、ビデオやテープ等視聴覚教材を用いる）
・　検定中国語Ⅰ・Ⅱ
　資格取得（中級前段階レベル、中国語検定４級の受験準備）

☆　２年次以降の必修科目（中国語３、あるいは中国語重点４）はいずれも選択必修科目（中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、中国語表現法Ⅰ・Ⅱ、中国語視聴覚Ⅰ・Ⅱ、検定中国語Ⅰ・Ⅱ）と代替可能。
・　中国語表現法Ⅰ・Ⅱ
　作文（中級前段階レベルの中国語作文、簡単な手紙の書き方等）＊連続履修可
・　中国語初級（総合科目）
　第３外国語として初級から中国語を学びたい人のための授業（初級レベル、中国語を選択必修科目として履修した学生は履修不可）
・　中国の文化と社会（総合科目）
　中国への理解を深めるための講義・演習　＊連続履修可

なお、２年次において、周３コマ履修する学生は中国語３、重点４のほかに、もう１つ選択必修科目を履修すること。

３年次から履修可能な科目

- 中国語コミュニケーションⅢ・Ⅳ
  会話（中級後段階レベル）＊連続履修可
- 時事中国語Ⅰ・Ⅱ
  中国語のインターネット･新聞･雑誌等の記事の講読（中級後段階レベル、２年次の重点中国語既習者の履修が望ましい）＊連続履修可
- 検定中国語Ⅲ・Ⅳ
  資格取得（中級後段階レベル、中国語検定３級の受験準備、「検定中国語」既習者が望ましい）

■授業の形式・進め方

- 中国語１、中国語２
  授業は週１回ずつそれぞれの教員が担当するが、「1」,「2」とも共通テキストを使い、全40課を１課ずつリレー式に進めていく。簡単な会話文を通じ、1年間で中国語の発音、基礎文法等を体系的に学習する。詳細はＷＥＢシラバスを参照のこと（クラス授業の科目は授業時間に配布する）。
- 中国語重点４、中国語補講については掲示もあわせて見ること。

■成績評価の方法

詳細は各科目の講義概要（シラバス）を参照のこと（クラス授業の科目は授業時間に配布する）。いずれの授業も、ただ単に「授業に出席さえしていればいい」のではない。出席は当然の前提であり、どれだけ授業に積極的に参加し、学習したかという成果こそが評価の対象となる。中国語重点４、中国語補講は掲示もあわせて参照すること。

■教科書

中国語１、中国語２　共通テキスト『ポイント学習中国語初級［改訂版］』（東方書店）
中国語重点４、中国語補講については開講時に掲示板に掲示する。
その他の授業についてはＷＥＢシラバスを参照のこと（クラス授業の科目は授業時間に配布する。販売窓口の生協書籍部でも事前の確認可能）。

＊「連続履修可」とは、同年度に同名科目を複数履修することはできないが、年度が変われば再び履修できることを指す。

LANc200LA

中国語４Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅰ重点 2016 年度以前入学者

三田村　圭子

授業コード：R7371 2017 年度以降入学者
授業コード：E5301 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期は中国語の基礎を集中的に復習し定着させる。中国語検定試験４級に照準をあてて「話す」・「読解できる」・「聴き取れる」中国語の中級への基礎事項の習得を目指す。また難易度の高い補語表現を獲得する。

到達目標 春学期は中国語検定試験４級の合格（６月末）、同程度の中国語運用能力の習得を到達目標とする。終了時には簡単な中国語で基本的な文法を踏まえながら、中国と日本の文化の違いについて読解でき、自分の生活や習慣・文化などについて具体的に話せるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験 50 %、小テスト 30 %、課題・平常点 20 %を総合して評価する。中国語検定試験４級・HSK ３・４級合格者は大きく加点する。外部試験の点数によっては、期末試験を免除とする。

LANc200LA

中国語４Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

三田村　圭子

授業コード：R7372 2017 年度以降入学者
授業コード：E5302 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中級の文法の確立と応用練習を行う。中国語検定試験３級に照準をあてて春学期よりも長めの会話文を聴き取り、それに関しての簡単な質疑応答ができる中国語の力を養成する。また、現代中国の日常に関する比較的短い閲読も並行して行う。

到達目標 秋学期は中国語検定試験３級の合格（１１月末）、あるいはＨＳＫ４・５級の能力習得を到達目標とする。より複雑な時制の表現や構文の修得を目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 50 %・小テスト 30 %・平常点 20 %の総合評価。授業時に指定の暗誦をしたかも評価の対象とする。中国語検定試験３級・HSK4 級以上の合格者は、期末試験を免除し評価を A ＋とする。

LANc200LA

中国語４Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅰ重点 2016 年度以前入学者

薬　会

授業コード：R7373 2017 年度以降入学者
授業コード：E5303 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学んできた基本語彙、初級文法を復習しながら、中国語検定試験４級に照準をあてて「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を目指します。発音の矯正（スピーチ）・基礎単語と日常用語の暗記・文法理解（翻訳練習）などを授業内容とします。

到達目標 春学期は中国語検定試験４級の合格（６月末、しっかり授業について来られるなら楽に合格できる）を到達目標とします。

成績評価の方法と基準 毎回の自己紹介スピーチと授業への参加度、期末試験の成績などを総合して評価する。中国語検定試験４級合格者は、期末試験を免除し、評価を「A ＋」とします。

LANc200LA

中国語４Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

薬　会

授業コード：R7374 2017 年度以降入学者
授業コード：E5304 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学んできた基本語彙や文法を復習しながら、中国語検定試験３級という挑戦的なレベルに照準をあてて「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を目指します。発音の矯正（長文暗記）・基礎単語と日常用語の暗記・文法理解（翻訳練習）などを授業内容とします。

到達目標 秋学期は中国語検定試験３級の合格（１１月末）を到達目標（挑戦的な目標）とします。

成績評価の方法と基準 毎回の自己紹介スピーチと授業への参加度、期末試験の成績などを総合的に評価します。ちょっと挑戦的ではあるが、中国語検定試験３級を受験して合格した者に対し、期末試験を免除し、評価を「A ＋」とします。

LANc200LA

中国語４Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅰ重点 2016 年度以前入学者

薄　宏

授業コード：R7375 2017 年度以降入学者
授業コード：E5305 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語１と２で学んできた基本語彙、初級文法、基本会話等を復習しながら、要点をしっかりチェックし、その内容を把握し、基本的な応用が出来るようにする. ユニット１、及び２に沿って、中級文法を学習しながら、「書ける」・「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を更に充実し、全面的にバランスよく身につけることを目標とする

到達目標 中国語１と２で取得された学習成果を活かしながら、発音の矯正・中級中国語にあった自己紹介スピーチと日常用語の暗記・翻訳練習などを兼ねて、「話せる」・「読める」・「聞ける」、そして「書ける」中国語の習得を授業の到達目標とする

成績評価の方法と基準 成績評価：１　学習成果到達度のチェック評価（８０点）
２　レポート課題・宿題・平常点等（２０点）
総合評価：１＋２＝総合点とする
成績基準：合格点　A＋　１００点～９０点
A　８９点～８０点
B　７９点～７０点
C　６９点～６０点
不合格　D　５９点～

LANc200LA

中国語４Ⅱ　2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅱ重点　2016年度以前入学者

薄　宏

授業コード：R7376　2017年度以降入学者
授業コード：E5306　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　正確な発音のチェックを随時行い・本文の内容や自己紹介スピーチ、そして日常用語の応用、暗記、翻訳練習等をよく行い、中国語に対し、自信を持てるようになること

到達目標　春学期に引き続き、ユニット3、及び4に沿って、これまで学んできた基本語彙、中級文法を復習しながら、「書ける」・「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を更に充実し、全面的にバランスよく身につけることを目標とする

成績評価の方法と基準　成績評価：1　学習成果到達度のチェック評価（８０点）
2　レポート課題・宿題・平常点等（２０点）
総合評価：１＋２＝総合点とする
成績基準：合格点　A＋　１００点～９０点
A　８９点～８０点
B　７９点～７０点
C　６９点～６０点
不合格　D　５９点～

LANc200LA

中国語４Ⅰ　2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅰ重点　2016年度以前入学者

余　瀾

授業コード：R7377　2017年度以降入学者
授業コード：E5307　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　準中級レベルの中国語の授業です。教材の内容は、中国と日本の文化や社会の違いをテーマにした長文で構成されています。教材を学習し、一年次で勉強した基礎中国語文法をかため、さらに複文を含む３０の新しい文型と３００個の新しい単語を学習します。

到達目標　1年で学んだ中国語の基礎を踏まえ、読む、書く、聞く、話す力を伸ばすことを目標にします。具体的には、日常生活にまつわる簡単な会話ができて、また２００～３００文字の文章が読めるように目指します。
一方、教材の内容は、中国と日本の文化、慣習、生活などの違いをテーマにしていますので、中日両国の理解への促進も目標の一つとします。

成績評価の方法と基準　毎回授業中行う小テストは30点で、
中間テストは30点、で
期末テストは40点です。
成績は100点満点とし、60点以上が合格となります。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

LANc200LA

中国語４Ⅱ　2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅱ重点　2016年度以前入学者

余　瀾

授業コード：R7378　2017年度以降入学者
授業コード：E5308　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　準中級レベルの中国語の授業です。教材の内容は、中国と日本の文化や社会の違いをテーマにした長文で構成されています。教材を学習し、一年次で勉強した基礎中国語文法をかため、さらに複文を含む３０の文型と３００個の新しい単語を学習します。

到達目標　1年で学んだ中国語の基礎を踏まえ、読む、書く、聞く、話す力を伸ばすことを目標にします。具体的には、日常生活にまつわる簡単な会話ができて、また２００～３００文字の文章が読めるように目指します。
一方、教材の内容は、中国と日本の文化、慣習、生活などの違いをテーマにしていますので、中日両国の理解への促進も目標の一つとします。

成績評価の方法と基準　毎回行う小テスト30点で、
中間テストは30点で、
期末テストは40点です。
成績は100点満点とし、60点以上が合格となります。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

LANc200LA

中国語４Ⅰ　2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅰ重点　2016年度以前入学者

周　重雷

授業コード：R7379　2017年度以降入学者
授業コード：E5309　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜2017年度以降入学生＞法文営2年、＜2016年度以前入学生＞法文営環2年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　初級中国語を踏まえた上で、基本文法、日常会話、作文などを通じて、中国語の聞く、読む、書く、話す能力を総合的に高める授業である。中級程度あるいはそれ以上のレベルに達することを目標とする。

到達目標　・中国語の発音と聞き取りの能力を向上させる。
・文法をきちんと理解し、独自で中国語の文章の読み書きができるようにする。
・実用的会話力を身に付けるようにする。

成績評価の方法と基準　期末試験（１００点満点）の成績を基本とする。普段の学習態度も考慮に入れる。

LANc200LA

中国語４Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

周　重雷

授業コード：R7380 2017 年度以降入学者
授業コード：E5310 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級中国語を踏まえた上で、基本文法、日常会話、作文などを通じて、中国語の聞く、読む、書く、話す能力を総合的に高める授業である。中級程度あるいはそれ以上のレベルに達することを目標とする。

到達目標 ・中国語の発音と聞き取りの能力を向上させる。
・文法をきちんと理解し、独自で中国語の文章の読み書きができるようにする。
・実用的会話力を身に付けるようにする。

成績評価の方法と基準 筆記試験（５０点）と口頭試験（５０点）の合計点の成績を基本とする。普段の学習態度も考慮に入れる。

LANc200LA

中国語４Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅰ重点 2016 年度以前入学者

祝　振媛

授業コード：R7381 2017 年度以降入学者
授業コード：E5311 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級中国語を習得した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

到達目標 ・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
・基礎的な中国語を使って自分の意思を伝えることができる。
・ 中国の歴史、文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

LANc200LA

中国語４Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

祝　振媛

授業コード：R7382 2017 年度以降入学者
授業コード：E5312 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学習した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

到達目標 ・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
・基礎的な中国語で自分の意思を伝えることができる。
・ 中国の歴史、文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

LANc200LA

中国語視聴覚初級Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語視聴覚Ⅰ 2016 年度以前入学者

劉　渇氷

授業コード：R7433 2017 年度以降入学者
授業コード：E5365 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

到達目標 1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。

成績評価の方法と基準 試験、出席状況及び授業態度により総合的に評価する。

LANc200LA

中国語視聴覚初級Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語視聴覚Ⅱ 2016 年度以前入学者

劉　渇氷

授業コード：R7434 2017 年度以降入学者
授業コード：E5366 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

到達目標 1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。

成績評価の方法と基準 試験、出席状況及び授業態度により総合的に評価する。

LANc200LA

中国語作文初級Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語表現法Ⅰ 2016 年度以前入学者

康　鴻音

授業コード：R7431 2017 年度以降入学者
授業コード：E5363 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。そして正しい声調で、自然なリズムで話せるようにも指導します。

到達目標 中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解できる段階まで力を付けることを目指します。

成績評価の方法と基準 授業への参加度、授業中の学習態度、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合的に評価します。

LANc200LA

中国語作文初級Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語表現法Ⅱ 2016 年度以前入学者

康　鴻音

授業コード：R7432 2017 年度以降入学者
授業コード：E5364 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。

到達目標 中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解できる段階まで力を付けることを目指します。正しい声調で、自然なリズムで話せるようにも指導します。

成績評価の方法と基準 授業への参加度、授業中の学習態度、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合的に評価します。

LANc200LA

中国語コミュニケーション基礎Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーションⅠ 2016 年度以前入学者

薄　宏

授業コード：R7411 2017 年度以降入学者
授業コード：E5379 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 1〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この中国語コミュニケーション基礎Ⅰについては、言語に共通の４技能：「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」をより正確に把握することで、基本的な中国語発音を基とし、肝心の言い伝えることを、正しい発音をしっかりと身につけることにより、はじめて本当の意味での中国語によるコミュニケーション能力を向上できるようにこの授業の目的とする。

到達目標 中国語によるコミュニケーションについては、先ず簡単な会話を交わすことよりスタートし、徐々に複雑な、いろんな分野においての意思の疎通を交わせるようにするものの、基は自信を持って正しい発音を身につけることが目標とする。

成績評価の方法と基準 １、毎回の授業に対する態度、設問に対する応答、遅刻、欠席の有無による：　１５点
２、毎回の授業に対する宿題の提出、暗誦や完成度による：　２０点
３、春学期末における到達度チェックの成績による：　６５点

LANc200LA

中国語コミュニケーション基礎Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーションⅡ 2016 年度以前入学者

薄　宏

授業コード：R7412 2017 年度以降入学者
授業コード：E5380 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 1〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この中国語コミュニケーション基礎Ⅱについては、言語に共通の４技能：「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」をより正確に把握することで、基本的な中国語発音を基とし、肝心の言い伝えることを、正しい発音をしっかりと身につけることにより、はじめて本当の意味での中国語によるコミュニケーション能力を向上できるようにこの授業の目的とする。

到達目標 中国語によるコミュニケーションについては、先ず簡単な会話を交わすことよりスタートし、徐々に複雑な、いろんな分野においての意思の疎通を交わせるようにするものの、基は自信を持って正しい発音を身につけることが目標とする。

成績評価の方法と基準 １、毎回の授業に対する態度、設問に対する応答、遅刻、欠席の有無による：　１５点
２、毎回の授業に対する宿題の提出、暗誦や完成度による：　２０点
３、春学期末における到達度チェックの成績による：　６５点

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーションⅠ 2016 年度以前入学者

蒋　彧婷

授業コード：R7413 2017 年度以降入学者
授業コード：E5349 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

到達目標 発音を固める。
読解力を培う。
日常会話ができる。
簡単な文章を書ける。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーションⅡ 2016 年度以前入学者

蒋　彧婷

授業コード：R7414 2017 年度以降入学者
授業コード：E5350 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎的な文法事項の基礎を固

めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

到達目標 読解力や、表現力などのさらなるスキルアップを目指す。日常の中国語のコミュニケーションが取れる。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

LANc200LA
中国語コミュニケーション初級Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANc200LA
中国語コミュニケーションⅠ 2016 年度以前入学者

陳　洲挙

授業コード：R7415 2017 年度以降入学者
授業コード：E5351 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を身につける。

到達目標 学生は綺麗な発音を身につけ、日常会話ができるように。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（80 %）、学習態度や学習意欲（20 %）を、総合的に評価する。

LANc200LA
中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANc200LA
中国語コミュニケーションⅡ 2016 年度以前入学者

陳　洲挙

授業コード：R7416 2017 年度以降入学者
授業コード：E5352 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を身につける。

到達目標 学生は表現力などの更なるスキルアップをし、日常の中国語のコミュニケーションが取れるように。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（80 %）、学習態度や学習意欲（20 %）を、総合的に評価する。

LANc200LA
資格中国語初級Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANc200LA
検定中国語Ⅰ 2016 年度以前入学者

青木　正子

授業コード：R7437 2017 年度以降入学者
授業コード：E5367 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） HSK（☒☒水平考☒）１級～３級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に２級、秋学期中に３級に合格できるよう指導します。

到達目標 HSK ２級に合格する。

成績評価の方法と基準 授業内テストの合計点で評価します。

LANc200LA
資格中国語初級Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANc200LA
検定中国語Ⅱ 2016 年度以前入学者

青木　正子

授業コード：R7438 2017 年度以降入学者
授業コード：E5368 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） HSK ３級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。

到達目標 HSK ３級合格を目指します。

成績評価の方法と基準 授業内テストと期末テストで評価します。

LANc100LA
中国語補講１Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅰ 2016 年度以前入学者

池田　麻希子

授業コード：R7251 2017 年度以降入学者
授業コード：E5323 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかり身に付けることを目標とします。

到達目標 中国語の基礎を身に付けること。

成績評価の方法と基準 平常点（３～４割）と期末試験（６～７割）の総合評価。
平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の３分の１を超えた場合は評価しません（遅刻２回で欠席１回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

LANc100LA
中国語補講１Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅱ 2016 年度以前入学者

池田　麻希子

授業コード：R7252 2017 年度以降入学者
授業コード：E5324 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかり身に付けることを目標とします。

到達目標 中国語の基礎を身に付けること。

成績評価の方法と基準 平常点（３～４割）と期末試験（６～７割）の総合評価。

平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の３分の１を超えた場合は評価しません（遅刻２回で欠席１回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

LANc100LA
中国語補講１Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅰ 2016 年度以前入学者

千野　明日香

授業コード：R7253 2017 年度以降入学者
授業コード：E5325 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身につけるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）、本文暗誦及び授業への取り組み（50 %）により評価します。

LANc100LA
中国語補講１Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅱ 2016 年度以前入学者

千野　明日香

授業コード：R7254 2017 年度以降入学者
授業コード：E5326 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身につけるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）、本文暗誦及び授業への取り組み（50 %）により評価します。

LANc100LA
中国語補講１Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅰ 2016 年度以前入学者

千野　明日香

授業コード：R7255 2017 年度以降入学者
授業コード：E5327 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身に付けるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）、本文暗誦及び授業への取り組み（50 %）により評価します。

LANc100LA
中国語補講１Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅱ 2016 年度以前入学者

千野　明日香

授業コード：R7256 2017 年度以降入学者
授業コード：E5328 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初級段階の復習をします。テキストに沿って、発音と初級文法を学びます。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身に付けるようにしたいと思います。

到達目標 中国語で名乗る、物の値段や時間をたずねるなど、基礎的なコミュニケーションができるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）、本文暗誦及び授業への取り組み（50 %）により評価します。

LANc100LA
中国語補講２Ⅰ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅰ 2016 年度以前入学者

陳　洲挙

授業コード：R7259 2017 年度以降入学者
授業コード：E5331 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を身につける。

到達目標 学生は綺麗な発音を身につけ、日常会話ができるように。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（80 %）、学習態度や学習意欲（20 %）を、総合的に評価する。

LANc100LA
中国語補講２Ⅱ 2017 年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅱ 2016 年度以前入学者

陳　洲挙

授業コード：R7260 2017 年度以降入学者
授業コード：E5332 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的な会話交流が出来ることを目指す。

到達目標 学生は発音が正しく、流暢に会話できるように。

成績評価の方法と基準 授業中の発音の習熟度や予習の成果を参考にし、平常点 20%、期末テスト 80%を占めて、評価する。

LANc100LA
中国語補講２Ⅰ 2017年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅰ 2016年度以前入学者

余　瀾

授業コード：R7261 2017年度以降入学者
授業コード：E5333 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

到達目標 読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

成績評価の方法と基準 成績評価は100点満点とし、60点以上は合格となります。配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から
毎回行う小テストが40点で、
中間テストは30点
期末テストが30点であります。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

LANc100LA
中国語補講２Ⅱ 2017年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅱ 2016年度以前入学者

余　瀾

授業コード：R7262 2017年度以降入学者
授業コード：E5334 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

到達目標 読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

成績評価の方法と基準 成績評価は100点満点とし、60点以上は合格となります。配分は補講受講者に配慮し、出席重視の方針から、
毎回授業中に行う小テストが40点で、
中間テストは30点で、
期末テストが30点です。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

LANc100LA
中国語補講２Ⅰ 2017年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅰ 2016年度以前入学者

劉　光赤

授業コード：R7263 2017年度以降入学者
授業コード：E5335 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

到達目標 中国語の基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（60％）、授業参加、小テストや課題完の完成など（40％）による総合評価です。

LANc100LA
中国語補講２Ⅱ 2017年度以降入学者
LANc100LA
中国語補講Ⅱ 2016年度以前入学者

劉　光赤

授業コード：R7264 2017年度以降入学者
授業コード：E5336 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

到達目標 中国語の基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることが目標です。

成績評価の方法と基準 期末試験（60％）、授業参加、小テストや課題の完成など（40％）による総合評価です。

LANc200LA
中国語補講３Ⅰ 2016年度以前入学者

青木　正子

授業コード：E5337 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） ２年生の再履修者向けの授業です。２年生で学ぶべきことを学びます。

到達目標 テキストの内容を理解すること。
春学期終了時に中国語検定４級合格レベルに到達すること。

成績評価の方法と基準 授業内に実施する復習テストの合計点数で評価します。

LANc200LA
中国語補講３Ⅱ 2016年度以前入学者

青木　正子

授業コード：E5338 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書の内容を理解すること。２年生で学ぶべきことを学びます。

到達目標 秋学期終了までに中国語検定３級合格レベルに到達すること。

成績評価の方法と基準 授業中に行う復習テストの合計点で評価します。

LANc200LA
中国語補講３Ⅰ 2016年度以前入学者

沈　小南

授業コード：E5339 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

LANc200LA

中国語補講３Ⅱ

2016 年度以前入学者

沈　小南

授業コード：E5340　　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

LANc200LA

中国語補講３Ⅰ

2016 年度以前入学者

沈　小南

授業コード：E5341　　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

LANc200LA

中国語補講３Ⅱ

2016 年度以前入学者

沈　小南

授業コード：E5342　　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 理解力の増進。

到達目標 文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

成績評価の方法と基準 期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

スペイン語　2017 年度以降入学生用

■授業の目的・内容

「スペイン語１」と「スペイン語２」は、いずれも入門者を対象とするものであり、文法の基礎を習得すること、発音に慣れること、平易な文章の読解が出来るようになること、表現の初歩を学ぶことなどを主な目的とする。

「スペイン語３」では「スペイン語１」「スペイン語２」で学習したことの復習を踏まえながら、初級文法を一通り学習する。

「スペイン語４」は既にスペイン語の基礎を終えた受講生を対象とするものである。様々な分野にわたるテキストを使用しながら、文法の理解及び長文読解力やスペイン語会話力を高めていく。それらの学習を通じて、スペインやラテンアメリカの文化、歴史、社会に関する理解を深めることも目的とする。

「スペイン語（補講）」は「スペイン語１」、「スペイン語２」「スペイン語３」いずれかの単位取得ができなかった者のための授業である。

更にリベラルアーツ科目として開講されている「スペイン語の世界」はスペインとラテンアメリカ諸国を含むスペイン語圏の文化全般を紹介するものである。

■授業の形式・進め方

テキストを中心に授業を進めていく。受講生による積極的な参加が求められるのはもちろんのこと、予習と復習の励行が要求される。辞書は必ず持参のこと。

■成績評価の方法

授業の平常点及び期末試験の結果を総合的に評価する。

■使用テキスト

自分が出席する授業のシラバスを参照のこと。

スペイン語　2016 年度以前入学生

■授業の目的・内容

「スペイン語１」と「スペイン語２」は、いずれも入門者を対象とするものであり、文法の基礎を習得すること、発音に慣れること、平易な文章の読解が出来るようになること、表現の初歩を学ぶことなどを主な目的とする。

「スペイン語３」、「スペイン語４」、「スペイン語５」は、より高度なレベルのコースであり、既にスペイン語の基礎を終えた受講生を対象とするものである。様々な分野にわたるテキストを使用しながら、文法の理解及び長文読解力を高めていく。テキストの読解を通じて、スペインやラテンアメリカの文化、歴史、社会に関する理解を深めることも目的とする。

「スペイン語補講」は「スペイン語１」「スペイン語２」「スペイン語３」のいずれかの単位取得ができなかった者のための授業である。

更に１年次の０群の選択科目として開講されている「スペイン語の世界」はスペインとラテンアメリカ諸国を含むスペイン語圏の文化全般を紹介するものである。

■授業の形式・進め方

テキストを中心に授業を進めていく。受講生による積極的な参加が求められるのはもちろんのこと、予習と復習の励行が要求される。辞書は必ず持参のこと。

■成績評価の方法

授業の平常点及び期末試験の結果を総合的に評価する。

■使用テキスト

自分が出席する授業のシラバスを参照のこと。

LANs200LA

スペイン語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

オスノ　イジャネス　デ　ササクボ　エルマヘネス

授業コード：R8261　2017 年度以降入学者
授業コード：E6091　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：< 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、< 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 スペイン語での日常会話ができるようになる。また、辞書を使用しながら、少し長めのテキストを読解できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験４０％
小テスト３０％
期末試験の結果３０％
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA

スペイン語４Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

オスノ　イジャネス　デ　ササクボ　エルマヘネス

授業コード：R8262　2017 年度以降入学者
授業コード：E6092　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：< 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、< 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 自分の住環境、学習環境，労働環境について、評価または願望などをスペイン語で述べることができるようにします。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験４０％
小テスト３０％
期末試験の結果３０％
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA

スペイン語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

オスノ　イジャネス　デ　ササクボ　エルマヘネス

授業コード：R8263　2017 年度以降入学者
授業コード：E6093　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：< 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、< 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 スペイン語での日常会話ができるようになる。また、辞書を使用しながら、少し長めのテキストを読解できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験４０％
小テスト３０％
期末試験の結果３０％
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA

スペイン語４Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

オスノ　イジャネス　デ　ササクボ　エルマヘネス

授業コード：R8264　2017 年度以降入学者
授業コード：E6094　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：< 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、< 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

到達目標 自分の住環境、学習環境，労働環境について、評価または願望などをスペイン語で述べることができるようにします。

成績評価の方法と基準 授業内での口頭試験４０％
小テスト３０％
期末試験の結果３０％
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

LANs200LA

スペイン語４Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

長谷川　悦夫

授業コード：R8265　2017 年度以降入学者
授業コード：E6095　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
履修対象：< 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、< 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、文法事項の学習を再度行う。長文テキストに取り組みながら、実用的なスペイン語運用能力 (読解、表現) を習得すること目指す。

到達目標 長文テキストの読解を通して、語彙力が身につく。それによって、作文や会話でもさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B1 レベルの読解の試験で 70%以上得点できる実力が身につく。スペインの歴史についての知識を得る。

成績評価の方法と基準 授業への参加を 20%、期末試験の得点を 80%とし、総合的に評価する。

LANs200LA

スペイン語４Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語４Ⅱ重点 2016 年度以前入学者

長谷川　悦夫

授業コード：R8266 2017 年度以降入学者
授業コード：E6096 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営 2 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営環 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、文法事項の学習を再度行う。長文テキストに取り組みながら、実用的なスペイン語運用能力 (読解、表現) を習得すること目指す。

到達目標 長文テキストの読解を通して、語彙力が身につく。それによって、作文や会話でもさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B1 レベルの読解の試験で 70%以上得点できる実力が身につく。スペインの歴史についての知識を得る。

成績評価の方法と基準 授業への参加を 20%、期末試験の得点を 80%とし、総合的に評価する

LANs200LA

時事スペイン語Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs200LA

時事スペイン語Ⅰ 2016 年度以前入学者

佐々木　直美

授業コード：R8303 2017 年度以降入学者
授業コード：E6103 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今年度は「スペイン語圏の世界遺産」をテーマにテキスト講読の練習を行う。
テーマに関するテキスト講読を通じて、スペイン語圏の世界遺産とその背景にある歴史や現在の社会状況を学ぶ。
また、初級文法の復習と応用を長文読解によって繰り返すことで、スペイン語力のさらなる向上を目的とする。

到達目標 授業で使用するテキストであれば、辞書を使用して正しく読み理解することができることを目標とする。また、スペイン語圏の世界遺産について知識を広め、その魅力をスペイン語で発信することができるようになること。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合して評価する。配分は授業内でのプレゼンテーション 40%、期末試験 60%とする。授業に 4 回以上欠席した場合は成績評価「不可」とする。

LANs200LA

時事スペイン語Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANs200LA

時事スペイン語Ⅱ 2016 年度以前入学者

佐々木　直美

授業コード：R8304 2017 年度以降入学者
授業コード：E6104 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 広くスペイン語圏の話題をテーマにテキスト講読の練習を行う。
テーマに関するテキスト講読を通じて、スペイン語圏の歴史と文化を学ぶ。また、初級文法の復習と応用を長文読解によって繰り返すことで、スペイン語力のさらなる向上を目的とする。

到達目標 授業で使用するテキストであれば、辞書を使用して正しく読み理解することができることを目標とする。また、スペイン語圏の歴史や文化について知識と理解を深め、その魅力をスペイン語で発信することができるようになること。
初級文法の学習を一通り理解した学生を対象とする。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合して評価する。配分は授業内でのプレゼンテーション 40%、期末試験 60%とする。授業に 4 回以上欠席した場合は成績評価「不可」とする。

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅠ 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅠ 2016 年度以前入学者

瓜谷　アウロラ

授業コード：R8301 2017 年度以降入学者
授業コード：E6101 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的な表現、文法、語彙を学ぶ。説明、練習で学習内容を理解した上で、様々なアクティビティを通して、理解した内容をクラス内で実際に使ってみることにより定着を図る。

到達目標 文法の復習をしながら口頭表現力の育成をめざし、より高度な文法・表現の知識を身につける。

成績評価の方法と基準 平常点及び期末試験から判断する。
期末試験:70 %
平常点評価:30 % 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。
この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2016 年度以前入学者

瓜谷　アウロラ

授業コード：R8302 2017 年度以降入学者
授業コード：E6102 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的な表現、文法、語彙を学ぶ。説明、練習で学習内容を理解した上で、様々なアクティビティを通して、理解した内容をクラス内で実際に使ってみることにより定着を図る。

到達目標 文法の復習をしながら口頭表現力の育成をめざし、より高度な文法・表現の知識を身につける。

成績評価の方法と基準 平常点及び期末試験から判断する。
期末試験:70 %
平常点評価:30 % 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。
この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。

LANs200LA

スペイン語購読Ⅰ　2016 年度以前入学者

大西　亮

授業コード：E6105　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　法文営国環キ 2 年～

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したことのある学生が対象となる。

到達目標 新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

LANs200LA

スペイン語購読Ⅱ　2016 年度以前入学者

大西　亮

授業コード：E6106　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　法文営国環キ 2 年～

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期にひきつづき、初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したことのある学生が対象となる。

到達目標 春学期にひきつづき、新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

LANs100LA

スペイン語補講１Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講１・２Ⅰ　2016 年度以前入学者

佐々木　直美

授業コード：R8307　2017 年度以降入学者
授業コード：E6099　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の発音やアクセントに慣れる。初級文法を習得する。また、言語の背景にあるもの、特に世界遺産を通して歴史や文化、社会事情を学ぶ。

到達目標 春学期終了時には、簡単な会話ができるようになることを目指す。また直説法現在形の動詞を用いた文章の読解、および作文ができるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合して評価する。配分は授業内でのプレゼンテーション 40%、期末試験 60%とする。授業に 4 回以上欠席した場合は成績評価「不可」とする。

LANs100LA

スペイン語補講１Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講１・２Ⅱ　2016 年度以前入学者

佐々木　直美

授業コード：R8308　2017 年度以降入学者
授業コード：E6100　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の初級文法を学び、日常生活におけるスペイン語でのコミュニケーションができるようになることを目的とする。
また、映像資料を交えながらスペイン語圏の文化について理解を深める。

到達目標 ①直説法現在の規則動詞・不規則動詞が適切に活用できるようになる。
②点過去・線過去を使って、文章の読み書きができるようになる。
③比較の文章を作文できるようになる。
④スペイン語圏の話題について、スペイン語を使って自分の意見や感想を述べることができるようになる。

成績評価の方法と基準 授業内のプレゼンテーションを平常点 40 %とし、　期末試験 60 %と合わせて総合的に評価する。授業に 4 回以上欠席した場合は、成績評価「不可」とする。

LANs100LA

スペイン語補講１Ⅰ　2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講１・２Ⅰ　2016 年度以前入学者

若林　大我

授業コード：R8309　2017 年度以降入学者
授業コード：E6133　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的なスペイン語文法を復習しつつ、読解の力を身につける。

到達目標 受講生は春学期終了時までに、単純な現在形による文を理解し、また作文できるようになる。

成績評価の方法と基準 学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験結果を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

LANs100LA

スペイン語補講１Ⅱ　2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講１・２Ⅱ　2016 年度以前入学者

若林　大我

授業コード：R8310　2017 年度以降入学者
授業コード：E6134　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2～3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎的なスペイン語文法を復習しつつ、

読解の力を身につける。

到達目標 受講生は秋学期終了時までに、過去形による文を理解し、また作文できるようになる。

成績評価の方法と基準 学期中間で1度小テストを行う。平常点を30%、学期中間での小テスト結果を30%、学期末試験結果を40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

LANs100LA
スペイン語補講２Ⅰ 2017年度以降入学者
LANs100LA
スペイン語補講１・２Ⅰ 2016年度以前入学者

長谷川　悦夫

授業コード：R8311 2017年度以降入学者
授業コード：E6097 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

到達目標 ①綴りを見て単語を発音することができる。②人の職業や国籍・出身地について述べることができる。③特定のものや人の所在について述べることができる。④人やものの性格・性質や状態について述べることができる。⑤直説法現在形の動詞の活用から不定詞を推測し、辞書を引くことができる。⑥ querer, poder などの動詞の用法を理解し、欲求、願望、可能、許可などについての表現ができる。⑦スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

成績評価の方法と基準 授業への参加20%、中間試験30%、期末試験50％とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が5回に達すると、単位認定資格を失う。

LANs100LA
スペイン語補講２Ⅱ 2017年度以降入学者
LANs100LA
スペイン語補講１・２Ⅱ 2016年度以前入学者

長谷川　悦夫

授業コード：R8312 2017年度以降入学者
授業コード：E6098 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

到達目標 ①過去形、現在完了形の用法を理解し、過去の行為、動作、状況について述べることができる。②再帰動詞の用法を理解し、日常生活について話すことができる。③ gustar 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。④人やものの性格・性質や状態について述べることができる。⑤日付・曜日の表現ができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

成績評価の方法と基準 授業への参加20%、中間試験30%、期末試験50％とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が5回に達すると、単位認定資格を失う。

LANs100LA
スペイン語補講２Ⅰ 2017年度以降入学者
LANs100LA
スペイン語補講１・２Ⅰ 2016年度以前入学者

大西　亮

授業コード：R8313 2017年度以降入学者
授業コード：E6131 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、スペイン語初級の再履修者を対象とする授業である。スペイン語の基本文法を学び、確実に理解することを目的とする。再履修だからといって内容が易しいということはない。とことん文法にこだわるので、それなりの覚悟が必要である。

到達目標 スペイン語の基礎となる正確な文法知識の習得をめざす。春学期を通じて「再帰動詞」までの学習を終えることを目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点（30%）、小テスト（20 %）、期末試験（50 %）を総合的に勘案して評価する。

LANs100LA
スペイン語補講２Ⅱ 2017年度以降入学者
LANs100LA
スペイン語補講１・２Ⅱ 2016年度以前入学者

田澤　耕

授業コード：R8314 2017年度以降入学者
授業コード：E6132 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 2〜3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前期の補講Ⅰの続きである。目標及びテーマは、スペイン語初級文法の習得。スペイン語の世界に親しむ。

到達目標 前年度までに修得できなかったスペイン語の基礎知識を習得する。

成績評価の方法と基準 期末試験と平常点を総合的に評価する。出席重視。

LANs200LA
スペイン語補講３Ⅰ 2016年度以前入学者

大貫　良史

授業コード：E6135 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ 3 年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく

到達目標 初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 出席と授業への参加40%、試験60%を基本とし、総合的に評価する
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある
反対に、授業中の消極的態度は減点の対象とすることがある
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす

【重要】ILAC科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANs200LA

スペイン語補講３Ⅱ

2016年度以前入学者

大貫　良史

授業コード：E6136　　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能学部・年次：法文営環キ３年（再履修者に限る）

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく。

到達目標 初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 出席と授業への参加40%、試験60%を基本とし、総合的に評価する
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある
反対に、授業中の消極的態度は減点の対象とすることがある
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす

M E M O

朝鮮語　　2017 年度以降入学生

■授業の内容

＜１年次＞

１年次では朝鮮語の授業が週２回あり、「朝鮮語１」と「朝鮮語２」を合わせて履修します。両者を通じて文字と発音、基礎的な文法と語彙を学習します。「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員が同一の教材を用いて一体のものとして授業を進める（リレー方式）ことによって効果的に学習できるよう配慮しています。同じ授業が週２回あると考えていただければけっこうです。

＜２年次＞

２年次では朝鮮語を週２回学ぶか、週１回学ぶかを学生が選択します（選択は１年次の秋に行ないます）。

週２回を選択した学生の履修方法は以下の３つのいずれかとなります（２年次の春に決定します）。

- 「朝鮮語３Ａ（重点）」と「朝鮮語４Ａ（重点）」を履修する。この２つの授業は１年次と同じくリレー方式で進める予定なので、かならずセットで履修してください。
- 「朝鮮語３Ｂ」と「朝鮮語４Ｂ（視聴覚）」を履修する。
- 「朝鮮語３Ｃ（コミュニケーション）」と「朝鮮語４Ｂ（視聴覚）」を履修する。

週１回を選択した学生は原則として「朝鮮語３Ｂ」を履修しますが、かわりに「朝鮮語３Ｃ（コミュニケーション）」を履修することも可能です。

＜３年次以降＞

選択科目として「朝鮮語５Ａ（講読）」と「朝鮮語５Ｂ（表現法）」が用意されています。

■　授業の形式・進め方／成績評価の方法・基準／使用テキスト

いずれもＷＥＢシラバスの各科目の該当科目を参照してください。

■その他

朝鮮語は「日本語に近いやさしい外国語」だと聞いたことがあるかもしれません。

それはまったくのウソとは言えませんが、他の外国語とはことなり、新しい文字と発音、単語をいちどに覚える必要があるため、最初はかならずしもやさしくありません。

そして、「やさしい」ということは、「他の外国語よりも楽ができる」ということでは決してありません！！

外国語の学習にとっていちばん重要なのは時間をかけることです。

大学での授業のみではそれは不可能です。授業は家での復習が行われることを前提に進むものと考えてください。授業に積極的に参加してくれること、また朝鮮に関するさまざまなことがらに関心を持ってくれることを教員一同希望しています。

朝鮮語　　2016 年度以前入学生用

■授業の内容

＜１年次＞

１年次には「朝鮮語１」と「朝鮮語２」を履修します。両者を通じて文字と発音、基礎的な文法と語彙を学習します。「朝鮮語１」「朝鮮語２」は２名の教員が同一の教材を用いて一体のものとして授業を進める（リレー方式）ことによって効果的に学習できるよう配慮しています。

＜２年次＞

２年次には、入学手続時に選択した「外国語履修パターン」のとおり、朝鮮語を週１コマ学ぶコース（パターン①）、朝鮮語を週２コマ学ぶコース（パターン②：朝鮮語重点コース）、朝鮮語を週３コマ学ぶコース（パターン③：朝鮮語重点コース）の３コースに分かれます。

朝鮮語を週１コマ学ぶコースを選択した学生は「朝鮮語３」のみを受講します。「朝鮮語３」は１年次と同じくクラス指定の授業です。

朝鮮語を主たる外国語として学ぶ朝鮮語重点コースを選択した学生には、重点コース用の「朝鮮語３」が別途用意されています。重点「朝鮮語３」では主に作文の練習を通じて朝鮮語の文法と語彙の知識を確かなものにすることを目標としています。重点「朝鮮語３」はクラス指定はありません。２つある授業のいずれかを選んでください。

朝鮮語重点コース選択者のうち、朝鮮語を週２コマ学ぶ者はほかに「朝鮮語４」を、朝鮮語を週３コマ学ぶ者はそれに加えて「朝鮮語５」を履修します。「朝鮮語４」は１年次に引き続き総合的な朝鮮語の能力を高めることを目標とします。やはり２つある授業のいずれかをクラスとは関係なく選択します。「朝鮮語５」は朝鮮語の母語話者（ネイティブスピーカー）が担当する会話中心の授業です。朝鮮語重点コースの「朝鮮語３」「朝鮮語４」「朝鮮語５」はこのようにさまざまな面から朝鮮語の能力を高められるように考慮されています。

＜選択科目＞

このほかに選択科目として「朝鮮語コミュニケーション」と「朝鮮語視聴覚」（以上２年次以降履修可）、さらに「朝鮮語表現法」と「朝鮮語講読」（以上３年次以降履修可）が用意されています。

なお「朝鮮語コミュニケーション」と「朝鮮語視聴覚」に関しては、朝鮮語重点コース、英語重点コースを問わず、選択科目を「朝鮮語３」「朝鮮語４」「朝鮮語５」のいずれかの単位と代替することができます。

■授業の形式・進め方／成績評価の方法・基準／使用テキスト

いずれもＷＥＢシラバスの各科目の該当項目を参照してください。

■その他

朝鮮語は「日本語に近いやさしい外国語」だと聞いたことがあるかもしれません。

それはまったくのウソとは言えませんが、他の外国語とはことなり、新しい文字と発音、単語をいちどに覚える必要があるため、最初はかならずしもやさしくありません。

そして、「やさしい」ということは、「他の外国語よりも楽ができる」ということでは決してありません！！

外国語の学習にとっていちばん重要なのは時間をかけることです。

大学での授業のみではそれは不可能です。授業は家での復習が行われることを前提に進むものと考えてください。授業に積極的に参加してくれること、また朝鮮に関するさまざまなことがらに関心を持ってくれることを教員一同希望しています。

LANk200LA

朝鮮語４ＡⅠ　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

梁　禮先

授業コード：R9241　2017 年度以降入学者
授業コード：E7045　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

法・文学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　期末テストの成績によります．

LANk200LA

朝鮮語４ＡⅡ　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

梁　禮先

授業コード：R9242　2017 年度以降入学者
授業コード：E7046　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

法・文学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　春学期に引き続き，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　期末テストの成績によります．

LANk200LA

朝鮮語４ＡⅠ　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

梁　禮先

授業コード：R9243　2017 年度以降入学者
授業コード：E7047　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

法・経営学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　期末テストの成績によります．

LANk200LA

朝鮮語４ＡⅡ　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

梁　禮先

授業コード：R9244　2017 年度以降入学者
授業コード：E7048　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

法・経営学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　春学期に引き続き，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　期末テストの成績によります．

LANk200LA

朝鮮語４ＡⅠ　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語４Ⅰ重点　2016 年度以前入学者

梁　禮先

授業コード：R9245　2017 年度以降入学者
授業コード：E7049　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

文・経営学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　期末テストの成績によります．

LANk200LA

朝鮮語４ＡⅡ　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語４Ⅱ重点　2016 年度以前入学者

梁　禮先

授業コード：R9246　2017 年度以降入学者
授業コード：E7050　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

文・経営学部 2 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　春学期に引き続き，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．

到達目標　授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

成績評価の方法と基準　期末テストの成績によります．

LANk200LA

朝鮮語４ＢⅠ（視聴覚）　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語視聴覚Ⅰ　2016 年度以前入学者

新谷　あゆり

授業コード：R9283　2017 年度以降入学者
授業コード：E7065　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。
語彙・文型・表現の知識を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

到達目標 1 韓国の小説・ドラマ・歌・スピーチ・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の人数・レベル・ニーズを見て小説・ドラマを適宜変更する。
候補：シークレットガーデン、二度目の二十歳、キルミーヒルミー

成績評価の方法と基準 平常点（積極性、課題）50 %、テスト 50 %
3 回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

LANk200LA

朝鮮語４ＢⅡ（視聴覚）　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語視聴覚Ⅱ　2016 年度以前入学者

新谷　あゆり

授業コード：R9284　2017 年度以降入学者
授業コード：E7066　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

到達目標 1 韓国のドラマ・歌・ニュース・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。
2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の人数・レベル・ニーズを見てドラマを適宜変更する。
候補：華麗なる遺産、二度目の二十歳、キルミーヒルミー

成績評価の方法と基準 平常点（積極性、課題）50 %、テスト 50 %
3 回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

LANk200LA

朝鮮語購読Ⅰ　2016 年度以前入学者

高橋　梓

授業コード：E7063　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　法文営国環キ 2 年〜

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、朝鮮語の基礎的な内容の学習を終えた学生を対象に、絵本、新聞や雑誌のコラム、エッセイなどのまとまった文章を正確に読解する練習を行う。春学期の前半の授業（4 〜 5 月）では、絵本やコラムなどの短い文章を読みながら、書き言葉の文章に慣れてもらう。後半の授業（5 〜 7 月）では、少し長い文章としてエッセイの読解に挑戦する。具体的には、韓国の市場や学校など、さまざまな場所を定点観測した韓国・KBS のドキュメンタリー番組「ドキュメンタリー 3 日」の書籍版『愛すれば見える』（2017 年）のエッセイを読んでいく。授業で扱うテキストの内容をとおして、韓国社会や文化についても幅広い知識を身につけることを目指す。

到達目標 ・書き言葉の表現に慣れる。
・さまざまな文章の読解をとおして、朝鮮語の語彙をさらに増やす。
・授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の現在の社会問題や韓国文化についての理解を深める。

成績評価の方法と基準 試験は行わず、授業への積極的な参加と取り組みを総合的に評価する。

LANk200LA

朝鮮語購読Ⅱ　2016 年度以前入学者

高橋　梓

授業コード：E7064　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　法文営国環キ 2 年〜

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、朝鮮語の基礎的な内容の学習を終えた学生を対象に、絵本、新聞や雑誌のコラム、エッセイなどのまとまった文章を正確に読解する練習を行う。秋学期の最初の数回の授業（9 〜 10 月）では、絵本やコラムなどの短い文章を読みながら、書き言葉の文章の読解の練習を行う。10 月以降は、少し長い文章としてエッセイの読解に取り組む。秋学期も春学期と同様に、韓国のさまざまな場所を定点観測した韓国・KBS のドキュメンタリー番組「ドキュメンタリー 3 日」の書籍版『愛すれば見える』（2017 年）のエッセイを読んでいく。また、秋学期では、受講する学生の関心事・レベルによって、さらに長い文章（韓国音楽・韓国映画に関連したインタビュー記事、短篇小説）にも挑戦したいと考えている。授業で扱うテキストの内容をとおして、韓国社会や文化についても幅広い知識を身につけることを目指す。

到達目標 ・書き言葉の表現に慣れる。
・さまざまな文章の読解をとおして、朝鮮語の語彙をさらに増やす。
・授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の現在の社会問題や韓国文化についての理解を深める。

成績評価の方法と基準 試験は行わず、授業への積極的な参加と取り組みを総合的に評価する。

LANk200LA

朝鮮語表現法Ⅰ　2016 年度以前入学者

神谷　丹路

授業コード：E7067　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　法文営国環キ 3 年〜

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解も深める。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

到達目標 実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的な理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

【重要】ILAC科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANk200LA

朝鮮語表現法Ⅱ

2016年度以前入学者

神谷　丹路

授業コード：E7068
開講時期：**秋学期**

2016年度以前入学者

※定員制　法文営国環キ 3 年〜

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解も深める。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である.

到達目標 実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的な理解も深めていく。

成績評価の方法と基準 平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

日本語　2017 年度以降入学生用

■授業の目的・内容

この授業は、留学生が大学で勉強・研究していく上で必要とされるレベルの日本語力を指導・訓練することを目的としている。

１年次で履修する日本語１（Ⅰ・Ⅱ）・２（Ⅰ・Ⅱ）の内容は、１が読解や聴覚・視覚メディアによるインプットから情報を得る能力を、２が特に「書く」という表現行為によるアウトプットの能力を、それぞれ養成することを目的とする。

２年次で履修する日本語３（Ⅰ・Ⅱ）・４（Ⅰ・Ⅱ）の内容は、３が「速読」、４が「精読」という相異なった読解作業を通して、更に勉学・研究を続けていくための自己学習能力を、それぞれ養成することを目的とする。

■授業の形式・進め方

各種目・科目の開講時に担当教員が紹介・指示する。

■成績評価の方法

基本的には、出席点と春学期・秋学期それぞれ１回ずつの授業内試験の得点によって評価する。また、必要に応じて、クイズ、小テスト、レポート等が課されることがある。

詳細は、各種目・科目の開講時に、担当教員が紹介する。

■使用テキスト

でき得る限り、実際に使用されている生の材料を用い、そこでの日本語を支える一般的な文化的背景にも可能な範囲で触れ、総合的な言語文化能力の養成に資する。

詳細は、各種目・科目の開講時に、担当教員が紹介する。

日本語　2016 年度以前入学生用

■授業の目的・内容

この授業は、留学生が大学で勉強・研究していく上で必要とされるレベルの日本語力を指導・訓練することを目的としている。

１年次で履修する日本語１（Ⅰ・Ⅱ）・２（Ⅰ・Ⅱ）の内容は、１が読解や聴覚・視覚メディアによるインプットから情報を得る能力を、２が特に「書く」という表現行為によるアウトプットの能力を、それぞれ養成することを目的とする。

２年次で履修する日本語３（Ⅰ・Ⅱ）・４（Ⅰ・Ⅱ）の内容は、３が「速読」、４が「精読」という相異なった読解作業を通して、更に勉学・研究を続けていくための自己学習能力を、それぞれ養成することを目的とする。

■授業の形式・進め方

各種目・科目の開講時に担当教員が紹介・指示する。

■成績評価の方法

基本的には、出席点と春学期・秋学期それぞれ１回ずつの授業内試験の得点によって評価する。また、必要に応じて、クイズ、小テスト、レポート等が課されることがある。

詳細は、各種目・科目の開講時に、担当教員が紹介する。

■使用テキスト

でき得る限り、実際に使用されている生の材料を用い、そこでの日本語を支える一般的な文化的背景にも可能な範囲で触れ、総合的な言語文化能力の養成に資する。

詳細は、各種目・科目の開講時に、担当教員が紹介する。

ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目

5 群（保健体育分野）

≪2017 年度以降入学生≫

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週 1 回半期型、②自由に選択履修できる集中型、③自由に選択履修できる週1回半期型の３つの形式で開講されています。①と③は週１回、半期にわたって開講されますが、②は夏季休暇期間中に 4 日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスに加え、多摩キャンパスでも開講されます。

①は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は必修科目（①を履修した場合は選択科目としても履修可能）、③は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。

卒業のためには、上記の①、②のいずれかの形式で 2 単位を取得することが必須となりますが、5 群の単位としては①、②、③のうちの 2 つの授業を各 1 回ずつ、計 4 単位を上限として履修・取得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

また、２年時以降にも選択科目の内容を深めた５群科目も用意されています。

≪2016 年度以前入学生≫

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週 1 回半期型、②自由に選択履修できる集中型、③自由に選択履修できる週1回半期型の３つの形式で開講されています。①と③は週１回、半期にわたって開講されますが、②は夏季休暇期間中に 4 日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスに加え、多摩キャンパスでも開講されます。

①は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は必修科目（①を履修した場合は選択科目としても履修可能）、③は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。

卒業のためには、上記の①、②のいずれかの形式で 2 単位を取得することが必須となりますが、5 群の単位としては①、②、③のうちの 2 つの授業を各 1 回ずつ、計 4 単位を上限として履修・取得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

HSS100LA

スポーツ総合演習/スポーツ総合演習Ｓ　2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習　2016 年度以前入学者

各担当者

授業コード：**各授業による**　2017 年度以降入学者
授業コード：**各授業による**　2016 年度以前入学者
開講時期：

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS200LA

健康の科学ＬＡ　2017 年度以降入学者

HSS100LA

健康の科学Ⅰ　2016 年度以前入学者

清野　諭

授業コード：Q5451　2017 年度以降入学者
授業コード：P0501　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ１～４年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営１～３年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「健康の科学 LA」では、総論と「青年期、壮年期、中年期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。本授業を通して、健康管理に関する基本的な知識を習得し、身近な健康課題について考える。

到達目標 1. 青年期～中年期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

成績評価の方法と基準 授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度： 50%）、レポート課題（50%）

HSS200LA

健康の科学ＬＢ　2017 年度以降入学者

HSS100LA

健康の科学Ⅱ　2016 年度以前入学者

清野　諭

授業コード：Q5452　2017 年度以降入学者
授業コード：P0502　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ１～４年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営１～３年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「健康の科学 LB」では、「健康の科学 LA」で学習した内容に続いて、「高齢期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。特に、現在の日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。本授業を通して、日本が直面している少子・高齢化問題に対して、どのように貢献できるかについて考える。また、高齢期の健康問題には、若齢期の生活習慣が影響するものもあるため、ライフコースアプローチについて理解する。

到達目標 1. 高齢期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

成績評価の方法と基準 授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度： 50%）、レポート課題（50%）

HSS200LA

健康の科学ＬＡ　2017 年度以降入学者

HSS100LA

健康の科学Ⅰ　2016 年度以前入学者

谷本　都栄

授業コード：Q5453　2017 年度以降入学者
授業コード：P0503　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ１～４年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営１～３年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 人生 100 年時代を迎え、人々の生き方も多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めたホリスティック・ヘルス（包括的健康）の視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々な題材から個人の健康や社会の健康について学び、“よく生きる”ことについて考え、自ら実践に結びつけていくことを目指す。

到達目標 ・健康に関わる概念や歴史から、健康とは何かについて理解を深める。
・包括的健康の視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

成績評価の方法と基準 ・平常点 50 %
・中間レポート 20 %
・期末レポート 30 %

HSS200LA

健康の科学ＬＢ　2017 年度以降入学者

HSS100LA

健康の科学Ⅱ　2016 年度以前入学者

谷本　都栄

授業コード：Q5454　2017 年度以降入学者
授業コード：P0504　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ１～４年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営１～３年生

授業の概要と目的（何を学ぶか） 健康は、ＱＯＬ（生活の質）を高めいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくこと（ヘルスプロモーション）が求められる。本講義では、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識をはじめ心身の健康を保つために必要なライフスキルについて学び、各人の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

到達目標 ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。

成績評価の方法と基準 ・平常点 50 %
・中間レポート 20 %
・期末レポート 30 %

M E M O

総合科目

基礎科目で修得した基本的な知識をさらに展開させて、本来のリベラルアーツ（教養科目）を充実させる意味で開講するものです。配置された多様な科目を分類すると、およそ次のようになります。

- ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目 1 群から 3 群の科目に関連がある特定のテーマを講義する科目や情報処理関連の科目、更には各群に共通した学際的な科目
- 英語では、高度の運用能力や、生の英語の資料を基にした輪読と討論を行うグレードの高い科目
- 諸外国語では、読解や運用能力を中級から上級に高める科目
- 第三外国語として、諸外国語を初級から修得する科目
- 留学生を対象とした日本情報、日本人学生も参加できる日本語特別講座のような日本語関連の科目
- 体育理論の講義だけでなく、実技、演習を組み合わせた科目

【重要】2016年度以前入学者は以下をよく読み、シラバスを確認してください。

次ページ一覧に記載されている科目のシラバスは、2017 年度以降入学者向けの科目名で、かつ春学期の内容と秋学期の内容が分かれて掲載されています。一覧に記載されている科目のシラバスを確認したい場合は、下の例を参考に、対応する授業コード・科目名のシラバスを参照してください。

＜注＞開講時期は「通年」です。春学期のみ、または秋学期のみの履修はできません。

(例)「漢字・漢文学」（授業コード：P6001）のシラバスを確認する場合

⇒ 「漢字・漢文学 A」（授業コード：Q6101）と「漢字・漢文学B」（授業コード：Q6102）のシラバスを確認

① ここに、シラバスを確認したい（履修したい）科目が記載されている場合は②へ

②ここで、対応する科目の授業コードと科目名を確認し、それぞれのシラバスのページへ

2016年度以前入学者		※シラバスは以下の科目を確認してください（上段：春学期の授業内容）（下段：秋学期の授業内容）			担当者
授業コード	科目名【開講時期：通年】	授業コード	科目名	ページ	
P6001	漢字・漢文学	Q6101	漢字・漢文学A	**	** **
		Q6102	漢字・漢文学B	**	

2016年度以前入学者		※シラバスは以下の科目を確認してください （上段：春学期の授業内容） （下段：秋学期の授業内容）			担当者
授業コード	科目名 【開講時期：通年】	授業コード	科目名	ページ	
P6001	漢字・漢文学	Q6101	漢字・漢文学A	227	加納　留美子
		Q6102	漢字・漢文学B	227	
P6003	文章論－文章表現の実践	Q6103	教養ゼミⅠ（文芸創作の実践A）	232	藤村　耕治
		Q6104	教養ゼミⅡ（文芸創作の実践B）	233	
P6005	文芸創作講座	Q6105	文芸創作講座A	227	岩川　ありさ
		Q6106	文芸創作講座B	227	
P6007	日本芸能史論	Q6107	日本芸能論A	227	阿部　真弓
		Q6108	日本芸能論B	228	
P6009	身体表現論（バレエの世界）	Q6109	身体表現論A	228	深谷　公宣
		Q6110	身体表現論B	228	
P6011	美術論	Q6111	美術論A	228	小澤　慶介
		Q6112	美術論B	228	
P6013	芸術と人間	Q6113	芸術と人間A	229	岡村　民夫
		Q6114	芸術と人間B	229	
P6107	仏教思想論	Q6115	仏教思想論A	229	計良　隆世
		Q6116	仏教思想論B	229	
P6017	行為の理論	Q6117	行為の理論A	229	山口　誠一
		Q6118	行為の理論B	229	
P6019	人間存在論	Q6119	教養ゼミⅠ（現代思想A）	233	森村　修
		Q6120	教養ゼミⅡ（現代思想B）	233	
P6106	中国の民族と文化	Q6121	中国の民族と文化A	230	齋藤　勝
		Q6122	中国の民族と文化B	230	
P6023	ギリシヤの文化と社会	Q6123	ギリシヤの文化と社会A	230	中村　純
		Q6124	ギリシヤの文化と社会B	230	
P6025	古代日本・中国の法と社会	Q6125	古代日本・中国の法と社会A	230	岡野　浩二
		Q6126	古代日本・中国の法と社会B	230	
P6027	アジア・太平洋国際関係史	Q6127	アジア・太平洋島嶼国際関係史A	231	今泉　裕美子
		Q6128	アジア・太平洋島嶼国際関係史B	231	
P6029	在日朝鮮人の歴史	Q6129	教養ゼミⅠ（在日朝鮮人の歴史A）	233	神谷　丹路
		Q6130	教養ゼミⅡ（在日朝鮮人の歴史B）	234	
P6111	法哲学	Q6201	法哲学A	234	内藤　淳
		Q6202	法哲学B	234	
P6045	現代政治学の基礎	Q6203	教養ゼミⅠ（囲碁で培う戦略的思考）	237	坂根　徹
		Q6204	教養ゼミⅡ（囲碁で培う戦略的思考）	237	
P6127	グローバル経済論	Q6205	教養ゼミⅠ（グローバル経済の課題と展望A）	238	水野　和夫
		Q6206	教養ゼミⅡ（グローバル経済の課題と展望B）	238	
P6051	人文地理学セミナー	Q6209	人文地理学セミナーA	235	高木　正
		Q6210	人文地理学セミナーB	235	
P6053	文化人類学方法論	Q6211	文化人類学方法論A	235	中島　成久
		Q6212	文化人類学方法論B	236	
P6129	政治思想	Q6213	政治思想A	236	福田　名津子
		Q6214	政治思想B	236	
P6057	人間行動学	Q6215	人間行動学A	236	海部　紀行
		Q6216	人間行動学B	236	
P6059	人間発達学	Q6217	教養ゼミⅠ（心理的ウェルビーイングを考えるA）	238	浅川　希洋志
		Q6218	教養ゼミⅡ（心理的ウェルビーイングを考えるB）	238	
P6105	総合講座－沖縄を考える－	Q6219	沖縄を考えるA	237	中俣　均
		Q6220	沖縄を考えるB	237	
P6121	グローバル社会の地域研究	Q6221	グローバル社会の地域研究A	237	片岡　義晴
		Q6222	グローバル社会の地域研究B	237	
P6063	自然環境のしくみとその変貌	Q6301	自然環境のしくみとその変貌A	238	加藤　美雄
		Q6302	自然環境のしくみとその変貌B	239	
P6069	コンピュータの裏側	Q6305	計算と言語のしくみ	239	倉田　俊彦
		Q6306	コンピュータと数理の活用	239	
P6071	確率・統計	Q6307	確率の世界A	239	池田　宏一郎
		Q6308	確率の世界B	239	
P6073	集合論	Q6309	集合論A	240	安東　祐希
		Q6310	集合論B	240	
P6077	現代の錬金術	Q6313	現代の錬金術A	240	石川　壮一
		Q6314	現代の錬金術B	240	
P6117	自然史	Q6317	教養ゼミⅠ（自然史）	242	島野　智之
		Q6318	教養ゼミⅡ（自然史）	242	
P6089	バイオイメージングの世界	Q6321	教養ゼミⅠ（バイオイメージング）	242	木原　章
		Q6322	教養ゼミⅡ（バイオイメージング）	243	
P6125	イオンの科学	Q6323	イオンの科学A	240	向井　知大
		Q6324	イオンの科学B	241	
P6095	光と色の科学	Q6325	光と色の科学A	241	中島　弘一
		Q6326	光と色の科学B	241	
P6108	ITリテラシー	Q6329	ITリテラシー	241	児玉　靖司
		Q6330	コンピュータ科学	241	

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納　留美子

授業コード：Q6101　　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

到達目標　1．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

成績評価の方法と基準　＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納　留美子

授業コード：Q6102　　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

到達目標　1．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

成績評価の方法と基準　＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

授業コード：Q6105　　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　文芸創作はこの世界を見る新しい視座を得ることです。この授業では、自分の書きたい世界を明確にし、他者に向けて小説を書くための基礎について学びます。また、文芸批評や合評を通して、自分が書いた小説を精緻でおもしろいものにするための方法を身につけます。

到達目標　(1) 構想を練り、小説を完成することができる。
(2) 文芸作品を冷静に分析することができる。
(3) 他者に的確なアドバイスを行うことができる。

成績評価の方法と基準　グループワークと合評への参加度 (40 %)、学期末までに完成させた小説 (60 %) で総合的に評価します。

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

授業コード：Q6106　　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　興味関心があることについて自由に作った少部数の出版物のことを「ZINE(ジン)」といいます。この授業では読者と興味関心を分かちあう独特の文化を形作っている「ZINE」を実際に作成します。そのことを通して、小さなメディアで文芸創作を行うことの意味について学びます。

到達目標　(1) 詩歌、短編小説、エッセイ、コラム、レビューなどを他者に向けて書くことができる。
(2) グループになって企画編集を行うことができる。
(3) メディアとは何かについて理解できる。

成績評価の方法と基準　グループワークへの参加状況 (50%)、学期末に提出する「ZINE」へのとりくみ (50 %) で総合的に評価します。

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

阿部　真弓

授業コード：Q6107　　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

到達目標　①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

成績評価の方法と基準　発表内容 70 %（①②③）またはレポート 70 %（①②④）、平常点および討論への参加状況 30 %（③）という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によ

ります。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

阿部　真弓

授業コード：Q6108　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。
なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

到達目標 ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

成績評価の方法と基準 発表内容 70 %（①②③）またはレポート 70 %（①②④）、平常点および討論への参加状況 30 %（③）という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷　公宣

授業コード：Q6109　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西洋における舞踊の歴史を概観する。舞踊は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業ではバレエの系譜を辿ることにより、人間がどのようにして身体運動の可能性を追究してきたかを学ぶ。身体と文化・社会との関連性についても考察する。

到達目標 ・西洋における舞踊の歴史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

成績評価の方法と基準 リアクション・ペーパー３０％：　講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
レポート２０％：　鑑賞作品をきちんと批評することができているかを評価。
期末試験５０％：　舞踊（バレエ）の歴史に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷　公宣

授業コード：Q6110　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 様々な文化コンテンツにおける身体表現のあり方を考察する。身体運動は人々の生活に立脚した形態をとる。この授業では、特に１９世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現の事例を概観する。時にバレエのような高度に様式化された身体表現とも対照させつつ、身体表現が生活世界のなかでいかに文化的変容を遂げてきたかを学ぶ。

到達目標 ・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
・身体運動を、生活に立脚した視点から考える認識枠組を身につける。
・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

成績評価の方法と基準 リアクション・ペーパー３０％：　講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
レポート２０％：　特定の作品における身体表現の特徴を、作品のジャンルも踏まえつつ、分析・記述できているかを評価。
試験５０％：人間の生活世界との関わりを踏まえつつ、身体表現の文化的意義を論じることができているかを評価。

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

小澤　慶介

授業コード：Q6111　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） よく知られた近代絵画から 20 世紀への道のりを、19 世紀のフランス美術からはじめ第二次世界大戦後の美術の諸相までを眺めることで学ぶ。

到達目標 19 世紀から 20 世紀中盤までの芸術の歩みを概観しながら、既存の価値体系を疑い更新してゆく芸術の運動について理解を深める。また、欧米から世界に広がっていった芸術のみならず、日本においてそれがどのように受容されていったのかについても目を向ける。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

小澤　慶介

授業コード：Q6112　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 20 世紀中ごろから現代への道のりを、複製技術の到来による芸術と世界の認識方法の変化からはじめ、グローバリゼーションと芸術の関係を考察することで学ぶ

到達目標 20 世紀中ごろから現代までの芸術の歩みを概観しながら、既存の価値体系を疑い更新してゆく芸術の運動について理解を深める。また、絵画や彫刻だけではなく、写真や映像、インスタレーション、関係などの無形なものを扱った芸術など、その多様性とグローバリゼーションの関係について考えを深める。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村　民夫

授業コード：Q6113　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、各々の映画的表現を学ぶ。

到達目標　空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げる。

成績評価の方法と基準　平常点 50 %＋レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村　民夫

授業コード：Q6114　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、映画が都市や自然をどのように表象しているのかを学ぶ。

到達目標　空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拡げる。

成績評価の方法と基準　平常点 50 %＋レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良　隆世

授業コード：Q6115　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　インド初期仏教思想・仏教史
釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。
この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

到達目標　・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされうるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解を試みる。

成績評価の方法と基準　授業内筆記試験の成績（７０%）、授業での発表内容・質疑応答（１５%）、平常点（１５%）
学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、などによる。

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良　隆世

授業コード：Q6116　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　インド初期・部派仏教から大乗仏教への展開：世界観・人生観の変遷
インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乗仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乗仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

到達目標　・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乗仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
・初期・部派仏教から大乗仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
・大乗仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

成績評価の方法と基準　授業内筆記試験の成績（７０%）、授業での発表内容・質疑応答（１５%）、平常点（１５%）
学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによる。

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口　誠一

授業コード：Q6117　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　現代日本文明の課題は、クリエーティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

到達目標　合理主義的行為を再検討し、＜クリエーティブな行為＞を解明できます。

成績評価の方法と基準　学年度末試験を基準として、夏期休暇課題レポートと出席回数も参考とします。

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口　誠一

授業コード：Q6118　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　現代日本文明の課題は、クリエーティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化

の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、クリエーティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

到達目標 合理主義的行為を再検討し、＜クリエーティブな行為＞を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

成績評価の方法と基準 学年度末試験を基準として、夏期休暇課題レポートと出席回数も参考とします。

HIS300LA
中国の民族と文化 A
2017 年度以降入学者

齋藤　勝

授業コード：Q6121　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

到達目標 漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

成績評価の方法と基準 試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

HIS300LA
中国の民族と文化 B
2017 年度以降入学者

齋藤　勝

授業コード：Q6122　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

到達目標 漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

成績評価の方法と基準 試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

HIS300LA
ギリシヤの文化と社会 A
2017 年度以降入学者

中村　純

授業コード：Q6123　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「アルキビアデス・ストーリー（1）」という副題を添えて、民主政の最盛期とされる紀元前 5 世紀のアテネで奔放な生を生き抜いたアルキビアデスという一政治家の生きた軌跡を、ツキディデスの叙述を検討することを通して吟味します。

到達目標 参加型の直接民主政という特徴を持つ古典期アテネの民主政のなかで、もって生まれた自己の資質を余すところなく開花させることを極限まで追求し、そのゆえに毀誉褒貶半ばすることの多かった一人のエリート市民の生涯を辿ることをテーマとし、そのことによって民主政下に生きる一市民としての視野形成に資することを目指します。

成績評価の方法と基準 学期末に課すレポート 70 %、授業参加の積極性 30 %で評価します。
出席が十分でなければ評価の対象としません。

HIS300LA
ギリシヤの文化と社会 B
2017 年度以降入学者

中村　純

授業コード：Q6124　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 民主政の最盛期とされる紀元前 5 世紀のアテネで奔放な生を生き抜いたアルキビアデスという人物は、古典古代の多くの著述家の眼を惹きつけ、そうそうたる著作家たちが彼を語る作品を残しています。ここでは主として、プルタルコスとプラトンの描くアルキビアデス像を検討することを通して、彼の生涯が、なぜこれほど多くの著作家たちの注目を浴びたのかを検討します。

到達目標 「アルキビアデス・ストーリー（2）」という副題を添えて、アルキビアデスという人物が、なぜ多くのすぐれた古典古代の著作家たちの注目を引いたのかを検討することを通して、古典期アテネの文化の特徴の一端を明らかにし、若者が一人の人間として成長するためには教養（パイデイア）を身につけねばならないという考え方が、アルキビアデスに注目が集まる原因の一つであったということの持つ意味をかみしめることを目標とします。

成績評価の方法と基準 学期末に課すレポート 70 %、授業参加の積極性 30 %で評価します。
出席が十分でなければ評価の対象としません。

HIS300LA
古代日本･中国の法と社会 A
2017 年度以降入学者

岡野　浩二

授業コード：Q6125　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代日本の「国家仏教」と中国の「国家仏教」との関係を考える。第一に、日本古代の仏教受容や国家の政策を概観する。それとともに古代の日本・中国の基本的な史料について説明する。第二に、日本と中国それぞれの①僧尼を対象とした法制、②地方の官寺、都城の寺院を講義する。いずれも基本史料を掲載したプリントを配布し、読解・解説していく。第三に、日本中国の仏教政策の類似点と相違点、仏教受容の諸相について考察する。

到達目標 古代日本の仏教は、律令制を基軸とした国家運営のなかに組み込まれ、僧尼の身分や行動、教団や寺院の運営も、国家の政策と無関係に存在しえなかった。そのことを僧尼・寺院に対する法制や、王権の仏教受容を通して理解する。そして、それらの祖型が北魏や隋唐にあったことを認識し、日本・中国の仏教受容の相違点を考察する。理解した内容を受講生が文章で表現できることが到達目標である。

成績評価の方法と基準 ２回の試験によって評価する。

HIS300LA
古代日本･中国の法と社会 B
2017 年度以降入学者

岡野　浩二

授業コード：Q6126　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代日本の「国家仏教」と中国の「国家仏教」との関係を考える。日本と中国それぞれの①国家による僧尼・寺院の膨張規制、②僧尼を養成する授戒の国家管理、③皇帝（天皇）・官人と僧尼との身分秩序を講義する。いずれも基本史料を掲載したプリン

トを配布し、読解・解説していく。そのうえで、日本中国の仏教政策の類似点と相違点、仏教受容の諸相について考察する。

到達目標 古代日本の仏教は、律令制を基軸とした国家運営のなかに組み込まれ、僧尼の身分や行動、教団や寺院の運営も、国家の政策と無関係に存在しえなかった。そのことを僧尼・寺院に対する法制や、王権の仏教受容を通して理解する。そして、それらの祖型が北魏や隋唐にあったことを認識し、日本・中国の仏教受容の相違点を考察する。理解した内容を受講生が文章で表現できることが到達目標である。

成績評価の方法と基準 ２回の試験で評価する。

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A　2017 年度以降入学者

今泉　裕美子

授業コード：Q6127　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本科目名にはサブタイトル「沖縄から学ぶ」がつく。
【目的】沖縄に関心がある本土の人びとは料理や芸能、海やスポーツは大好きだが、沖縄戦や政治や経済は苦手だし関わりたくない、とし興味の対象を「文化・社会」と「政治・経済」に二分する傾向がある。しかしこれらすべてが分かちがたく関係しあって「沖縄」がある。しかも「沖縄問題」というと、基地問題=外交問題とのみ捉え、外交問題だから手が届かない、一地方の問題で関係ない、という見方になりがちだ。一方、沖縄にルーツをもつ学生は、東京から沖縄社会を眺めたり、沖縄県外に生まれ、育っても沖縄の親戚から話を聞いて、改めて「沖縄」を学びたいと考えたり、既述のような本土の人びとの関心に違和感をもちながら、その違和感をどう説明したらよいかに戸惑う様子がある。
　本講義では上記のような、あるいは沖縄をより深く学びたいという受講生を対象に以下の内容を学ぶ。
【概要】現在の沖縄にみる事象や問題を、アジア及び太平洋島嶼との関係、沖縄に生きた／生きる人々や社会を軸に、古琉球、近世琉球を学ぶことを通じて、考察する。

到達目標 現在「沖縄」の独自性として評価されていること、沖縄が抱える問題を、①琉球／沖縄の歴史から、②政治、経済、社会、文化の諸側面から、③アジア及び太平洋島嶼との関係から、理解し、考察する。④日本社会にある沖縄（情報）に関する「思い込み」や「常識」を批判的に検討できる。以上の過程で⑤“わたし”の認識を揺さぶり、立場性を問い直し、認識を再構成すること、最終的には⑥“わたし”の“現在”が、沖縄のどのような“現在”とつながり、未来への道筋をつむぎだしているのか、について自分の考えを持つ。

成績評価の方法と基準 コメントシートと課題への提出物の内容（40%）。セメスター末に行う筆記試験もしくはレポート（何れにするかは後日通知する）（60%）。指示した提出期限、提出先を守らない場合はやむを得ない事情（定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。期末試験が授業内試験となる場合、追試となる条件は定期試験のルールに則る。

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B　2017 年度以降入学者

今泉　裕美子

授業コード：Q6128　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本科目名にはサブタイトル「沖縄から学ぶ」がつく。
【目的】日本政府は 2018 年を「明治 150 年」の節目と位置づけ、内閣官房に推進室を設けて「明治の精神を学び、更に飛躍する国へ」とし、「明治以後の歩みを次世代に遺す」ことに大々的に取り組んでいる。「明治以後の歩み」は沖縄、そしてアジア・太平洋島嶼からみるとどのように描かれ、それを学んだ私たちは次世代として何を引継ぎ、創造できるのだろうか、を課題として【概要】の内容を学ぶ。
【概要】
本講義では、明治国家の成立に続く「琉球処分」、すなわち琉球王国が明治政府によって解体され、沖縄県として併合されてから、沖縄戦を経験し、第二次世界大戦後は米軍の施政下に置かれたのち、沖縄県として日本に「復帰」し、現在に至る過程を学ぶ。その際、沖縄に生きた／生きる人々や社会を軸に、「国際関係」（国家間関係だけではない）特にアジア及び太平洋島嶼との歴史的な関係を踏まえ、これら地域に共時的に現れていること（国民国家における統合と排除、植民地化における同化と文明化、脱植民地化における開発と文化、安全保障、自立／独立と自己決定権、アイデンティティー、ジェンダー、グローバリズムのなかの排外主義、など）として特徴づけ、学ぶ。これらの学びを通じて、日本社会に流布する沖縄（情報）をめぐる「思い込み」や「常識」を批判的に検討する。

到達目標 ①沖縄の近・現代史を、同時代の国際関係の展開のなかで、②アジア及び太平洋島嶼との関係において理解する、③①②を踏まえて日本の近・現代史を問い直す視点と方法を習得し、沖縄という一地域にあらわれた現象、問題を、沖縄独自のものとしてとらえると同時に、現代世界のそれらと密接にかかわる普遍的な現象、問題としても理解し、現代世界を支える重要な主体である受講生がこれらについて自分の考えをもてるようにする。

成績評価の方法と基準 コメントシートと課題への提出物の内容（40%）。セメスター末に行う筆記試験もしくはレポート（何れにするかは後日通知する）（60%）。指示した提出期限、提出先を守らない場合はやむを得ない事情（定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。期末試験が授業内試験となる場合、追試となる条件は定期試験のルールに則る。

GDR300LA

クィア・スタディーズ A　2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

授業コード：Q6131　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、性、身体、欲望の規範的なあり方を問うクィア・スタディーズの基礎的な知識について学び、普段の生活の中で「あたりまえ」のようにして触れているジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々な事象を批判的に分析するための視座を身につけます。各回では、フェミニズムやレズビアン／ゲイ・スタディーズとクィア・スタディーズの繋がりについてまとめ、ヘテロセクシズム、性暴力、オルタナティヴな家族といった重要なトピックを歴史的・社会的な文脈の中で考える力を培います。

到達目標 1、クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
2、普段から何気なく触れている社会現象や表象テクストを批判的に読み解く力を養う。

成績評価の方法と基準 学期末レポート 70 %、コメントペーパー 30 % で総合的に評価します。

GDR300LA

クィア・スタディーズ B　2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

授業コード：Q6132　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期のクィア・スタディーズ A で学んだ内容を復習しながら、映画、ドラマ、マンガ、アニメーション、ボーイズラブ (BL)、2.5 次元ミュージカルなど幅広い領域の表象文化テクストをジェンダーやセクシュアリティと繋いで読み解くための分析方法や理論を学びます。各回では、ジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々なトピックをとりあげ、映像作品を読み解きながら、先行研究や歴史的な展開について概観します。それらと並行して、表象文化を受信したり発信したりするときの倫理について自ら考えることを目指します。

到達目標 1、クィア・スタディーズという視座から表象テクストを批

判的に読み解く力を養う。
2、とりあげたトピックに関する基礎的な知識を身につける。
3、表象をめぐる倫理について理解する。

成績評価の方法と基準 学期末レポート 70 %、コメントペーパー 30 % で総合的に評価します。

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

酒井　健

授業コード：Q6133　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりおさえる。

到達目標 キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。

成績評価の方法と基準 キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。
期末の論述試験 50%と授業への積極的な貢献度 50%（毎回論述する課題の内容等）によって評価する。・

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

酒井　健

授業コード：Q6134　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりおさえる。

到達目標 キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。

成績評価の方法と基準 中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。
学期末の論述試験 50%と平素の授業態度（毎回提出の論述の内容など）が具体的なデータになる。

LAN300LA

異文化コミュニケーション論 A

2017 年度以降入学者

山本　そのこ

授業コード：Q6137　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。
　この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

到達目標 ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

成績評価の方法と基準 授業参加度 30 %
発　　表　30 %
期末試験　40 %

LAN300LA

異文化コミュニケーション論 B

2017 年度以降入学者

山本　そのこ

授業コード：Q6138　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化してもいる。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。
　この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

到達目標 ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
②」異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

成績評価の方法と基準 授業参加度 30 %
発　　表　30 %
期末試験　40 %

LIT300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**文芸創作の実践 A**

藤村　耕治

授業コード：Q6103　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。
　特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

到達目標 小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティヴ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。
　他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

成績評価の方法と基準 作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課すレポート（自分以外の受講生の作品［三作以上］

への批評文）20 %。

LIT300LA

教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**文芸創作の実践 B**

藤村　耕治

授業コード：Q6104 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

到達目標 小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

成績評価の方法と基準 作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品［三作以上］への批評文）30 %。

PHL300LA

教養ゼミⅠ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**現代思想 A（柄谷行人『世界史の構造』を読む・1）**

森村　修

授業コード：Q6119 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、2018 年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想A」という名のもとに新たに始まる科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」「現代思想B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテキストを読んでいく。

特に、2018 年度は、現代日本を代表する批評家・思想家である柄谷行人（1941-）の重要テキストのひとつ『世界史の構造』（岩波現代文庫、2015 年）を取り上げる。

75 歳を過ぎても、彼の思考は衰えず、彼の思想は 21 世紀の日本の現代思想においてだけでなく、世界的にも評価されている。それゆえ、現代思想を語るうえで、彼の思想を無視することはできない。しかも忘れてはならないのは、1970 年代〜 90 年代後半まで、法政大学の教壇に立ち、様々な著作活動も続けていた事実である。

本授業では、彼のテキストを丹念に解読することによって、彼の思想をどのように批判的に継承していくかを考えていく。また、各自一人ひとりが思想家となりうる契機を見いだすことをひとつの目標としている。《本授業の目的》

柄谷行人の思想テキストを学ぶことで、現代日本の思想が、「日本学」という狭い専門性や、東洋趣味・日本趣味としての「オリエンタリズム」（E. サイード）に毒されずに、どこまで世界レベルに到達しているかについて、ひとつの里程標として理解することを目的とする。

到達目標 （1）柄谷行人の思想・哲学について説明することができる。
（2）日本の哲学について説明することができる。
（3）日本と西洋との思考の違いについて、比較することができる。
（4）自らの思想を鍛錬することができる。

成績評価の方法と基準 （1）平常点（50 %）（質問を 3 点以上用意する）
（2）期末レポート（50 %）

PHL300LA

教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**現代思想 B（柄谷行人『世界史の構造』を読む・2）**

森村　修

授業コード：Q6120 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、2018 年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想B」という名のもとに、新たに始まる科目である。本授業は、春学期「現代思想B」との連続性を重視している。本授業は秋学期「教養ゼミⅠ」「現代思想A」と同一科目であり、通年でひとつのテキストを読んでいく。

特に、「現代思想A」と同様に、2018 年度は、現代日本を代表する批評家・思想家である柄谷行人（1941-）の重要テキストのひとつ『世界史の構造』（岩波現代文庫、2015 年）を取り上げる。

75 歳を過ぎても、柄谷の思考は衰えず、彼の思想は 21 世紀の日本の現代思想においてだけでなく、世界的にも評価されている。その意味で、現代思想を語るうえで、彼の思想を無視することはできない。しかも忘れてはならないのは、1970 年代〜 90 年代後半まで、法政大学の教壇に立ち、様々な著作活動も続けていた事実である。

本授業では、彼のテキストを丹念に解読することによって、彼の思想をどのように批判的に継承していくかを考えていく。また、各自一人ひとりが思想家となりうる契機を見いだすことをひとつの目標としている。《本授業の目的》

柄谷行人の思想テキストを学ぶことで、現代日本の思想が、「日本学」という狭い専門性や、東洋趣味・日本趣味としての「オリエンタリズム」（E. サイード）に毒されずに、どこまで世界レベルに到達しているかについて、ひとつの里程標として理解することを目的とする。

到達目標 （1）柄谷行人の思想・哲学について説明することができる。
（2）日本の哲学について説明することができる。
（3）日本と西洋との思考の違いについて、比較することができる。
（4）自らの思想を鍛錬することができる。

成績評価の方法と基準 （1）平常点（50 %）（質問を 3 点以上用意する）
（2）期末レポート（50 %）

HIS300LA

教養ゼミⅠ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**在日朝鮮人の歴史 A**

神谷　丹路

授業コード：Q6129 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

到達目標 文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

成績評価の方法と基準 討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

HIS300LA

教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**在日朝鮮人の歴史Ｂ**

神谷　丹路

授業コード：Q6130 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史Ａ」を履修していることが望ましい。

到達目標 文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

成績評価の方法と基準 討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

ARSh300LA

教養ゼミⅠ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アラブの言語と文化 A**

江村　裕文

授業コード：Q6135 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、アフロアジア世界で１億人以上の話し手により使用されており、また国連の６番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

到達目標 １年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に着けてもらいたいと希望します。
文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。辞書が引けるようになること、これが目標です。

成績評価の方法と基準 春学期は、平常点４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価します。

ARSh300LA

教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アラブの言語と文化 B**

江村　裕文

授業コード：Q6136 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、アフロアジア世界で１億人以上の話し手により使用されており、また国連の６番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

到達目標 １年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に着けてもらいたいと希望します。
文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。辞書が引けるようになること、これが目標です。

成績評価の方法と基準 秋学期は、平常点４０点、レポートの得点６０点、合計１００点で評価します。

ARSh300LA

教養ゼミⅠ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アフロアジア入門**

江村　裕文

授業コード：Q6139 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、東アフリカ特にケニアやタンザニアの公用語「スワヒリ語」にチャレンジしてもらいます。

到達目標 １年間で基礎的なスワヒリ語の知識をマスターし、辞書を引きながら、文学・新聞など読みたいものが読める力をつけてもらうのが目標です。

成績評価の方法と基準 春学期は、出席４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価します。

ARSh300LA

教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アフロアジア入門**

江村　裕文

授業コード：Q6140 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、東アフリカ特にケニアやタンザニアの公用語「スワヒリ語」にチャレンジしてもらいます。

到達目標 １年間で基礎的なスワヒリ語の知識をマスターし、辞書を引きながら、文学・新聞など読みたいものが読める力をつけてもらうのが目標です。

成績評価の方法と基準 秋学期は、平常点４０点、レポートのの得点６０点、合計１００点で評価します。

LAW300LA

法哲学 A 2017 年度以降入学者

内藤　淳

授業コード：Q6201 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。
具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。
秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。履修人数は 25 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

到達目標 ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に

対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

成績評価の方法と基準 授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

LAW300LA

法哲学 B

2017 年度以降入学者

内藤　淳

授業コード：Q6202　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。
春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行うので、履修希望者は、春学期初回の授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

到達目標 ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

成績評価の方法と基準 授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

SOC300LA

福祉社会論 B

2017 年度以降入学者

菅野　摂子

授業コード：Q6208　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題を取り上げつつ、主に講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーを作成する。提出されたリアクションペーパーは、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

成績評価の方法と基準 期末テスト 70%、平常点 30%

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

高木　正

授業コード：Q6209　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在の世界情勢を理解する重要な切り口である「グローバリゼーション」をテーマに学習していきます。そこで基本文献をテキストとして輪読し、グローバリゼーションの歴史や様々な視点を、人文地理学の立場からアプローチしていきます。そのうえで各自が興味関心を抱くテーマを選び、資料研究の成果を発表することで問題関心を深めていきます。

到達目標 現代世界を地理的に理解する視点＝世界観を養い、様々なテーマについて自分なりの定見を持つようにします。

成績評価の方法と基準 出席、発表内容、レポートの内容で評価します。

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

高木　正

授業コード：Q6210　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「南北問題」は「グローバリゼーション」とともに現在の世界情勢を理解する重要な切り口です。そこで基本文献をテキストとして輪読し、世界システム、先進諸国と発展途上諸国との関係、環境問題、民族分紛争などといったテーマに対し、人文地理学的な視点からアプローチしていきます。そのうえで各自が興味関心を抱くテーマを選び、資料研究の成果を発表・提出することで問題関心を深めていきます。

到達目標 現代世界を地理的に理解する視点＝世界観を養い、様々なテーマについて自分なりの定見を持つようにします。

成績評価の方法と基準 出席、発表内容、レポートの内容で評価します。

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

中島　成久

授業コード：Q6211　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「アジアのアグリビジネス研究」というテーマで授業を行う。アブラヤシ、コーヒーと茶、チョコレートを中心としたアグリビジネスについて詳細に検討する。

到達目標 ①アグリビジネスの世界支配の実態を理解する
②マレーシア、インドネシアのアブラヤシ開発の実態を理解する
③アグリビジネスにおける労働者の位置を理解する

成績評価の方法と基準 平常点（６０%）と学期末レポート（４０%）

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

中島　成久

授業コード：Q6212　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「アジアにおける国家と民族」というテーマで授業を行う。熱帯林の資源管理と紛争という観点から関連文献を読み、理解を深める。

到達目標 1　アジア、特に東南アジアにおける開発主義について理解する
2　開発主義により熱帯林が破壊されている状況を理解する
3　熱帯林の資源管理の実態について理解する
4　熱帯林をめぐる紛争の現実を理解する

成績評価の方法と基準 平常点（７０％）＋期末レポート（３０％）

POL300LA

政治思想 A

2017 年度以降入学者

福田　名津子

授業コード：Q6213　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では「教科書」に挙げる文献を輪読する。『ポピュリズムとは何か』ではポピュリズムを理論と時事の両面から理解し、民主主義とポピュリズムの関係性を問う。『十字軍の思想』では十字軍の歴史を通じ、宗教と暴力の関係性を問う。両文献に直接の結びつきはないが、宗教と大衆政治はともに現代政治を理解する鍵であり、社会の見方に大きく関わる主題である。これらの主題を歴史的・体系的に理解することで「社会を見る眼」を養う。

到達目標 文献をクリティカルに読む力をつける。
報告や議論の仕方など、アカデミック・スキルを向上させる。

成績評価の方法と基準 報告・議論に基づく。

POL300LA

政治思想 B

2017 年度以降入学者

福田　名津子

授業コード：Q6214　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では「教科書」に挙げる古典文献を輪読する。スミス『法学講義』では第 2 部「生活行政 Police」を扱い、彼の自然法学体系の後半部分を学ぶ。その際には適宜『国富論』と対照する。ルソー『人間不平等起源論』では彼の自然状態論と社会契約説の萌芽を理解する。両文献に直接の結びつきはないが、ともに 18 世紀啓蒙思想を代表する作品である。こうした古典を丁寧に読むことで、一般書以上の教養を得る。

到達目標 古典文献をできるだけ正確な文脈で読む力をつける。
報告や議論の仕方など、アカデミック・スキルを向上させる。

成績評価の方法と基準 報告・議論に基づく。

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

海部　紀行

授業コード：Q6215　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び，リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで，より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし，総合科目の「人間行動学」では，「行動」として表現される「心」を考えます。

到達目標 心理学の領域は広くも深くも展開可能です。心の操作（マインドコントロール）や洗脳まがいのことに使われる反面，ストレスへの対処や強いメンタル，ポジティブな生き方のためにも活用できます。
「心の性」や「心の病」とは何か，家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か，AI（人工知能）やロボット，サイボーグ，アンドロイド，あるいはクローン等々と比べることで，ヒトの心もしくは命の意味が分かるのか，さて，「心」とは何か，「心」はどこにあるのか，改めて考えることが目標です。
その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度，との立場で，相互に対話・議論を積み上げて検討し，参加者各々が感じ思い考え，それぞれが，そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

成績評価の方法と基準 平常点（100 %）：報告・発表とともに，（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

海部　紀行

授業コード：Q6216　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び，リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで，より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし，総合科目の「人間行動学」では，「行動」として表現される「心」を考えます。

到達目標 心理学の領域は広くも深くも展開可能です。心の操作（マインドコントロール）や洗脳まがいのことに使われる反面，ストレスへの対処や強いメンタル，ポジティブな生き方のためにも活用できます。
「心の性」や「心の病」とは何か，家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か，AI（人工知能）やロボット，サイボーグ，アンドロイド，あるいはクローン等々と比べることで，ヒトの心もしくは命の意味が分かるのか，さて，「心」とは何か，「心」はどこにあるのか，改めて考えることが目標です。
その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度，との立場で，相互に対話・議論を積み上げて検討し，参加者各々が感じ思い考え，それぞれが，そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

成績評価の方法と基準 平常点（100 %）：報告・発表とともに，（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

中俣　均

授業コード：Q6219　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を，日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならない。だから、沖縄を知ることは、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域に含めて、考察する。

到達目標 毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

成績評価の方法と基準 学期末レポート（90 %）と、毎回のミニ・レポート（10 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて、自分のアタマで考え自分の手で書いたものを高く評価する。

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

中俣　均

授業コード：Q6220　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を，日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならない。だから、沖縄を知ることは、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域に含めて、考察する。

到達目標 毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

成績評価の方法と基準 学期末レポート（90 %）と、毎回のミニ・レポート（10 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて、自分のアタマで考え自分の手で書いたものを高く評価する。

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 A

2017 年度以降入学者

片岡　義晴

授業コード：Q6221　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「グローバリゼーション」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。わかっているようで、内容不明な用語です。一見「明らか」であるように見えながら、実は「明確」でない「グローバリゼーション」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思います。

到達目標 「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとすることによって、現代の地域社会、現代世界のトータルな理解を深めていきます。

成績評価の方法と基準 授業中の発表、議論、まとめ等、総合的に判断します。平常点は評価基準の重要な部分です。

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 B

2017 年度以降入学者

片岡　義晴

授業コード：Q6222　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「グローバリゼーション」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。わかっているようで、内容不明な用語です。一見「明らか」であるように見えながら、実は「明確」でない「グローバリゼーション」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思います。

到達目標 「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとすることによって、現代の地域社会、現代世界のトータルな理解を深めていきます。

成績評価の方法と基準 授業中の発表、議論、まとめ等、総合的に判断します。平常点は評価基準の重要な部分です。

POL300LA

教養ゼミ Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**囲碁で培う戦略的思考**

坂根　徹

授業コード：Q6203　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本棋院の協力も得て、囲碁のルールや基本的戦略等を学び、（模範的な碁を並べ途中から打つ）決め打ち碁で布石の考え方を身に着けていく。囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に着けることを目的とする。

到達目標 囲碁のルールや基本的戦略等を理解し、6 路盤から 9 路盤を経て 19 路盤による決め打ち碁による対局ができるようになることと、それらを通して、戦略的な思考力を身に着けること、また、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することなどが、到達目標となる。

成績評価の方法と基準 平常点（50%）と授業内試験（50%）.

POL300LA

教養ゼミ Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**囲碁で培う戦略的思考**

坂根　徹

授業コード：Q6204　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教養ゼミⅠに続き、日本棋院の協力も得て、主に（模範的な碁を並べ途中から打つ）決め打ち碁を 19 路盤で学習・実践していくこと等を通して、布石の考え方や囲碁の基本的戦略等への理解を深めていく。囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に着けることが本ゼミの主な目的である。

到達目標 教養ゼミⅠで囲碁のルールを理解していることを前提として、19 路盤による決め打ち碁による対局を重ねることにより、囲碁の基本的戦略等への理解を深めることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に着けることが、到達目標となる。

成績評価の方法と基準 平常点（50%）と授業内試験（50%）.

ECN300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**グローバル経済の課題と展望A**

水野　和夫

授業コード：Q6205　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　グローバリゼーションは経済、政治、社会、文化など多方面に大きな影響を与えてきたが、この授業では主として、経済と政治に焦点をあてて、その是非を考える力を身につけることができる。さらに、21 世紀はいかなる時代か、を考えるヒントを学ぶことができる。

少人数の演習形式の授業を通じて、各個人（ないし各グループ）が 3 回程度のプレゼンテーションを行うことで自ら考える力を高めることを目的とする。

到達目標　春学期の具体的な到達目標は、次の 3 つ。
①グローバリゼーション論争（グローバリゼーションは近代の現象か、ポスト近代を招来させるか）
②グローバリゼーションが経済に与えた影響
③ 21 世紀の中心領域は何か、
について自ら考えて、自分の意見が言えるようになる。

成績評価の方法と基準　受講態度 40 %＋プレゼン内容 60 %

ECN300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**グローバル経済の課題と展望B**

水野　和夫

授業コード：Q6206　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　グローバリゼーションは経済、政治、社会、文化など多方面に大きな影響を与えてきたが、この授業では主として、経済と政治に焦点をあてて、その是非を考える力を身につけることができる。さらに、21 世紀はいかなる時代か、を考えるヒントを学ぶことができる。

少人数の演習形式の授業を通じて、各個人（ないし各グループ）が 3 回程度のプレゼンテーションを行うことで自ら考える力を高めることを目的とする。

到達目標　秋学期の具体的な到達目標は、次の 3 つ。
①米国や EU を非公式の帝国とみなすべきか否か
②米国の「金融帝国」化に対して日本はいかに対処すべきか
③ 21 世紀は近代システムが続くのか、あるいはそれにとって代わるシステムがあるのか
について自らの意見を述べることができるようになる。

成績評価の方法と基準　受講態度 40 %＋プレゼン内容 60 %

PSY300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**心理的ウェルビーイングを考える A**

浅川　希洋志

授業コード：Q6217　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学（カウンセリング）に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考えていく。

到達目標　臨床心理学（カウンセリング）の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけてもらいたいと考えている。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミ II「心理的ウェルビーイングを考える B」を連続履修することを期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

成績評価の方法と基準　下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）＋　期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は 2,000 字以上、発表しなかった学生は 3,500 字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

PSY300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**心理的ウェルビーイングを考える B**

浅川　希洋志

授業コード：Q6218　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、文化心理学、ポジティブ心理学の文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考えていく。

到達目標　文化心理学、ポジティブ心理学の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけてもらいたいと考えている。特に、文化心理学の観点からは心の働きと文化の関係について学んでいく。また、ポジティブ心理学の分野で注目されるフロー理論、ポジティブ感情の拡張―形成理論を紹介しながら、人間の最適な発達、精神的健康、充実した人生といったことにも焦点を当てていきたい。

本授業がめざす目標を深化させるために、教養ゼミ I「心理的ウェルビーイングを考える A」からの連続履修を期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

成績評価の方法と基準　下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）＋　期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は 2,000 字以上、発表しなかった学生は 3,500 字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌A

2017 年度以降入学者

加藤　美雄

授業コード：Q6301　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

到達目標　・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
・自然環境の変化による異常気象を把握する。

・自然環境変化の予測を考察する。
・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

成績評価の方法と基準 試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。
・平常点：３０％
・小テスト・課題論文・作図：７０％

ENV300LA
自然環境のしくみとその変貌Ｂ
2017 年度以降入学者

加藤　美雄

授業コード：Q6302 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

到達目標 ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
・地球温暖化の予測を考察する。
・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

成績評価の方法と基準 評価の配分は以下の通りである。
・平常点：３０％
・小テスト・作図：２０％
・レポート：５０％

MAT300LA
計算と言語のしくみ
2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

授業コード：Q6305 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで，コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され，我々の生活に深く関わっている．その一方で，多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり，その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない．
こうした背景を踏まえて，魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て，「コンピュータの箱の中がどのようになっているか？」「そうした機械的な仕組の上で，人間の形式言語で書かれた命令が問題なく動作するのは何故か？」など解説する．

到達目標 本講義では「コンピュータの装置とその上で言語が処理される仕組の本質を大雑把に理解すること」を大きな目標としている．（例えば，電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時，皆さんは直ちに説明できるでしょうか？）処理系の違いに依存しない普遍的な動作原理を理解することは，コンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる．

成績評価の方法と基準 平常点 (10%)，練習問題 (30%)，計算機実習 (30%)，試験 (30%)

MAT300LA
コンピュータと数理の活用
2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

授業コード：Q6306 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが，それらを実際に活用する段階になると手間がかかるので小さな演習問題で済まされることが多い．（例えば，平均値を計算する方法自体は分かっていても，1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない．）その一方で，身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり，大きな問題こそ答を知りたい現状がある．
こうしたジレンマに対して，コンピュータによって人間の計算力を補い，実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要であり，講義では，様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている．

到達目標 講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず，あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて，コンピュータと数理の活用の勘を養うこと」を目標としている．そのため，各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて，利用するシステムも様々なものがある．（このことは，1 つの課題が理解できなくても，次の課題に影響を与えることが少ないという利点もある．）

成績評価の方法と基準 平常点 (10%)，実験（60%），試験 (30%)

MAT300LA
確率の世界Ａ
2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

授業コード：Q6307 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

到達目標 春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し，代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT300LA
確率の世界Ｂ
2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

授業コード：Q6308 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶに

は、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

到達目標　秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学ぶ。現在、高校では統計をまったくやらないか、その‘さわり’を教えるぐらいである。この授業ではもう少し本格的な統計を扱いたい。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

成績評価の方法と基準　期末試験

MAT300LA
集合論Ａ
2017 年度以降入学者

安東　祐希

授業コード：Q6309　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を理解する。

到達目標　次のような疑問に対して答えることができる。
・無限集合が持つ、有限集合とは異なる性質とは？
・無限にも大小はあるか。１個、２個、…の先は？
具体例を一つ以下に挙げよう。
〜〜〜
普通のサッカーは１チーム 11 人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手のいる２つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号１、２、３、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号２、４、６、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分の番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤２が白１、赤４が白２という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

成績評価の方法と基準　到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

MAT300LA
集合論Ｂ
2017 年度以降入学者

安東　祐希

授業コード：Q6310　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を理解する。

到達目標　次のような疑問に対して答えることができる。
・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？
・無限の物を並べられるか。１番、２番、…の先は？
具体例を一つ以下に挙げよう。
〜〜〜
長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一列に並べるとき、並べ方は全部で６通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、６通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数ｎに対してｎ男のｎ郎がいるような無限の兄弟で行うとどういうことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが。では、もっと長い構成とするには、どうすればよいか。

成績評価の方法と基準　到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

PHY300LA
現代の錬金術Ａ
2017 年度以降入学者

石川　壮一

授業コード：Q6313　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　我々を魅了する物質である処の"金"を作り出そうと試みられた錬金術は、結果的には失敗の歴史なのであるが、その後の原子論の発展へと続き、現代物理学による物質の究極的な構成要素の理解につながった。
学生は、物質の究極的な構成要素は何なのか？ という問いに対する現代的な答えについて学ぶ。

到達目標　・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解をするための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

成績評価の方法と基準　レポートと期末試験（配分は計約 8 割）、平常点（約 2 割）で評価を行う。

PHY300LA
現代の錬金術Ｂ
2017 年度以降入学者

石川　壮一

授業コード：Q6314　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　我々を魅了する物質である処の"金"を作り出そうと試みられた錬金術は、結果的には失敗の歴史なのであるが、その後の原子論の発展へと続き、現代物理学による物質の究極的な構成要素の理解につながった。
学生は、物質の究極的な構成要素の理解と、それが元素の歴史、宇宙の歴史といった現代物理学の最先端のテーマと関連していることを学ぶ。

到達目標　・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解をするための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

成績評価の方法と基準　レポートと期末試験（配分は計約 8 割）、平常点（約 2 割）で評価を行う。

CHM300LA
イオンの科学Ａ
2017 年度以降入学者

向井　知大

授業コード：Q6323　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

到達目標　イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品に

ついてより深い興味を引き出すことを目標とします。

成績評価の方法と基準 実験回に課すレポートの内容で評価します。(配分 100%)

CHM300LA

イオンの科学Ｂ

2017 年度以降入学者

向井　知大

授業コード：Q6324　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

到達目標 イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

成績評価の方法と基準 実験回に課すレポートの内容で評価します。(配分 100%)

CHM300LA

光と色の科学Ａ

2017 年度以降入学者

中島　弘一

授業コード：Q6325　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？宝石の色は何に由来するのでしょう？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

到達目標 人間の目がどうやって色を認識するのかが理解できます。
ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。
自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

成績評価の方法と基準 毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

CHM300LA

光と色の科学Ｂ

2017 年度以降入学者

中島　弘一

授業コード：Q6326　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？宝石の色は何に由来するのでしょう？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

到達目標 人間の目がどうやって色を認識するのかが理解できます。
ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。
自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

成績評価の方法と基準 毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

PRI300LA

ＩＴリテラシー

2017 年度以降入学者

児玉　靖司

授業コード：Q6329　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

到達目標 講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

成績評価の方法と基準 春学期期末試験（レポート）と平常点において合計が 60%、出席点が 40%で評価する。

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉　靖司

授業コード：Q6330　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

到達目標 講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

成績評価の方法と基準 秋学期期末試験と平常点の合計が 60%、出席点が 40%で評価する。

BIO300LA

人間と地球環境

2017 年度以降入学者

BIO300LA

人間と地球環境

2016 年度以前入学者

宇野　真介

授業コード：Q6335　2017 年度以降入学者
授業コード：P6123　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在、私たちは「危機の時代」を生きていると言われています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎だけでなく、社会的要素も含め、広い視野から学習していきます。

到達目標 本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題の全体像を把握すること。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝４０％、授業参加（授業内活動や映画鑑賞の感想共有など）＝２０％、期末レポート＝４０％を基本とします。A+ = ９０％以上　A = ８０〜８９％　B = ７０〜７９％　C = ６０〜６９％　D（不合格） = ５９％以下。

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment

2017 年度以降入学者

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment

2016 年度以前入学者

宇野　真介

授業コード：Q6336　2017 年度以降入学者
授業コード：P6124　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） Human society is faced with not only various environmental problems but also equally important social problems. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of the environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

到達目標 Although this course is taught in an English language environment, "teaching English" is NOT its primary objective. This course is designed to teach about ecological and social issues using the English language. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasps the big picture of the current state of human society. Then, as a fourth objective, students should be able to express their thoughts about the course material in English both in writing and speech.

成績評価の方法と基準 Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (30 %), and writing assignments (30 %). A+ = 90 % and above; A = 80 to 89 %; B = 70 to 79 %; C = 60 to 69 %; D (fail) = 59 % and below.

BIO300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**自然史**

島野　智之

授業コード：Q6317　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ，とびきりの自然に触れ，実際に様々な調査，実習を通して，自然と私達の関係を見つめ直す．生物としての人間の生活も考える．地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か．生命とは何か。自然と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついている．現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える．

到達目標 命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

成績評価の方法と基準 毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**自然史**

島野　智之

授業コード：Q6318　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ，とびきりの自然に触れ，実際に様々な調査，実習を通して，自然と私達の関係を見つめ直す．生物としての人間の生活も考える．地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か．生命とは何か。自然と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついている．現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える．

到達目標 命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

成績評価の方法と基準 毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

BIO300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**バイオイメージング**

木原　章

授業コード：Q6321　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、生き物のしくみを実際に生き物を使って実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を１から学びます。そのために使う生き物は、粘菌・ソバ・プラナリア・テントウムシ・ダンゴムシ・アリ等です。基礎知識は必要ありませ

んが、これらの生き物の名前を聞いただけで萎縮するようなタイプの方はご遠慮下さい。作業は全て班単位で行いますので、グループとしての問題解決法を学んで頂けます。

到達目標 １．基本操作技術の修得（デジカメを用いた、マクロ撮影法、インターバル撮影法、高速撮影法、スタジオ作製法、画像解析法など）
２．規定課題（ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔、プラナリアの再生　など）を通じた問題解決手順の修得
３．ノートの取り方の修得（授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます。）

成績評価の方法と基準 出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。
成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。単なる板書の写しを提出されても成績に加算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。
なお、ルーズリーフのノートは認めません。

BIO300LA
教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**バイオイメージング**

木原　章

授業コード：Q6322 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、教養ゼミⅠ「バイオイメージング」で学んだ知識を元に、生き物のしくみを実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を学びます。教養ゼミⅠ「バイオイメージング」を履修していないと授業に参加できませんので、注意して下さい。
　本授業では、班ごとに独自のテーマを設定して、その問題を解決するための計画立案、実験観察、データ解析、結果発表までの全ての研究過程を体験し学んで頂きます。
【これまでの実績】
メダカの体色変化の観察、ダンゴムシの交替性転向反応、様々な液体による植物の発芽、夜行性のダンゴムシ、光・温度がプラナリアに及ぼす影響及び刺激に対する反応、プラナリアの成長　＜奇形プラナリアの作成＞、プラナリアの行動解析、アリとダンゴムシの歩行から見る規則性について、植物の根はどのように伸びるのか、ダンゴムシの　壁認識実験、光の色による光屈性の有無 等

到達目標 生き物の不思議を、体験的に学ぶと同時に、以下の能力を取得することを目標とします。
１．実験の計画立案とその企画書の作成能力
２．計画実施能力
３．完遂力
４．プレゼン・発表力

成績評価の方法と基準 出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。
成績は、授業内の活動と、最後に作成したポスターを採点します。

LANe300LA
教養ゼミⅠ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

ジェームス・ラセガード

授業コード：Q6401 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

到達目標 This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

成績評価の方法と基準 Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 30%
Midterm essay and Final report: 60%
Presentation: 10%

LANe300LA
教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

ジェームス・ラセガード

授業コード：Q6402 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

到達目標 This intermediate to advanced English (Level 4) course examines various current issues related to modern Japanese society. Students will learn to give their own opinion in English, discuss various topics, and argue a point using different perspectives.

成績評価の方法と基準 Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 30%
Midterm and Final Papers: 60%
Presentation: 10%

LANd300LA
第三外国語としてのドイツ語Ａ 2017 年度以降入学者

LANd200LA
ドイツ語初級Ⅰ 2016 年度以前入学者

笠原　賢介

授業コード：Q6421 2017 年度以降入学者
授業コード：P6601 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。
ドイツ語を選択し、履修している学生、すでに選択履修をした学生は受講できません。
発音の基礎から始め、ドイツ語の文法と表現の基本を学びます。

到達目標 初級ドイツ語としての必要な文法事項を習得し、また、ドイツ語の表現を身につける。
次の段階のドイツ語に取り組めるドイツ語の基礎と表現力の養成をめざす。

成績評価の方法と基準 授業への出席と参加を重視します。
学期の終わりにまとめの試験をします。

平常点、課題への取り組み 60 %。
まとめの試験 40 %。

LANd300LA
第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者
LANd200LA
ドイツ語初級 Ⅱ 2016 年度以前入学者

笠原　賢介

授業コード：Q6422 2017 年度以降入学者
授業コード：P6602 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。春学期に学んだことを基礎にして、後半の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の基本と表現を身につけます。

到達目標 春学期に学んだことを確実に理解し、ドイツ語の基本的な文法の全体像の習得を目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席と参加を重視します。
学期の終わりにまとめの試験をします。
平常点、課題への取り組み 60 %。
まとめの試験 40 %。

LANd300LA
ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者
LANd300LA
ドイツ語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ 2016 年度以前入学者

ウテ・シュミット

授業コード：Q6423 2017 年度以降入学者
授業コード：P6603 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語を積極的に使えるように。

到達目標 この授業では特に話す能力とリスニングの力を伸ばすことによってドイツ語のコミュニケーション能力を総合的にステップアップします。これまでに学習した文法の応用と、新たに学ぶ表現や単語を会話で実践的に運用できるようにすることを目指しています。

成績評価の方法と基準 総合的に評価：
授業の積極的な参加（発言）（30 %）
提出した宿題（30 %）
プレゼンテーション（４ 0 %）

LANd300LA
ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者
LANd300LA
ドイツ語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅣ 2016 年度以前入学者

ウテ・シュミット

授業コード：Q6424 2017 年度以降入学者
授業コード：P6604 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語を積極的に使えるように。
ドイツ語圏の生活や文化を身近に感じてもらうコースです。

到達目標 この授業では特に話す能力とリスニングの力を伸ばすことによってドイツ語のコミュニケーション能力を総合的にステップアップすることが目標です。これまでに学習した文法の応用と、新たに学ぶ表現や単語を会話で実践的に運用できるようにすることを目指しています。

成績評価の方法と基準 総合的に評価：
授業の積極的な参加（発言）（40 %）
提出した宿題（30 %）
プレゼンテーション（30 %）

LIT300LA
ドイツ語圏の文学 A 2017 年度以降入学者
LIT300LA
ドイツの文学 Ⅰ 2016 年度以前入学者

遠藤　浩介

授業コード：Q6429 2017 年度以降入学者
授業コード：P6655 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 18 世紀の後半のドイツでは、市民社会の勃興や理性・古典中心の文学観に対する反発を背景として、新しいドイツ文学の流れが起きました。その特徴は、その担い手がおもに若者であり、また感情の発露を重視する点にあります。この授業では、18 世紀終わりから 1800 年頃の作品を読み、その作品の特徴と時代的背景を探ります。

到達目標 （1）文学作品を分析・解釈する方法を学ぶ。
（2）作品が成立した時代的・文化的背景についての知識を得る。

成績評価の方法と基準 平常点（発表および議論）： 50 %
レポート： 50 %

LIT300LA
ドイツ語圏の文学 B 2017 年度以降入学者
LIT300LA
ドイツの文学 Ⅱ 2016 年度以前入学者

遠藤　浩介

授業コード：Q6430 2017 年度以降入学者
授業コード：P6656 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1990 年代のドイツ（語）文学の特徴はその多様性にあります。東ドイツが崩壊し、統一ドイツが生まれると、東ドイツ出身の作家によって東ドイツ時代を（批判的に）取り上げた作品が生まれました。またナチズムの克服は戦後西ドイツの重要なテーマで

したが、第二次世界大戦から50年余りがたち、ナチズムの記憶があらためて重要なテーマとなります。グローバル化の進展とともにドイツ語で書く外国人作家も増え、もはやドイツ文学は「ドイツ人の文学」ではなく「ドイツ語で書かれた文学」と理解すべき状態になります。この授業では、おもに1990年代に書かれたドイツ（語）文学作品を読んでいき、現代ドイツ文学の多様性とその社会的背景について考えていきます。

到達目標 （1）文学作品を分析・解釈する方法を学ぶ。
（2）作品が成立した時代的・文化的背景についての知識を得る。

成績評価の方法と基準 平常点（発表および議論）：50％
レポート：50％

ART300LA

ドイツ語圏の芸術A　2017年度以降入学者

ART300LA

ドイツの芸術Ⅰ　2016年度以前入学者

林　志津江

授業コード：Q6433　2017年度以降入学者
授業コード：P6675　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、あなたには何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術ってどういうことなんでしょう？　というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？
18世紀から19世紀にかけて、中部ヨーロッパ（当時のドイツ、オーストリアとその周辺）には、「ドイツっぽい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。しかもこの動きは、世紀末から20世紀にかけて見事にひっくり返ってしまいます。この授業では、秋学期開講の「ドイツ語圏の芸術B」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされうるもののさまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

到達目標 第一の目標は、近代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、思想と芸術に関わるドイツ語概念の知識を習得するとともに、芸術に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。芸術＝天才、エキセントリックなもの、という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。
二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。
そして最後の目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象とその抵抗を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならでは〜」という言い方もあやしいものかもしれません。「当たり前」を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

成績評価の方法と基準 授業への参加（25%）、リアクションペーパー（25%）、レポート（50%）

ART300LA

ドイツ語圏の芸術B　2017年度以降入学者

ART300LA

ドイツの芸術Ⅱ　2016年度以前入学者

林　志津江

授業コード：Q6434　2017年度以降入学者
授業コード：P6676　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、あなたには何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術ってどんな感じなんでしょうね？　というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？
20世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術家たちがいかに歴史に翻弄され、またそれに抗おうとしたのか？　この授業では、春学期開講の「ドイツ語圏の芸術A」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされうるもののさまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

到達目標 第一の目標は、近現代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、思想と芸術に関わるドイツ語概念の知識を習得するとともに、芸術への知的なアプローチの仕方を学ぶことです。
二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。
そして最後の目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象とその抵抗を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならでは〜」という言い方もあやしいものかもしれません。「当たり前」を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

成績評価の方法と基準 授業への参加（25%）、リアクションペーパー（25%）、レポート（50%）

LANd300LA

留学ドイツ語A　2017年度以降入学者

LANd200LA

留学ドイツ語Ⅰ　2016年度以前入学者

平松　英人

授業コード：Q6435　2017年度以降入学者
授業コード：P6677　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主にSAや派遣留学等で海外の大学で学ぶ準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。通常のクラス授業で学んだ文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

到達目標 ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解を深め、留学で特に重要になるリスニング力と自らの考えを「発信」する力を身につけることを到達目標とする。初級ドイツ語を終え、さらにドイツ語学習を続けたい学生は、独検三級以上合格を目指せる語学力の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加が期待される。期末試験（30％）・宿題（10％）に加え、授業への参加度を平常点（60％）で評価する。

LANd300LA

留学ドイツ語Ｂ　2017 年度以降入学者

LANd200LA

留学ドイツ語Ⅱ　2016 年度以前入学者

平松　英人

授業コード：Q6436　2017 年度以降入学者
授業コード：P6678　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　留学ドイツ語Ａに引き続き、派遣留学等で海外の大学で学ぶための準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。今までに学習した文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

到達目標　ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解をより深め、それについて自らの考えを発信し、ドイツ語での議論ができるようになる。留学先での授業を想定し、レポートを書く、あるいはプレゼンテーションができるようになる。

成績評価の方法と基準　授業への積極的な参加が期待される。期末試験（30 %）・宿題（10 %）に加え、授業への参加度を平常点（60 %）で評価する。

PHL300LA

ドイツの思想Ⅰ　2016 年度以前入学者

笠原　賢介

授業コード：P6653　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　ニーチェ入門をテーマとする授業である。
　不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆく。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれる。
　毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれてゆく。
　受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としない。
　春学期の内容は、初期のニーチェを中心とするが、中期・後期ニーチェも視野に入れる。
　授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指す。

到達目標　初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテクストにふれることによって、ニーチェ思想に対する理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

成績評価の方法と基準　出席を重視する。授業最終日に内容確認の試験をおこなう。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこなう（平常点 40 %、試験 60 %)。

PHL300LA

ドイツの思想Ⅱ　2016 年度以前入学者

笠原　賢介

授業コード：P6654　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　ニーチェ入門をテーマとする授業である。
　ニーチェの中期・後期思想を中心とするが、春学期に学んだ初期のニーチェ思想も視野に入れてゆく。
　毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆく。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきたい。
　受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としない。
　授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、とらえることを目指す。

到達目標　中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテクストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

成績評価の方法と基準　出席を重視する。授業最終日に内容確認の試験をおこなう。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこなう（平常点 40 %、試験 60 %)。

ARSk300LA

比較文化Ⅰ　2016 年度以前入学者

Ｄ．ハイデンライヒ

授業コード：P6657　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　映画の食卓から見る比較文化
食べることと飲むことは人間に共通なものであるが、他方では個人の食べるものはどのような状況においても他者が代わりに食べることはできないという個人性も有している。いいかえれば個人性と社会性という両極、また日常性と非日常性という対立項などを軸として組み合わせることで映画に描かれた料理と食事を分析していく。

到達目標　具体的には「孤食と家族の会食」、「飢えと暴飲暴食」、「味わう料理と嫌悪感を感じる料理」などの両極を巡る食卓シーンを比較して主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにする。

成績評価の方法と基準　平常点（課題提出も含む）： 60%
学期末試験： 40%
受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

ARSk300LA

比較文化Ⅱ　2016 年度以前入学者

Ｄ．ハイデンライヒ

授業コード：P6658　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　シンボル動物から見る比較文化
白鳥に姿を変えたギリシャ神話の主神から、ゲーテの「きつねのライネッケ」、カフカの毒虫など、さまざまな 動物のモチーフは世界の神話と文化を貫く重要な題材の一つである。
授業では主にメディアなどを用いてヨーロッパの異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げ、この題材を比較文化的な視点から論じる。

到達目標　◦ 異文化理解能力を高める。
◦ 映画と文化について語れるようになること。

◦ 作品を批評的に読み解き、分析できる理論的な思考を身につけること。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）： 60%
学期末試験： 40%
受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

LANd300LA
教養ゼミⅠ 2017 年度以降入学者
LANd300LA
ドイツ語講読Ⅰ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**ドイツ語講読**

山下　敦

授業コード：Q6425 2017 年度以降入学者
授業コード：P6605 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語圏の抒情詩をドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原詩を正確に読み解くことによって、ドイツ語圏の文化的特性を把握し、作品本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。また、取りあげる詩人の作品に日本語訳で数多く接することにより、各詩人の作品世界の概要を把握できるようにします。主要作品の日本語訳を通じて作者の詩的世界を理解した上で、代表的な作品の内包する言葉のリズムを原詩によって体感します。
春学期は、比較的文法的に読解のしやすい平易な作品を選びます。

到達目標 ドイツ語の原詩を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、ドイツ語の抒情詩の韻律法についての基礎的な知識を習得し、実際の作品に即してその表現方法を検証します。さらに、数多くの詩人たちの作品世界を通じて、ドイツ語圏の文学世界についての理解を深めます。ドイツ語の原詩を題材として、語学的知識の向上と文学世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点（30%）と期末の試験・レポート（70%）による。

LANd300LA
教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者
LANd300LA
ドイツ語講読Ⅱ 2016 年度以前入学者

サブタイトル：**ドイツ語講読**

山下　敦

授業コード：Q6426 2017 年度以降入学者
授業コード：P6606 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語圏の抒情詩をドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原詩を正確に読み解くことによって、ドイツ語圏の文化的特性を把握し、作品本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。また、取りあげる詩人の作品に日本語訳で数多く接することにより、各詩人の作品世界の概要を把握できるようにします。主要作品の日本語訳を通じて作者の詩的世界を理解した上で、代表的な作品の内包する言葉のリズムを原詩によって体感します。
秋学期には、多少は内容が高度で文法的に難しく思われる作品も取りあげる予定です。

到達目標 ドイツ語の原詩を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、ドイツ語の抒情詩の韻律法についての基礎的な知識を習得し、実際の作品に即してその表現方法を検証します。さらに、数多くの詩人たちの作品世界を通じて、ドイツ語圏の文学世界についての理解を深めます。ドイツ語の原詩を題材として、語学的知識の向上と文学世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点（30%）と期末の試験・レポート（70%）による。

LANf300LA
第三外国語としてのフランス語Ａ 2017 年度以降入学者
LANf200LA
フランス語初級Ⅰ 2016 年度以前入学者

廣松　勲

授業コード：Q6601 2017 年度以降入学者
授業コード：P6609 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

到達目標 実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級〜5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

成績評価の方法と基準 平常点 10 %、中間試験 40 %、期末試験 50 %

LANf300LA
第三外国語としてのフランス語Ｂ 2017 年度以降入学者
LANf200LA
フランス語初級Ⅱ 2016 年度以前入学者

廣松　勲

授業コード：Q6602 2017 年度以降入学者
授業コード：P6610 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級Ⅰと継続して授業を進める。

到達目標 実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級〜5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

成績評価の方法と基準 平常点 10 %、中間試験 40 %、期末試験 50 %

LANf300LA
上級フランス語Ａ 2017 年度以降入学者
LANf300LA
フランス語中級Ⅰ 2016 年度以前入学者

柴崎　秀穂

授業コード：Q6603 2017 年度以降入学者
授業コード：P6611 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスのノーベル文学賞作家ル・クレジオの短編小説を読みながら、フランス語の語彙・文法・構文について、比較的高度な事柄を学びます。

到達目標 フランス語検定試験２級程度の知識、またはフランス文学科を除く大学院の入学試験に対応できる読解力を身につけることを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点５０％、期末試験５０％で評価します。

LANf300LA
上級フランス語 B 2017 年度以降入学者
LANf300LA
フランス語中級Ⅱ 2016 年度以前入学者

柴崎　秀穂

授業コード：Q6604 2017 年度以降入学者
授業コード：P6612 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの作家ル・クレジオ (ノーベル文学賞受賞) とミシェル・トゥルニエの短編小説を読みながら、フランス語の語彙・文法・構文について、比較的高度な事柄を学びます。

到達目標 フランス語検定試験２級程度の知識、またはフランス文学科を除く大学院の入学試験に対応できる読解力を身につけることを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点５０％、期末試験５０％で評価します。

LANf300LA
フランス語コミュニケーション（中・上級）A 2017 年度以降入学者
LANf300LA
フランス語コミュニケーションⅢ 2016 年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

授業コード：Q6609 2017 年度以降入学者
授業コード：P6613 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ミステリー名作映画を通してフランス語での日常会話・表現力の特徴を学びます。

到達目標 状況描写や感情表現などのニュアンスをつかむことも目的としています。この授業は中上級者向きです。

成績評価の方法と基準 平常点： 50%
最終リポート： 50%

LANf300LA
フランス語コミュニケーション（中・上級）B 2017 年度以降入学者
LANf300LA
フランス語コミュニケーションⅣ 2016 年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

授業コード：Q6610 2017 年度以降入学者
授業コード：P6614 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） Au cours de ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petit groupe, présenteront un film francophone, dont ils analyseront quelques scènes en détail. Chaque film choisi appartiendra, autant que possible, à un genre cinématographique particulier.
D'autres types d'oeuvres pourront aussi être étudiés (ex. chansons, textes, etc.)

到達目標 Ce cours continue, au second semestre, de s'adresser à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller.
Il prépare aussi aux examens de type DELF (niveau A2, B1...) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)
Par ailleurs, les étudiants donneront eux-mêmes leurs objectifs au premier cours d'orientation. Le programme de ce cours pourra alors être modifié selon leurs besoins.

成績評価の方法と基準 65% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, mini-tests) (積極性)
35% = exposé(s) personnel(s) de présentation (発表)

LANf300LA
フランス語表現法 A 2017 年度以降入学者
LANf300LA
フランス語表現法Ⅰ 2016 年度以前入学者

廣松　勲

授業コード：Q6611 2017 年度以降入学者
授業コード：P6615 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語既習者（中級レベル）向けの筆記の授業である。フランス語表現のニュアンスに注目した多くの問題を解いてもらうことで、ニュアンスを理解しながらフランス語の正しい文章が読み書きできるようになる。

到達目標 仏検だけでなく DELF/DALF の試験も視野に入れながら、できるだ文法的に正しいフランス語で文章を読む・書く能力の獲得を目指す。
まずは、単語ごとのニュアンスや文章構造を理解した上で、単語と単語、文章と文章との接続関係の重要性を意識できるようになる。

成績評価の方法と基準 ・評価配分は、以下の通り
①平常点 20 %
②期末試験 80 %

LANf300LA
フランス語表現法 B 2017 年度以降入学者
LANf300LA
フランス語表現法Ⅱ 2016 年度以前入学者

廣松　勲

授業コード：Q6612 2017 年度以降入学者
授業コード：P6616 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語既習者（中級レベル）向けの筆記の授業である。フランス語表現のニュアンスに注目した多くの問題を解いてもらうことで、ニュアンスを理解しながらフランス語の正しい文章が読み書きできるようになる。

到達目標 仏検だけでなく DELF/DALF の試験も視野に入れながら、できるだ文法的に正しいフランス語で文章を読む・書く能力の獲得を目指す。
まずは、単語ごとのニュアンスや文章構造を理解した上で、単語と単語、文章と文章との接続関係の重要性を意識できるようになる。

成績評価の方法と基準 ・評価配分は、以下の通り
①平常点 20 %
②期末試験 80 %

LANf300LA

フランス語講読 A　2017 年度以降入学者

LANf300LA

フランス語講読 I　2016 年度以前入学者

野村　訓子

授業コード：Q6613　2017 年度以降入学者
授業コード：P6617　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストを通して、構文に基づいて、文章を読み解く力を養う。
必要に応じて、フランス語基礎文法の項目の復習をする。

到達目標 仏検２級程度のレベル到達を目指す。

成績評価の方法と基準 平常点（３０％）、試験の成績（７０％）により、評価をする。試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。

LANf300LA

フランス語講読 B　2017 年度以降入学者

LANf300LA

フランス語講読 II　2016 年度以前入学者

野村　訓子

授業コード：Q6614　2017 年度以降入学者
授業コード：P6618　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語講読 A と同じ。

到達目標 フランス語講読 A と同じ。

成績評価の方法と基準 平常点（３０％）、試験の成績（７０％）により、評価をする。試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。

LANf300LA

検定フランス語（中・上級）A　2017 年度以降入学者

杉村　裕史

授業コード：Q6615　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 練習問題や過去問を解きながら、検定試験合格を目指す。
初級文法を復習しながら、文法事項の弱点を克服するとともに、フランス語の文の構造を理解できるようにする。

到達目標 フランス語検定 3 級および準 2 級合格を目指す。
仏検受験を予定している人、または将来的に受験したいと考えている人が受講することが望ましい。

成績評価の方法と基準 欠席は 3 回まで認める。仏検合格者は A ＋とするが、受験しないものの評価は、A+、A、B、C の評価を、各回のプリントの点数結果を数値化したもので評価する。

LANf300LA

検定フランス語（中・上級）B　2017 年度以降入学者

杉村　裕史

授業コード：Q6616　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 練習問題や過去問を解きながら、検定試験合格を目指す。
初級文法を復習しながら、文法事項の弱点を克服するとともに、フランス語の文の構造を理解できるようにする。

到達目標 フランス語検定 3 級および準 2 級合格を目指す。
仏検受験を予定している人、または将来的に受験したいと考えている人が受講することが望ましい。

成績評価の方法と基準 欠席は 3 回まで認める。仏検合格者は A ＋とするが、受験しないものの評価は、A+、A、B、C の評価を、各回のプリントの点数結果を数値化したもので評価する。

ARSa300LA

教養ゼミ I　2017 年度以降入学者

サブタイトル：**フランス語圏文化への招待①**

大中　一彌

授業コード：Q6605　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 比較的少数の受講者で、担当教員とおしゃべりしながらフランス語圏の文化について学びます。各学部における専攻分野（ディシプリン）に沿った学びとは異なる、専攻が異なる人が共存する自由な学び（リベラルアーツ）の場です。

到達目標 １．フランスの地理、季節感、教育制度、食文化、政治制度、経済、余暇（ヴァカンス）の過ごし方、宗教、男女間の関係、フランス式のマナーなど、フランス社会で生活していく上での基礎知識を、（専門家としてではなく教養として）ある程度身に付けている。
２．就職活動での面接などに際して、フランスについて語り得るテーマを何か一つもっている。

成績評価の方法と基準 （ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業での教科書講読への参加の質および量（20%）
（エ）（ウ）に関する授業内での発表の質および量（20%）
（オ）「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量（20%）
（カ）（オ）に関する授業内での発表の質および量（30%）※必須です。
（キ）その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）
備考：英語で作られた「レ・ミゼラブル」を観て感動したなどありがちな取り組みや、フランスの食べ物が・建築が・「文化」が好きだが、何を食べ・どんな建築様式に興味があり・「文化」のどの側面が好きなのか言えないといった突っ込み不足、調べたといっても Wikipedia やネット上のまとめサイトや旅行代理店のサイトからの引用を棒読み（コピー＆ペースト）するだけの発表は、質および量の点できわめて低い評価となります。校外学習（授業内で相談のうえ、場所を決定し、学生が各自、授業外で行う）を実施するだけでなく、校外学習を実施したことで発生した疑問点を、大学図書館を利用して調べた成果とともに発表すると、学術的な質が上がり高評価となります。

ARSa300LA

教養ゼミⅡ　2017 年度以降入学者

サブタイトル：**フランス語圏文化への招待①**

大中　一彌

授業コード：Q6606　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 比較的少数の受講者で、担当教員とおしゃべりしながらフランス語圏の文化について学びます。各学部における専攻分野（ディシプリン）に沿った学びとは異なる、専攻が異なる人が共存する自由な学び（リベラルアーツ）の場です。

到達目標 1．フランスの地理、季節感、教育制度、食文化、政治制度、経済、余暇（ヴァカンス）の過ごし方、宗教、男女間の関係、フランス式のマナーなど、フランス社会で生活していく上での基礎知識を、（専門家としてではなく教養として）ある程度身に付けている。
2．就職活動での面接などに際して、フランスについて語り得るテーマを何か一つもっている。

成績評価の方法と基準 （ア）定期試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業での教科書講読への参加の質および量（20%）
（エ）（ウ）に関する授業内での発表の質および量（20%）
（オ）「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量（20%）
（カ）（オ）に関する授業内での発表の質および量（30%）※必須です。
（キ）その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）
備考：英語で作られた「レ・ミゼラブル」を観て感動したなどありがちな取り組みや、フランスの食べ物が・建築が・「文化」が好きだが、何を食べ・どんな建築様式に興味があり・「文化」のどの側面が好きなのか言えないといった突っ込み不足、調べたといっても Wikipedia やネット上のまとめサイトや旅行代理店のサイトからの引用を棒読み（コピー＆ペースト）するだけの発表は、質および量の点できわめて低い評価となります。校外学習（授業内で相談のうえ、場所を決定し、学生が各自、授業外で行う）を実施するだけでなく、校外学習を実施したことで発生した疑問点を、大学図書館を利用して調べた成果とともに発表すると、学術的な質が上がり高評価となります。

ARSa300LA

教養ゼミⅠ　2017 年度以降入学者

サブタイトル：**フランス語圏文化への招待②**

ジョルディ・フィリップ

授業コード：Q6607　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） Pendant ce premier semestre, les étudiants, en petit groupe, présentent un thème social ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre TOUS les étudiants.
Voici quelques exemples de thèmes (mais les étudiants sont libres d'en choisir d'autres) : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer, etc.); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma francophone ; littératures francophones (cf. 2e semestre)...

到達目標 Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) voire "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)

成績評価の方法と基準 40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)
30% = exposé personnel de présentation (個人発表)
30% = devoir final (dissertation ou commentaire) (リポート)

ARSa300LA

教養ゼミⅡ　2017 年度以降入学者

サブタイトル：**フランス語圏文化への招待②**

ジョルディ・フィリップ

授業コード：Q6608　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） Au second semestre de ce cours, nous continuerons le travail de recherche sur les pays de la francophonie. Nous pourrons étudier quelques textes de la littérature française ou francophone des XXe et XXIe siècles. Avec le plaisir de leur lecture, nous découvrirons leurs auteurs et le contexte culturel de leur production (histoire, localisation, genres, styles et thèmes littéraires).
Ce thème des littératures francophones pourra être modifié à la demande des étudiants. Le texte qui suit est donc donné à titre indicatif.

到達目標 Ce cours s'adresse à des étudiants relativement confirmés (B1), notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare aussi aux examens de type DELF ou "Kentei-shiken". Il prépare enfin à un séjour universitaire en France. Le plaisir de la lecture se doublera d'une meilleure compréhension et production de l'écrit, sans oublier l'oral.
(この授業は中上級者向きです)

成績評価の方法と基準 40% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, etc.) (積極性)
30% = exposé (口頭発表)
30% = compte-rendu écrit (リポート)

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A　2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語初級Ⅰ　2016 年度以前入学者

木部　敬

授業コード：Q6701　2017 年度以降入学者
授業コード：P6619　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語入門（前篇）

到達目標 ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

LANr300LA
第三外国語としてのロシア語Ｂ 2017年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語初級Ⅱ 2016年度以前入学者

木部　敬

授業コード：Q6702 2017年度以降入学者
授業コード：P6620 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語入門（後編）

到達目標 簡単な会話をロシア語で行える。必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またロシア語で伝えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験100％。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

LANr300LA
ロシア語コミュニケーションⅠ 2016年度以前入学者

三神　エレーナ

授業コード：P6623 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次：3〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、ヒアリングの訓練により、ロシア語会話の基礎を身につけます。
ロシア留学またはロシア語能力試験（ＴＲＫＩ　B2）1級を目指す人におすすめの授業です。春学期では学生のプロフィール、大学事務室における書類手続き、ロシアの街、交通手段、病院で必要な表現を学びます。

到達目標 授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（ＴＲＫＩ）B1-B2レベルの文章を聞き取りできること。同レベルのロシア語能力試験（ＴＲＫＩ）会話試験（Диалогическаяречь）に向けて準備できること。

成績評価の方法と基準 筆記試験　50％、出席率・宿題・授業への取り組み　50％

LANr300LA
第三外国語としてのロシア語中級Ａ 2017年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語中級Ⅰ 2016年度以前入学者

三神　エレーナ

授業コード：Q6703 2017年度以降入学者
授業コード：P6621 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とする解読と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も習得します。

到達目標 社会・文化に関する読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。この授業はロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験（ＴＲＫＩ）B1レベルの受験勉強にも役立ちます。

成績評価の方法と基準 期末試験　50％、出席および宿題・授業への取り組み　50％

LANr300LA
ロシア語コミュニケーションⅡ 2016年度以前入学者

三神　エレーナ

授業コード：P6624 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次：3〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続きロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、ヒアリングの訓練を通じて、ロシア語会話の基礎を身につけます。
ロシア留学またはロシア語能力試験（ＴＲＫＩ　B2）・ロシア語能力検定試験3級の受験を目指す方におすすめの授業です。秋学期は、留学先の美術館、郵便局、美容室の会話、電話での問い合わせ、パソコン・インターネットについての会話で必要な表現を学びます。

到達目標 授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（ＴＲＫＩ）B1〜B2レベルの文章を聞き取りできること。同レベルのロシア語能力試験（ＴＲＫＩ）会話試験（Диалогическаяречь）に向けて準備できること。

成績評価の方法と基準 筆記試験　50％、出席率・宿題・授業への取り組み　50％

LANr300LA
第三外国語としてのロシア語中級Ｂ 2017年度以降入学者
LANr200LA
ロシア語中級Ⅱ 2016年度以前入学者

三神　エレーナ

授業コード：Q6704 2017年度以降入学者
授業コード：P6622 2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続きロシア語の解読と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も習得します。

到達目標 授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。
この授業はロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験（ＴＲＫＩ）B1レベルの受験勉強にも役立ちます。

成績評価の方法と基準 期末試験　50％、出席および宿題・授業への取り組み　50％

LANr300LA
ロシア語購読Ⅰ 2016年度以前入学者

土岐　康子

授業コード：P6625 2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次：3〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語の初級文法を修了した学生を対象とする授業です。履修学生のロシア語能力に応じたテキストを選び、辞書を用いながら文章を読んでいくことで、ロシア語の文章に慣れることを目的とします。本学期は、長文を読んでいく上で必要となる読解の

基礎を学びます。基本的にはロシア語から日本語への読解（訳出）を行いますが、ロシア語による内容理解の練習や付随する文法の練習問題も行います。

到達目標 辞書を用いてロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確にロシア語で答えることができる。読解した内容を自分の言葉（ロシア語、日本語）で表現することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50 %、学期末試験 50 %の総合評価。

LANr300LA
ロシア語購読Ⅱ
2016 年度以前入学者

土岐　康子

授業コード：P6626　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 様々なテーマについてロシア語で書かれた文章を講読することで読解力を養い、視聴覚教材（映画）を用いることでリスニングを含むロシア語会話に慣れることを目的とします。さらに、授業を積み重ねることでロシアの歴史やロシア社会に対する理解を深め、さまざまな角度からロシアをとらえることも、この授業の大きな目的となります。

到達目標 辞書を使ってロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。読解した内容を自分の言葉で表現することができる。ロシア語の会話を理解し、的確に応えることができる。

成績評価の方法と基準 平常点（予習、授業参加態度、課題提出なども含む）50 %、学期末試験 50 %の総合評価。

LANr300LA
時事ロシア語Ⅰ
2016 年度以前入学者

アンドレイ・クラフツェビチ

授業コード：P6627　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで習得してきたロシア語文法を駆使して、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネットの記事 (時事的な文章) を読み、今日のロシアの情報をロシア 語で直接得る楽しさに触れましょう。ロシア語の語彙力をつけるには、長文 を多読・精読することがもっとも有効である。そのために、時事的なテーマの 文章の文体や表現に慣れ、新たな語彙や文法事項を習得していく。ロシア語のサイトから自分の得たい情報を検索し、記事を読む習慣をつける べく、簡単な課題も出す。

到達目標 解力と文法の力に限定されるが、セメスター中、基本的なテーマや分野 を読むことで、ロシア語の読解能力を高め、適切な最小限必要用語を拡大するとともに、ロシア社会と文化についての理解を深めることを目的とする。

成績評価の方法と基準 授業態度等平常点 (80%)、期末テスト (20%) によって判断する。

LANr300LA
時事ロシア語Ⅱ
2016 年度以前入学者

アンドレイ・クラフツェビチ

授業コード：P6628　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 時事ロシア語Ⅰの授業の継続として行われるが、ロシア語圏のインターネット (Runet) で新聞・雑誌・専門的 Webpage に乗っているオンライン記事のロシア語を正確に読みながら、今、ロシアで何が起こっているのか直接に情報を獲得する面白さを味わう。そのほか、学生が自分の関心のあるテーマを選び、自分で検索した本来のロシア語の文章を読む。これまでどおり、ロシア語の文法や文の構造を確認していくばかりでなく、内容について意見交換しながら、問題意識を強くもって時事的テクストを読んでもらうよう、配慮していく。

到達目標 テーマや分野を限定せず、各学生が関心を持つ色々な種類のものを読むことで、時事ロシア語の読解能力を高め、広い意味でロシア社会と文化についての理解を深めることを目的とする。ロシア語のマスコミでの記事を読んで和 訳できるだけでなく、ロシア語のインターネットで必要な情報を相当的自由に検索することができる。

成績評価の方法と基準 授業に参加する熱心な態度、発表の内容等を主として平常点 (100) を評価する。

LANc300LA
第三外国語としての中国語 A
2017 年度以降入学者

LANc200LA
中国語初級Ⅰ
2016 年度以前入学者

廣野　行雄

授業コード：Q6801　2017 年度以降入学者
授業コード：P6629　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで中国語以外の第２外国語を学んできた人のための中国語クラスである。中国語学習に必要なスキルの習得を目指す。

到達目標 中国語学習の最初の難関は、発音にあるといえる。特に漢字について一定の知識のある日本人学習者は、そのことがかえって躓きの石になることすらある。まずは、ピンインといわれるローマ字表記の読み書きができるようになること、つぎに、中国語の大きな特徴である声調パターンが聞き分けられ、発音し分けられるようになることをめざす。

成績評価の方法と基準 受講態度 (授業への積極的参加姿勢）６０%、試験４０%で評価する。

LANc300LA
第三外国語としての中国語 B
2017 年度以降入学者

LANc200LA
中国語初級Ⅱ
2016 年度以前入学者

廣野　行雄

授業コード：Q6802　2017 年度以降入学者
授業コード：P6630　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音と基本的な文の組み立ての規則を学んだ人が、その知識を確かなものにする練習を続けつつ、中国語の文法に習熟し、理解のための必須の語彙を獲得することを目指す。

到達目標 第３外国語としての中国語 A で学んだ、ピンインの読み書き、声調パターンの正確な発音、聴きとりの力をしっかりと身につける。聴解、読解に必要な語彙の習得。
一定の長さの文を、音読し、内容を理解できるようになる。

成績評価の方法と基準 受講態度 (授業準備の程度）６０%、試験４０%で評価する。

LANc300LA

中国語視聴覚中級 A　2017 年度以降入学者

劉　渭氷

授業コード：Q6805　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 語学教材用に録音されている音声教材を用いて、リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。同時に、中国文化への理解も深めます。中検 3 級、HSK3・4 級のレベルに相当する。

到達目標 2 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。正確な標準語の発音を身につけて、より自然な中国語を身につけることを目標とする。

成績評価の方法と基準 試験、出席状況及び授業態度により総合的に評価する。

LANc300LA

中国語視聴覚中級 B　2017 年度以降入学者

劉　渭氷

授業コード：Q6806　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 語学教材用に録音されている音声教材を用いて、リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。中国の様子を紹介する映像を観ながら、ディスカッションも行う。中検 3 級、HSK3・4 級のレベルに相当する。

到達目標 2 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。正確な標準語の発音を身につけて、より自然な中国語を身に付けることを目標とする。

成績評価の方法と基準 試験、出席状況及び授業態度により総合的に評価する。

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 A　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ　2016 年度以前入学者

耿　函

授業コード：Q6809　2017 年度以降入学者
授業コード：P6631　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 発音を重視しながら、ヒヤリングの力を向上すると同時に、より高度な中国語のスピーキング表現を学ぶ。

到達目標 これまで学習した中国語の文法・文型が定着し、自分の学生生活（留学生活も含む）だけでなく、日本社会の事情や慣習、または留学先で見聞した異文化社会のことを中国語で紹介することができる。また、他の人のお話が聞き取れ、そのうえ、質問をしたりして互いに会話のやりとりができる。

成績評価の方法と基準 期末試験を７割、小テスト・課題の発表・出席回数・授業参加態度等を３割として評価する。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 B　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ　2016 年度以前入学者

耿　函

授業コード：Q6810　2017 年度以降入学者
授業コード：P6632　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 発音を重視しながら、ヒヤリングの力を向上すると同時に、より高度な中国語のスピキング表現を学ぶ。

到達目標 これまで学習した中国語の文法・文型が定着し、自分の学生生活（留学生活も含む）だけでなく、日本社会の事情や慣習、または留学先で見聞した異文化社会のことを中国語で紹介することができる。また、他の人のお話が聞き取れ、そのうえ、質問をしたりして互いに会話のやりとりができる。

成績評価の方法と基準 期末試験を７割、小テスト・課題の発表・出席回数・授業参加態度を３割として評価する。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ　2016 年度以前入学者

薬　進

授業コード：Q6811　2017 年度以降入学者
授業コード：P6683　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

到達目標 簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

成績評価の方法と基準 成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ　2016 年度以前入学者

薬　進

授業コード：Q6812　2017 年度以降入学者
授業コード：P6684　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への

訳に重点が置かれます。

到達目標 簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

成績評価の方法と基準 成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 C　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語表現法Ⅲ　2016 年度以前入学者

髙田　裕子

授業コード：Q6813　2017 年度以降入学者
授業コード：P6685　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。
通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

到達目標 中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 50 %　期末テスト 50 %

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語表現法Ⅳ　2016 年度以前入学者

髙田　裕子

授業コード：Q6814　2017 年度以降入学者
授業コード：P6686　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。
通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

到達目標 中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 50 %　期末テスト 50 %

LANc300LA

中国語講読 A　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語講読 I　2016 年度以前入学者

岩田　和子

授業コード：Q6815　2017 年度以降入学者
授業コード：P6679　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます。

到達目標 中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1〜4 級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

成績評価の方法と基準 平常点（日本語訳の発表）50 %、期末試験 50 %

LANc300LA

中国語講読 B　2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語講読 II　2016 年度以前入学者

岩田　和子

授業コード：Q6816　2017 年度以降入学者
授業コード：P6680　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます

到達目標 中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1〜4 級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

成績評価の方法と基準 平常点（日本語訳の発表）50 %、期末試験 50 %

LANc300LA

資格中国語中級 A　2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語Ⅲ　2016 年度以前入学者

渡辺　昭太

授業コード：Q6819　2017 年度以降入学者
授業コード：P6635　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記

載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
(2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

成績評価の方法と基準 成績評価は以下の基準によって行う。
①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
②ロールプレイの内容（暗記、流暢さなどを総合して判断）。[20 %]
以上の①と②を総合して 100 %とし、60 %以上の得点を取った者を合格とする。

LANc300LA
資格中国語中級 B 2017 年度以降入学者
LANc300LA
検定中国語Ⅳ 2016 年度以前入学者

渡辺　昭太

授業コード：Q6820 2017 年度以降入学者
授業コード：P6636 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
(2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

成績評価の方法と基準 成績評価は以下の基準によって行う。
①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
②ロールプレイの内容（暗記、流暢さなどを総合して判断）。[20 %]
以上の①と②を総合して 100 %とし、60 %以上の得点を取った者を合格とする。

LANc300LA
資格中国語上級 A 2017 年度以降入学者
LANc300LA
検定中国語Ⅲ 2016 年度以前入学者

康　鴻音

授業コード：Q6821 2017 年度以降入学者
授業コード：P6687 2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

到達目標 学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

成績評価の方法と基準 授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

LANc300LA
資格中国語上級 B 2017 年度以降入学者
LANc300LA
検定中国語Ⅳ 2016 年度以前入学者

康　鴻音

授業コード：Q6822 2017 年度以降入学者
授業コード：P6688 2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。

到達目標 学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

成績評価の方法と基準 授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

ARSe300LA
教養ゼミⅠ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中国の生活文化**

岩田　和子

授業コード：Q6823 2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国において、地理的な条件、気候風土、生活習慣などが、人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー『舌尖上的中国』を見ながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。
春学期は「主食」について考察します。

到達目標 映像資料の鑑賞・文献の講読や、中国の地理、地域の特色、料理、調理方法、年中行事などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深めます。また、中国語を日本語に翻訳する技術を身につけます。

成績評価の方法と基準 平常点（講読・発表）90 %、レポート 10 %

ARSe300LA
教養ゼミⅡ 2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中国の生活文化**

岩田　和子

授業コード：Q6824 2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国において、地理的な条件、気候風土、生活習慣などが、人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー『舌尖上的中国』を見ながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めるとともに、内容を中国語から日本語に翻訳する力を養います。
秋学期は「発酵食品」について考察します。

到達目標 映像資料の鑑賞・文献の講読や、中国の地理、地域の特色、料理、調理方法、年中行事などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深めます。また、中国語を日本語に翻訳する技術を身につけます。

成績評価の方法と基準 平常点（講読・発表）90 %、レポート 10 %

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A　2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語初級 I　2016 年度以前入学者

杉下　由紀子

授業コード：Q6901　2017 年度以降入学者
授業コード：P6637　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

到達目標 スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（60 %）、小テスト・期末試験（40 %）から総合的に評価。

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B　2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語初級 II　2016 年度以前入学者

杉下　由紀子

授業コード：Q6902　2017 年度以降入学者
授業コード：P6638　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

到達目標 動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

成績評価の方法と基準 平常点（60 %）、小テスト・期末試験（40 %）から総合的に評価。

LANs300LA

スペイン語上級 I　2016 年度以前入学者

田澤　耕

授業コード：P6673　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペインＳＡ修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、さらにスペイン語能力を高めることを目指す。

到達目標 新聞や小説など、中身の濃い文章を理解できるようになる。日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。DELE で言えば、B2-C1 レベル。

成績評価の方法と基準 発表の質の高さ 50 %。授業運営のスキル 25 %。他学生の発表の時の参加姿勢 25 %。

LANs300LA

スペイン語上級 II　2016 年度以前入学者

田澤　耕

授業コード：P6674　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペインＳＡ修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、さらにスペイン語能力を高めることを目指す。

到達目標 新聞や小説など、中身の濃い文章を理解できるようになる。日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。DELE で言えば、B2-C1 レベル。

成績評価の方法と基準 発表の質の高さ 50 %。授業運営のスキル 25 %。他学生の発表の時の参加姿勢 25 %。

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションⅢ　2016 年度以前入学者

瓜谷　アウロラ

授業コード：P6641　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） En esta clase daremos importancia al estudio euqilibrado de las cuatro destrezas: leer,escribir.escuchar y hablar,

到達目標 Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

成績評価の方法と基準 Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante y el examen semestral que constará de una lectura con preguntas y una o dos pruebas auditivas.
Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションⅣ　2016 年度以前入学者

瓜谷　アウロラ

授業コード：P6642　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） En esta clase daremos importancia al estudio euqilibrado de las cuatro destrezas: leer,escribir.escuchar y hablar,

到達目標 Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

成績評価の方法と基準 Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante y el examen semestral que constará de una lectura con preguntas y una o dos pruebas auditivas.
Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

ARSa300LA

教養ゼミⅠ　2017 年度以降入学者

サブタイトル：**スペイン語圏の文化と社会を読み解く**

大西　亮

授業コード：Q6909　2017 年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、スペイン語圏の文化と社会について、おもに歴史的な観点から学ぶことを目的とする。スペイン語圏に関する話題の多くは、もちろんスペイン語圏の国々だけにかかわるものではなく、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるのか。そんなことも意識しながら、歴史のなかで生成変化する人間の営みのありようを浮き彫りしていきたい。

到達目標 この授業を通して、以下の能力を身につけることを目標とする。
①スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を身につける。
②①で得た知識をもとに、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、それを論理的に追究する力を養う。
③みずから設定したテーマについてプレゼンテーションを行い、他者と議論するなかで理解を深めていく力を養う。
④自分で選んだ研究テーマについて論文を作成する力を養う。

成績評価の方法と基準 プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を考慮した平常点 (50%)、期末レポート（50 %）を総合的に勘案して評価する。

ARSa300LA

教養ゼミⅡ　2017 年度以降入学者

サブタイトル：**スペイン語圏の文化と社会を読み解く**

大西　亮

授業コード：Q6910　2017 年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期にひきつづき、この授業では、スペイン語圏の文化と社会について、おもに歴史的な観点から学ぶことを目的とする。スペイン語圏に関する話題の多くは、もちろんスペイン語圏の国々だけにかかわるものではなく、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるのか。そんなことも意識しながら、歴史のなかで生成変化する人間の営みのありようを浮き彫りしていきたい。

到達目標 この授業を通して、以下の能力を身につけることを目標とする。
①スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を身につける。
②①で得た知識をもとに、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、それを論理的に追究する力を養う。
③みずから設定したテーマについてプレゼンテーションを行い、他者と議論するなかで理解を深めていく力を養う。
④自分で選んだ研究テーマについて論文を作成する力を養う。

成績評価の方法と基準 プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を考慮した平常点 (50%)、期末レポート（50 %）を総合的に勘案して評価する。

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語初級Ⅰ　2016 年度以前入学者

神谷　丹路

授業コード：Q6001　2017 年度以降入学者
授業コード：P6643　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です. ハングルの文字と発音を学び、文法の初歩を学びます.

到達目標 ・正確に発音できるようになる.
・「〜は〜です, ます」などを理解し, 簡単な読み書きができるようになる.
・簡単なあいさつが言えるようになる.

成績評価の方法と基準 ・平常点　３０％
・期末試験　７０％

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語初級Ⅱ　2016 年度以前入学者

神谷　丹路

授業コード：Q6002　2017 年度以降入学者
授業コード：P6644　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「第三外国語としての朝鮮語Ａ」を終了したレベルのかた向けの講座です. 具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、現在形のハムニダ形、ヘヨ形ができ、テキストの 8 課程度までの内容を理解していることが必要です.

到達目標 ・正確に発音できるようになる.
・変則用言を理解し、過去形が使えるようになる.
・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる.

成績評価の方法と基準 ・平常点　３０％
・期末試験　７０％

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級　2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語中級Ⅰ　2016 年度以前入学者

梁　禮先

授業コード：Q6003　2017 年度以降入学者
授業コード：P6645　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。ある程度朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

到達目標 基本会話ができることを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

LANj300LA

日本語コミュニケーションA　2017年度以降入学者

江村　裕文

授業コード：Q6051　2017年度以降入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 外国人留学生が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だと。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。
なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。
日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身に着けることが目的だからである。

到達目標 文化とは何か、および文化が異なるとはどういうことか、について理解すること。

成績評価の方法と基準 平常点４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価します。

LANj300LA

日本語コミュニケーションB　2017年度以降入学者

江村　裕文

授業コード：Q6052　2017年度以降入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 外国人留学生が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だと。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。
なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。
日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身に着けることが目的だからである。

到達目標 文化の異なりについて理解し、その壁を乗り越えてコミュニケーションを成立させる能力を培うこと。コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

成績評価の方法と基準 平常点３０点、試験の得点３０点、レポートの得点４０点、合計１００点で評価します。

HSS300LA

スポーツ科学A　2017年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学Ⅰ　2016年度以前入学者

西村　一帆

授業コード：Q6501　2017年度以降入学者
授業コード：P6201　2016年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 １．身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
２．豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
３．自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
４．卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
５．就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準 1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、
2）課題レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学B　2017年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学Ⅱ　2016年度以前入学者

西村　一帆

授業コード：Q6502　2017年度以降入学者
授業コード：P6202　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 １．身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
２．豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
３．自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
４．卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
５．就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準 1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、
2）課題レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

落合　久夫

授業コード：Q6505　2017 年度以降入学者
授業コード：P6205　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

到達目標　本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。
　実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

成績評価の方法と基準　個人競技であるため春学期は平均点（６０点）と技術習得点（２０点）とジャッジメント習得点（２０点）の実技試験を行う。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

落合　久夫

授業コード：Q6506　2017 年度以降入学者
授業コード：P6206　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

到達目標　本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。
　実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

成績評価の方法と基準　個人競技であるため春学期は平均点（６０点）と技術習得点（２０点）とジャッジメント習得点（２０点）の実技試験を行う。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

小西　真幸

授業コード：Q6507　2017 年度以降入学者
授業コード：P6207　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　スポーツレクリエーションⅠ（健康増進とコミュニケーション能力の向上）

到達目標　1. スポーツによる心身の健康増進効果や社会性の向上効果の理論的背景を理解し、スポーツが自他の健康増進や学生生活および社会生活の質の向上に寄与することを理解できる。
2. 自他の健康増進や学生生活および社会生活の質の向上に向けて、スポーツに積極的に取り組み、自らの生活にスポーツを取り入れることができる。
3. 自他の健康増進に必要なスポーツ活動を認識し、実践する能力を獲得できる。また、学生生活や社会生活の質の向上に必要なコミュニケーション能力、協調性などを獲得できる。

成績評価の方法と基準　平常点（45 %）、レポート課題（30 %）、技能・マナー・態度・服装（25 %）により総合的に評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

小西　真幸

授業コード：Q6508　2017 年度以降入学者
授業コード：P6208　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　スポーツレクリエーションⅡ（自主性とマネジメント力の獲得）

到達目標　1. 心身の健康増進や社会性の向上にスポーツが寄与することを理解できる。
2. 健康増進に必要なスポーツについて意見を述べることができる。
3. スポーツのトレーニング効果について理解することができる。
4. 履修したスポーツ種目のルール、マナー、用具、施設および技術等について説明できる。
5. 相互に協力して履修したスポーツ種目の練習やゲーム運営を安全におこなうことができる。

成績評価の方法と基準　平常点（45 %）、レポート課題（30 %）、技能・マナー・態度・服装（25 %）により総合的に評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

朝比奈　茂

授業コード：Q6509　2017 年度以降入学者
授業コード：P6209　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

到達目標 1. 人間の運動の基本である「歩く」ことを理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

成績評価の方法と基準 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %　2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

朝比奈　茂

授業コード：Q6510　2017 年度以降入学者
授業コード：P6210　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

到達目標 1. 人間の運動の基本である「歩く」ことを理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

成績評価の方法と基準 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %　2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

落合　久夫

授業コード：Q6511　2017 年度以降入学者
授業コード：P6211　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準 「１」授業中の活動に対する参画状況６０%。「２」課題・レポート４０%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

落合　久夫

授業コード：Q6512　2017 年度以降入学者
授業コード：P6212　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準 「１」授業中の活動に対する参画状況６０%。「２」課題・レポート４０%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

吉田　康伸

授業コード：Q6513　2017 年度以降入学者
授業コード：P6213　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

到達目標　①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

成績評価の方法と基準　授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

吉田　康伸

授業コード：Q6514　2017 年度以降入学者
授業コード：P6214　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

到達目標　①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

成績評価の方法と基準　授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

小谷　究

授業コード：Q6515　2017 年度以降入学者
授業コード：P6215　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

到達目標　1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。
2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。　3. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

成績評価の方法と基準　開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。
到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。
到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。
到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

小谷　究

授業コード：Q6516　2017 年度以降入学者
授業コード：P6216　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

到達目標　1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。
2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。　3. バスケットボール競技のルールについて説明することができる（知識・理解）。

成績評価の方法と基準　開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。
到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。
到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。
到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

中澤　史

授業コード：Q6517　2017 年度以降入学者
授業コード：P6217　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） パフォーマンス向上，ボディメイク，ダイエット，健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し，独自のトレーニングプログラムを考案する。また，主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが，心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

到達目標 1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

成績評価の方法と基準 1．授業への参画状況： 50 %，各授業で取り組むリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題： 50 %。
2．授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。なお，原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

中澤　史

授業コード：Q6518　2017 年度以降入学者
授業コード：P6218　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） パフォーマンス向上，ボディメイク，ダイエット，健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し，独自のトレーニングプログラムを考案する。また，主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが，心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

到達目標 1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

成績評価の方法と基準 1．授業への参画状況： 50 %，各授業で取り組むリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題： 50 %。
2．授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。なお，原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

笠井　淳

授業コード：Q6519　2017 年度以降入学者
授業コード：P6219　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 身体活動の意義や役割について様々な視点からの理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

成績評価の方法と基準 1）授業中の活動に対する参画状況７０%、2）課題・レポート３０%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

笠井　淳

授業コード：Q6520　2017 年度以降入学者
授業コード：P6220　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

成績評価の方法と基準 1）授業中の活動に対する参画状況７０%、2）課題・レポート３０%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 A　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

笠井　淳

授業コード：Q6521　2017 年度以降入学者
授業コード：P6221　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する k 祖的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 身体活動の意義や役割について理解を深める。
豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

成績評価の方法と基準 1）授業中の活動に対する参画状況７０％、2）課題・レポート３０％の配分として総合評価する。この成績評価は方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 B　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅱ　2016 年度以前入学者

笠井　淳

授業コード：Q6522　2017 年度以降入学者
授業コード：P6222　2016 年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

成績評価の方法と基準 1）授業中の活動に対する参画状況７０％、2）課題・レポート３０％の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS300LA

教養ゼミ Ⅰ　2017 年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学 Ⅰ　2016 年度以前入学者

サブタイトル：**コンディショニングの理論と実践（基礎）**

伊藤　マモル

授業コード：Q6523　2017 年度以降入学者
授業コード：P6223　2016 年度以前入学者
開講時期：**春学期**

※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は２年生以上が対象です。

【はじめに】
コンディショニングは言い換えれば「健康を管理」することです。この健康管理には「攻め」と「守り」という２つの考えた方があります。**「攻めの健康管理」**とは、目的に応じたトレーニングを通じて積極的に自身の身体を鍛え、病気やケガに負けない、そして疲れにくい身体をつくること。**「守りの健康管理」**とは、身体をメンテナンス（保守・点検）し、適切なケア（手入れ）を行なって、身体を最良の状態に保ち続けることです。この両方の考え方をあわせもった言葉が**「コンデイショニング」**だと言えます。

【概要】
例えば、“太ったカラダ”を“スマート”に変えるというテーマ（**問題**）に取り組む（**解決**）場合、本ゼミでは以下のような取り組み（**目標、計画、実行・評価、反省・改善**）を履修者主体で能動的に進めます。

1. 問題提起と究明（太った原因、太ったままでいることの問題などを調べる）
2. 解決方法と目標（解決手段としてトレーニングによる方法を用いた段階的な目標を設定する）
3. 計画（段階的な各目標への到達方法を調べ、実行可能な計画を立てる）
4. 実行・評価（計画を実行し、随時その結果を分析評価する）
5. 反省・改善（実行した結果に考察を加え、より良い方法を見出していく）

例示した 1〜5 のような流れの中で、担当教員はトレーニング理論を包括したコンデイショニングについて多角的に解説し、健康になりたい、健康について考えたいという人にとって、必要となるトレーニングに関連した基礎知識とその実践の基礎となる実技を指導します。

【目的】
本ゼミの目的は、履修者自身の健康と体力の保持増進の今後の在り方を考え、より豊かな人生を築くために必要な生活の質を高める態度を養うことです。

到達目標 1 ：各種コンディションの把握に必要な測定方法を列挙できる
2 ：コンディションの各種測定方法を解説できる
3 ：コンディションの測定結果を分析できる
4 ：測定結果からコンディションを評価できる
5 ：各種コンディションの改善方法を述べられる
6 ：各種コンディションの改善に必要なトレーニング方法を結び付けられる
7 ：トレーニング時のマナーや諸注意を述べられる
8 ：トレーニング器材を安全に使用できる
9 ：トレーニング結果を正しく記録できる
10 ：トレーニング結果をレポートにまとめられる

成績評価の方法と基準 単位認定は**到達目標**に示した **10 項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1．授業で提示した課題のレポート： **30 %**
2．授業におけるリアクションペーパー： **15 %**
3．グループワーク中の議論やトレーニングの実施精度： **15 %**
4．レポート、成果発表（作成した資料、発表態度など）： **40 %**

HSS300LA

教養ゼミⅡ　2017年度以降入学者

HSS200LA

スポーツ科学Ⅱ　2016年度以前入学者

サブタイトル：**コンディショニングの理論と実践（応用）**

伊藤　マモル

授業コード：Q6524　2017年度以降入学者
授業コード：P6224　2016年度以前入学者
開講時期：**秋学期**

※定員制　履修可能年次：2〜4年

授業の概要と目的（何を学ぶか）　教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・コンディショニングの理論と実践Ⅰ（基礎）：月曜日3限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である**教養ゼミⅠの単位取得者を対象**に授業を行います。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、その内容はトレーニングの質（1：人間の身体的構造や適応能力、2：各種トレーニングにおける考え方や方法など）を高め、教養ゼミⅠと比較して、そのための**体験や実習に多くの時間を割く**ことで、学習で獲得した知識を知識で終わらせずに自在に使いこなせるようにすることを目標に、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養うことを目的にします。

そして、履修者自身の家族や友人など、周囲にいる人々の人生における様々なステージに貢献できる適時適切な身体トレーニング・プログラムを提供できる能力の向上を目指します。

到達目標　1：コンディションの測定結果から解決すべき自己課題を見出せる
2：コンディションの課題を解決するための以下のことができる
　1) トレーニング方法を選択できる
　2) リカバリー方法を選択できる
　3) トレーニング方法を実践できる
　4) リカバリー方法を実践できる
　5) 段階的な計画表を作成できる
　6) 段階的な計画を実行できる
3：段階的計画を一定期間実践後にその効果や問題点を共有できる
4：自己課題の解決に取り組んだ成果を共有できる

成績評価の方法と基準　単位認定は**到達目標**に示した**4項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。
1．授業で提示した課題のレポート：**30％**
2．授業におけるリアクションペーパー：**15％**
3．グループワーク中の議論やトレーニングの実施精度：**15％**
4．レポート、成果発表（作成した資料、発表態度など）：**40％**

M E M O

M E M O

M E M O

グリーン・ユニバーシティをめざして

市ヶ谷環境委員会

環境問題へ取り組む大学の先頭に！

本学では、環境問題解決への取り組みは 21 世紀の教育・研究課題として捉え、1999 年より「ISO14001」（環境マネジメントの仕組みづくりに関する国際規格）の認証を受けてきました。

2017 年 9 月 29 日からは、「ISO14001」で培ってきた実績を生かした本学独自の EMS（環境マネジメントシステム）へ移行して活動しています。

これからも、本学は環境問題の解決に向けて先頭に立って取り組んでいきます。

◎環境について学びましょう。

大学の最も重要な責務は、環境について学ぶ機会を、学生の皆さんそして広く社会に提供することにあります。

主な取り組みとして、「環境」をテーマにした講演会等の開催、企業等の環境改善取組を実体験を通じて深めるための「エコツアー」を企画しています。

◎キャンパスライフをグリーンに皆様のご理解とご協力をお願いします。

キャンパスライフのなかでも環境改善活動は多くあります。

(1) 省エネルギーを！

大学では、二酸化炭素の排出を伴う大量のエネルギーを消費しています。温暖化防止等のために省エネに心がけましょう。

冷房は室温 28℃、暖房は室温 20℃に設定しています。また、最後に教室を出るときは消灯しましょう。

(2) ゴミを減らそう！

大学では講義等で資料のコピー・印刷など大量の紙類を消費します。両面コピーをしたり、再生紙を利用してムダをなくしましょう。捨てる時は「ミックスペーパー」用分別ゴミ箱の中へ。

(3) ゴミ分別で再資源化を！

皆さんが住んでいる自治体と違い、大学は大規模事業者に指定されており分別の方法が違います。

戸惑うかもしれませんが、大学では下記の分別基準で分別しましょう。

「燃やせるゴミ」・「燃やせないゴミ」・「ビン・カン・ペットボトル」・「ミックスペーパー」

(4) 屋上緑化活動に参加しませんか！

グリーンテラス（ボアソナードタワー4 階屋上テラス）での、花の植え付けを中心とした屋上緑化活動を行っています。

あなたも「屋上緑化維持活動」メンバーとして活動しませんか。

※参加したい人は、下記環境センターまで是非ご連絡をお願いします。

＊詳細は「環境センターウェブサイト（http://www.hosei.ac.jp/kankyoukenshou/index.html）」でご覧ください。

問い合わせ先：環境センター　TEL：03-3264-5681
FAX：03-3264-5545
Mail：ickankyo@hosei.ac.jp



学生証番号	
氏　　名	

R70
再生紙を使用しています